

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第215集
関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財調査報告書第42集

みど の
緑 埜 遺跡 群 (平安時代の水田と畠等)

みど の かみ ごう
緑 埜 上郷 遺跡 (平安時代の水田等)

たけ ぬま
竹 沼 遺跡 (古墳時代の集落跡)

1997

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
群馬県教育委員会
日本道路公団

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第215集
関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財調査報告書第42集

みど の
緑 埜 遺 跡 群 (平安時代の水田と畠等)

みど の かみ ごう
緑 埜 上 郷 遺 跡 (平安時代の水田等)

たけ ぬま
竹 沼 遺 跡 (古墳時代の集落跡)

1997

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
群 馬 県 教 育 委 員 会
日 本 道 路 公 団



序

額川の支流、鮎川の左岸段丘には豪柄の墳墓として著名な白石袴山古墳など、数多くの古墳や集落遺跡が分布し、古代から繁栄した地域であったことが知られています。この地の北方を走る高尾道路・上信越自動車道は、関越自動車道の藤岡ジャンクションから分岐し、「鶴の谷」に沿って信州佐久市に向かいます。

本報告による緑壁遺跡群・緑壁上御遺跡・竹沼遺跡の発掘調査は、1990年に実施されました。緑壁遺跡群では平安時代水田跡や畜跡、緑壁上御遺跡で平安時代水田跡、江戸時代の茶屋敷敷跡、竹沼遺跡で弥生・古墳・奈良時代の聖穴住居や掘立柱建物など多数の遺構や、それに伴う多数の遺物が出土し、この地域の古代史を解明するための貴重な資料を得ることができました。

その成果を多くの人々に利用していただくため、平成8年度に整理事業を進め、ここに『緑壁遺跡群・緑壁上御遺跡・竹沼遺跡』

として刊行することになりました。本書の刊行が、研究者、地域の社会教育・学校教育などで広く活用され、地域の歴史解明の一助になれば幸いに存じます。

ここに日本道路公団東京第二建設局、同高時工事事務所、群馬県教育委員会、藤岡市教育委員会をはじめとする関係諸機関、並びに発掘調査・整理事業にかかわった多くの皆様のご協力とご支援に厚くお礼を申し上げます。

1997（平成9）年2月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 小寺弘之





遺跡の所在する群馬県藤岡市は、東西40km、南北10km、面積は127.71㎢で、県の南西部に位置している。東は神流川をへだて埼玉県児玉郡に接し、西は多野郡吉井町・甘楽郡甘楽町に、南は多野郡尾石町・万場町、北は多野郡新町・高崎市に接している。人口6万3849人、世界数2万0183世帯（1996年12月現在）である。

1954（昭和29）年4月、多野郡藤岡町と神流・小野・真土里・真九里の1町4村が合併し藤岡市となり、翌年3月、多野郡日野・平井の2村を編入した。旧藤岡町が市の中核をなし、市街地を形成している。

藤岡市はその地形的特徴から、西南部の山間地域と北東部の平野部とに分かれるが、遺跡が多く見られるのは北東平野部である。この平野部は鮎川による開析扇状地が東を神流川、北を額川、西を鮎川によって隔てられ、藤岡台地とも呼ばれている。

鮎川は甘楽郡下仁田町、多野郡中里村、藤岡市の3市町村の境界付近、秋篠峠（1510m）近くから発し、藤岡市の日野地区の中央を西から東に流れ、平井・真土里地区を越え、途中幾つかの支流を蓄めて、額川に合流している。延長34km、流域面積73㎢。遺跡が顕著に存在するのは、鮎川・神流川・額川の3つの河川に沿った台地縁辺部である。鮎川流域には、伊勢塚古墳、七薬山古墳、白石稲荷山古墳及び白石古墳群、東平井古墳群などの古墳群が知られており、神流川流域とともに藤岡市の中では縄文文化財密集の中心的地域といえる。





竹沼遺跡A区11号住居跡出土遺物





竹沼遺跡A区5号住居跡出土遺物



竹沼遺跡A区13号住居跡出土遺物

〔例言・凡例〕

例 言

- 本書は、間越自動車道（上越線）建設工事に伴い事前調査された「緑塗遺跡群・緑塗上部遺跡・竹沼遺跡」（調査時の事業名称＝緑塗遺跡群）の発掘調査報告書である。
- 本書に所収の遺跡名と発掘調査地の所在地番は以下のとおりである。
 緑塗（みど）遺跡群
 藤岡市大字白石字沖田、大字緑塗字下モ田、大字緑塗字西中通り、大字緑塗字西浦地内。
 緑塗上郷（みどのかみごう）遺跡
 藤岡市大字緑塗字上郷、大字緑塗字西浦地内。
 竹沼（たけぬま）遺跡
 藤岡市大字西平井字島地内。
- 発掘した遺跡の調査期間と調査面積は以下のとおりである。
 1990（平成2）年8月1日～1991（平成3）年1月31日調査面積は緑塗遺跡群約3,100㎡、緑塗上郷遺跡約1,200㎡、竹沼遺跡約2,000㎡である。
- 発掘調査は日本道路公団の委託を受けた群馬県教育委員会が、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に委託して実施されたものである。
- 調査担当者は以下のとおりである。
 真下高幸（調査研究第1課長）
 女屋和志雄（主任調査研究員）
 根岸 仁（調査研究員）
- 出土遺物の整理作業・報告書作成期間は以下のとおりである。
 1996（平成8）年4月1日～1997（平成9）年3月31日整理担当者 菊池 実（専門員）
- 本文執筆は菊池と女屋で協議して行い、本文執筆の分析については目次に記した。
- 当遺跡の内容をより詳細に浮き彫りする意図で、次の各位に資料の分析・測定を依頼し、その分析・測定結果の玉稿を賜った。各位に厚く御礼申し上げます。
 植物珪酸体分析 バリノ・サーヴェイ株式会社
 石材鑑定 陣内主一
- 出土遺物・図面・写真・記録等の資料は、一括して群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。
- 調査および整理にあたっては、次の諸氏に御教示、御協力を賜った。（敬称略）
 石塚久則 石部正志 今井莞 小田洋佳之 角張洋一
 金井安子 菊池誠一 桐生直彦 小宮俊久 十菱駿武
 動河原彰 時枝壽 中沢清 三宅敦気 総貫誠次郎

凡 例

- 本書中の遺構番号は発掘調査時に付したものをそのまま使用しているが、藤岡市教育委員会実施の竹沼遺跡、緑塗遺跡群でのものを継続し、同一遺構はそのままとした。

- 本書の遺構・遺物挿入の指示は次のとおりである。

- 挿入図尺
 壁穴住居跡・掘立柱建物跡・溝・土坑・井戸……
 ……1/60
 水田・畠………1/60
 全体図 ……1/400、1/800、1/2,500
- 遺構図の方位記号は国家座標の北を北としている。
 座標系は国家座標第IX系である。
- 水糸レベルは標高を示す。
- 遺物番号は、本文、挿入、表と一致する。
- 挿入図中のスクリーントーンの指示は次のとおりである。



- 色調については、農林省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修、新版標準土色帖（1988年版）に基づいている。
- 本書に掲載した地図は、建設省国土地理院発行の2万5,000分の1（「高崎」「藤岡」）地形図を使用した。

〔編集〕

菊池 実

〔執筆者〕

女屋和志雄
 菊池 実
 バリノ・サーヴェイ株式会社
 陣内主一

〔写真撮影〕

女屋和志雄（遺構写真）
 根岸 仁（遺構写真）
 佐藤 元彦（遺物写真 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団主任技師）
 たつみ写真（航空写真）

〔測量・トレス〕

株式会社 沼研

〔保存処理〕

岡 邦一（財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団主任技師）
 小材 浩一（ 補助員）
 土橋まり子（ 非常勤嘱託）
 萩原 妙子（ 補助員）

〔整理補助員〕

佐藤美代子（財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団補助員）
 田村 栄子（ ）」
 高橋とし子（ ）」

藤井 文江 (財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団補助員)
矢野 純子 ()
都丸美奈子 ()
錦岡真希子 ()
阿久津久子 ()

【器械実測班】

長沼久美子 (財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団嘱託員)
岩淵 節子 () 補助員
光安 文子 ()
森原 光枝 ()
立川千栄子 ()
南雲 富子 ()

【滑石製品実測・トレース】

有限会社アルカ

【事務】

【調査時】

常務理事 邊見長雄
事務局長 松本浩一
管理部長 田口紀雄
調査研究部長 神保佑史
調査研究第1課長 真下高幸

【整理時】

常務理事 菅野 清
事務局長 原田恒弘
管理部長 蜂巣 実
調査研究第1部長 赤山啓造
調査研究第1課長 平野進一
総務課長 小西 淳
総務係長 笠原秀樹 主任 須田朋子 主事 宮崎忠司
経理係長 国定 均 主任 吉田有光 主任 柳岡良宏
非常勤嘱託 大澤友治 臨時職員 吉田恵子 松井美
智代 内山佳子 星野美智子 羽鳥京子 菅原淑子 着
田誠 山口陽子 佐藤美佐子

【発掘調査従事者 敬称略】

関口喜久雄 中里清 河野富江 橋本ツナヨ 松田正子
横堀裕美子 角田久江 狩野芳子 金子ひろ子 森原イ
ネ子 高橋まさ子 水島誠一 水島貞子 細谷泰雄 吉
澤貴太郎 市原良子 金嶋阪江 小田桐ミサ江 斉藤さ
だ& 池田わか 兵藤つる子 角田文子 角田サエ 池
田チヨノ 角田智津子 田中まつ子 狩野貴美忠 斉藤
巻子 角田ふじ子 岡村純子 斉藤かず子 笹木キクエ
山田常治 星野久子 後藤洋子 笹木恵子 池田久子
角田アキ江 斉田正美 高田みや子 星野まつ子 天立
アグリ 大久保初子 高田茂 清水かよ子 佐藤富子

序文

口絵

例言・凡例

第1章 遺跡の立地と調査の経過

[1] 調査の経過・遺跡の位置……3～8

(女屋和志雄)

- 1 遺跡の位置……3
- 2 地形と基本土層……3
- 3 調査の経過……6
- 4 調査の方法……7
- 5 調査日誌……7

[2] 歴史的環境……8～14 (菊池 爽)

第2章 緑茎遺跡群・緑茎上郷遺跡の調査

[1] 緑茎遺跡群の遺構と遺物

……17～34

(女屋和志雄)

- 1 調査区……17
- 2 基本土層……17
- 3 各区の概要……22
 - a 1区の概要……22
 - b 2区の概要……22
 - c 3区の概要……22
 - d 4区の概要……22
 - e 5区の概要……22
- 4 A s-B下島……22
- 5 鎌倉街道……25
- 6 石敷遺構……25
- 7 A s-B下水田……25
- 8 A s-B下島……25

[2] 緑茎上郷遺跡の遺構と遺物

……35～44

(女屋和志雄)

- 1 調査区……35
- 2 基本土層……35
- 3 KM3・JM2 A・B4……35
- 4 A s-B下水田……35

5 斎藤代官屋敷……41

第3章 竹沼(A～D区)遺跡の調査

[1] 竹沼遺跡の遺構と遺物……45～84

(菊池 爽)

- 1 遺跡の概要……46
- 2 調査区と遺構の概要……46

[2] A区検出の遺構と遺物……47

A区5号住居跡……47

A区6号 // ……56

A区7号 // ……59

A区8号 // ……61

A区9号 // ……64

A区10号 // ……68

A区11号 // ……69

A区12号 // ……73

A区13号 // ……74

A区1号掘立柱建物跡……83

A区1号溝……83

A区2号溝……83

A区3号土坑……83

[3] B区検出の遺構と遺物

……85～102

(菊池 爽)

B区1号住居跡・1号溝……86

B区2号 // ……88

B区3号 // ……88

B区13号 // ……90

B区14号 // ……91

B区15号 // ……95

B区16号 // ……99

B区7号～16号土坑……100

[4] C区検出の遺構と遺物

……103～116

(菊池 爽)

C区11号住居跡……104

C区13号 // ……109

C区14号 // ……109

| | | |
|-------|--------|----------|
| C区15号 | # |112 |
| C区16号 | # |112 |
| C区2号 | # |114 |
| C区12号 | # |114 |
| C区1号 | 竪立柱建物跡 |114 |
| C区1号 | 井戸 |114 |

[5] D区検出の遺構と遺物

.....117~151

(菊池 実・女屋和志雄)

| | | |
|---------------|-----|----------|
| D区4号 | 住居跡 |118 |
| D区5号 | # |118 |
| D区7号 | # |119 |
| D区8号 | # |123 |
| D区9号 | # |127 |
| D区10号 | # |133 |
| D区11号 | # |133 |
| D区12号 | # |133 |
| D区13号 | # |137 |
| D区14号 | # |137 |
| D区15号 | # |137 |
| D区1号・2号・3号・4号 | 土坑 | |

1号井戸・表採.....148

第4章 分析とまとめ

- [1] 緑埜遺跡 植物珪酸体分析.....155
(バリノ・サーヴェイ株式会社)
- [2] 竹沼遺跡で石材として
取り扱ったその種類と地質的関連
.....164
(陣内圭一)
- [3] 鍋川流域の古墳時代玉作.....173
(女屋和志雄)
- [4] 竹沼遺跡の調査変遷.....184
(菊池 実)

PLATES

別添資料

- 付図1 白石大御堂遺跡・緑埜遺跡群・緑埜上郷遺跡・竹沼遺跡位置図
- 付図2 緑埜遺跡群・緑埜上郷遺跡全体図

挿 図 目 次

- 第 1 図 藤岡市および周辺地域の地質図
- 第 2 図 緑葉遺跡群・緑葉上郷遺跡・竹沼遺跡位置図
- 第 3 図 緑葉遺跡群（1区～5区）・緑葉上郷遺跡・竹沼遺跡（A区～D区）
- 第 4 図 周辺遺跡分布図（船川流域）
- 第 5 図 緑葉遺跡群御幸土層
- 第 6 図 緑葉遺跡群 1 区調査区
- 第 7 図 緑葉遺跡群 1 区調査区
- 第 8 図 緑葉遺跡群 1 区調査区（As-A下層）
- 第 9 図 緑葉遺跡群 2 区調査区（鎌倉街道）
- 第 10 図 緑葉遺跡群 2 区調査区
- 第 11 図 緑葉遺跡群 2 区調査区
- 第 12 図 緑葉遺跡群 2・3 区調査区
- 第 13 図 緑葉遺跡群 3 区調査区
- 第 14 図 緑葉遺跡群 3 区調査区
- 第 15 図 緑葉遺跡群 3 区調査区（As-A下層）
- 第 16 図 緑葉遺跡群 4 区調査区（As-B下層）
- 第 17 図 緑葉遺跡群 5 区調査区
- 第 18 図 緑葉上郷遺跡
- 第 19 図 緑葉上郷遺跡（As-B下層）
- 第 20 図 緑葉上郷遺跡（京極代官屋敷跡）
- 第 21 図 緑葉上郷遺跡
- 第 22 図 緑葉遺跡群出土遺物（1）
- 第 23 図 緑葉遺跡群出土遺物（2）
- 第 24 図 竹沼遺跡 A 区全体図
- 第 25 図 A 区 5 号住居跡
- 第 26 図 A 区 5 号住居跡遺物分布図
- 第 27 図 A 区 5 号住居跡出土遺物（1）
- 第 28 図 A 区 5 号住居跡出土遺物（2）
- 第 29 図 A 区 5 号住居跡出土遺物（3）
- 第 30 図 A 区 5 号住居跡出土遺物（4）
- 第 31 図 A 区 5 号住居跡出土遺物（5）
- 第 32 図 A 区 6 号住居跡
- 第 33 図 A 区 6 号住居跡出土遺物
- 第 34 図 A 区 7 号住居跡出土遺物
- 第 35 図 A 区 7 号住居跡
- 第 36 図 A 区 8 号住居跡
- 第 37 図 A 区 8 号住居跡出土遺物
- 第 38 図 A 区 9 号住居跡出土遺物
- 第 39 図 A 区 9 号住居跡・10 号住居跡
- 第 40 図 A 区 9 号住居跡・10 号住居跡遺物分布図
- 第 41 図 A 区 9・10 号住居跡掘り方
- 第 42 図 A 区 10 号住居跡出土遺物
- 第 43 図 A 区 11 号住居跡
- 第 44 図 A 区 11 号住居跡出土遺物（1）
- 第 45 図 A 区 11 号住居跡出土遺物（2）
- 第 46 図 A 区 12 号住居跡
- 第 47 図 A 区 12 号住居跡出土遺物
- 第 48 図 A 区 13 号住居跡
- 第 49 図 A 区 13 号住居跡遺物分布図
- 第 50 図 A 区 13 号住居跡出土遺物（1）
- 第 51 図 A 区 13 号住居跡出土遺物（2）
- 第 52 図 A 区 13 号住居跡出土遺物（3）
- 第 53 図 A 区 13 号住居跡出土遺物（4）
- 第 54 図 A 区 13 号住居跡出土遺物（5）
- 第 55 図 A 区 1 号掘立柱建物跡・1 号溝・2 号溝
- 第 56 図 A 区 3 号土坑
- 第 57 図 竹沼遺跡 B 区全体図
- 第 58 図 B 区 1 号住居跡・1 号溝
- 第 59 図 B 区 1 号住居跡出土遺物
- 第 60 図 B 区 2 号住居跡
- 第 61 図 B 区 3 号住居跡
- 第 62 図 B 区 13 号住居跡
- 第 63 図 B 区 13 号住居跡出土遺物
- 第 64 図 B 区 14 号住居跡・2 号溝
- 第 65 図 B 区 14 号住居跡掘り方
- 第 66 図 B 区 14 号住居跡出土遺物（1）
- 第 67 図 B 区 14 号住居跡出土遺物（2）
- 第 68 図 B 区 15 号住居跡
- 第 69 図 B 区 15 号住居跡出土遺物（1）
- 第 70 図 B 区 15 号住居跡出土遺物（2）
- 第 71 図 B 区 16 号住居跡
- 第 72 図 B 区 16 号住居跡出土遺物
- 第 73 図 B 区 7 号～16 号土坑
- 第 74 図 B 区 9 号土坑出土遺物
- 第 75 図 竹沼遺跡 C 区全体図
- 第 76 図 C 区 11 号住居跡
- 第 77 図 C 区 11 号住居跡遺物分布図
- 第 78 図 C 区 11 号住居跡掘り方
- 第 79 図 C 区 11 号住居跡出土遺物（1）
- 第 80 図 C 区 11 号住居跡出土遺物（2）
- 第 81 図 C 区 13 号住居跡
- 第 82 図 C 区 14 号住居跡
- 第 83 図 C 区 14 号住居跡出土遺物
- 第 84 図 C 区 15 号住居跡・16 号住居跡
- 第 85 図 C 区 15 号住居跡出土遺物
- 第 86 図 C 区 2 号住居跡・12 号住居跡・1 号掘立柱建物跡
- 第 87 図 C 区 1 号井戸
- 第 88 図 C 区 1 号井戸出土遺物
- 第 89 図 竹沼遺跡 D 区全体図
- 第 90 図 D 区 4 号住居跡出土遺物
- 第 91 図 D 区 4 号住居跡・5 号住居跡
- 第 92 図 D 区 7 号住居跡
- 第 93 図 D 区 7 号住居跡遺物分布図と掘り方
- 第 94 図 D 区 7 号住居跡出土遺物
- 第 95 図 D 区 8 号住居跡

- 第96図 D区8号住居跡掘り方
 第97図 D区8号住居跡出土遺物(1)
 第98図 D区8号住居跡出土遺物(2)
 第99図 D区9号住居跡
 第100図 D区9号住居跡遺物分布図
 第101図 D区9号住居跡掘り方
 第102図 D区9号住居跡出土遺物(1)
 第103図 D区9号住居跡出土遺物(2)
 第104図 D区9号住居跡出土遺物(3)
 第105図 D区10号住居跡
 第106図 D区11号・12号・13号・14号・15号住居跡・2号土坑
 第107図 D区11号・12号・13号・14号・15号住居跡遺物分布図
 第108図 D区11号・12号・13号・14号・15号住居跡
 第109図 D区11号・12号住居跡出土遺物(1)
 第110図 D区12号住居跡出土遺物(2)

- 第111図 D区12号住居跡出土遺物(3)
 第112図 D区12号住居跡出土遺物(4)
 第113図 D区13号住居跡出土遺物(1)
 第114図 D区13号住居跡出土遺物(2)
 第115図 D区13号・14号住居跡出土遺物
 第116図 D区1号・2号・3号・4号土坑・1号井戸
 第117図 D区1号井戸・2号土坑出土遺物
 第118図 D区表探

図1 緑芝遺跡 各区の模式柱状図と分析試料

- 図2 * 2区試料 植物性炭化物構成
 図3 * 3区試料 *
 図4 * 4区試料 *
 図5 * 5区試料 *

図1 群馬県地質図(黏川沿岸)

PLATES

- PL.1 空中写真(米軍撮影)
 PL.2 空中写真
 PL.3 空中写真
 PL.4 1.緑芝遺跡群-調査前(北から)
 2.緑芝遺跡群-遠景(北から)
 PL.5 1.緑芝遺跡群-調査前(南から)
 2.緑芝遺跡群-遠景(南から)
 PL.6 1.緑芝遺跡群-EM-1全景(南東から)
 2.緑芝遺跡群-EM-2西壁(東から)
 PL.7 1.緑芝遺跡群-1区全景(南西から)
 2.緑芝遺跡群-1区全景(南西から)
 PL.8 1.緑芝遺跡群-EM-48・49(南東から)
 2.緑芝遺跡群-鎌倉街道全景(南から)
 3.緑芝遺跡群-GM-8西壁(東から)
 PL.9 1.緑芝遺跡群-石敷遺構全景(南から)
 2.緑芝遺跡群-GM-4全景(南東から)
 3.緑芝遺跡群-GM-10全景(南から)
 PL.10 緑芝遺跡群-3区高全景(南から)
 PL.11 1.緑芝遺跡群-3区高全景(南から)
 2.緑芝遺跡群-AZ-6全景(東から)
 3.緑芝遺跡群-II-55全景(南から)
 PL.12 緑芝遺跡群-4区As-B下高(南から)
 PL.13 1.緑芝遺跡群-KM-18全景(南から)
 2.緑芝上郷遺跡-調査前(南から)
 3.緑芝上郷遺跡-表土掘削
 PL.14 1.緑芝上郷遺跡-JM2A-KM3全景(南から)
 2.緑芝上郷遺跡-1号土坑(南東から)
 3.緑芝上郷遺跡-As-B下木田(南西から)
 PL.15 1.緑芝上郷遺跡-斎藤代官屋敷(北から)
 2.緑芝上郷遺跡-斎藤代官屋敷石垣(南東から)
 PL.16 ▼緑芝遺跡群出土遺物

▼緑芝遺跡群表探出土遺物

- PL.17 竹沼遺跡-A区全景(南から)
 PL.18 1.A区調査風景(南西から)
 2.* (南から)
 PL.19 1.A区5号住居跡(北から)
 2.* 遺物出土状況(西から)
 PL.20 1.A区5号住居跡遺物出土状況(北から)
 2.* (東から)
 3.* (南東から)
 PL.21 1.A区5号住居跡掘り方(北から)
 2.A区6号住居跡(南西から)
 PL.22 1.A区6号住居跡(南西から)
 2.* 掘り方(南西から)
 PL.23 1.A区7号住居跡(西から)
 2.* 遺物出土状況(東から)
 3.* カマド(南西から)
 PL.24 1.A区7号住居跡貯蔵穴(南から)
 2.* 炭化材出土状況(北から)
 3.* 掘り方(北から)
 PL.25 1.A区8号住居跡(南西から)
 2.* カマド(南西から)
 3.* 掘り方(北西から)
 PL.26 1.A区9号住居跡(南西から)
 2.* 掘り方(北から)
 PL.27 1.A区10号住居跡(西から)
 2.* 遺物出土状況(東から)
 3.* 掘り方(北西から)
 PL.28 1.A区11号住居跡(南西から)
 2.* 遺物出土状況(北東から)
 PL.29 1.A区11号住居跡掘り方(南西から)
 2.A区12号住居跡(南から)

- P.L.30 1. A区12号住居跡(東から)
2. * 掘り方(南から)
- P.L.31 1. A区13号住居跡(南から)
2. * 遺物出土状況(南から)
- P.L.32 1. A区13号住居跡遺物出土状況(南から)
2. * (北東から)
- P.L.33 1. A区13号住居跡貯蔵穴(南から)
2. * 南東隅貯蔵穴(北から)
3. * 掘り方(南から)
- P.L.34 1. A区1号掘立柱建物跡(北西から)
2. A区2号溝(南東から)
3. A区3号土坑(東から)
- P.L.35 竹沼遺跡B区全景(北から)
- P.L.36 1. B区調査前風景
2. B区遺構確認状況(北から)
- P.L.37 1. B区1号住居跡(北西から)
2. * 遺物出土状況(南西から)
3. * 掘り方(北西から)
- P.L.38 1. B区1号住居跡掘り方(北西から)
2. B区2号住居跡(南東から)
- P.L.39 1. B区3号住居跡(北東から)
2. * 遺物出土状況(北西から)
3. * 掘り方(北西から)
- P.L.40 1. B区13号住居跡(北から)
2. * 掘り方(南東から)
- P.L.41 1. B区14号住居跡(南東から)
2. * 遺物出土状況(南東から)
- P.L.42 1. B区14号住居跡カマド(南西から)
2. * 掘り方(東から)
3. B区15号住居跡(南東から)
- P.L.43 1. B区15号住居跡遺物出土状況(南から)
2. * カマド(南西から)
3. * 掘り方(南東から)
- P.L.44 1. B区16号住居跡(北東から)
2. * 掘り方(北東から)
3. * 貯蔵穴(南西から)
- P.L.45 1. B区7号・8号・9号土坑(南西から)
2. B区9号土坑(南東から)
3. B区8号土坑(北から)
4. B区11号土坑(西から)
5. B区10号土坑(東から)
- P.L.46 1. B区12号土坑(北西から)
2. B区13号土坑(北西から)
3. B区14号土坑(北西から)
4. B区15号土坑(西から)
5. B区1号溝(南東から)
6. B区2号溝(南東から)
- P.L.47 1. C区2号住居跡(西から)
2. C区11号住居跡(北東から)
- P.L.48 1. C区11号住居跡遺物出土状況(南東から)
2. * (南西から)
- P.L.49 1. C区12号住居跡(東から)
2. C区16号住居跡(南から)
- P.L.50 1. C区13号住居跡(東から)
2. * 掘り方(北西から)
- P.L.51 1. C区14号住居跡(北から)
2. * 遺物出土状況(南東から)
- P.L.52 1. C区15号住居跡(南から)
2. * カマド(南から)
3. C区1号掘立柱建物跡(南から)
- P.L.53 1. D区調査前風景(北東から)
2. D区調査風景(南から)
- P.L.54 竹沼遺跡D区全景(南から)
- P.L.55 竹沼遺跡D区全景(南から)
- P.L.56 1. D区4号住居跡(南西から)
2. D区5号住居跡(北西から)
- P.L.57 1. D区7号住居跡(南西から)
2. * カマド(南東から)
- P.L.58 1. D区7号住居跡掘り方(北東から)
2. D区8号住居跡(南東から)
- P.L.59 1. D区8号住居跡カマド(南西から)
2. * 貯蔵穴(南西から)
3. * こも福石出土状況(南西から)
- P.L.60 1. D区8号住居跡掘り方(南東から)
2. D区9号住居跡遺物出土状況(南東から)
- P.L.61 1. D区9号住居跡カマド(南西から)
2. * (南西から)
3. * 遺物出土状況(北東から)
- P.L.62 1. D区9号住居跡掘り方(北東から)
2. D区10号住居跡(南東から)
- P.L.63 1. D区11号・12号住居跡遺物出土状況(南東から)
2. D区11号住居跡カマド(南西から)
- P.L.64 D区12号・13号住居跡遺物出土状況(南東から)
- P.L.65 1. D区12号住居跡遺物出土状況(東から)
2. * (西から)
3. * カマド(南西から)
- P.L.66 1. D区13号～15号住居跡遺物出土状況(南東から)
2. D区13号住居跡遺物出土状況(北から)
- P.L.67 1. D区13号住居跡カマド(北西から)
2. D区14号住居跡カマド(南西から)
3. D区1号土坑(南東から)
4. D区3号土坑(東から)
5. D区4号土坑(南西から)
6. D区1号井戸(東から)
- P.L.68 ▼A区5号住居跡出土遺物
- P.L.69 ▼A区5号住居跡出土遺物
- P.L.70 ▼A区5号住居跡出土遺物
- P.L.71 ▼A区5号住居跡出土遺物
- ▼A区6号住居跡出土遺物
- P.L.72 ▼A区6号住居跡出土遺物
- ▼A区7号住居跡出土遺物
- ▼A区8号住居跡出土遺物
- P.L.73 ▼A区8号住居跡出土遺物

- ▼A区9号住居跡出土遺物
- ▼A区10号住居跡出土遺物
- P L .74 ▼A区11号住居跡出土遺物
- ▼A区12号住居跡出土遺物
- P L .75 ▼A区13号住居跡出土遺物
- P L .76 ▼A区13号住居跡出土遺物
- P L .77 ▼A区13号住居跡出土遺物
- P L .78 ▼A区13号住居跡出土遺物
- ▼B区1号住居跡出土遺物
- ▼B区13号住居跡出土遺物
- ▼B区14号住居跡出土遺物
- P L .79 ▼B区14号住居跡出土遺物
- ▼B区15号住居跡出土遺物
- P L .80 ▼B区15号住居跡出土遺物
- ▼B区16号住居跡出土遺物
- ▼B区9号土坑出土遺物
- ▼C区11号住居跡出土遺物
- P L .81 ▼C区11号住居跡出土遺物
- ▼C区14号住居跡出土遺物
- P L .82 ▼C区15号住居跡出土遺物
- ▼C区1号井戸出土遺物
- ▼D区4号住居跡出土遺物
- ▼D区7号住居跡出土遺物
- ▼D区8号住居跡出土遺物
- P L .83 ▼D区8号住居跡出土遺物
- ▼D区9号住居跡出土遺物
- P L .84 ▼D区9号住居跡出土遺物
- P L .85 ▼D区11号住居跡出土遺物
- ▼D区12号住居跡出土遺物
- P L .86 ▼D区12号住居跡出土遺物
- ▼D区13号住居跡出土遺物
- P L .87 ▼D区13号住居跡出土遺物
- ▼D区14号住居跡出土遺物
- ▼D区2号土坑出土遺物
- ▼D区1号井戸出土遺物
- ▼D区表探出土遺物

第1章

遺跡の立地と 調査の経過



牛伏山から望む

〔1〕 調査の経過・遺跡の位置

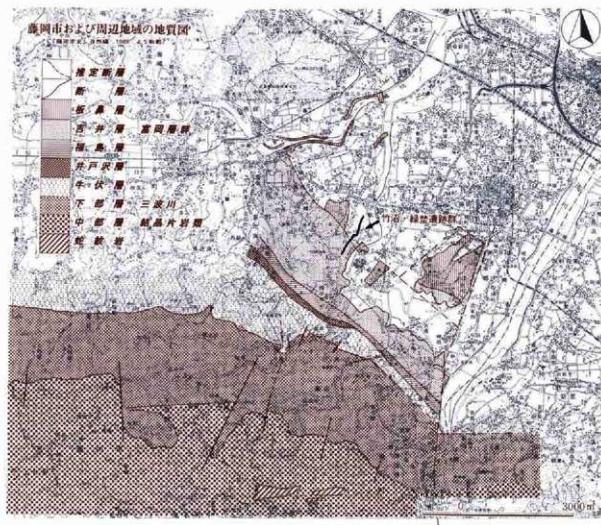
1 遺跡の位置

緑整遺跡群は、群馬県の西南部、藤岡市西平井に所在し、竹沼遺跡、緑整上郷遺跡、緑整遺跡群の3つからなる。赤久縄山に水源をもつ鮎川の左岸、市街地からは南西に約4kmの田園地帯の中にある(第2図)。上流2km、通称日野の谷口には、関東管領上杉氏を擁した平井城、下流鮎川との合流点には白石稲荷山古墳、七興山古墳など大型の前方後円墳が並び、古代、中世と地域の中核になった所である。また、多胡碑にある緑野郡の一画で、日本書紀安閑紀の“緑野屯倉”に比定される地でもある。

2 地形と基本土層

藤岡市の地形は、「山地」「丘陵・台地」「低地」の3つに区分できる。南西部に連なる日野の山並みは、関東山地の一画を占め、三波川変成帯に属している。丘陵・台地は、洪積世の砂礫層を基盤とし関東ローム層で覆われている。市街地のある一帯は、藤岡台地とも呼ばれる扇状地で、南西を鮎川、神流川で開析されている。その扇端が両河川と合流する鮎川とによる沖積低地である(第1図)。

遺跡付近は、左岸に鮎川の段丘につながる丘陵、右岸に偏平な藤岡台地を一望することができる。丘

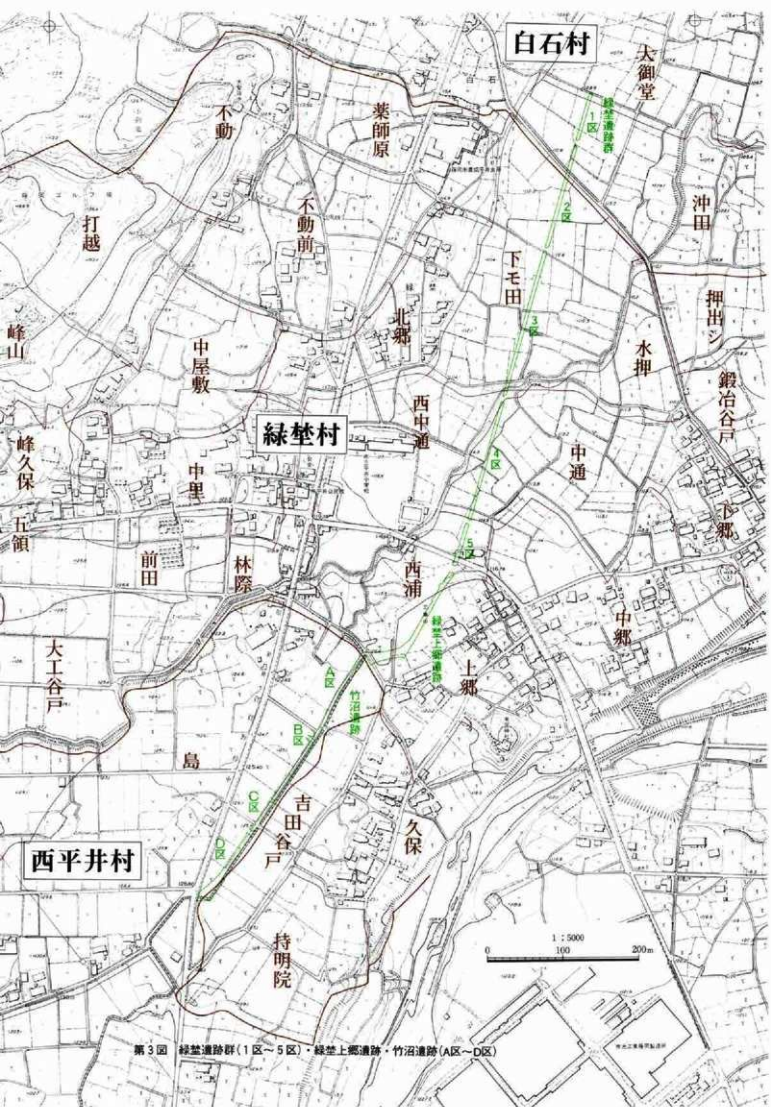


第1図 藤岡市および周辺地域の地質図



第2図 緑壁遺跡群・緑壁上郷遺跡・竹沼遺跡位置図

0 1000m
1:25000
三本木



白石村

大御堂

不動

葉師原

沖田

打越

不動前

下毛田

押出

水押

鍛冶谷戸

黒埜村

北郷

西中道

中通

下郷

中屋敷

中里

前田

林際

西浦

中郷

上郷

大工谷戸

島

竹沼道跡

西平井村

吉田谷戸

久保

持明院

1:5000

0 100 200m

第3図 黒埜道跡群(1区~5区)・黒埜上郷道跡・竹沼道跡(A区~D区)

第1章 遺跡の立地と調査の経過

陵からは谷地田で刻まれた台地がのび、鮎川との間に緑塗たんぼと通称される水田が広がる。1970（昭和45）年に始まる県営園場整備以前は、養蚕を主とする畑作地帯で、水田は竹沼と大神場池を水源とする谷地田と緑塗たんぼの一面にすぎなかった（明治10年には田14町に対して畑46町の記録がある。一緑野郡村誌）。

発掘調査は、台地から低地にかけて10をこす遺跡で行われている。その結果は、中世、古代に遡る景観、また現代への移り変わりを明らかにしている。開墾は、谷地に面して始まり、その埋没とともに緑塗たんぼへ進出している。竹沼遺跡、緑塗上郷遺跡、台地上での集落の推移、緑塗遺跡群は微地形と集落のかかわりを知ることができる。

基本土層の観察は、各遺跡2箇所で行った。

竹沼遺跡・緑塗上郷遺跡のある台地では、結晶片岩類の砂礫を主とする基盤層の上に、暗色帯以上のローム層が1m前後堆積している。耕作土からローム層までは、約50cm前後の厚さで、As-A（浅間A）層やAs-B（同B）層は部分的にみられた。遺構の確認は、ローム漸移層かその上面で行った。

緑塗遺跡群の3区と5区では、地表下2.5mまでの深掘りを行った。最深部には、広葉樹の流木を含んだ黒色土、その上に古墳時代の水田耕作土の可能性のある暗褐色の粘質土、さらに淡い橙色粘質土の互層が1.5m近く堆積していた。この橙色粘質土の上面がAs-B層で覆われた水田や畠の耕作土である。その後、As-A層の二次堆積層や混土層、現代の耕作土となっている。

3 調査の経過

発掘調査は、上信越自動車道への盛土を撤出する道路用地、全長2,050m、幅7.5m、面積15,375㎡を対象とした。この用地は、藤岡市教育委員会が園場整備事業に伴い、竹沼遺跡（1976年）、緑塗遺跡群（1982～1985年）として調査した道路の拡幅である。

その日程や体制については、1990（平成2）年7月6日、日本道路公団東京第二建設局、群馬県教育

委員会文化財保護課、群馬県埋蔵文化財調査事業団の三者で協議し、下記のとおりとした。

- 1 日程は、1990（平成2）年8月から同年12月までとする。
- 2 調査体制は、藤岡市教育委員会と群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施する。
- 3 調査範囲は、県道倉賀野停車場金井線の西830mを藤岡市教育委員会、東1,220mを群馬県埋蔵文化財調査事業団で分けて実施する。

その後、藤岡市教育委員会との調査方法や日程の協議、調査の準備をへて8月30日、竹沼遺跡の表土掘削を開始した。緑塗遺跡群、緑塗上郷遺跡は、水稲収穫後に調査を実施し、1990（平成2）年12月28日全ての調査を終了した。

竹沼遺跡の調査は、1990（平成2）年8月から10月に、D区からA区順で実施した。

調査した遺構は、住居跡34軒、掘立柱建物2棟、土坑16基、井戸2基、溝4条、風倒木痕、ピット群である。住居は、古墳時代が32軒、弥生時代と奈良時代が各1軒である。遺構の大半は、新たに確認され、1976（昭和51）年の追加は住居5軒、溝2条である。

緑塗遺跡群は、1990（平成2）年11月、12月に1区から5区順で実施した。

調査した遺構は、江戸時代と平安時代の水田と畠、溝、土坑そして鎌倉街道跡である。いずれも、1985・1986（昭和60・61）年調査の追加である。

緑塗上郷遺跡は、台地が園場整備事業でローム面まで削平されており、遺構が確認できたのは台地の斜面と谷地からである。遺構は、1986（昭和61）年調査に追加する齋藤代官屋敷の石垣と平安時代の水田と溝である。

1990（平成2）年12月には、出土した石材の鑑定と植物珪酸体の分析を実施している。

4 調査の方法

調査の方法は、藤岡市教育委員会が調査した竹沼遺跡、緑壘遺跡群に準拠した。

測量基準杭は、国家座標系Ⅹ系で設定した緑壘遺跡群の方眼を南の竹沼遺跡の範囲まで延長した。4m×4mグリッドを基本とし、東西軸は50を起点に東へ延長、南北軸はEを基点に100m毎にE～Jまでとし、その中を4mごとにa～yまで、例えばE50aと表記した。従前の竹沼遺跡の方眼とは、西約20°のずれを持ち、個別の遺構は現状で合わせることにとどめた。

調査区の呼称は、竹沼遺跡では従来のA～D区をそのまま使用し、緑壘遺跡群では調査区を横断する道路水路で新たに北から1～5区までとした。その中で、道路、水路部分は調査の対象から除外した。遺構の呼称は、竹沼遺跡、緑壘遺跡群でのものを継続し、同一の遺構はそのままとした。

対象面積は、竹沼遺跡約2,000㎡、緑壘上郷遺跡約1,200㎡、緑壘遺跡群約3,100㎡である。

5 調査日誌

1990（平成2）年

8月1日 調査開始。担当者は真下高幸、女屋和志雄、根岸仁の3名である。

8月3日・4日 重機による表土剥ぎ作業を実施。

8月6日～10日 重機による表土剥ぎ作業を継続。

8月13日～18日 重機による表土剥ぎ作業を継続。13日からプレハブの水道工事が始まる。

8月20日～24日 竹沼D区の遺構確認作業を開始。

8月27日～9月1日 竹沼D・C区遺構確認作業。D区7・8号住居跡の発掘を開始。

9月3日～7日 竹沼A～D区の遺構確認作業。D区1～4号土坑の調査、1号井戸、4・7～9号住居跡の調査。C区6・13号住居跡の調査。B区2・3・13～15号住居跡の調査。

9月10日～14日 D区4・7・8・11～14号住居跡の調査、全体図の作成開始。C区14号住居跡、B区3・13～15号住居跡、A区5～7号住居跡の調査を行う。

9月17日～21日 D区4・6～8・11～14号住居跡の調査。C区13号住居跡の調査。B区1・2・13号住居跡の調査。A区5～7号住居跡の調査。

9月25日～28日 D区7・8・11～14号住居跡の調査。C区11・13号住居跡の調査。B区2・14～16号住居跡、土坑の調査。A区5～10号住居跡の調査継続。10月1日～5日 C区2・3・14・15号住居跡の調査。B区14・15号住居跡の調査。A区5・7～13号住居跡、1号土坑の調査。緑壘遺跡群の掘削開始。

10月6日～12日 D区11～14号住居跡の精査。B区1・16号住居跡の調査。A区7～13号住居跡の調査。緑壘遺跡群の掘削継続。8日から菊池が調査の応援。

10月15日～20日 C区2・3・13・15号住居跡の精査。B区3・13・15号住居跡の精査。A区5・7～13号住居跡の精査を行う。

10月22日～26日 D区7～13号住居跡の掘り方調査。C区11・14・15号住居跡の掘り方調査。

10月29日～11月2日 B区3・13～15号住居跡掘り方調査。A区5～7・9～13号住居跡の掘り方調査。

11月5日～9日 B区1・13～16号住居跡の精査。A区5～9・11・13号住居跡の精査。緑壘遺跡群4・5区の遺構確認作業を行う。

11月13日～17日 緑壘遺跡群2～5区遺構確認作業。

11月19日～22日 緑壘遺跡群1・2区の遺構確認作業。全体図の作成を実施。

11月26日～12月1日 緑壘遺跡群5区の遺構確認作業。緑壘上郷遺跡の調査。30日夜半、台風来襲で遺跡は冠水。

12月3日～7日 緑壘遺跡群・緑壘上郷遺跡の排水作業を実施。緑壘遺跡群1区精査、3区確認作業、As-B下水田を検出。

12月10日～14日 緑壘遺跡群1区・4区調査。陣内主一先生による石材鑑定を実施。

12月17日～22日 緑壘遺跡群1区～3区調査。緑壘上郷遺跡の調査。プラントオパール分析を実施。

12月25日～27日 基本土層の注記作業。現場調査を終了。

1991（平成3）年

- 1月7日～11日 図面・写真整理を行う。
 1月14日～19日 図面・写真整理。石材鑑定を実施。
 1月21日～25日 遺物集計・石材の集計。事務所撤

去作業。

- 1月28日～31日 事務所撤去作業。調査終了に伴う
 地元挨拶を行う。

[2]

歴史的環境

藤岡市はその地形的特質から、西南部の山間地域と北東部の平野部とに分かれる。遺跡が多く見られるのは北東平野部である。この平野部は鮎川による開析扇状地が東を神流川、北を鍋川、西を鮎川によって隔てられ、藤岡台地とも呼ばれている。遺跡が濃密に存在するのは、この3つの河川に沿った台地縁部である。

鮎川流域には、伊勢塚古墳(7世紀前半の築造)、七興山古墳(6世紀前半の築造)、白石稲荷山古墳(5世紀前半の築造)及び白石古墳群、東平井古墳群などの古墳群が知られており、神流川流域とともに藤岡市の中では埋蔵文化財包蔵の中心的地域といえる。

竹沼遺跡・緑埜遺跡群周辺では、昭和48年度から52年度にかけて、また、昭和57年度から61年度にかけて二度にわたる大規模な農業構造改善基金整備事業が実施され、広範な地域が調査対象となった。その結果、つぎの諸遺跡が調査されている。

旧石器時代の遺物を出土する遺跡はあまり多くない。緑埜島遺跡(018)からナイフ形石器1点が表採され、緑埜上郷遺跡(004)からはAT層を含む層から剥片石器が出土している。また、竹沼遺跡(002)からは両面加工石器、搔器が出土している。

縄文時代の遺跡は、平井・美土里地区と、藤岡台地北辺から東北辺にかけての小野・神流地区に多く見られ、台地縁部に立地するものが多い。当遺跡の周辺では、シモ田遺跡(005)から晩期前半(安行3Ⅱ式期)の土壊状の遺構1基、薬師原遺跡(013)から中期後半(加曾利E3式期)の住居跡1軒、土壊23基、土器埋設遺構3基が検出された。鍛冶谷戸遺跡(010)では配石や埋設土器が検出され、竹沼遺跡(002)からは中期住居跡3軒と土坑5基が調

査されている。

弥生時代遺跡の調査例は少ない。市教委が実施した竹沼遺跡(002)から、赤井戸式期の土器を伴う住居跡調査例と、今回調査の事例、そして中期土器の出土した白石大御堂遺跡(064)が知られている。

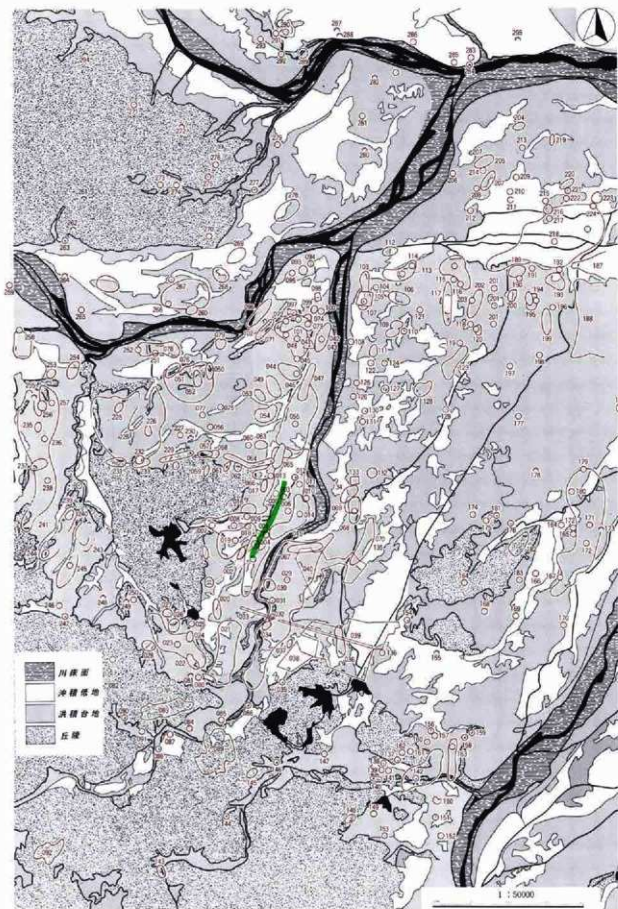
鮎川流域には白石稲荷山古墳(046)や七興山古墳(097)などの規模の大きい前方後円墳が存在しているが、多くは後期の円墳であり群集している。分布域は鮎川流域と神流川流域に集中している。

緑埜古墳群(014)内に分布する古墳は『上毛古墳総覧』において7基が記載され、市教委の発掘調査の結果新たに3基の古墳が追加された。本古墳群は沖積地にもまたがる南北600メートルの範囲に点在することが判明し7世紀代の築造と考えられている。

古墳時代の集落跡は、緑埜島遺跡(018)から6世紀前半の住居跡1軒、土坑・ピット232基が検出されている。また、緑埜水押遺跡(012)では5世紀前半の住居跡3軒、緑埜上郷遺跡(004)では5世紀から6世紀代の住居跡26軒、竹沼遺跡(002)からは古墳時代前期の住居跡4軒、後期の住居跡26軒が検出されている。このうち後期住居跡の中には、9軒の滑石製品製作工房跡が含まれていた。

奈良～平安時代の遺跡は、中里遺跡(009)から古墳時代末と奈良時代後半から平安時代初頭頃の住居跡2軒、溝1条、ピット群が検出されている。緑埜押出シ遺跡(011)では平安時代の住居跡3軒、掘立柱建物跡2棟、土坑・ピットである。大工ヶ谷戸遺跡(008)は古墳時代末～奈良時代の住居跡8軒、平安時代住居跡1軒、掘立柱建物跡1棟、土坑・ピットが検出されている。

また、緑埜地区水田址遺跡(003)では、As-B水田と畠跡が検出されている。



第4图 周边道路分布图(鮎川流域)

第1章 遺跡の立地と調査の経過

福江遺跡一覧表 (○遺物検出 ◆遺構検出 凸城壁 □古墳)

| 番号 | 遺跡名 | 所在地 | 回 | 岡 | 鏡 | 古 | 中 | 甲 | 平 | 近 | 池 | 集 | 竹 | 金 | 備 | 備 | 調査主体・文献 |
|-----|---|--------------------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|--|
| 001 | 結笠遺跡群・竹田遺跡 | 藤岡市結笠 | | | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | 藤岡文・本原吉書 |
| 002 | 竹田遺跡 (F1) | 藤岡市結笠字久保、西平井字金+谷戸 | ◇ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | 市教委「F1竹田遺跡」1977 |
| 003 | 結笠地区遺跡群 (F2) | 藤岡市結笠 | ◇ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | 市教委「F2結笠地区遺跡群1」1986 |
| 004 | 結笠上郷遺跡 | 藤岡市結笠字上郷 | ◇ | | ◆ | | | | | ◆ | | | | | | | 市教委「F2結笠地区遺跡群1」1986 |
| 005 | シメ田遺跡 | 藤岡市結笠字シメ田 | ◇ | | | | | | | | | | | | | | 市教委「F2結笠地区遺跡群1」1986 |
| 006 | 結笠中郷遺跡 | 藤岡市結笠字中郷 | ◇ | | | | | | | ◆ | | | | | | | 市教委「F2結笠地区遺跡群1」1986 |
| 007 | 五保遺跡 | 藤岡市結笠字五保 | ◇ | | | | | | | | | | | | | | 市教委「F2結笠地区遺跡群1」1986 |
| 008 | 大工谷戸遺跡 | 藤岡市結笠字大工+谷戸 | | | | | | | ◆ | | | | | | | | 市教委「F2結笠地区遺跡群1」1986 |
| 009 | 中互遺跡 | 藤岡市結笠字中互 | | | | | | | ◆ | ◆ | ◆ | | | | | | 市教委「F2結笠地区遺跡群1」1986 |
| 010 | 蔵谷谷戸遺跡 | 藤岡市結笠字蔵谷戸 | | ◆ | | | | | | | | | | | | | 市教委「F2結笠地区遺跡群1」1986 |
| 011 | 結笠押出シ遺跡 | 藤岡市結笠字押出シ・字沖田 | | | | | | | ◆ | ◆ | | | | | | | 市教委「F2結笠地区遺跡群1」1986 |
| 012 | 結笠水戸遺跡 | 藤岡市結笠字水戸 | | | | | | | | | | | | | | | 市教委「F2結笠地区遺跡群1」1986 |
| 013 | 東御原遺跡 | 藤岡市結笠字東御原 | | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | 市教委「F2東御原遺跡」1985 |
| 014 | 結笠古墳群 | 藤岡市結笠 | | | | | | | | | | | | | | | 市教委「F2結笠地区遺跡群1」1986 |
| 015 | 平井地区No.19遺跡 | 藤岡市結笠、西平井、白石 | | | | | | | | | | ◇ | | | | | 市教委「藤岡市遺跡群総合分布調査」(Ⅱ)1984 |
| 016 | 平井地区No.18遺跡 | 藤岡市結笠字中互 | | | | | | | ◇ | ◇ | ◇ | | | | | | 市教委「藤岡市遺跡群総合分布調査」(Ⅱ)1984 |
| 017 | 平井地区No.17遺跡 | 藤岡市結笠字不動原・字東御原・字北郷 | | | | | | | ◇ | ◇ | ◇ | ◇ | | | | | 市教委「藤岡市遺跡群総合分布調査」(Ⅱ)1984 |
| 018 | 結笠島遺跡 | 藤岡市西平井字島 | | | | | | | | ◆ | | | | | | | 市教委「F2結笠地区遺跡群1」1986 |
| 019 | 平井地区No.22遺跡 | 藤岡市西平井字島、字二ノ宮・字道 | | | | | | | | | | | | | | | 市教委「藤岡市遺跡群総合分布調査」(Ⅱ)1984 |
| 020 | 平井地区No.23遺跡 | 藤岡市西平井字御鐘・字久保 | | | | | | | ◇ | ◇ | ◇ | ◇ | | | | | 市教委「藤岡市遺跡群総合分布調査」(Ⅱ)1984 |
| 021 | 平井城跡 | 藤岡市西平井 | | | | | | | | | | ◆ | | | | 凸 | 「群馬県古墳調査の研究」下巻、1972 |
| 022 | 鹿塚古墳群 | 藤岡市西平井 | | | | | | | | | | | | | | | 市教委「E1土室遺跡」1988 |
| 023 | 平井地区No.29遺跡 | 藤岡市西平井字鹿塚 | | | | | | | ◇ | ◇ | ◇ | ◇ | | | | | 市教委「藤岡市遺跡群総合分布調査」(Ⅱ)1984 |
| 024 | 平井地区No.28遺跡 | 藤岡市西平井字鹿塚/上 | | | | | | | | | | | | | | | 市教委「藤岡市遺跡群総合分布調査」(Ⅱ)1984 |
| 025 | (墳墓) | 藤岡市西平井 | | | | | | | | | | | | | | | 「群馬県遺跡台帳Ⅱ(石巻編)」1973 |
| 026 | 平井地区No.27遺跡 | 藤岡市西平井字清水谷・字上ノ湯 | | | | | | | | | | ◇ | ◇ | | | | 市教委「藤岡市遺跡群総合分布調査」(Ⅱ)1984 |
| 027 | 平井地区No.26遺跡 | 藤岡市西平井字岩場 | | | | | | | | | | | | | | | 市教委「藤岡市遺跡群総合分布調査」(Ⅱ)1984 |
| 028 | 平井地区No.30遺跡 | 藤岡市西平井字不動原 | | | | | | | | | | | | | | | 市教委「藤岡市遺跡群総合分布調査」(Ⅱ)1984 |
| 029 | 東平井古墳群 | 藤岡市東平井 | | | | | | | | | | | | | | | 市教委「昭和35年藤岡市遺跡群総合分布調査報告書」1981 |
| 030 | 平井地区No.34遺跡 | 藤岡市東平井字横石 | | | | | | | | | | | | | | | 市教委「藤岡市遺跡群総合分布調査」(Ⅱ)1984 |
| 031 | 横石A遺跡 | 藤岡市東平井字横石 | | | | | | | | | | | | | | | 市教委「藤岡市遺跡群総合分布調査」(Ⅱ)1984 |
| 032 | 横石の巻 | 藤岡市東平井字三蔵 | | | | | | | | | | | | | | | 藤岡文 |
| 033 | 横石の巻群、東平井城跡遺跡、東平井宮正倉遺跡、東平井土井下遺跡、西平井久保田代遺跡 | 藤岡市東平井、西平井、矢塚地区 | | | | | | | | | | | | | | | 藤岡文「横石の巻群、東平井城跡遺跡、東平井宮正倉遺跡、東平井土井下遺跡、西平井久保田代遺跡」1994 |
| 034 | 平井地区No.25遺跡 | 藤岡市東平井字堀尾 | | | | | | | | | | | | | | | 市教委「藤岡市遺跡群総合分布調査」(Ⅱ)1984 |
| 035 | 平井地区No.24遺跡 | 藤岡市東平井字上田 | | | | | | | | | | | | | | | 市教委「藤岡市遺跡群総合分布調査」(Ⅱ)1984 |
| 036 | 平井地区No.23遺跡 | 藤岡市東平井字堀尾 | | | | | | | | | | | | | | | 市教委「藤岡市遺跡群総合分布調査」(Ⅱ)1984 |
| 037 | 東平井の巻群 | 藤岡市東平井字城之内 | | | | | | | | | | | | | | | 市教委「F12藤岡平井地区遺跡群」1984 |
| 038 | F12藤岡平井地区遺跡群 | 藤岡市東平井字堀尾・字宮七井・字宮正倉・字城之内 | | | | | | | | | | | | | | | 市教委「F12藤岡平井地区遺跡群」1984 |
| 039 | F14藤岡平井地区遺跡群 | 藤岡市東平井、矢塚 | | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | 市教委「F14藤岡平井地区遺跡群」1992 |
| 040 | F15藤岡平井地区遺跡群 | 藤岡市東平井、堀川 | | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | 市教委「F15藤岡平井地区遺跡群」1993 |
| 041 | 平井地区No.5遺跡 | 藤岡市白石字北郷 | | | | | | | | | | | | | | | 市教委「藤岡市遺跡群総合分布調査」(Ⅱ)1984 |
| 042 | 白石鎮田古墳群 | 藤岡市白石字鎮田 | | | | | | | | | | | | | | | 市教委「白石古墳群調査報告書」1969 |
| 043 | 平井地区No.19遺跡 | 藤岡市白石字鎮田 | | | | | | | | | | | | | | | 市教委「藤岡市遺跡群総合分布調査」(Ⅱ)1984 |
| 044 | 平井地区No.6遺跡 | 藤岡市白石字福原 | | | | | | | | | | | | | | | 市教委「藤岡市遺跡群総合分布調査」(Ⅱ)1984 |
| 045 | 十二天宮古墳 | 藤岡市白石字福原 | | | | | | | | | | | | | | | 市教委「伊勢崎古墳、十二天宮古墳」1988 |
| 046 | 白石福原山古墳 | 藤岡市白石字福原 | | | | | | | | | | | | | | | 市教委「白石福原山古墳」1987 |
| 047 | 平井地区No.11遺跡 | 藤岡市白石字福原 | | | | | | | | | | | | | | | 市教委「藤岡市遺跡群総合分布調査」(Ⅱ)1984 |
| 048 | 白石の巻 | 藤岡市白石字新堀 | | | | | | | | | | | | | | | 「群馬県古墳調査の研究」下巻、1972 |
| 049 | 平井地区No.7遺跡 | 藤岡市白石字新堀 | | | | | | | | | | | | | | | 市教委「藤岡市遺跡群総合分布調査」(Ⅱ)1984 |
| 050 | 平井地区No.3遺跡 | 藤岡市白石字上原 | | | | | | | | | | | | | | | 市教委「藤岡市遺跡群総合分布調査」(Ⅱ)1984 |
| 051 | 平井地区No.2遺跡 | 藤岡市白石字上原 | | | | | | | | | | | | | | | 市教委「藤岡市遺跡群総合分布調査」(Ⅱ)1984 |
| 052 | (散布地) | 藤岡市白石字上原 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 053 | 平井地区No.8遺跡 | 藤岡市白石字中郷 | | | | | | | | | | | | | | | 市教委「藤岡市遺跡群総合分布調査」(Ⅱ)1984 |
| 054 | 平井地区No.9遺跡 | 藤岡市白石字中郷 | | | | | | | | | | | | | | | 市教委「藤岡市遺跡群総合分布調査」(Ⅱ)1984 |
| 055 | 白石古墳群 | 藤岡市白石字下郷 | | | | | | | | | | | | | | | 市教委「白石古墳群調査報告書」1988 |
| 056 | 堀尾遺跡 | 藤岡市白石字堀尾 | | | | | | | | | | | | | | | 市教委「藤岡市遺跡群総合分布調査」(Ⅱ)1984 |
| 057 | 白石御原遺跡 | 藤岡市白石字御原 | | | | | | | | | | | | | | | 藤岡文「藤岡市遺跡群総合分布調査」1984 |
| 058 | 平井地区No.12遺跡 | 藤岡市白石字鎮田 | | | | | | | | | | | | | | | 市教委「藤岡市遺跡群総合分布調査」(Ⅱ)1984 |

(2) 歴史的環境

| 番号 | 遺跡名 | 所在地 | 国 | 種 | 古 | 新 | 平 | 中 | 近 | 集 | 生 | 境 | 地 | 調査主体・文献 |
|-----|--------------|---------------------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---------------------------------|
| 059 | 【敷布地】 | 藤岡市白石字藤原 | | ○ | | ○ | ○ | | | | | | | |
| 060 | 【古墳】 | 藤岡市白石字藤原 | | | | | | | | | | ○ | | |
| 061 | 平井地区No.13遺跡 | 藤岡市白石字美道山 | | ○ | | | | | | | | | | 市教委「藤岡市遺跡群分布調査(Ⅱ)」1984 |
| 062 | 平井地区No.14遺跡 | 藤岡市白石字上谷戸 | | ○ | | | | | | | | | | 市教委「藤岡市遺跡群分布調査(Ⅱ)」1984 |
| 063 | 平井地区No.15遺跡 | 藤岡市白石字上谷戸 | | ○ | | | | | | | | | | 市教委「藤岡市遺跡群分布調査(Ⅱ)」1984 |
| 064 | 白石大塚堂遺跡 | 藤岡市白石字大塚堂・字福原・字上谷戸 | ○ | ◆ | ○ | ◆ | ◆ | ◆ | | ☆ | ☆ | ☆ | | 群原文「白石大塚堂遺跡」1991 |
| 065 | 平井地区No.16遺跡 | 藤岡市白石字藤原 | | ○ | | ○ | | | | | | | | 市教委「藤岡市遺跡群分布調査(Ⅱ)」1984 |
| 066 | 白石古墳群 | 藤岡市福原、白石 | | | | | | | | | | ○ | | 市教委「白石古墳群調査報告書」1988 |
| 067 | 平井地区No.20遺跡 | 藤岡市松岡字尻川・字崎沢・字塚之内 | | ○ | | | | | | | | | | 市教委「藤岡市遺跡群分布調査(Ⅱ)」1984 |
| 068 | 松川古墳群 | 藤岡市松岡 | | | | | | | | | | | | 群原昭「上毛古墳概観」1938 |
| 069 | 松川城 | 藤岡市松岡字下の段・字元屋敷 | | | | | | | | | | ○ | | 『群馬県古墳地誌の研究』補遺編 上巻:1979 |
| 070 | 平井地区No.31遺跡 | 藤岡市松岡字石野宮・字坂ノ芝・字藤原 | | ○ | | ○ | | | | | | | | 市教委「藤岡市遺跡群分布調査(Ⅱ)」1984 |
| 071 | 東原遺跡【D1】 | 藤岡市三ツ木大字東原 | | ◆ | | | | | | | | | | 市教委 |
| 072 | 東原Ⅱ遺跡【F8】 | 藤岡市三ツ木大字東原 | | | | | | | | | | | | 市教委「藤岡市遺跡群分布調査(Ⅱ)」1984 |
| 073 | 平井地区1号古墳 | 藤岡市三ツ木大字東原 | | | | | | | | | | | | 市教委「平井地区1号古墳」1993 |
| 074 | 平井地区No.4遺跡 | 藤岡市三ツ木大字東原 | | ○ | | ○ | ○ | | | | | | | 市教委「藤岡市遺跡群分布調査(Ⅱ)」1984 |
| 075 | 三ツ木橋内遺跡 | 藤岡市三ツ木 | | | | | | | | | | ○ | | 市教委「文化財調査報告書」 |
| 076 | 平井地区No.1遺跡 | 藤岡市三ツ木字橋内 | | ○ | | | | | | | | | | 市教委「藤岡市遺跡群分布調査(Ⅱ)」1984 |
| 077 | 三ツ木城跡 | 藤岡市三ツ木 | | | | | | | | | | ○ | | 『群馬県古墳地誌の研究』下巻:1972 |
| 078 | 【敷布地】 | 藤岡市三ツ木 | | ○ | | ○ | | | | | | | | |
| 079 | 【敷布地】 | 藤岡市三ツ木 | | ○ | | ○ | | | | | | | | |
| 080 | 金山瓦遺跡 | 藤岡市金井字金山 | | | | | | | | | | | | 立正大学「上野・金山瓦窯跡」1966 |
| 081 | 金山西谷遺跡 | 藤岡市金井字乙 | | | | | | | | | | | | 『群馬県古墳地誌の研究』補遺編 上巻:1979 |
| 082 | 下野村・金井原址跡 | 藤岡市下野村野新田、金井原町1号・字金井下 | | | | | | | | | | | | 市教委「群原」(1)(4):1989-1989 |
| 083 | 平井金山城跡 | 藤岡市金井字金山 | | | | | | | | | | | | 『群馬県古墳地誌の研究』補遺編 上巻:1979 |
| 084 | こぼつとま | 藤岡市金井字大平 | | ○ | | | | | | | | | | 『群馬県遺跡群(Ⅱ)』(西毛編):1973 |
| 085 | 高山城跡 | 藤岡市金井字小平 | | | | | | | | | | | | 『群馬県の中世城郭跡』1988 |
| 086 | 【墳墓】 | 藤岡市金井 | | ○ | | | | | | | | | | |
| 087 | 【墳墓】 | 藤岡市金井字中倉 | | ○ | | | | | | | | | | |
| 088 | 【墳墓】 | 藤岡市金井字川尻原 | | ○ | | | | | | | | | | 『群馬県遺跡台録Ⅱ』(西毛編):1973 |
| 089 | 金井城跡 | 藤岡市金井字小平 | | | | | | | | | | | | 『群馬県古墳地誌の研究』下巻:1972 |
| 090 | 御宿城 | 藤岡市下野村御宿字御宿 | | | | | | | | | | | | 『群馬県古墳地誌の研究』補遺編 上巻:1979 |
| 091 | 伊沢遺跡 | 藤岡市下野村伊沢 | | | | | | | | | | | | 群馬大学「群原」49号集に於ける発掘報告、1960 |
| 092 | 子玉山城跡 | 藤岡市下野村塩平・字塩平・字御子・字江木 | | ○ | | ○ | ○ | | | | | | | 『藤岡市史』資料編 歴史・古代・中世:1993 |
| 093 | 荒土里地区No.1遺跡 | 藤岡市上高合字福原 | | ○ | | ○ | ○ | | | | | | | 市教委「藤岡市遺跡群分布調査(Ⅱ)」1983 |
| 094 | 岡の倉 | 藤岡市上高合字岡 | | | | | | | | | | | | 『藤岡市史』資料編 歴史・古代・中世:1993 |
| 095 | 伊勢塚古墳 | 藤岡市上高合字岡 | | | | | | | | | | | | 群大・市教委「伊勢塚古墳・十二天宮古墳」1988 |
| 096 | 荒土里地区No.2遺跡 | 藤岡市上高合字上野 | | ○ | | ○ | ○ | | | | | | | 市教委「藤岡市遺跡群分布調査(Ⅱ)」1983 |
| 097 | 七上山古墳 | 藤岡市上高合字七上山 | | | | | | | | | | | | 宮崎・原、市教委「七上山古墳」1991 |
| 098 | 落合の倉 | 藤岡市上高合字城山 | | | | | | | | | | | | 『群馬県古墳地誌の研究』下巻:1972 |
| 099 | 荒土里地区No.4遺跡 | 藤岡市上高合字七上山 | | ○ | | ○ | ○ | | | | | | | 市教委「藤岡市遺跡群分布調査(Ⅱ)」1983 |
| 100 | D19上高合福田遺跡 | 藤岡市上高合字福田 | | ○ | | | | | | | | | | 市教委「市内古跡Ⅰ」1993 |
| 101 | 宗永寺古墳群 | 藤岡市上高合字七上山 | | | | | | | | | | | | 宮崎・原「藤岡市史跡九種 天竺記念物調査報告書第三輯」1956 |
| 102 | 荒土里地区No.3遺跡 | 藤岡市上高合字向山 | | ○ | | ○ | ○ | | | | | | | 市教委「藤岡市遺跡群分布調査(Ⅱ)」1983 |
| 103 | 本敷寺古墳群 | 藤岡市本敷堂 | | | | | | | | | | | | |
| 104 | 上原古遺跡【D5】 | 藤岡市本敷堂字上原 | | | | | | | | | | | | 市教委「市内古跡Ⅰ」1993 |
| 105 | 御宿城跡 | 藤岡市本敷堂字御宿 | | | | | | | | | | | | 『群馬県古墳地誌の研究』下巻:1972 |
| 106 | 荒土里地区No.6遺跡 | 藤岡市本敷堂字下原・字東 | | ○ | | ○ | ○ | | | | | | | 市教委「藤岡市遺跡群分布調査(Ⅱ)」1983 |
| 107 | 【墳墓】 | 藤岡市本敷堂 | | ○ | | | | | | | | | | |
| 108 | D12新原郷古遺跡 | 藤岡市本敷堂字新原・字上原下大塚字久保田・字下川原 | | | | | | | | | | | | 市教委「市内古跡Ⅰ」1994 |
| 109 | 荒土里地区No.9遺跡 | 藤岡市本敷堂字福原原敷 | | ○ | | ○ | ○ | | | | | | | 市教委「藤岡市遺跡群分布調査(Ⅱ)」1983 |
| 110 | D11新原郷古遺跡 | 藤岡市本敷堂字福原原敷 | | ○ | | | | | | | | | | 市教委「市内古跡Ⅰ」1994 |
| 111 | 荒土里地区No.10遺跡 | 藤岡市本敷堂字新原、下大塚字新原・字原原前・字東 | | ○ | | ○ | ○ | | | | | | | 市教委「藤岡市遺跡群分布調査(Ⅱ)」1983 |
| 112 | 荒土里地区No.5遺跡 | 藤岡市福原字高原 | | ○ | | ○ | ○ | | | | | | | 市教委「藤岡市遺跡群分布調査(Ⅱ)」1983 |
| 113 | 福原古墳群 | 藤岡市福原 | | | | | | | | | | | | 市教委 |
| 114 | 【墳墓】 | 藤岡市福原字高原、字中倉、字北口 | | | | | | | | | | | | |
| 115 | 【古墳】 | 藤岡市福原 | | ○ | | | | | | | | | | |
| 116 | 大明神遺跡【D8】 | 藤岡市福原字大明神 | | | | | | | | | | | | 市教委「藤岡市遺跡群分布調査(Ⅱ)」1983 |
| 117 | 荒土里地区No.7遺跡 | 藤岡市福原字東原 | | | | | | | | | | | | 市教委「藤岡市遺跡群分布調査(Ⅱ)」1983 |
| 118 | 岡の西遺跡【D11】 | 藤岡市福原字岡の西 | | | | | | | | | | | | 市教委「市内古跡Ⅰ」1993 |

第1章 遺跡の立地と調査の経過

| 番号 | 遺跡名 | 所在地 | 旧 | 国 | 県 | 市 | 区 | 町 | 村 | 古 | 平 | 中 | 近 | 集 | 生 | 境 | 地 | 他 | 調査主体・文献 | |
|-----|---------------|-------------------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|-------------------------|-------------------------------------|
| 119 | 長穴遺跡 (D 4) | 藤岡市藤岡字狐穴 | | | | | | | | | | | | | | | | | 市教委「年報 (1)」、1985 | |
| 120 | 美土里地区No. 8遺跡 | 藤岡市藤岡字西内・字狐穴 | | | | | | | | ◇ | ◇ | ◇ | | | | | | ☆ | 市教委「藤岡市遺跡群総合調査(第1)」1983 | |
| 121 | 北沢遺跡 (D 2) | 藤岡市下大字北沢 | | | | | | | | ◆ | ◆ | | | | | | | | 市教委「藤岡市遺跡群総合調査(第1)」1983 | |
| 122 | 新堀遺跡 | 藤岡市下大字新堀 | | | | | | | | ◆ | ◆ | | | | | | | ☆ | 市教委「年報 (4)」、1989 | |
| 123 | 美土里地区No. 11遺跡 | 藤岡市下大字東ノノブ、中大塚字下郷 | | | | | | | | ◇ | ◇ | ◇ | ◇ | ◇ | | | | | 市教委「藤岡市遺跡群総合調査(第1)」1983 | |
| 124 | 千手神社古蹟 | 藤岡市中大塚字新堀 | | | | | | | | | | | | | | | | | 市教委「多摩河内地方」1975 | |
| 125 | 関下遺跡 (D 10) | 藤岡市中大塚字関下 | | | | | | | | ◆ | ◆ | | | | | | | | 市教委「関下・関下遺跡」、1988 | |
| 126 | 高倉遺跡 (D 10) | 藤岡市中大塚字高倉 | | | | | | | | ◆ | ◆ | ◆ | | | | | | ☆ | 市教委「高倉・高下遺跡」、1988 | |
| 127 | 美土里地区No. 12遺跡 | 藤岡市中大塚字宮家・字正倉家 | | | | | | | | ◇ | ◇ | | | | | | | | 市教委「藤岡市遺跡群総合調査(第1)」1983 | |
| 128 | 中大塚遺跡 | 藤岡市中大塚字下郷 | | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | 市教委「藤岡市遺跡群総合調査(第1)」1983 |
| 129 | 中大塚遺跡 | 藤岡市中大塚字赤倉道・字中道・字八幡林・字塚園 | | | | | | | | ◇ | ◇ | ◇ | | | | | | | ☆ | 市教委「上野原遺跡」下大塚遺跡・中大塚遺跡、1989 |
| 130 | 中大塚遺跡 | 藤岡市中大塚字鎌倉 | | | | | | | | ◆ | | | | | | | | | ☆ | 市教委「群馬県史資料編」、1988 |
| 131 | 美土里地区No. 13遺跡 | 藤岡市中大塚字鎌倉 | | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | 市教委「藤岡市遺跡群総合調査(第1)」1983 |
| 132 | 美土里地区No. 14遺跡 | 藤岡市上大字山口 | | | | | | | | ◇ | ◇ | ◇ | ◇ | | | | | | ☆ | 市教委「藤岡市遺跡群総合調査(第1)」1983 |
| 133 | 上大塚の倉跡 | 藤岡市上大塚 | | | | | | | | | | ◇ | | | | | | | ☆ | 市教委「藤岡市遺跡群総合調査(第1)」1983 |
| 134 | 美土里地区No. 15遺跡 | 藤岡市上大塚字南 | | | | | | | | ◇ | | | | | | | | | ☆ | 市教委「藤岡市遺跡群総合調査(第1)」1983 |
| 135 | 美土里地区No. 16遺跡 | 藤岡市上大塚字南 | | | | | | | | ◇ | ◇ | ◇ | | | | | | | ☆ | 市教委「藤岡市遺跡群総合調査(第1)」1983 |
| 136 | 道土遺跡 | 藤岡市上塚字道土 | | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | 市教委「上塚遺跡」、1987 |
| 137 | (墳墓) | 藤岡市二本木字下郷 | | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | 「藤岡市遺跡台帳Ⅱ(西毛編)」1973 |
| 138 | (墳墓) | 藤岡市二本木字下郷 | | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | 「藤岡市遺跡台帳Ⅱ(西毛編)」1973 |
| 139 | (墳墓) | 藤岡市二本木字下郷 | | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | 「藤岡市遺跡台帳Ⅱ(西毛編)」1973 |
| 140 | 二本木清水遺跡 | 藤岡市二本木字清水 | | | | | | | | ◆ | | | | | | | | | ☆ | 市教委「E14保良地区遺跡群」、1994 |
| 141 | (墳墓) | 藤岡市二本木字下郷 | | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | 「藤岡市遺跡台帳Ⅱ(西毛編)」1973 |
| 142 | 二本木古墳群 | 藤岡市二本木 | | | | | | | | ◆ | | | | | | | | | ☆ | 市教委「群細」二本木古墳群、1988 |
| 143 | 清本山古跡 | 藤岡市高山字宮原 | | | | | | | | | ◇ | | | | | | | | ☆ | 「藤岡市古墳遺址の研究」下巻、1972 |
| 144 | 高山古跡 | 藤岡市高山字下郷 | | | | | | | | | ◇ | | | | | | | | ☆ | 「藤岡市古墳遺址の研究」下巻、1972 |
| 145 | 松山氏古跡 | 藤岡市高山字高山 | | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | 「藤岡市の中世城跡群」、1988 |
| 146 | (寺瓦跡) | 藤岡市高山 | | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | 「藤岡市遺跡台帳Ⅱ(西毛編)」1973 |
| 147 | (縄文住居跡) | 藤岡市高山字高山 | | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | 「藤岡市遺跡台帳Ⅱ(西毛編)」1973 |
| 148 | 南大塚遺跡 | 藤岡市保寿寺南大塚、鬼石町浄法寺字敷古屋 | | | | | | | | ◆ | | | | | | | | | ☆ | 市教委「E14保良地区遺跡群」、1994 |
| 149 | 平塚台遺跡 | 藤岡市保寿寺平塚台 | | | | | | | | ◆ | ◆ | | | | | | | | ☆ | 市教委「E14保良地区遺跡群」、1994 |
| 150 | 舟田屋敷跡 | 藤岡市保寿寺字舟田 | | | | | | | | | ◇ | | | | | | | | ☆ | 「藤岡市古墳遺址の研究」下巻、1972 |
| 151 | 高山氏世代への倉 | 藤岡市保寿寺字下 | | | | | | | | | ◇ | | | | | | | | ☆ | 「藤岡市遺跡台帳Ⅱ(西毛編)」1973 |
| 152 | 保寿の倉跡 | 藤岡市保寿寺字中内出・字西内 | | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | 「藤岡市古墳遺址の研究」下巻、1972 |
| 153 | (墳墓) | 藤岡市保寿寺字城 | | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | 「藤岡市遺跡台帳Ⅱ(西毛編)」1973 |
| 154 | (墳墓) | 藤岡市保寿寺字城 | | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | 「藤岡市遺跡台帳Ⅱ(西毛編)」1973 |
| 155 | 宮岡城跡 | 藤岡市保寿寺字城 | | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | 「藤岡市古墳遺址の研究」下巻、1972 |
| 156 | (住居跡) | 藤岡市保寿寺字城 | | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | 「藤岡市遺跡台帳Ⅱ(西毛編)」1973 |
| 157 | (墳墓) | 藤岡市保寿寺字城 | | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | 「藤岡市遺跡台帳Ⅱ(西毛編)」1973 |
| 158 | (墳墓) | 藤岡市保寿寺字城 | | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | 「藤岡市遺跡台帳Ⅱ(西毛編)」1973 |
| 159 | (墳墓) | 藤岡市保寿寺字城 | | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | 「藤岡市遺跡台帳Ⅱ(西毛編)」1973 |
| 160 | (墳墓) | 藤岡市保寿寺字城 | | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | 「藤岡市遺跡台帳Ⅱ(西毛編)」1973 |
| 161 | (墳墓) | 藤岡市保寿寺字高崎 | | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | 「藤岡市遺跡台帳Ⅱ(西毛編)」1973 |
| 162 | (墳墓) | 藤岡市保寿寺字高崎 | | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | 「藤岡市遺跡台帳Ⅱ(西毛編)」1973 |
| 163 | 神田古墳群 | 藤岡市保寿寺字城 | | | | | | | | ◆ | | | | | | | | | ☆ | 市教委「神田・二本木古墳群」、1988 |
| 164 | 本郷尺地遺跡 | 藤岡市本郷字尺地、字田中東 | | | | | | | | ◆ | ◆ | ◇ | ◇ | | | | | | ☆ | 群細文「本郷尺地遺跡」、1987 |
| 165 | 地蔵堂・フユウたん屋 | 藤岡市本郷・堤原 | | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | 「藤岡市遺跡台帳Ⅱ(西毛編)」1973 |
| 166 | 本郷山城遺跡 | 藤岡市本郷字山原 | | | | | | | | ◇ | ◇ | ◇ | | | | | | | ☆ | 群細文「本郷山城遺跡」、1989 |
| 167 | 本郷城輪郭跡 | 藤岡市本郷字城 | | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | 藤岡師範学校「風土」、1958 |
| 168 | 美九里No. 16遺跡 | 藤岡市本郷字宮原 | | | | | | | | ◆ | | | | | | | | | ☆ | 市教委「市内遺跡」、1994 |
| 169 | 堂山 | 藤岡市本郷字宮原 | | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | 「藤岡市遺跡台帳Ⅱ(西毛編)」1973 |
| 170 | 土師神社 | 藤岡市本郷字宮下 | | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | 「藤岡市遺跡台帳Ⅱ(西毛編)」1973 |
| 171 | 堀ノ内遺跡群 (A 1) | 藤岡市本郷字中内東、小幡字堀之内・字御台 | | | | | | | | ◆ | ◆ | ◆ | ◇ | ◇ | | | | | ☆ | 市教委「A1堀ノ内遺跡群」、1982 |
| 172 | 小幡古墳群 | 藤岡市本郷・堤原、小幡 | | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | 市教委「A1堀ノ内遺跡群」、1982 |
| 173 | 帆原泉城跡 | 藤岡市小林字堀之内 | | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | 「藤岡市史資料編 原始・古代・中世」、1993 |
| 174 | 白竜遺跡群 | 藤岡市藤岡字白竜遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | 市教委「A2藤岡北山遺跡 A3山原遺跡 A6白竜遺跡遺跡群」、1987 |
| 175 | 北山遺跡 | 藤岡市藤岡字北山 | | | | | | | | ◇ | ◆ | ◆ | ◆ | | | | | | ☆ | 市教委「A2藤岡北山遺跡 A3山原遺跡 A6白竜遺跡遺跡群」、1987 |
| 176 | 山原遺跡 | 藤岡市藤岡字山原 | | | | | | | | ◆ | | | | | | | | | ☆ | 市教委「A2藤岡北山遺跡 A3山原遺跡 A6白竜遺跡遺跡群」、1987 |

第1章 遺跡の立地と調査の経過

| 番号 | 遺跡名 | 所在地 | 旧 | 国 | 県 | 古 | 香 | 平 | 芒 | 他 | 集 | 生 | 増 | 城 | 調査主体・文献 | | |
|-----|------------------|------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---------------------------------------|----------------------------|----------------------|
| 238 | (包蔵地) | 吉井町多比良字遠原野 | | | | | | | | | | | | | 『群馬県遺跡台帳Ⅱ』(西毛編) 1973 | | |
| 239 | (敷布地) | 吉井町多比良字西原 | ◇ | | | | | | | | | | | | | | |
| 240 | (敷布地) | 吉井町多比良字新原 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 241 | (敷布地) | 吉井町多比良字西原・字中根 | | | | ◇ | ◇ | ◇ | | | | | | | | | |
| 242 | 下五反田遺跡 | 吉井町多比良字下五反田 | | | | | | | | | | | ☆ | | 国士館大学「考古学研究室 甲種第1期 考古学研究室発掘調査報告書」1984 | | |
| 243 | 飯塚城跡 | 吉井町多比良字中城甲 | | | | | | | | | | | | ☆ | 町教委「飯塚城跡」1992 | | |
| 244 | (敷布地) | 吉井町多比良字中根 | ◇ | | | | | | | | | | | | | | |
| 245 | (敷布地) | 吉井町多比良字中根 | | | | ◇ | ◇ | ◇ | | | | | | | | | |
| 246 | (生家跡) | 吉井町多比良字沢谷川 | | | | | | | | | | | | ☆ | 『群馬県遺跡台帳Ⅱ』(西毛編) 1973 | | |
| 247 | 山の神古墳群 | 吉井町多比良字山の神 | | | | ◇ | | | | | | | | ☆ | 『上毛古墳総覧』入野善40-52号墳 | | |
| 248 | 廣戸城跡 | 吉井町多比良字の平 | | | | | | | | | | | ☆ | | 『群馬県古墳調査史の研究』下巻、1972 | | |
| 249 | 中ノ原城跡 | 吉井町多比良字中ノ原 | | | | | | | | | | | | ☆ | 町教委「中ノ原城跡」1989 | | |
| 250 | 中ノ原古墳群 | 吉井町多比良字中ノ原 | | | | | | | | | | | ◎ | | 『上毛古墳総覧』入野善54-63号墳 | | |
| 251 | 塚原遺跡 | 吉井町小寺字塚原 | ◆ | ◇ | | | | | | | | | | ☆ | 町教委「塚原遺跡 遺跡第1遺跡」1985 | | |
| 252 | 小寺古墳群 | 吉井町小寺字塚原・字塚原・字藤倉・字中根・字野田字伊勢塚 | | | | ◇ | ◇ | | | | | | | ◎ | 『群馬県遺跡台帳Ⅱ』(西毛編) 1973 | | |
| 253 | 穴神遺跡 | 吉井町石神 | | | | ◇ | ◇ | ◇ | ◇ | | | | | | 『遺蹟』34巻4号 1982 | | |
| 254 | 石神和野古墳群 | 吉井町石神 | | | | | | | | | | | | ◎ | 『上毛古墳総覧』入野善30-44号墳 | | |
| 255 | 藤山城跡 | 吉井町石神字城 | | | | | | | | | | | | ☆ | 『群馬県古墳調査史の研究』下巻、1972 | | |
| 256 | 入野遺跡 | 吉井町石神 | | | | ◆ | ◆ | ◆ | | | | | | ☆ | 町教委「入野遺跡」1986 | | |
| 257 | (包蔵地) | 吉井町石神 | ◇ | | | | | | | | | | | | 『群馬県遺跡台帳Ⅱ』(西毛編) 1973 | | |
| 258 | 塚原古墳群 | 吉井町岡 | | | | | | | | | | | | | 町教委「塚原古墳」1987 | | |
| 259 | 多野跡 | 吉井町志ノ瀬門 | | | | ◇ | | | | | | | | ☆ | 『上野三碑の研究』1980 | | |
| 260 | 西原古墳群 | 吉井町志ノ瀬原 | | | | ◇ | | | | | | | | ◎ | | | |
| 261 | 入道ヶ谷遺跡 | 吉井町新原 | | | | | | | | | | | | ☆ | 『群馬県遺跡台帳Ⅱ』(西毛編) 1973 | | |
| 262 | 中林城跡 | 吉井町馬庭字中林 | | | | | | | | | | | | ☆ | 『群馬県古墳調査史の研究』下巻、1972 | | |
| 263 | 池田部城古墳 | 吉井町馬庭字下中林 | | | | | | | | | | | | ◎ | 『群馬県遺跡台帳Ⅱ』(西毛編) 1973 | | |
| 264 | 馬庭城跡 | 吉井町馬庭字内出 | | | | | | | | | | | | ☆ | 『群馬県古墳調査史の研究』下巻、1972 | | |
| 265 | 洞穴城古墳 | 吉井町馬庭字宮倉 | | | | | | | | | | | | ◎ | 『群馬県遺跡台帳Ⅱ』(西毛編) 1973 | | |
| 266 | 松木城古墳群 | 吉井町馬庭字松木城 | | | | ◇ | | | | | | | | ◎ | 『群馬県遺跡台帳Ⅱ』(西毛編) 1973 | | |
| 267 | (敷布地) | 吉井町馬庭 | | | | ◇ | ◇ | ◇ | | | | | | | | | |
| 268 | (敷布地) | 吉井町馬庭 | | | | ◇ | ◇ | ◇ | | | | | | | | | |
| 269 | 若井古墳群 | 吉井町若井字塚原・字藤倉・字新原・字野田・字野田 | | | | ◇ | | | | | | | | ◎ | 『群馬県遺跡台帳Ⅱ』(西毛編) 1973 | | |
| 270 | 渡瀬穴城古跡 | 吉井町若井字藤倉 | | | | ◇ | | | | | | | | | | | |
| 271 | 金井河跡 | 高崎市山名町 | | | | ◇ | | | | | | | | | ☆ | 『上野三碑の研究』1980 | |
| 272 | 駒小島城跡 | 高崎市山名町城山・幸若山 | | | | | | | ◆ | | | | | ☆ | 町教委「駒小島城址」1983 | | |
| 273 | 山ノ上西古墳 | 高崎市山名町山ノ上山神谷 | | | | ◇ | | | | | | | | ◎ | 『群馬県遺跡台帳Ⅱ』(西毛編) 1973 | | |
| 274 | でんせえじ遺跡 | 高崎市山名町大谷 | | | | | | | | | | | | ☆ | ☆ | 『群馬県遺跡台帳Ⅱ』(西毛編) 1973 | |
| 275 | 山ノ上古墳・山ノ上跡 | 高崎市山名町山神谷 | | | | | | | | | | | | ◎ | ☆ | 『上野三碑の研究』1980 | |
| 276 | 山名城跡 | 高崎市山名町下之城 | | | | | | | | | | | | ☆ | 『新編 高崎市史 資料編3 中巻1』1996 | | |
| 277 | 五三山古墳群 | 高崎市山名町五三山本谷 | | | | | | | | | | | | ◎ | 『群馬県遺跡台帳Ⅱ』(西毛編) 1973 | | |
| 278 | 伊勢塚古墳群 | 高崎市山名町伊勢塚 | | | | | | | | | | | | ◎ | 『群馬県遺跡台帳Ⅱ』(西毛編) 1973 | | |
| 279 | 台町(多野八幡宮・12号の内)系 | 高崎市山名町土合 | | | | | | | | | | | | ◎ | 『群馬県遺跡台帳Ⅱ』(西毛編) 1973 | | |
| 280 | 水部城跡 | 高崎市水部町内 | | | | | | | | | | | | ☆ | 『新編 高崎市史 資料編3 中巻1』1996 | | |
| 281 | 田沼遺跡 | 高崎市水部町田沼・阿久津町田沼 | | | | | | | | | | | | ☆ | ☆ | 藤城文「田沼遺跡」1988 | |
| 282 | 水部町北遺跡 | 高崎市阿久津町中根 | | | | | | | | | | | | ☆ | 『群馬県遺跡台帳Ⅱ』(西毛編) 1973 | | |
| 283 | 大遠南古墳群 | 高崎市倉賀野町大遠南 | | | | | | | | | | | | | ◎ | 町教委 | |
| 284 | 大遠寺遺跡 | 高崎市倉賀野町野下野大遠寺乙 | | | | | | | | | | | | | ☆ | 町教委 | |
| 285 | 倉賀野大遠遺跡 | 高崎市倉賀野町野下野大遠南 | | | | | | | | | | | | | ☆ | 町教委 | |
| 286 | 倉賀野町下野遺跡 | 高崎市倉賀野町野下野 | | | | | | | | | | | | | ◆ | ☆ | 『群馬県遺跡台帳Ⅱ』(西毛編) 1973 |
| 287 | 倉賀野西城跡 | 高崎市倉賀野町藤原 | | | | | | | | | | | | | ☆ | 『新編 高崎市史 資料編3 中巻1』1996 | |
| 288 | 倉賀野城跡 | 高崎市倉賀野町阿久野・中根・八幡宮・宮之前 | | | | | | | | | | | | | ☆ | 『新編 高崎市史 資料編3 中巻1』1996 | |
| 289 | 倉賀野万福寺遺跡 | 高崎市倉賀野町北万福寺 | | | | | | | | | | | | | ☆ | 町教委、高崎市遺跡調査会「倉賀野万福寺遺跡」1983 | |
| 290 | 大籠巻古墳 | 高崎市倉賀野町下正穴 | | | | ◆ | ◆ | ◆ | | | | | | | ☆ | 町教委「大籠巻古墳」1983 | |
| 291 | 小籠巻古墳 | 高崎市倉賀野町下正穴 | | | | | | | | | | | | | ◎ | 『群馬県史 資料編3』1983 | |
| 292 | 佐野戸城遺跡 | 高崎市下佐野町戸城・佐 | | | | | | | | | | | | | ◎ | 『群馬県遺跡台帳Ⅱ』(西毛編) 1973 | |
| 293 | 下野古墳群 | 高崎市下佐野町藤原阿久野・飯沼風川・籠巻戸城・飯沼 | | | | | | | | | | | | | ◎ | 『群馬県遺跡台帳Ⅱ』(西毛編) 1973 | |
| 294 | 茶臼山城跡 | 高崎市寺尾町茶臼山 | | | | | | | | | | | | | ☆ | 『新編 高崎市史 資料編3 中巻1』1996 | |
| 295 | 岩鼻陣屋跡 | 高崎市岩鼻町田沼跡上北・坂上原 | | | | | | | | | | | | | ☆ | | |

第2章
緑埜遺跡群
緑埜上郷遺跡の調査



緑埜遺跡群遠景

〔1〕 緑柱遺跡群の遺構と遺物

1 調査区(第3園・付園1・2)

調査区は、北の上信越自動車道白石大御堂遺跡から緑柱上郷遺跡までの間である。南北約650m、幅約2.5～5m、面積約2,769㎡を対象とする。調査区を横断する道路や水路で、北から1～5区に分けた。1区は、白石大御堂遺跡から道路まで、2区は道路から大聖峰寺参道、3区は参道から道水路まで、4区は道水路から大堀用水路、5区は用水路から市道までである。位置は、竹沼遺跡、緑柱上郷遺跡のある台地から続く低地で、1987(昭和62)年の市教育委員会の調査区の西に接している。その調査では、As-B層で覆われた平安時代の水田や畠、溝、鎌倉街道などが確認されている。

今回は、As-A層下とAs-B層下の2面で遺構が確認され、平安時代の水田や畠、鎌倉街道のほかにAs-A層で覆われた江戸時代の畠、溝、畦が追加された。各遺構とも、旧地形と関係し、その制約の中で作られている。旧地形については、下記の所見を得た。

- 1 調査区全体の地形勾配は、南の5区から北の1区まで比高差約6mの下りである。
- 2 その中で、鍵層となる基本土層最下層の黄褐色粘土層や、その上面にある水田耕土の黒色粘質土の状態からすると、5区から3区南半にかけては、台地から続く微高地があって北半と地形の格差となっている。
- 3 微高地は、緑柱上郷遺跡から続く洪積台地が低地にのびて発達したもので、北東方向にさらにのび、緑柱シモ田遺跡付近まで続いている。
- 4 その占地は、緑柱シモ田遺跡の内容からすると、縄文時代後期から晩期頃には居住域の対象となりうるもので、古墳時代中期頃までは継続している。その後、低地への土砂の流入・堆積が進む中で平坦化が助長され、生産適地へと転化したか、集落構造の変化からか、居住の痕跡は希薄になる。浅間B層下では、この付近一帯

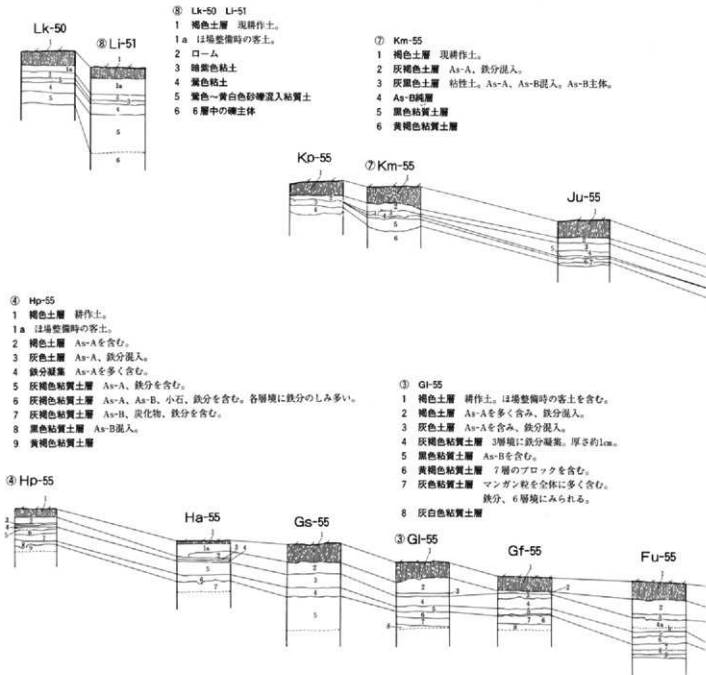
が畠地であったと推定され、より低地での水田化と対照的なあり方を示す。

- 5 3区北半の低地部分は、As-B層の堆積が足跡やくぼみだけに見られる程度で、耕土の発達にはAs-B層降下後も間断なくみられる。
- 6 微高地は、低地全体を東西に二分するようであり、流水を伴う西の低地と鮎川崖線際の微高地とに挟まれた東の低地とが推定される。
- 7 開田は、西の低地から東の低地へ、北から南へと広がり、微高地を畠、低地を水田と分けて行われた可能性がある。

2 基本土層

基本土層は、1～5の区毎に記録した。土層の堆積は、旧地形との関係で層厚や性状に若干づつの差異が認められるが、以下にまとめられる。

- 1 全体で統一的に見られる鍵層は、現耕作土、As-A層、As-B層、地山とした黄褐色粘質土である。
- 2 区毎で差異を示すのは、現耕作土、As-A層前後とAs-B層までの土層である。
- 3 水田耕土は、全域で継続した堆積状態がみられたが、調査での初現はAs-B層下の黒色粘質土で、その後As-B層を含む灰黒色土、暗褐色土、As-A層を含む褐色土と続いている。



第5図 緑地遺跡群標準土層

⑥ Jg-55

- 1 褐色土層 現耕作土。
- 1a は場整備時の客土。
- 2 灰褐色土層 As-A、鉄分混入。
- 3 灰色土層 As-A、鉄分混入。
- 4 灰黒色土層 粘性土。
- 5 黄褐色粘質土層 軽石・鉄分・炭化物粒混入。
- 6 黄褐色粘質土層 軽石・鉄分混入。5層より暗い。
- 7 黒色粘質土層
- 8 黄褐色粘質土層

⑤ H-55

- 1 褐色土層 現耕作土。
- 1a は場整備時の客土。
- 2 灰褐色土層 As-A、鉄分混入。
- 3 灰褐色土層 As-A、鉄分混入。2層よりAs-A少ない。
- 4 灰黒色土層 As-A、As-B混入。3層との境界に厚さ3cm前後で鉄分のしみあり。
- 5 灰黒色土層 As-B混入。
- 6 As-B純層
- 7 黒色粘質土層
- 8 黄褐色粘質土層

118.00m

117.00m

116.00m

115.00m

114.00m

113.00m

112.00m

② FI-55

- 1 褐色土層
- 2 灰色土層 As-Aを含み、鉄分混入。
- 3 鉄分凝集
- 4 褐色土層 As-A混入。
- 5 褐色土層
- 6 褐色土層 As-B混入。
- 7 灰黒色土層 As-B混入。鉄分が全体にしみこみ黄色を呈する。
- 8 灰黒色土層 As-B混入。下にAs-B多い。
- 9 黄褐色粘質土層
- 10 黄褐色粘質土層

⑤ If-55

- 1 褐色土層 現耕作土。客土を含む。
- 2 灰色土層 As-Aを全体に含む。鉄分混入。
- 3 暗褐色土層 As-A、As-B混入。
- 4 黒色粘質土層 As-B混入。
- 5 黄褐色粘質土層
- 6 黄褐色粘質土層
- 7 灰黄色砂層 粗粒。
- 8 灰黄色粘質土層 細粒。
- 9 灰色砂土層 粗粒。

112.00m

111.00m

110.00m

109.00m

108.00m

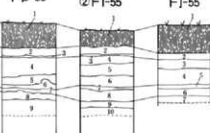
① EI-55

- 1 褐色土層 現耕作土。客土を含む。
- 2 灰色土層 As-Aを全体に含む。鉄分混入。
- 3 暗褐色土層 As-A、As-B混入。
- 4 黒色粘質土層 As-B混入。
- 5 黄褐色粘質土層
- 6 黄褐色粘質土層
- 7 灰黄色砂層 粗粒。
- 8 灰黄色粘質土層 細粒。
- 9 灰色砂土層 粗粒。

Fp-55

② FI-55

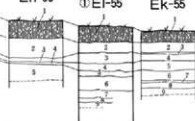
Fj-55

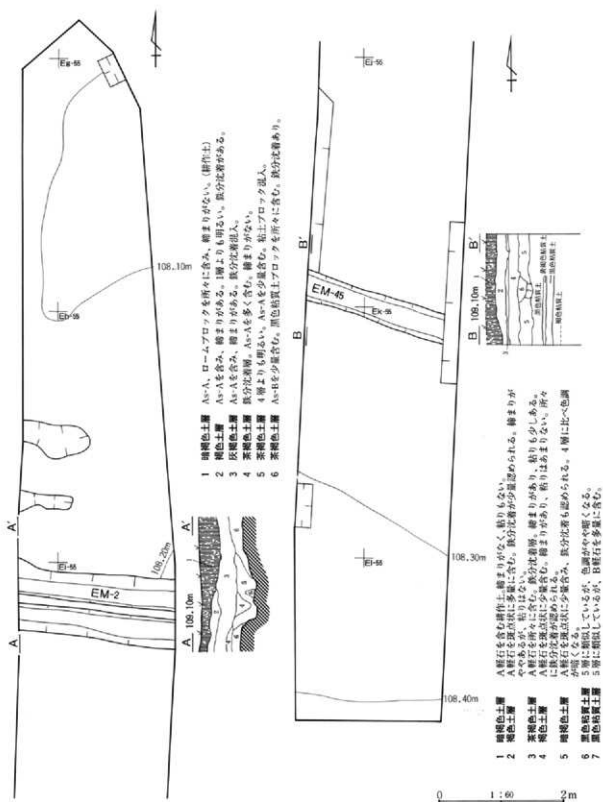


En-55

① EI-55

Ek-55





第6図 緑地遺跡群1区調査区

3 各区の概要

調査は、10月1日から14日まで表土掘削、11月6日から22日までが5区から遺構確認、その後11月28日の台風28号による調査区全域の水没で1週間の中断をはさんで、12月9日までに上面の調査が終了。10日からAs-B層下の調査を始め、25日までにプラントオパール分析の試料採取、基本土層の検討を済ませて調査の終了とした。

a 1区概要 (第6～8図, P.L. 6～8)

As-A混土下とAs-B層下の2面で調査を実施した。1987(昭和62)年の調査では、EM1・2・47・48・49の溝とAs-B層下水田が確認された範囲である。今回確認された遺構は、As-A層下で南北に畝を持つ島2区画があり、なお広がりか予想された。As-B層下は、純層はなく現耕作土からも極めて浅く、褐色土への混入の状態である。

b 2区概要 (第9～12図, P.L. 8・9)

1987(昭和62)年調査区の32Aトレンチ・40トレンチに隣接した位置である。調査は、As-A層下とAs-B層下の2面で実施した。As-A混土下では、GM8・GM10・FM1の溝が確認され、GM8・FM1の2本は掻き寄せたAs-A層で埋没していた。全体では、東西方向に溝が横断し、3区に続く畝が広がる。As-A層の堆積は、F D～F Uグリッド付近では厚さ10cm前後が残存し、凹地に掻き寄せたが、降灰後の復旧の度合いが弱いと推定される。As-B層下は、円形や楕円形のアッシュだまりが確認された。

c 3区概要 (第12～15図, P.L. 10・11)

1987(昭和62)年調査区の32トレンチ南に隣接した位置である。調査は、As-A層下とAs-B層下の2面で実施した。1987(昭和62)年の調査では、広域でAs-B層が認められ水田の可能性が指摘されている。As-A層下では、H P55～H U55グリッドにかけて3区画の畝が確認され、なお広がりを持っていた。畝は、南北方向に畝を持ち、水路を付設した馬入れて区画されていた。その下面では、鉄分沈着を受けた粘質土数枚があり、明瞭な遺構はないが水田

の可能性がある。As-B層下では、2区と同様にAs-B層のアッシュだまりが無数に集中しており、水田と判断した。この他に時期を特定できないが、グリッドでの石敷遺構がある。現在の大型鎌寺へ向かう参道の前身で、土層断面からすると中世頃と推定されるものである。

d 4区概要 (第16図, P.L. 11・12)

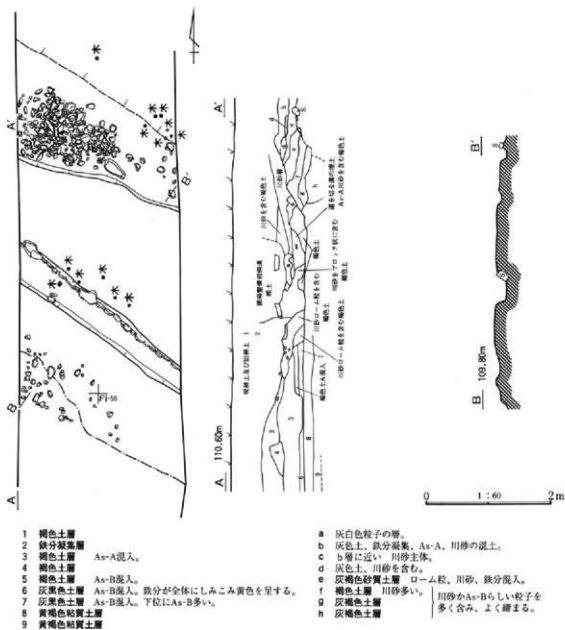
1987(昭和62)年調査区の32B・Cトレンチの西に位置する。調査は、As-A層下とAs-B層下の2面で実施した。1987(昭和62)年の調査では、JM2・IM29が確認されたがAs-B層の残りは悪く水田は不明であった。遺構は、上記の溝を手掛かりとしたが、ともに確認できずAs-B層の残りも不明瞭であった。しかし、J W55グリッド以南では、As-B層下で南北方向の畝を持つ島が確認され、32CトレンチJ P55～J V60グリッド付近の畝とK e60～K h60グリッド付近の畝との空白域を埋めることができた。これは、I f55グリッド以南でのAs-B層の堆積状況を考えると、I gグリッド付近を境として北が水田、南が島であった可能性を示している。未確認のJM2は、その島北縁を画するかのよう配置された幹線水路といえる。

e 5区概要 (第17図, P.L. 13)

1987(昭和62)年調査区の32C・Dトレンチの西に隣接する位置である。南からのびる台地縁辺部にあたり、これまで基準としたAs-A層は不明瞭で、As-B層下と合わせて変動的な2面調査となった。遺構は、1987(昭和62)年に確認済みのKM4・18A・Bの溝3本とK g～K DグリッドでAs-B層下水田を確認した。K gグリッド以北は、黄褐色粘質土が一段高くなり、畝か遺構が存在しなかった箇所である。また、K Pグリッド以南は、台地縁辺部に相当し、KM18A・Bはその縁辺を弧状にめぐる溝である。

4 As-A層下畝 (第8・15図, P.L. 7・10・11)

畝は1区と3区で確認されている。1区は、34.2㎡が確認されている。遺構は、幅10cm前後の浅い溝が



第9図 緑地遺跡群2区調査区(鎌倉街道)

約20cmの間隔で連続するもので、ほぼ南北の走行を持っている。その表面は、耕作痕を思わせる手の平大のくぼみが不規則にみられる。区画の境界は、幅50cmの溝が直交する。3区は、馬入れをはさんで2区画が確認された。走行並びに浅い溝が連続する様子は1区と同様である。馬入れは、両側に溝を持ち、幅約2mである。その規模からして、全体の中でも基幹のものであろう。

5 鎌倉街道 (第9図、P.L. 8)

鎌倉街道は、Fj55グリッドの現地表下約1.2mで確認された。現況では失われているが、園場整備以前までは幅3m強の農道があり、調査の結果でも何回かの付け替えの跡が確認されている。鎌倉街道以後も白石から緑地地区の基幹の道として使用され、その延長線上におお路線をたどることができる。調査した位置は、園場整備で削平された台地の緑地部にあたる。路面は、As-B層を混入した褐色土面から地山を削りだした上に卵大の玉石を敷き、さらにロームと褐色土の混土を踏み締めて養生している。路面は、ほぼ平坦で約1mの幅を持ち、やや盛り上がっている。そして、北側には幅1m弱の溝が付設されている。その変遷の中では、当初の位置を踏襲しながら埋没と地均しを繰り返して、徐々にかさ上げをしながら、現代に至っている。断面では、重複と擾乱で判断できなかったが3～4期に分けられる。当初の構築時期は、As-B層降下以後である。

6 石敷遺構 (第12図、P.L. 9)

石敷遺構は、通称不動様と呼ばれる大聖峰寺への参詣道の下面で確認された。鎌倉街道とは逆に地山を掘り下げた中に平らな石を敷き並べたものである。規模は、上幅3.1mの掘り方の中に1m強の幅で一面に石を敷いている。断面では、両側に50cm前後の溝が付設されていたが、遺構として確認できなかった。石は、2面に分けられ、人頭大のものを上面に、拳大のものを地業として下面に敷いている。石の中には、緑泥片岩製の板碑が差し込まれた状態

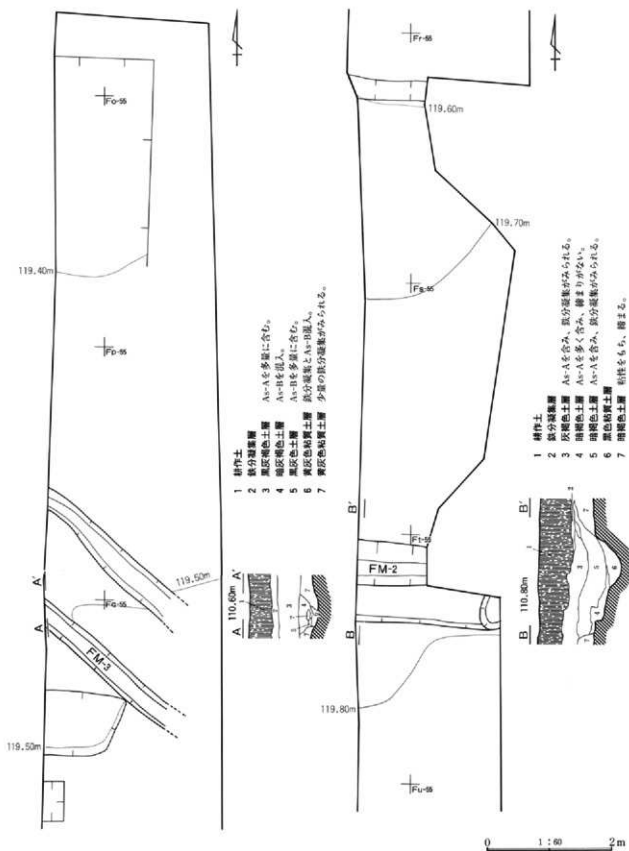
にあり、それにより構築年代の上限を知ることができ。時期を示す遺物は、この板碑以外にないが、土層ではAs-B混土層が上面までを覆っていた。

7 As-B下水田 (第11図)

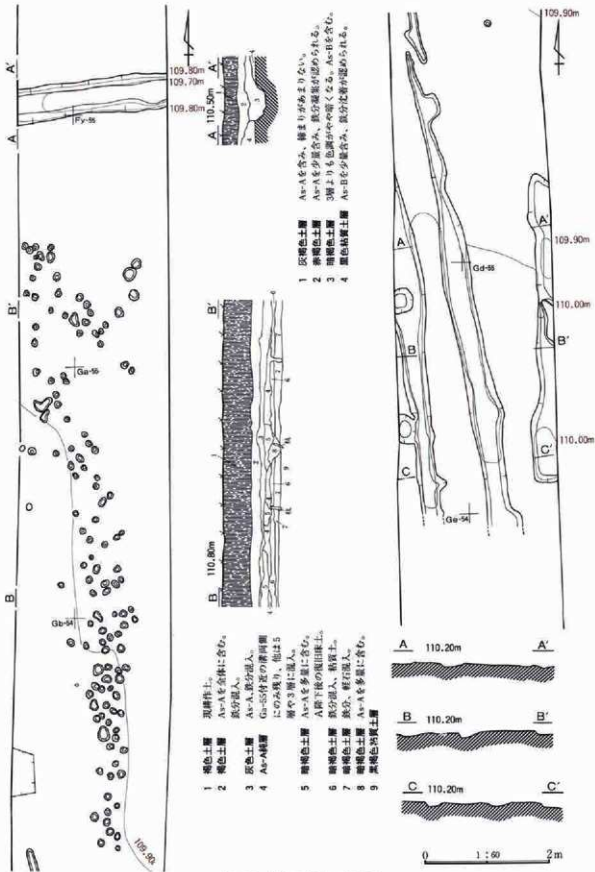
水田は、緑地上郷遺跡と同様に溝で区画したものが、2区と3区で確認されている。ともにAs-B層下で確認されたが、畦や明瞭な区画を示すものではなく、耕作土である暗褐色土が一面に広がっている状態である。耕作土は、10cm前後の厚さを持ち、黄灰色シルト質土を床土として堆積している。全体に粘性は強いものの、その一部では床土に圧着しただけで、As-B層降下以前、長期間の耕作は考え難い。次に述べる畠とは併存するが、微高地上が畠、それを取り巻く低地が水田という占地区分である。

8 As-B下畠 (第16図、P.L. 12)

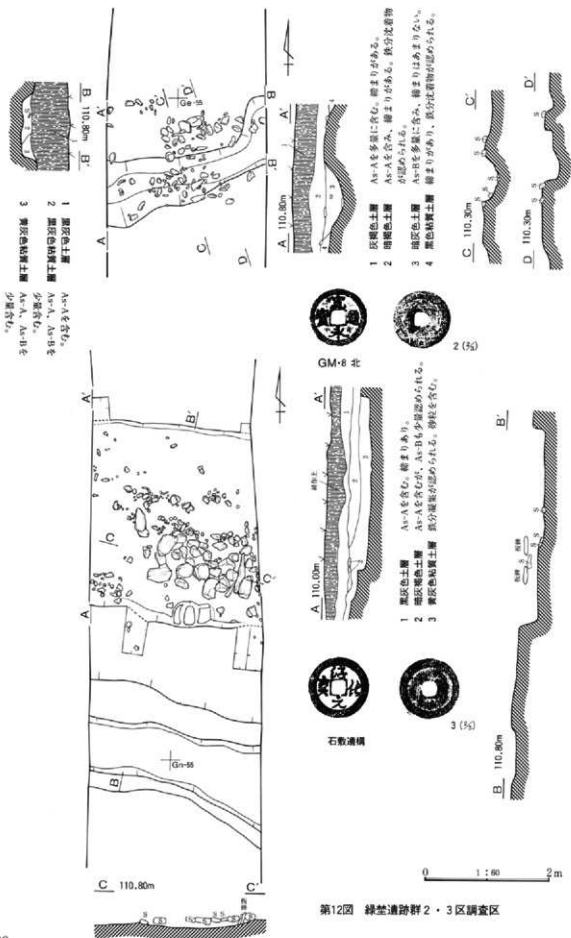
畠は、1区と4区で確認された。いずれも、1987(昭和62)年の調査に追加されるものである。畠は、遺跡全体の中では、低地の中の微高地だけに占地するもので、水田と併存している。1区は、グリッドで確認されたもので、幅15cm前後の浅い溝が30cm前後の間隔で、南北方向に調査区幅に連続している。溝の中は、鋤跡痕らしい若干の高低差がある。4区は、台地先端に続く微高地上、グリッドで確認されたもので、その状態は1区と同様である。プラントオパール分析の結果では、水田と同様にイネ科の花粉が抽出されている。



第10図 緑地遺跡群2区調査区

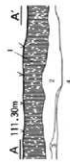
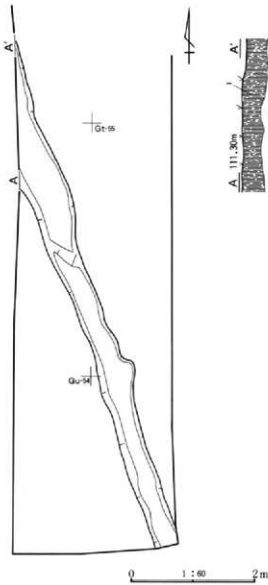


第11図 緑柱遺跡群2区調査区

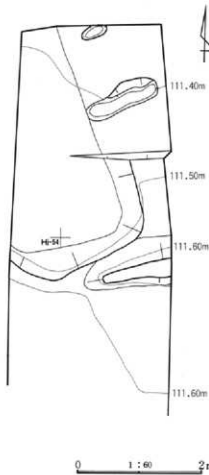


第12図 緑塗遺跡群2・3区調査区

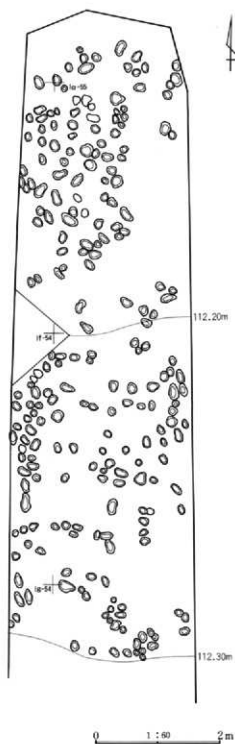
[1] 緑笠遺跡群の遺構と遺物



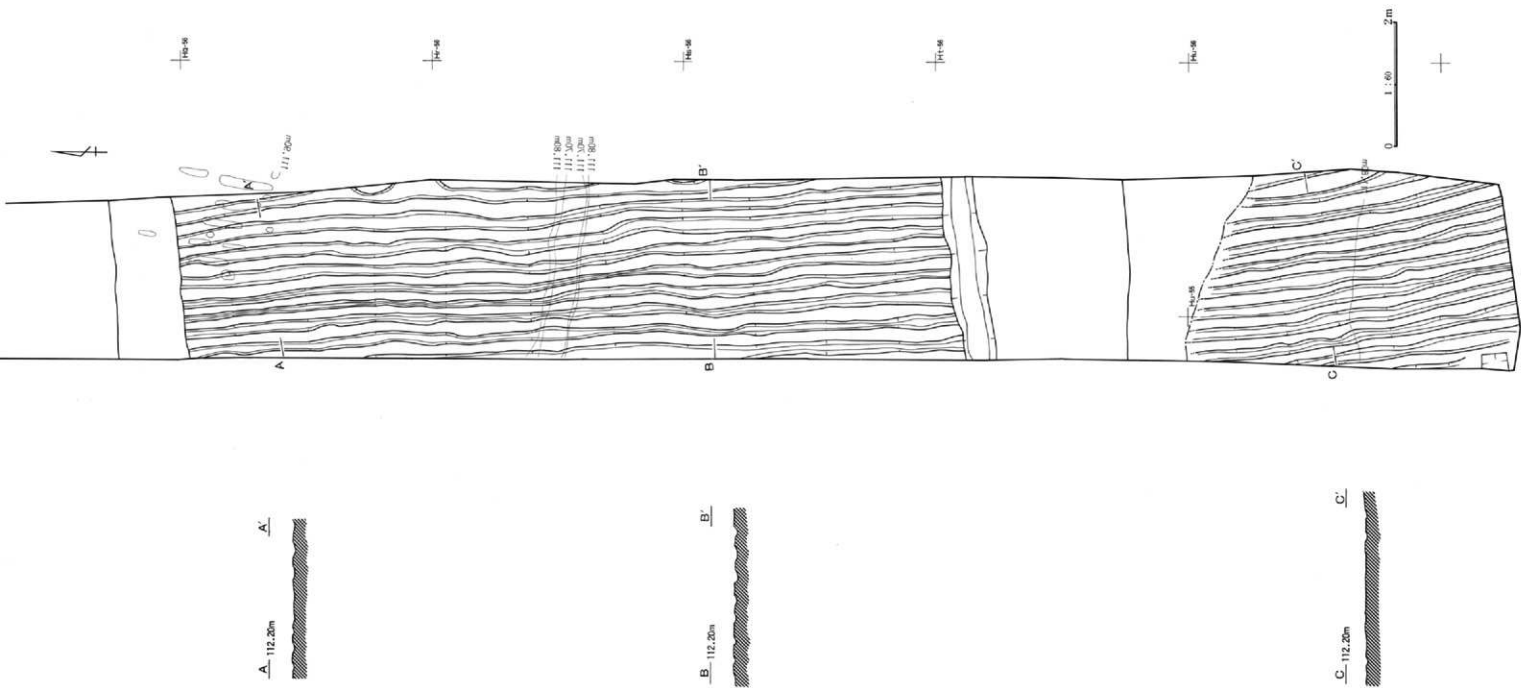
- 1 褐色土層 埋拵作土, A+△混入。
- 2 灰褐色土層 A+△混入, 炭分沈着多い。
- 3 炭分凝集層
- 4 暗褐色土層 軽石, 小石, 炭分混入の粘置土。



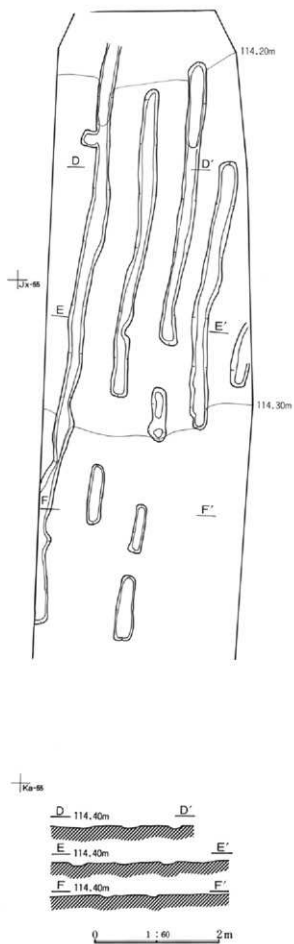
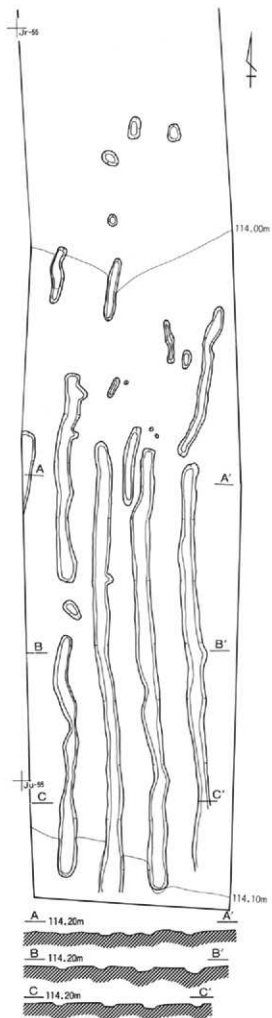
第13図 緑笠遺跡群3区調査区



第14図 緑地遺跡群3区調査区

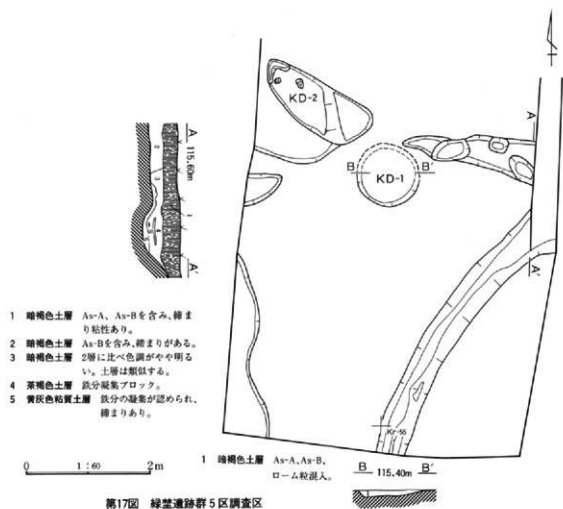
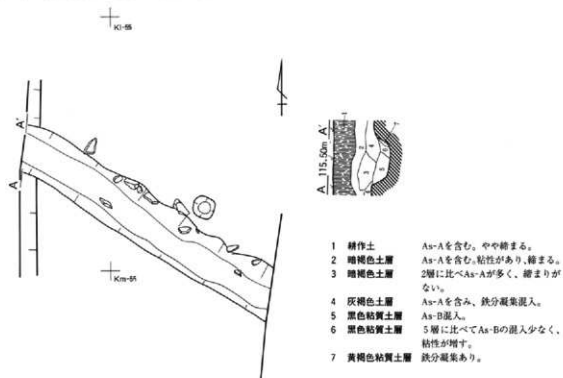


第15図 緑泥瀧群3区調査区(As-A下阜)



第16図 緑芝遺跡群4区調査区(A_s-B下段)

第2章 緑地遺跡群 緑地上部遺跡の調査



第17図 緑地遺跡群5区調査区

〔2〕 緑塗上郷遺跡の遺構と遺物

1 調査区 (第3・18~21図、P.L.13~15)

調査区は、竹沼遺跡とは谷を隔てた東の台地にある。南北約180m、幅約6~14m、面積約1,123㎡を対象とする。位置は、台地西斜面から低地部分にかけてで、1987(昭和62)年の市教育委員会による21Bトレンチの西に接している。その調査では、旧石器時代のユニット箇所、古墳時代の住居24軒、平安時代の水田跡、溝、江戸時代斎藤氏の代官屋敷跡などが確認されている。地形を異にするが、竹沼遺跡とほぼ同様な内容が知られている。しかし、今回の調査区では、調査終了後の圃場整備で台地部分はローム層の暗色帯まで削平され、谷はその残土で埋められて遺構は消失していた。唯一、北側の低地部分が調査の対象として残されていた。

確認された遺構は、斎藤代官屋敷の石垣、近世の溝3条、平安時代の水田、溝2条がある。これらは、いずれも昭和61年の調査内容に追加されるものである。

2 基本土層

基本土層はLoc・3+60地点で記録した。すでにローム層の中位までが削平を受けていた。標高は116~118mである。

- 1層 現耕作土 客土 厚さ10cm前後
- 2層 黄褐色土 強粘性 厚さ20cm前後 下面は西側への下り勾配を持つ、ローム層としては下位に相当し夾雑物が多い。
- 3層 黄褐色土 多量のクサリ礫、結晶片岩類の破砕礫を含む。礫は1~5cm大。
- 3A層 黄土色粘質土 3B層とともに4層との境界面に厚さ3cm前後で堆積する。礫の混入はない。
- 3B層 灰色粘質土 3A層と同性状、細粒で緻密、礫の混入はない。
- 4層 褐色土を混入する礫層 礫は5~10cm大。

5A層 褐色粘質土 5層上面の粘質土の多い部分、3A・B層ほど明瞭ではない。

5層 褐色土を混入する礫層 礫は5~15cm大、4層とともに礫が主体で隙間を褐色粘質土が充填する。

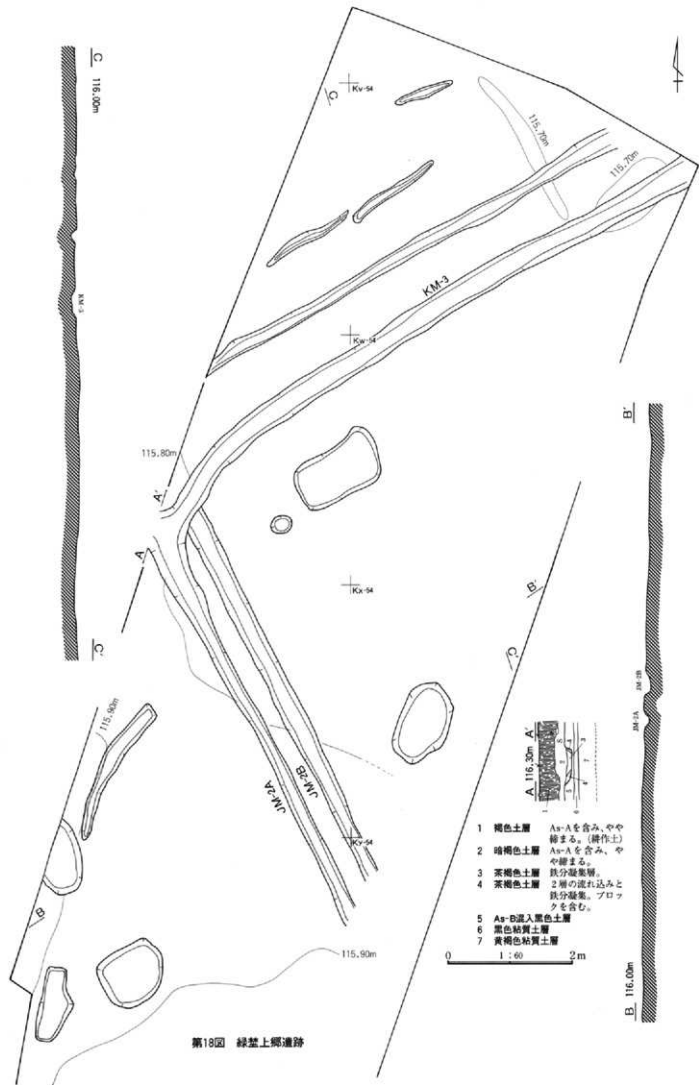
3 KM3・JM2A・JM2B (第18図、P.L.14)

この3条の溝は1983(昭和58)年の調査に続くものである。いずれも、As-B層混土層を掘り込んでいたもので埋土の様子からすると、As-A層降下前後の時期である。平行した溝を持つKM3の様子からすると、畝を区画する溝と考えられる。JM2Aは、長さ7m分を確認し北西隅でKM3と直交している。上幅30~40cmで深さ10cmである。平行するJM2Bは、ほぼ同規模で一時期先行する。畝の区画は、等高線に平行・直交の関係にありAs-B層下水田のあり方を踏襲している。

4 As-B下水田 (第19図、P.L.14)

平安時代の水田は、As-B層で覆われていたもので、台地縁辺の微高地部分を勾配を利用しながら区画している。区画は、畦ではなく溝を境界としている。区画全体が調査されたものはないが、一辺が10mを越すものが3区画ある。このうちの2区画には、直径10cm前後の円形のくぼみが集中して確認されており、足跡か株跡と思われる。溝は、区画境界のほかに、谷上流からの導水を目的としたものがある。直交しているJK19とJK20は、ともに上幅1mを越し、耕作面からの深さ20cmほどのもので、規模と底面に砂礫が堆積している点からみて基幹の導水路と考えられる。灌漑は、緩やかな地形勾配、畦を持たない区画の特徴からすると、大区画の中に基幹の導水路で通水後は、地形勾配のままにオーバーフローさせ、再度溝に集水して下流域へと通水を繰り返したのと考えられる。

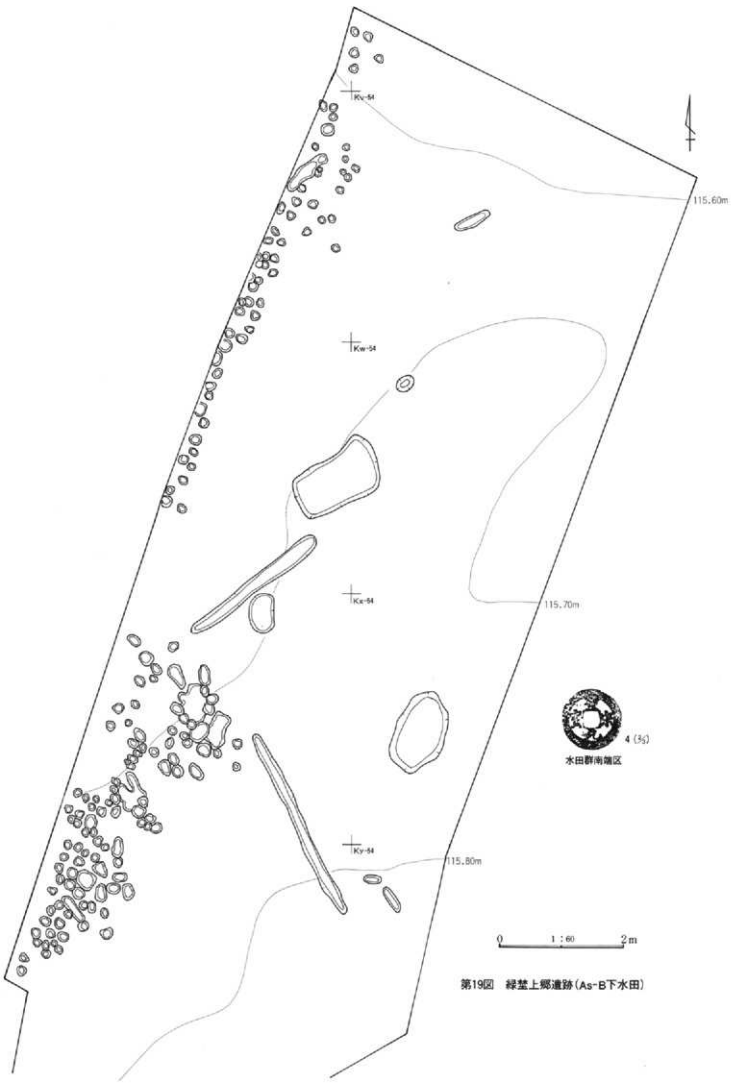
水田は、As-B層の降下で耕作が放棄されている



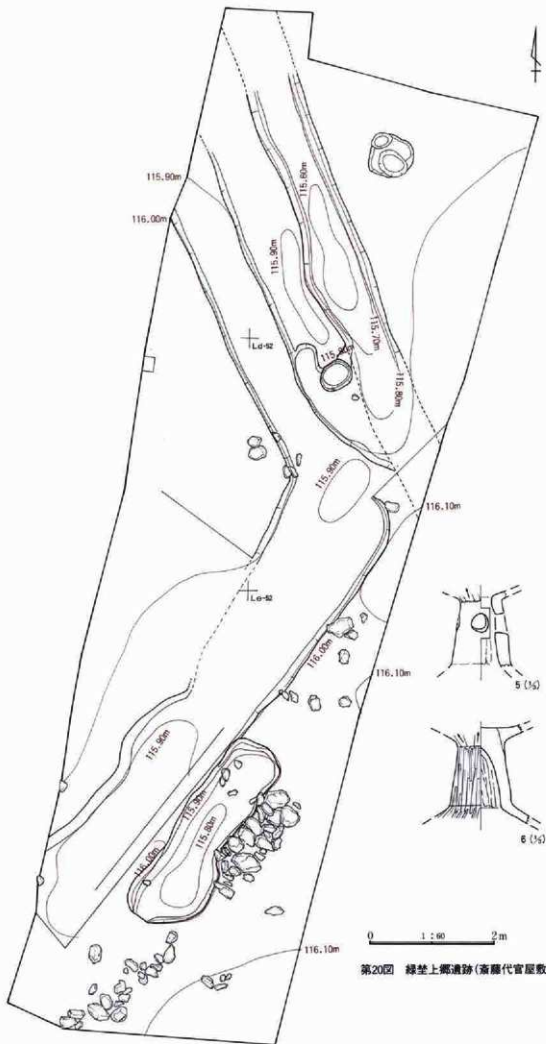
第18回 緑葉上郷遺跡

- 1 褐色土層 A-aを含み、やや締まる。(耕作土)
- 2 暗褐色土層 A-aを含み、やや締まる。
- 3 茶褐色土層 鉄分凝集層。
- 4 茶褐色土層 2層の混れ込みと鉄分凝集。ブロックを含む。
- 5 As-B混入黒色土層
- 6 黒色粘質土層
- 7 黄褐色粘質土層

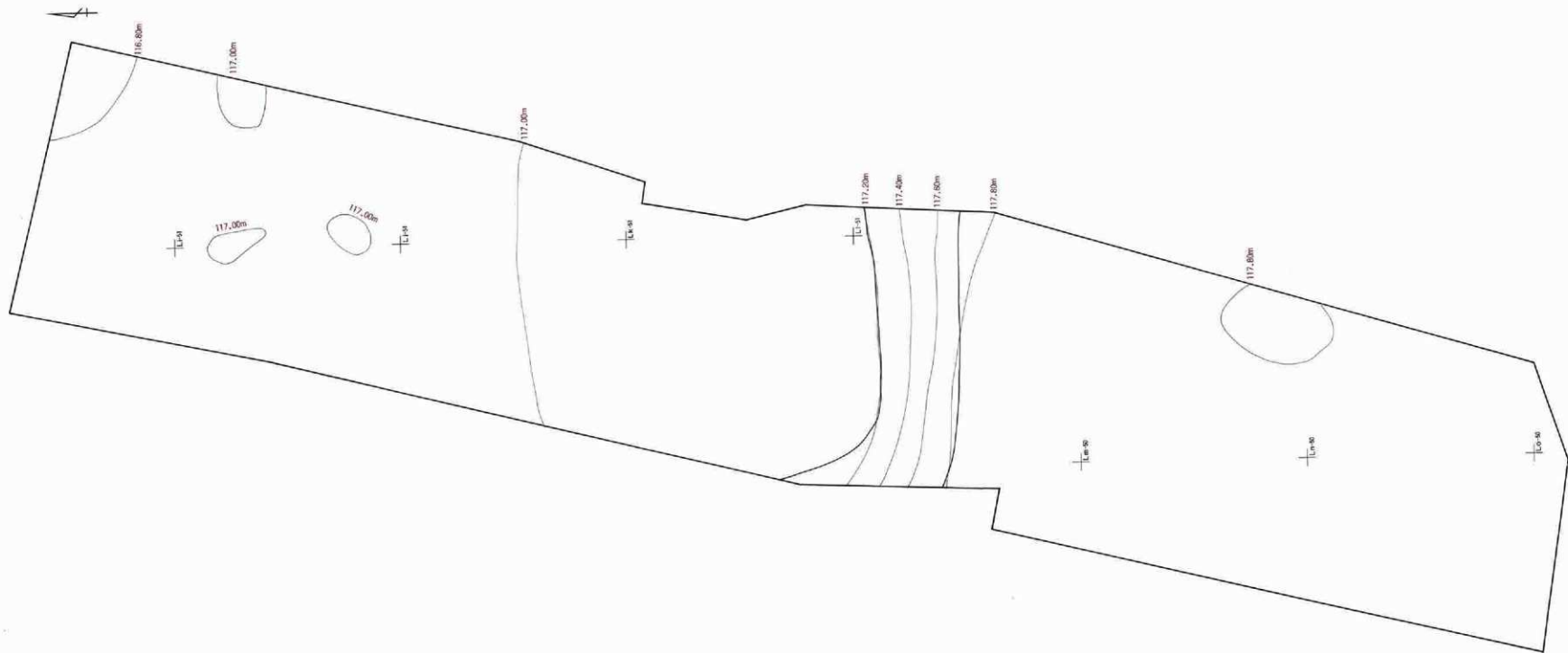
0 1 : 60 2 m



第19図 緑土上郷遺跡(As-B下水田)



第20回 綠堂上郷遺跡(奈良代官屋敷跡)



第21図 緑道上部道路跡

0 1:60 2m

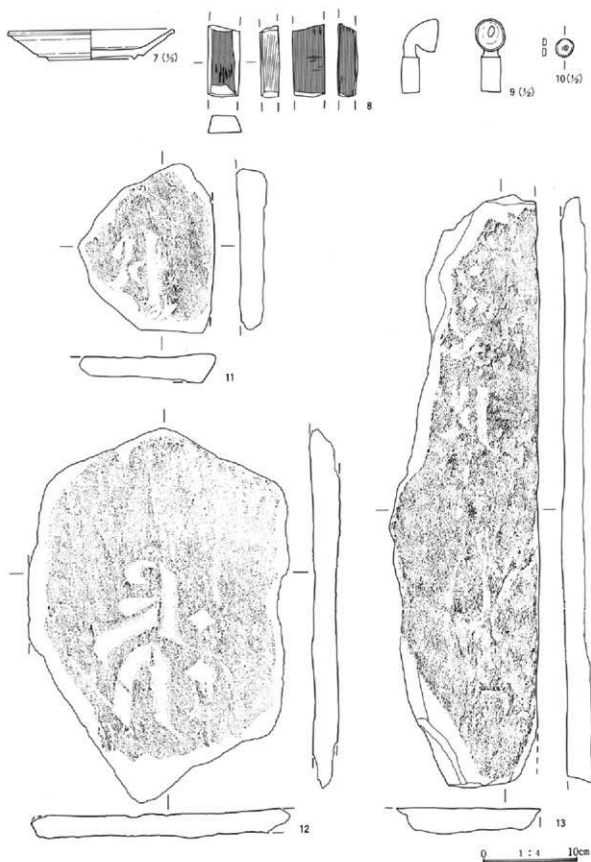
が、その上面にはAs-B層を混入し鉄分が沈着した暗褐色土があり、ほどなく耕作が再開された様子が窺える。

5 斎藤代官屋敷（第20回、P.L.15）

斎藤代官屋敷は、この地域一帯を治めた代官斎藤氏のものである。前回の調査では、屋敷の北西部分を確認され、母屋を始めとする建物跡、倉跡、建物を区画する溝、屋敷全体を区画する石垣が確認されている。今回は、さらに外周の石垣が追加された。石垣は、基部の側溝にかかる緑石で幅1m、長さ7m

ほどが確認された。その状態は、台地の縁辺部を削り落とし、その全面に石を小口積みしている。石は、人頭くらいの大きさで、削り出した土を裏込めしているが、ゆるいためか根石列を遺して全体に崩落している。根石は、下面にAs-B層下水田があるために、補強を目的として盛土をした上に、一見すると2列に敷き並べられていた。石自身は、鮎川や地山で一般に見られるもので、割る、面取りするといった加工の痕跡はない。その外側には、幅1m弱の排水溝が付いている。崩落した石に混じって、柴付陶磁器、軟質陶器の破片、瓦が出土している。

第2章 緑土遺跡群 緑土上郷遺跡の調査



第22図 緑土遺跡群出土遺物(1)



第23図 緑壁遺跡群出土遺物(2)

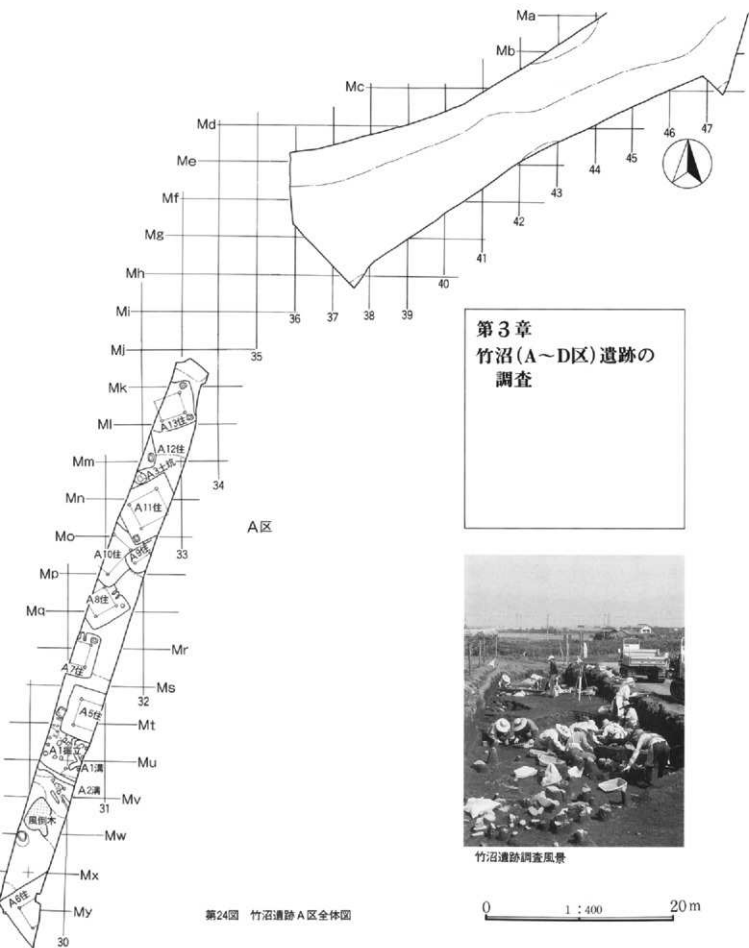
第2章 緑塗遺跡群 緑塗上郷遺跡の調査

緑塗地区出土遺物

| 図番 PL | 土器種別 器種 | 法量 (cm) ①口径 ②高さ ③底径 | ①胎土 ②焼成 ③色調 | 成・整形技法の特徴 | 出土状態 | 残存状況 備考 |
|-------------|--------------|------------------------|-------------------------|------------------------------|------|----------------|
| 20-5 16 | 土師器 否台 | ②6.9 | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焰 ③褐色 | 脚部外面ナデ。 内面ナデ。 | 緑塗上郷 | 脚部2/3 |
| 20-6 16 | 土師器 高坏 | ②(7.2) | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焰 ③明赤褐色 | 脚部外面へツ削り、ミガキ。 内面ナデ。 | 緑塗上郷 | 脚部全周 4世紀代 |
| 22-7 16 | 陶器 皿 | ①(13.0) ②2.3 ③(3.3) | ①細 ②還元焰 ③灰オリーブ色 | 全面に灰箱、ケズリ出し高台。 目跡あり。瀬戸美濃。 | 2区 | 1/3残存 17世紀代 |
| 23-16 16 | 縄文土器 底部片 | | ①中粒の砂を含む。 ②良 ③にぶい赤褐色 | 底面網代。 | 表採 | 底部3/4 |
| 23-17 16 | 縄文土器 胴部片 | | ①中粒の砂を含む。 ②良 ③明赤褐色 | 縄文施紋。原体はRⅡ横位。 内面は横ミガキ。 | 表採 | 中期前半 |
| 23-18 16 | 縄文土器 口縁部片 | | ①中粒の砂を含む。 ②良 ③灰褐色 | 縄文施紋。原体はRⅡ横位。 内面は横方向の調整。 | 表採 | 中期前半 |

| 図番 PL | 器種 | 遺存状況 | 石 材 | 計測値 (cm・g) | | | | 特 徴 | 出土状況 |
|----------|-----|------|---------|------------|------|---------|---------|---------|---------|
| | | | | 全長 | 幅 | 厚 | 重量 | | |
| 22-8-16 | 碱石 | 2/3 | 砂岩 | (4.3) | 3.5 | 1.8 | (80) | 4個面を使用。 | Fe-55付着 |
| 22-10-16 | 白瓦 | 完形 | 滑石 | 0.9 | | (0.2) | 0.3 | | 表採 |
| 22-11-16 | 板碑 | 破片 | 点紋緑泥片岩 | 17.9 | 14.5 | 1.8~3.0 | (1,115) | | 石敷遺構 |
| 22-12-16 | 板碑 | 破片 | 点紋緑泥片岩 | 39.8 | 27.5 | 1.8~2.8 | (5,200) | | 3区 |
| 22-13-16 | 板碑 | 手完形 | 緑泥片岩 | 63.0 | 16.0 | 2.0~2.9 | (4,500) | | 3区 |
| 23-14-16 | 板碑 | 手完形 | 網雲母石墨片岩 | 48.8 | 16.5 | 2.1~2.7 | (3,900) | | 3区 |
| 23-15-16 | 板碑 | 破片 | 緑泥片岩 | 26.0 | 16.7 | 2.0 | (1,520) | | 3区 |
| 23-19-16 | 打撃石 | 完形 | 熱変成岩 | 9.5 | 7.0 | 2.5 | 200 | 分銅型。 | 縄文 |

| 図番 PL | 器種 | 遺存状況 | 計測値 (g・mm) | | | | 種 類・年 代 | 出土状態 |
|----------|----|------|------------|-----------|------|---------|----------------------|--------|
| | | | 重量 | 錢径(タテ・ヨコ) | 錢厚 | | | |
| 7-1-16 | 古銭 | 一部欠損 | (3.4) | 24.5 | 23.5 | 0.8~1.2 | 寛永通寶 | EM-49G |
| 12-2-16 | 古銭 | 完形 | 2.52 | 22.5 | 23 | 0.8~1.2 | 寛永通寶 | GM・8 |
| 12-3-16 | 古銭 | 完形 | 2.31 | 23.5 | 24 | 0.8~1.1 | 淳化元寶 北宋淳化元年 西暦990年 | 石敷遺構 |
| 19-4-16 | 古銭 | 完形 | 1.96 | 24 | 23.5 | 1 | 聖宋元寶 同建中靖國元年 西暦1101年 | 本田郡産区 |



第24図 竹沼遺跡 A区全体図

第3章 竹沼(A~D区)遺跡の 調査



竹沼遺跡調査風景

[1] 竹沼遺跡の遺構と遺物

1 遺跡の概要

竹沼遺跡は、鮎川流域での谷地をめぐる集落の変遷、日野の谷あいへの開発の動きを知る遺跡の一つである。東の台地には緑埜上郷遺跡、緑埜たんばには緑埜中郷・緑埜押出し・緑埜水押・シモ田・鍛冶谷戸の各遺跡があり、緑埜地区遺跡群と総称している。周辺では、東平井古墳群を始めとした後期群集墳が作られており、それらに呼応した集落でもある。

1976年の調査では、東西2つの台地で旧石器・縄文時代から平安時代の遺構や遺物が確認されている。成果は、『F1竹沼遺跡発掘調査概報』（藤岡市教育委員会1978）として一部が公表されている。

集落の主体は、古墳時代後期で住居26軒がある。これ以前には、縄文時代中期加曾利E1式期、弥生時代後期末から古墳時代初期の小規模な集落がある。古墳時代初期では、赤井戸式土器と古式土師器が相伴しており、北武蔵の吉ヶ谷式土器との分布圏の検討が喚起されている。古墳時代後期には、白玉や紡錘車を製作した工房跡9軒があり、鮎川中流域の滑石を加工した專業集団が推定されている。

2 調査区と遺構の概要

調査区は、北からA~E区に分けられる。西の台地ではA~D区が、東の台地ではA区とE区が、これまで調査されている。今回は、A~D区の西側に接する南北約380m、幅約5~6m、面積約2,000m²である。現況は、標高125m前後、桑園と畠が広がる台地で、東の谷地田は緑埜たんばへと続いている。

確認された遺構は、住居跡34軒、掘立柱建物跡2棟、土坑16基、溝4条、井戸2基、風倒木跡2基、ピット群である。住居は、古墳時代が32軒、弥生時代、奈良時代が各1軒である。遺構の大半は、新たに確認されたが、住居5軒、溝2条は1976年調査の追加である。区毎は以下である。

A区 住居9軒、掘立柱建物1棟、土坑2基、溝2条、ピット群

B区 住居7軒、土坑10基、溝2条

C区 住居7軒、掘立柱建物1棟、井戸1基、風倒木痕2基

D区 住居11軒、土坑4基、井戸1基

西の台地について新発見は2点ある。

第1に、居住域はB区とC区の間にある凹地を中心にあること。この凹地は、開口30m、B区のローム層上面との比高差1m強で谷地に続いている。古墳時代後期には、住居をA・B区とC・D区の2群に分け、縄文時代中期の遺構もこれに面していたと思われる。平安時代には浅井戸が掘られていたが、As-B層降下項には埋没し、遺構は稀薄になる。

第2に、古墳時代後期後半に土地利用の画期があること。後期の住居が新たに27軒追加され、しかも台地の北縁辺部まで分布している。住居群は、台地上に点在し、谷地に面する一群と台地際の一帯がある。これは、広い範囲での開墾を意図したもので、緑埜たんばを含めた動きである。

〔2〕 A区検出の遺構と遺物

A区5号住居跡 (第25~31図、PL.19~21・68~71)

位置 Ms-29・30、Mt-29・30グリッドにかけて検出された。A区7号住居跡の南約1mの所に位置している。

形状 完掘されていないために不明であるが、現状では長辺5.3m、短辺3.3mを測る。

方位 不明。

覆土 ローム層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4(1・2・a・b)層に分かれた。4・5層は風倒木痕の可能性が考えられる。

壁高 住居跡確認面より約26~35cmで床面に達する。床面からはほぼ垂直に立ち上がる。

床面 貼床でやや凹凸が認められる。現状での面積は約16㎡である。

掘り方 凹凸が非常にあるが、床面中央部と壁際を

残して掘り込みが認められる。貼床下から少量の土器片が出土している。

周溝 現状では全周している。幅4~12cm、深さ3~6cmである。

竈 検出できなかった。

柱穴 ビットは総計4個検出された。P1は深さ46cm、P2深さ45cm、P3深さ9cm、P4深さ6cmである。P1・P2が主柱穴になる。

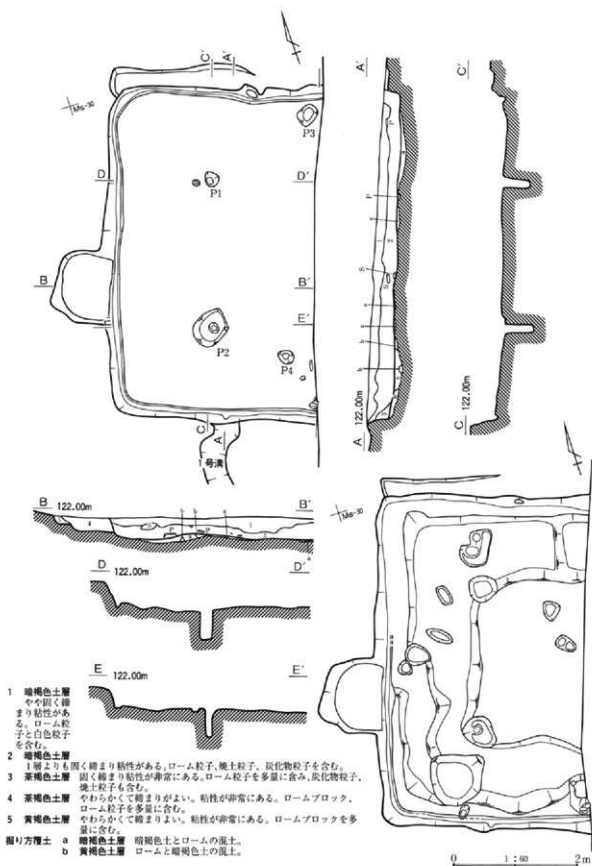
貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 床面直上や覆土から多量の遺物が出土している。とりわけ西壁周辺からは完成品を含めた土師器甕や坏が出土したが、その在り方は一括廃棄された様相を感じさせる。

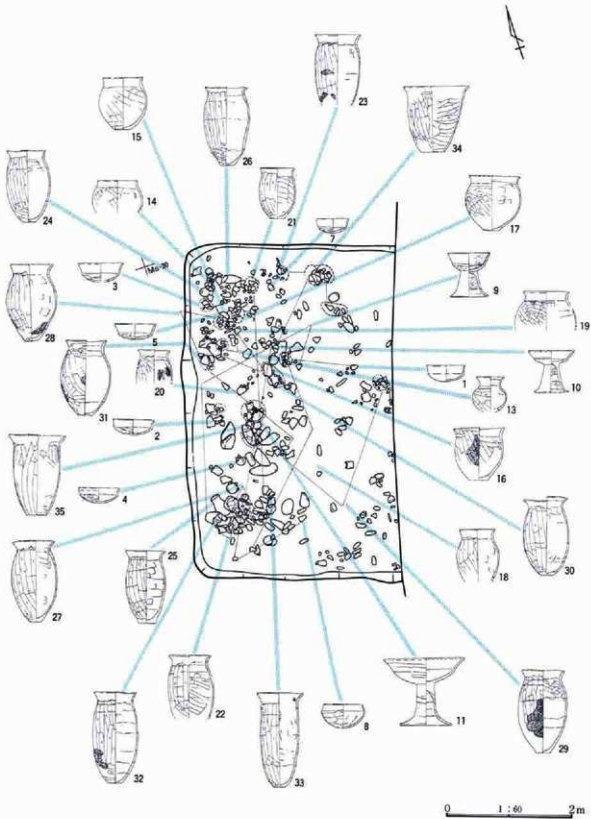
時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は6世紀前半の段階である。

A区5号住居跡

| 図番 PL | 土師器 種類 | 流量 (cm) ①口径②器高③器径 | ①胎土 ②焼成 ③色調 | 成・整形技法の特徴 | 出土状態 | 残存状況 備考 |
|-------------|-------------|-------------------------|-------------------------------|----------------------------------|-------|-------------|
| 27-1 68 | 土師器 坏 | ①12.3 ②(5.1) | ①粗粒の砂、赤色炭粉粒を含む。 ②酸化焰 ③橙色 | 底面へう削り不明瞭。口縁部横ナデ。内面ナデ。 | 中央部 | 完形 |
| 27-2 68 | 土師器 坏 | ①(13.0) ②(4.7) | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焰 ③赤褐色 | 底面へう削り。口縁部横ナデ。内面ナデ。 | 西壁寄り | 2/3残存 |
| 27-3 68 | 土師器 坏 | ①(14.5) ②(6.0) | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化焰 ③赤褐色 | 底面へう削り。口縁部横ナデ。内面ナデ。 | 北西壁寄り | 1/2残存 |
| 27-4 68 | 土師器 坏 | ①13.1 ②4.8 | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化焰 ③橙色 | 底面へう削り。口縁部横ナデ。内面ナデ。へうの工具痕。 | 西部 | 完形 |
| 27-5 68 | 土師器 坏 | ①13.2 ②4.9 | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化焰 ③橙色 | 底面へう削り。口縁部横ナデ。内面丁寧なナデ。へうの工具痕。 | 北西部 | 完形 |
| 27-6 68 | 土師器 坏 | ①(12.9) ②4.5 | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焰 ③ほぼ赤褐色 | 底面へう削り。口縁部横ナデ。内面ナデ。へうの工具痕。 | 覆土 | 2/3残存 |
| 27-7 68 | 土師器 坏 | ①10.0 ②4.6 | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焰 ③明褐色 | 底面へう削り。口縁部横ナデ。内面ナデ。へうの工具痕。 | 北部 | 口縁部一部欠損 |
| 27-8 68 | 土師器 坏 | ①12.3 ②7.6 | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焰 ③明灰黄色 | 底面へう削り。口縁部横ナデ。内面ナデ。へうの工具痕。 | 南部 | ほぼ完形 |
| 27-9 68 | 土師器 高坏 | ①(13.3) ②14.0③(12.2) | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焰 ③橙色 | 胴部外面へう削り不明瞭。内面ナデ。坏部内面吸炭による黒色処理。 | 南西壁寄り | 坏部1/2欠損 |
| 27-10 68 | 土師器 高坏 | ①(14.7) ②13.2 ③11.0 | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焰 ③橙色 | 胴部外面へう削り不明瞭。内面へう削り。坏部内面ナデ。 | 中央部 | 坏部口縁部一部欠損 |
| 27-11 68 | 土師器 高坏 | ①25.6 ②21.2 ③16.5 | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化焰 ③橙色 | 胴部外面へう削り。内面輪轆み痕。坏部底面へう削り。口縁部横ナデ。 | 西部 | 坏部1/3欠損 |
| 27-12 68 | 土師器 小型土器 | ①(6.1) ②7.3 ③4.8 | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焰 ③明褐色 | 底面・胴部外面へう削り。 内面ナデ。 | 覆土 | 口縁部一部欠損 |
| 27-13 68 | 土師器 小型壺 | ①9.0 ②(11.0) | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焰 ③明赤褐色 | 胴部外面へう削り。口縁部横ナデ。内面ナデ。 | 北西部 | 底部欠損 |
| 28-14 68 | 土師器 小型壺 | ①(12.8) ②(9.7) | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化焰 ③明赤褐色 | 胴部外面へう削り。口縁部横ナデ。内面ナデ。 | 北西隅 | 口縁・胴上半1/3欠損 |

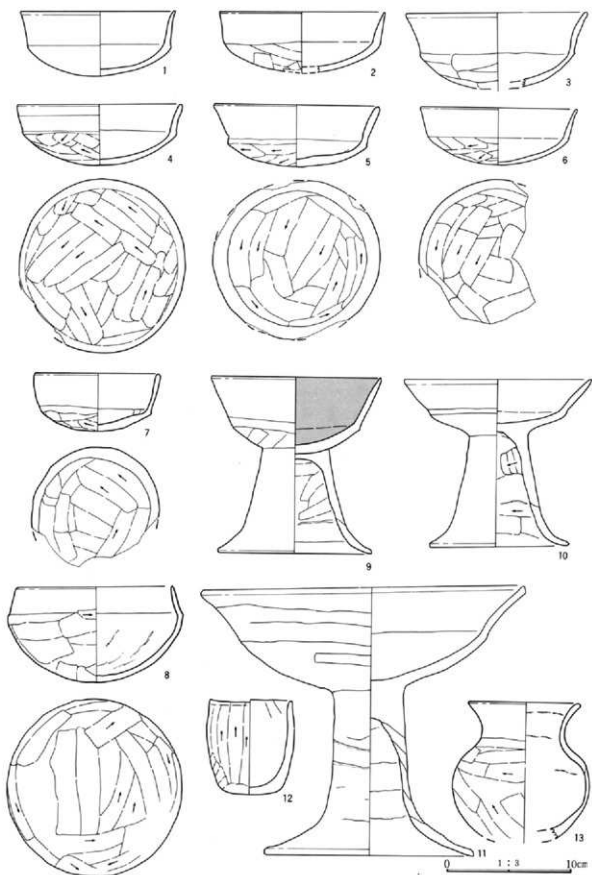


第25図 A区5号住居跡



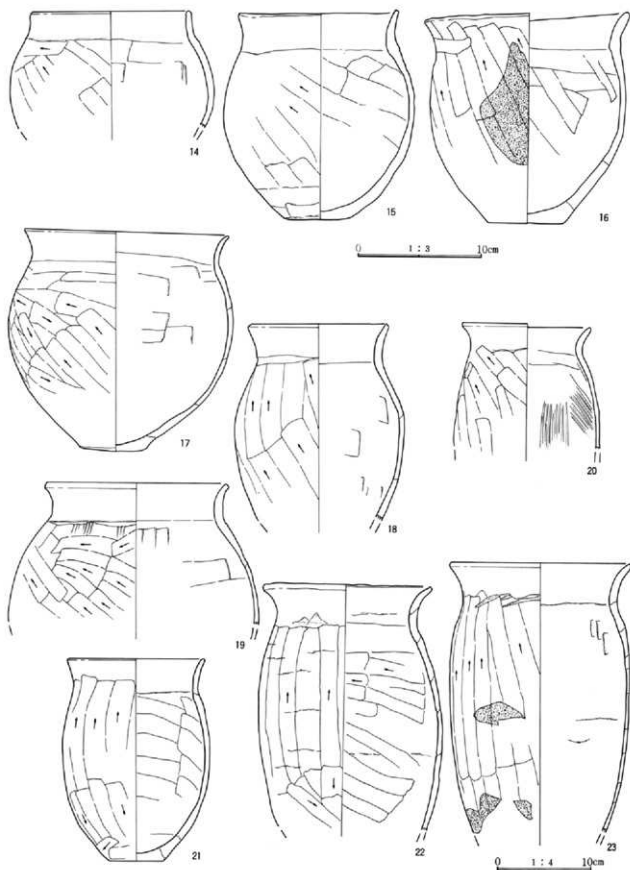
第26図 A区5号住居跡遺物分布図

第3章 竹沼(A-D区)遺跡の調査



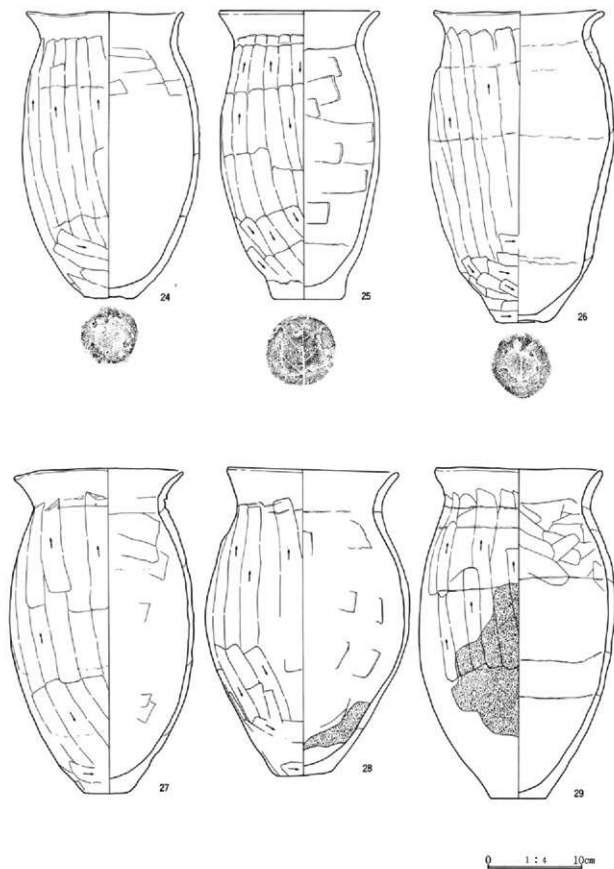
第27図 A区5号住居跡出土遺物(1)

〔2〕A区検出の遺構と遺物



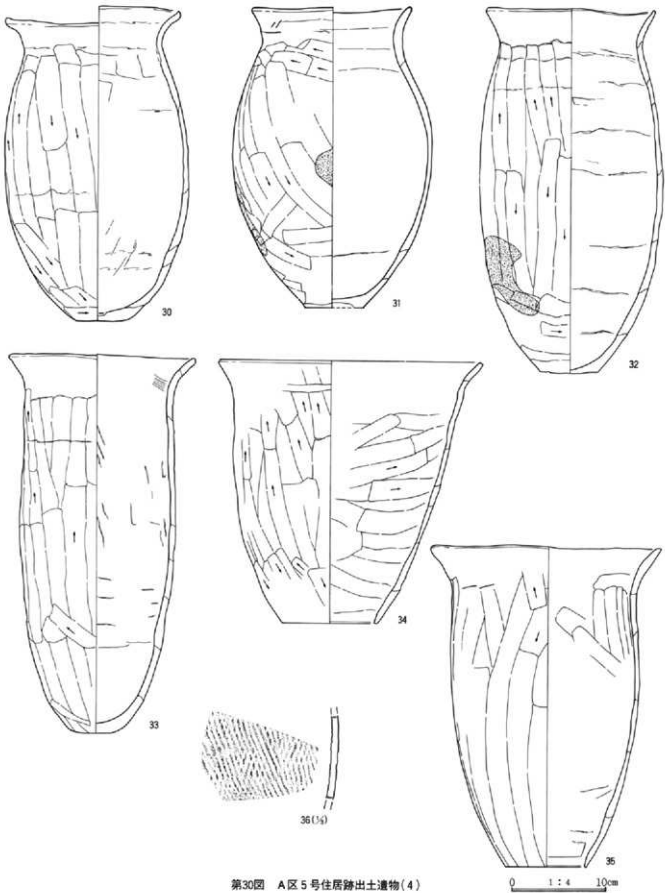
第26図 A区5号住居跡出土遺物(2)

第3章 竹沼(A-D区)遺跡の調査



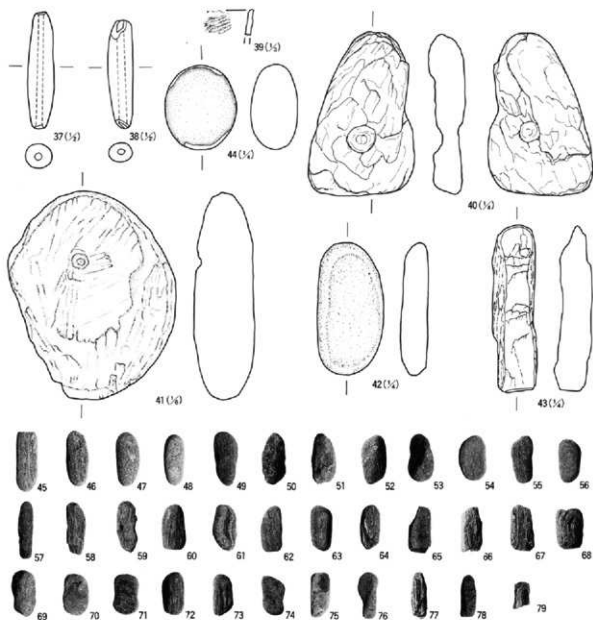
第29図 A区5号住居跡出土遺物(3)

〔2〕 A区検出の遺構と遺物



第30図 A区5号住居跡出土遺物(4)

第3章 竹沼(A~D区)遺跡の調査



こも礫石

| 図番 | 石 | 材 | 計測値 (cm・g) | | | |
|-------|-------------|---|------------|-----|-----|-----|
| | | | 全長 | 幅 | 厚 | 重量 |
| 31-43 | 網雲母石葉片石 | | 19.5 | 6.8 | 2.5 | 540 |
| 31-46 | 網雲母石葉片石 | | 16.3 | 6.5 | 2.6 | 460 |
| 31-47 | 網雲母石葉片石 | | 16.0 | 7.0 | 4.0 | 600 |
| 31-48 | 網雲母緑泥片石 | | 15.0 | 6.0 | 3.5 | 500 |
| 31-49 | 片紋網雲母石葉緑泥片石 | | 16.4 | 7.0 | 4.2 | 730 |
| 31-50 | 網雲母石葉片石 | | 15.3 | 7.1 | 4.8 | 620 |
| 31-51 | 片紋緑泥片石 | | 14.5 | 7.2 | 4.3 | 540 |
| 31-52 | 網雲母石葉片石 | | 14.5 | 7.0 | 6.3 | 950 |
| 31-53 | 燧石 | | 14.0 | 7.0 | 4.5 | 960 |
| 31-54 | 網雲母石葉片石 | | 13.5 | 6.2 | 2.2 | 389 |
| 31-55 | 網雲母石葉片石 | | 14.3 | 6.5 | 2.4 | 364 |
| 31-56 | 網雲母石葉片石 | | 13.0 | 6.7 | 4.5 | 600 |
| 31-57 | 片紋網雲母石葉緑泥片石 | | 17.0 | 4.3 | 2.5 | 300 |
| 31-58 | 片紋網雲母石葉緑泥片石 | | 15.2 | 6.8 | 3.8 | 490 |
| 31-59 | 網雲母石葉片石 | | 15.0 | 6.5 | 4.0 | 460 |
| 31-60 | 網雲母石葉片石 | | 13.5 | 6.5 | 4.0 | 580 |
| 31-61 | 網雲母石葉片石 | | 13.6 | 7.0 | 2.9 | 380 |
| 31-62 | 網雲母石葉片石 | | 14.0 | 6.5 | 2.5 | 380 |

| 図番 | 石 | 材 | 計測値 (cm・g) | | | |
|-------|-------------|---|------------|-----|-----|-----|
| | | | 全長 | 幅 | 厚 | 重量 |
| 31-63 | 網雲母石葉片石 | | 13.5 | 6.3 | 4.0 | 520 |
| 31-64 | 網雲母石葉片石 | | 13.0 | 5.8 | 3.5 | 430 |
| 31-65 | 網雲母石葉片石 | | 14.0 | 6.3 | 3.5 | 480 |
| 31-66 | 片紋網雲母石葉緑泥片石 | | 15.3 | 6.2 | 3.4 | 450 |
| 31-67 | 網雲母石葉片石 | | 13.8 | 7.0 | 4.3 | 620 |
| 31-68 | 網雲母石葉片石 | | 12.0 | 7.5 | 6.5 | 940 |
| 31-69 | 網雲母石葉片石 | | 13.5 | 6.8 | 3.5 | 520 |
| 31-70 | 緑泥片石 | | 12.5 | 8.0 | 4.3 | 580 |
| 31-71 | 網雲母石葉片石 | | 12.0 | 7.5 | 2.5 | 400 |
| 31-72 | 片紋網雲母石葉緑泥片石 | | 12.0 | 6.5 | 4.3 | 510 |
| 31-73 | 網雲母石葉片石 | | 12.5 | 5.3 | 4.5 | 430 |
| 31-74 | 片紋網雲母石葉緑泥片石 | | 14.5 | 6.6 | 3.6 | 430 |
| 31-75 | 網雲母石葉片石 | | 13.3 | 5.0 | 2.5 | 450 |
| 31-76 | 網雲母石葉片石 | | 13.8 | 6.8 | 4.6 | 440 |
| 31-77 | 網雲母石葉片石 | | 14.0 | 4.8 | 4.5 | 430 |
| 31-78 | 網雲母緑泥片石 | | 12.3 | 4.5 | 3.5 | 380 |
| 31-79 | 燧石 | | 14.5 | 7.7 | 4.8 | 540 |

第31図 A区5号住居跡出土遺物(5)

(2) A区検出の遺構と遺物

| 図番 PL | 土器種類 器 種 | 法 量 (cm) ①口径 ②高さ ③底径 | ①胎土 ②焼成 ③色調 | | | 成・整形技法の特徴 | 出土状態 | 残存状況 備 考 |
|-------------|-------------|-------------------------|----------------------------------|----------------------------------|-------|------------------|------|-------------|
| | | | ①胎土 | ②焼成 | ③色調 | | | |
| 28-15 68 | 土師器 小型壺 | ①12.6 ②16.3 ③5.7 | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化色 ③にぶい黄褐色 | ①底面へう削り。胴部外面へう削り。口縁部横ナデ、内面ナデ。 | 北西部 | 完形 | | |
| 28-16 68 | 土師器 小型壺 | ①16.2 ②16.6 ③6.0 | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化色 ③にぶい褐色 | ①底面ナデ、胴部外面へう削り。口縁部横ナデ、内面ナデ。 | 中央部 | 胴部一部欠損 | | |
| 28-17 68 | 土師器 壺 | ①21.7 ②23.2 ③7.1 | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化色 ③にぶい褐色 | ①底面磨耗。胴部外面へう削り。口縁部横ナデ、内面ナデ。 | 北西部 | 完形 | | |
| 28-18 68 | 土師器 壺 | ①15.0 ②(20.8) | ①粗粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化色 ③褐色 | ①胴部外面へう削り。口縁部横ナデ、内面ナデ、へうの工具痕。 | 中央部 | 胴下半部欠損 | | |
| 28-19 69 | 土師器 壺 | ①19.5 ②(14.9) | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化色 ③明赤褐色 | ①胴部外面へう削り。口縁部横ナデ、内面ナデ、へうの工具痕。 | 北西部 | 胴下半部欠損 | | |
| 28-20 69 | 土師器 壺 | ①13.6 ②(13.8) | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化色 ③にぶい褐色 | ①胴部外面へう削り。口縁部横ナデ、内面ナデ。 | 西部 | 胴下半部欠損 | | |
| 28-21 69 | 土師器 小型壺 | ①14.4 ②21.5 ③6.7 | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化色 ③にぶい赤褐色 | ①底面ナデ、胴部外面へう削り。口縁部横ナデ、内面丁寧ナデ。 | 北部 | 口縁から底部1/2残存 | | |
| 28-22 69 | 土師器 壺 | ①18.0 ②(25.5) | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化色 ③にぶい黄褐色 | ①胴部外面へう削り。輪積み痕。口縁部横ナデ、内面ナデ。 | 南西部 | 胴下半部欠損 | | |
| 28-23 69 | 土師器 壺 | ①(19.2) ②(28.0) | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化色 ③明赤褐色 | ①胴部外面へう削り。口縁部横ナデ、内面ナデ、輪積み痕。 | 北部 | 底部欠損 | | |
| 28-24 69 | 土師器 壺 | ①(16.7) ②30.4 ③4.9 | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化色 ③黒褐色 | ①底面ナデ、胴部外面へう削り。口縁部横ナデ、内面丁寧ナデ。 | 北西隅 | 胴部一部欠損 | | |
| 28-25 69 | 土師器 壺 | ①17.0 ②30.0 ③8.0 | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化色 ③褐色 | ①胴部外面へう削り。口縁部横ナデ、内面丁寧ナデ。 | 南西部 | 完形 底面木葉痕 | | |
| 28-26 69 | 土師器 壺 | ①18.2 ②33.0 ③5.5 | ①細粒の砂、片岩粒を多量に含む。 ②酸化色 ③にぶい黄褐色 | ①底面木葉痕。胴部外面へう削り。口縁部横ナデ、内面丁寧ナデ。 | 北部 | 完形 | | |
| 28-27 69 | 土師器 壺 | ①18.0 ②34.0 ③4.7 | ①粗粒の砂、片岩粒を多量に含む。 ②酸化色 ③にぶい黄褐色 | ①底面ナデ、胴部外面へう削り。口縁部横ナデ、内面ナデ。 | 南西部 | 完形 | | |
| 28-28 70 | 土師器 壺 | ①18.0 ②32.4 ③6.0 | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化色 ③赤褐色 | ①底面磨耗。胴部外面へう削り。口縁部横ナデ、内面ナデ。 | 北西壁寄り | 胴部一部欠損 | | |
| 28-29 70 | 土師器 壺 | ①17.3 ②34.7 ③6.0 | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化色 ③にぶい褐色 | ①底面ナデ、胴部外面へう削り。口縁部横ナデ、内面ナデ。 | 中央部 | 胴部一部欠損 | | |
| 30-30 70 | 土師器 壺 | ①18.5 ②33.5 ③5.5 | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化色 ③にぶい黄褐色 | ①底面ナデ。胴部外面へう削り。口縁部横ナデ、内面ナデ、輪積み痕。 | 中央部 | 完形 | | |
| 30-31 70 | 土師器 壺 | ①16.8 ②31.7③(6.0) | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化色 ③黄褐色 | ①底面ナデ。胴部外面へう削り。口縁部横ナデ、内面ナデ、輪積み痕。 | 西壁寄り | 胴部一部欠損 外面に漬付着 | | |
| 30-32 70 | 土師器 壺 | ①18.0 ②38.6 ③6.0 | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化色 ③にぶい褐色 | ①底面・胴部外面へう削り。口縁部横ナデ、内面ナデ。 | 南西部 | 完形 | | |
| 30-33 70 | 土師器 壺 | ①19.7 ②40.0 ③5.0 | ①中粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化色 ③褐色 | ①底面・胴部外面へう削り。口縁部横ナデ、内面ナデ、輪積み痕残る。 | 南西部 | 完形 | | |
| 30-34 71 | 土師器 瓶 | ①(28.1) ②27.7③(10.0) | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化色 ③にぶい黄褐色 | ①胴部外面へう削り。口縁部横ナデ、内面ナデ。 | 北部 | 口縁・胴部一部欠損 | | |
| 30-35 71 | 土師器 瓶 | ①24.3 ②33.2 ③8.4 | ①中粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化色 ③にぶい黄褐色 | ①胴部外面へう削り。口縁部横ナデ、内面丁寧ナデ。 | 西部 | 胴部一部欠損 | | |
| 30-36 71 | 須恵器 破片 | | ①胎 ②還元色 ③飛灰色 | | | 覆土 | 胴部片 | |
| 31-37 71 | 土師 71 | 長さ：6.1 幅：1.4 | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②良 ③褐色 | ①外面丁寧ナデ。 孔径約5mm。 | 跡床中 | 完形 | | |
| 31-38 71 | 土師 71 | 長さ：(5.7) 幅：1.3 | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②良 ③にぶい黄褐色 | ①外面丁寧ナデ。 孔径約5mm。 | 覆土 | 両端部一部欠損 | | |
| 31-39 71 | 縄文土器 71 | 口縁部片 | ①細粒の砂を含む。 ②良 ③にぶい赤褐色 | ①口唇部平頭。 縄文施設。底体は1#。 | 覆土 | | | |

| 図番 PL | 器 種 | 遺存状況 | 石 材 | 計測値 (cm・g) | | | 特 徴 | 出土状態 | |
|----------|-----|------|---------|------------|------|---------|--------|----------------------|-------|
| | | | | 全長 | 幅 | 重量 | | | |
| 31-40-71 | 円石 | 完形 | 新雲母片岩 | 17.3 | 10.5 | 1.7-3.7 | 890 | 両面に計2個の凹みが認められる。 | 覆土 縄文 |
| 31-41-71 | 多孔石 | ほぼ完形 | 点紋緑泥片岩 | 22.0 | 17.3 | 7.0 | (3600) | 片面に1個の凹み穴が認められる。 | 覆土 縄文 |
| 31-42-71 | 磨石 | 完形 | 新雲母緑泥片岩 | 14.0 | 7.0 | 3.0 | 460 | 両面に磨耗痕が認められる。 | 覆土 縄文 |
| 31-43-71 | 磨石 | 完形 | 新雲母片岩 | 17.5 | 4.4 | 4.2 | 500 | 両面に磨耗痕が認められる。 | 覆土 |
| 31-44-71 | 磨石 | 完形 | 輝石 | 8.9 | 7.5 | 4.9 | 540 | 全面に磨耗痕、両端に敲打痕が認められる。 | 覆土 縄文 |

第3章 竹沼(A-D区)遺跡の調査

A区6号住居跡 (第32・33窟、PL.21・22・71・72)

位置 Mx-28・29、My-28・29グリッドにかけて検出された。A区5号住居跡の南西約14mの所に位置している。

形状 完掘できなかったために不明であるが、現状では長辺6.3m、短辺5.3mを測る。

方位 不明。

覆土 ローム層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は9(1~6・a~c)層に分かれた。a~c層は掘り方覆土である。

壁高 住居跡確認面より約48cmで床面に達する。床面からはほぼ垂直に立ち上がる。

床面 貼床でほぼ平坦である。現状での面積は約16.8㎡。

掘り方 床面中央部を残し、壁際で顕著である。貼床下から少量の土器片が出土している。

周溝 現状では全周している。幅約4~10cm、深さ約6cmを測る。

電 検出できなかった。

柱穴 ビットは総計6個検出された。P1は深さ77cm、P2深さ22cm、P3深さ13cm、P4深さ23cm、P5深さ15cm、P6深さ18cmである。ビットの深さと配置から考えるとP1が主柱穴になると思われる。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 床面北西部から土器の坏や甕が出土している。

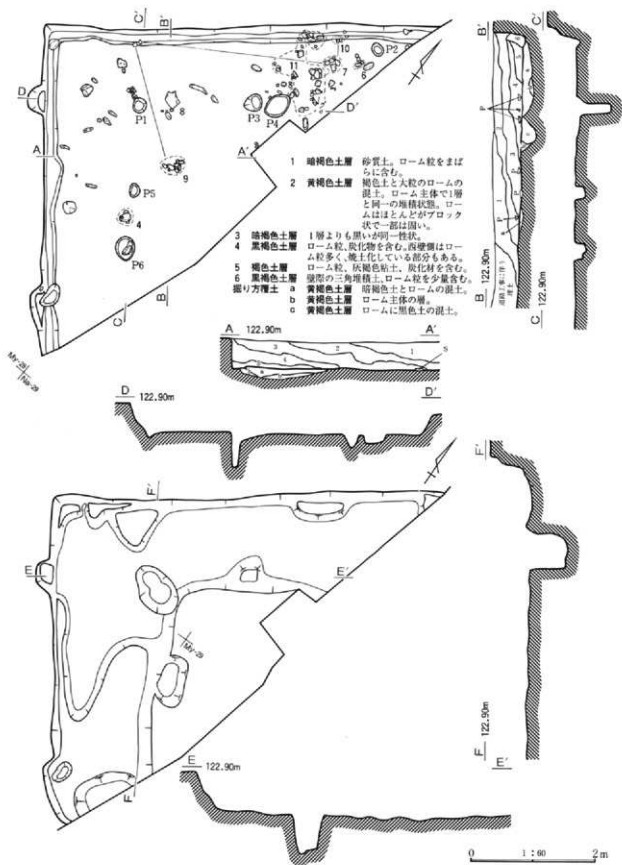
時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は6世紀前半の段階に相当する。

A区6号住居跡

| 図番 PL | 土器種別 器種 | 法量 (cm) ①口径 ②高さ ③底径 | ①胎土 ②焼成 ③色調 | 成・整形技法の特徴 | 出土状態 | 残存状況 備考 |
|-------------|------------|------------------------|---------------------------------|------------------------------------|-------|-----------------|
| | | | | | | |
| 33-1 71 | 土器器 坏 | ①(15.3) ②(5.2) | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化胎 ③にぶい赤褐色 | 底面へう割り、口縁部横ナデ。内面吸炭による黒色処理。ミガキ。 | 覆土 | 3/4残存 |
| 33-2 71 | 土器器 坏 | ①(16.0) ②4.5 | ①細粒の砂を含む。 ②酸化胎 ③明赤褐色 | 底面へう割り、口縁部横ナデ。ミガキ。内面ナデ。 | 覆土 | 1/3残存 |
| 33-3 71 | 土器器 坏 | ①(10.5) ②4.5 | ①細粒の砂を含む。 ②酸化胎 ③褐色 | 底面へう割り、口縁部横ナデ。内面ナデ。ヘラの工具痕。 | 覆土 | 1/2残存 |
| 33-4 71 | 土器器 高坏 | ①(18.0) ②(10.0) | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化胎 ③明赤褐色 | 脚部に透かし、坏部外面へう割り、口縁部横ナデ、内面黒色処理。ミガキ。 | 南西部 | 坏部3/4残存 |
| 33-5 72 | 土器器 高坏 | ②(4.5) | ①細粒の砂を含む。 ②酸化胎 ③褐色 | 脚部に透かし。坏部内面は吸炭による黒色処理。ミガキ。 | 覆土 | 部分 |
| 33-6 72 | 土器器 高坏 | ②(8.0) ②(9.0) | ①細粒の砂を含む。 ②酸化胎 ③褐色 | 脚部外面へう割り。内面ナデ。 | 北西壁寄り | 部分 |
| 33-7 72 | 土器器 鉢 | ①(20.8) ②(7.3) | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化胎 ③灰黄褐色 | 胴部外面へう割り、口縁部横ナデ。内面丁寧なナデ。 | 北西壁寄り | 口縁~胴上半 1/3残存 |
| 33-8 72 | 土器器 甕 | ①18.0 ②(13.5) | ①細粒の砂を含む。 ②酸化胎 ③にぶい黄褐色 | 胴部外面へう割り、口縁部横ナデ。内面ナデ。輪縁みぬ残る。 | P4周辺 | 口縁部1/2欠損 |
| 33-9 72 | 土器器 甕 | ①(17.0) ②(13.6) | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化胎 ③褐色 | 胴部外面へう割り不明確、口縁部横ナデ。内面ナデ。 | 西部 | |
| 33-10 72 | 土器器 甕 | ①14.8 ②(12.6) | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化胎 ③黒褐色 | 胴部外面へう割り、口縁部横ナデ。内面ナデ。 | 北西壁寄り | 口縁~胴上半部 |
| 33-11 72 | 土器器 甕 | ①18.2 ②35.8 ③7.0 | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化胎 ③褐色 | 底面未貫徹、胴部外面へう割り、口縁部横ナデ。内面ナデ。 | P4周辺 | 胴部一部欠損 |
| 33-12 72 | 弥生土器 | 胴部片 | ①細粒の砂を含む。 ②良 ③にぶい褐色 | 縄文胎。底径は14.1。沈線による文様。 | | 中期 |

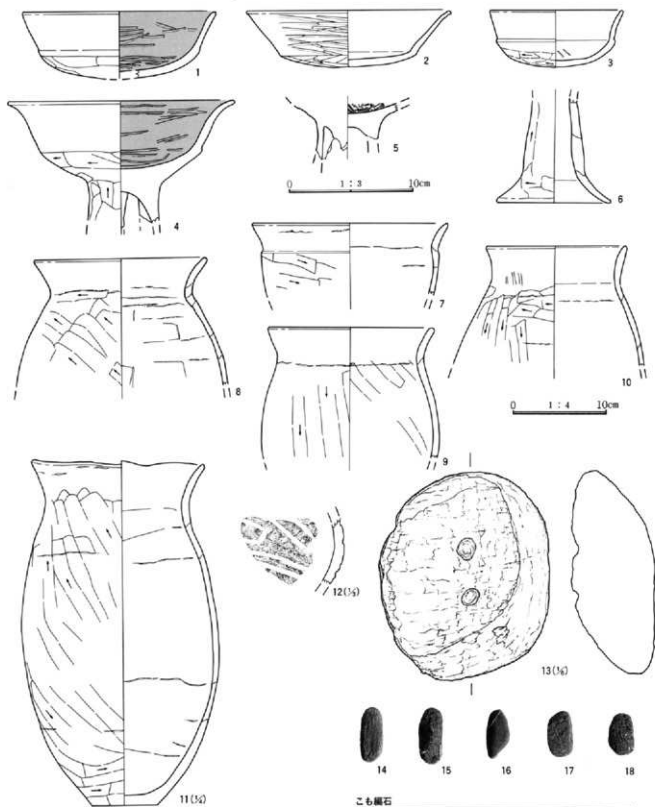
| 図番 PL | 器種 | 遺存状況 | 石 材 | 計測値 (cm・g) | | | 特 徴 | 出土状態 | |
|----------|-----|------|-------|------------|------|-----|------|------------------|-------|
| | | | | 全長 | 幅 | 厚 | | | |
| 33-13-72 | 多孔石 | 完形 | 明雲母片岩 | 21.6 | 17.8 | 8.6 | 4690 | 片面に2個の凹み穴が認められる。 | 覆土 縄文 |

〔2〕A区検出の遺構と遺物



第32図 A区6号住居跡

第3章 竹沼(A-D区)遺跡の調査



第33図 A区6号住居跡出土遺物

こも礫石

| 図番 | 石 材 | 計測値 (cm・g) | | | 重量 |
|-------|------|------------|-----|-----|------|
| | | 全長 | 幅 | 厚 | |
| 33-14 | 燧岩片石 | 16.5 | 7.0 | 3.5 | 607 |
| 33-15 | 燧岩片石 | 17.5 | 7.5 | 6.8 | 1170 |
| 33-16 | 輝石 | 15.0 | 7.0 | 4.8 | 780 |
| 33-17 | 燧岩片石 | 13.8 | 7.0 | 4.0 | 600 |
| 33-18 | 燧岩片石 | 13.5 | 7.5 | 5.0 | 710 |

A区7号住居跡 (第34・35図, PL.23・24・72)

位置 Mq-30、Mr-29・30グリッドにかけて検出された。A区5号住居跡の北約1mの所に位置している。

形状 完掘できなかったが、現状では長辺4.7m、短辺2.7mを呈している。

方位 N-16°-E。

覆土 ローム層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は10(1~7・a-c)層に分かれた。覆土には炭化物や焼土が全体的に含まれていた。a-c層は掘り方覆土である。

壁高 住居跡確認面より約10~30cmで床面に達する。床面からはほぼ垂直に立ち上がる。

床面 貼床でほぼ平坦である。現状での面積は約10.8㎡。

掘り方 全体的に凹凸が顕著である。

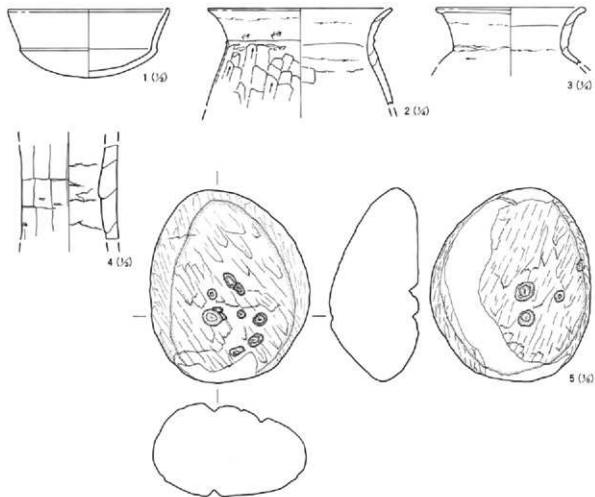
周溝 南東コーナが途切れているが、幅約3~8cm、深さ約10cmを測る。

竈 北壁中央部に位置しているものである。然焼部は床面に構築され、袖部は約100cm残存している。規模は煙道方向100cm、両袖方向100cmである。住居内部にロームを馬蹄形に掘り残し、6・7層を貼って袖を構築している。袖石1点残存。屋外には僅かに煙道が残る。

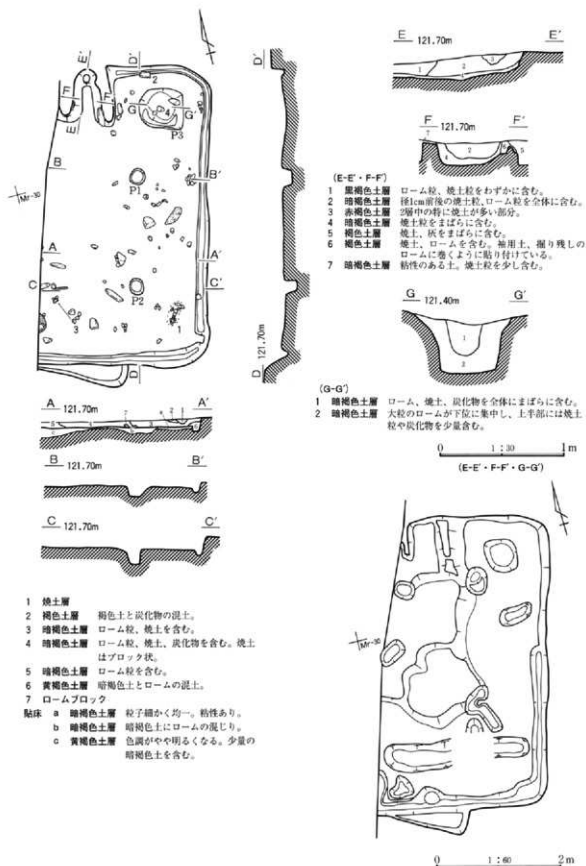
柱穴 柱穴が2個検出された。P1の深さは16cm、P2は深さ24cmである。

貯蔵穴 床面北東隅から検出された。P3は長径76cm、短径62cm、深さ46cmである。覆土は2層に分かれた。

遺物 床面南部から土師器の坏や甕が少量出土し



第34図 A区7号住居跡出土遺物



第35図 A区7号住居跡

A区7号住居跡

| 図番 PL | 土器種類 器 種 | 法 量 (cm) ①口径②器高③底径 | ①胎土 ②焼成 ③色調 | 成・整形技法の特徴 | 出土状態 | 残存状況 備 考 |
|------------|-------------|-----------------------|------------------------------|----------------------------|------|-------------|
| | | | | | | |
| 34-1 72 | 土師器 坏 | ①12.8 ②6.4 | ①細粒の砂、赤色泥物粒を含む。 ②酸化焙 ③棕色 | 底面へう削り不明瞭、口縁部横ナデ。内 面ナデ。 | 南東部 | 1/2残存 |
| 34-2 72 | 土師器 壺 | ①(19.3) ②(10.2) | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焙 ③鈍い黄褐色 | 胴部外面へう削り、口縁部横ナデ。内面 ナデ。 | 北東寄り | 口縁部1/2残存 |
| 34-3 72 | 土師器 壺 | ①(15.5) ②(6.0) | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焙 ③明褐色 | 胴部外面へう削り、口縁部横ナデ。内面 ナデ。 | 南部 | 口縁部1/3残存 |
| 34-4 72 | 形象埴輪 太刀 | 長さ：(7.5) 幅：7.7 | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化焙 ③棕色 | | 覆土 | 部分 |

| 図番 PL | 器 種 | 遺存状況 | 石 材 | 計測値 (cm・g) | | | 特 徴 | 出土状態 | |
|----------|-----|------|-------------|------------|------|-----|------|------------------------------|--------------|
| | | | | 全長 | 幅 | 厚 | | | |
| 34-5-72 | 多孔石 | 完形 | 前吉母石黒片 岩 | 20.4 | 17.0 | 9.7 | 4350 | 両面に計12個の凹み穴が認められる。焼けて いる。 | 覆土 横立 いる。 |

ている。

時 期 出土遺物から判断すると、当住居跡は6世紀前半の段階に相当する。

A区8号住居跡 (第36・37図、PL.25・72・73)

位 置 Mp-30・31、Mq-30・31グリッドにかけて検出された。A区10号住居跡によって北西部を壊され、A区7号住居跡の北東約50cmの所に位置している。

形 状 完掘できなかったために、現状では長辺4.7m、短辺4.6mを測る。

方 位 N-55°-E。

覆 土 ローム層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は5(1・2・a-c)層に分かれた。a-c層は掘り方覆土である。

壁 高 住居跡確認面より約10cmで床面に達する。床面からはほぼ垂直に立ち上がる。

床 面 貼床ではほぼ平坦である。現状での面積は約12.7㎡。床面に焼土の堆積が一部認められた。

掘り方 住居南東部で凹凸がやや顕著である。また、

床面中央部に床下土坑が存在していた。規模は長径140cm、短径85cm、深さ約40cmを測る。

周 溝 検出できなかった。

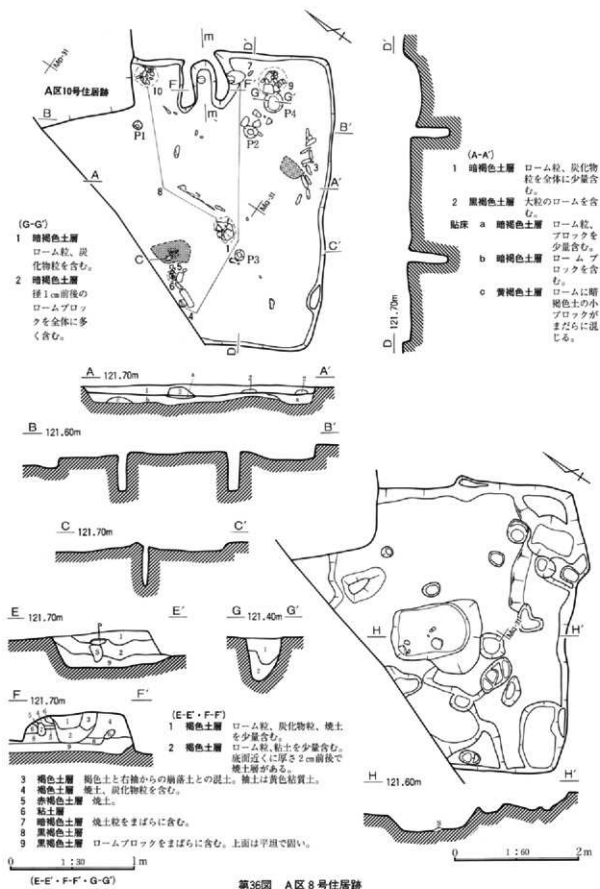
竈 北東壁中央部に位置しているものと考えられる。焼焼部を住居内に持ち袖を有する。袖部は約90cm残存している。袖の構造は、6層の灰白色粘土と7層の暗褐色土の混土を用いて馬蹄形にめぐらす。中に土器片や大粒の焼土を含むことから作り替えも考えられる。また、焼焼部には支石が残存していた。規模は煙道方向100cm、両袖方向100cmである。

柱 穴 3個の柱穴が検出された。P1は深さ58cm、P2深さ60cm、P3深さ63cmである。

貯蔵穴 床面東隅から検出された。P4は長径38cm、短径36cm、深さ46cmである。覆土は2層に分かれた。

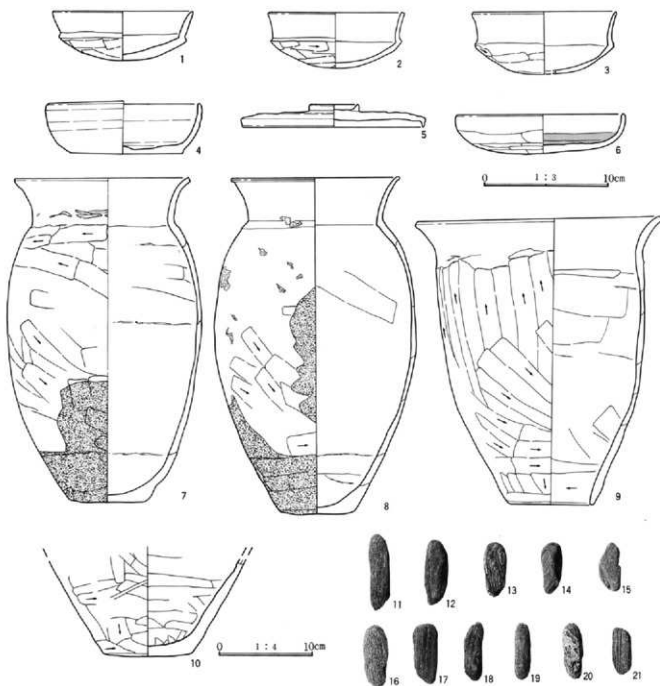
遺 物 竈袖脇から土師器壺が出土し、貯蔵穴周辺からは甕が出土している。また、南東壁中央部からも縄石が検出された。

時 期 出土遺物から判断すると、当住居跡は6世紀前半の段階に相当する。



第36図 A区8号住居跡

〔2〕A区検出の遺構と遺物



こも編石

| 図番 | 石 材 | 計測値 (cm・g) | | | |
|-------|---------|------------|-----|-----|-----|
| | | 全長 | 幅 | 重量 | |
| 37-11 | 網蓋母石巻片岩 | 23.0 | 6.5 | 3.5 | 870 |
| 37-12 | 緑簾緑泥片岩 | 30.8 | 7.2 | 4.0 | 920 |
| 37-13 | 網蓋母石巻片岩 | 16.3 | 7.1 | 3.2 | 500 |
| 37-14 | 緑簾緑泥片岩 | 16.0 | 6.8 | 4.2 | 580 |
| 37-15 | 緑泥片岩 | 14.9 | 6.7 | 3.2 | 520 |
| 37-16 | 網蓋母石巻片岩 | 18.7 | 7.9 | 3.3 | 760 |

| 図番 | 石 材 | 計測値 (cm・g) | | | |
|-------|---------|------------|-----|-----|------|
| | | 全長 | 幅 | 厚 | 重量 |
| 37-17 | 網蓋母石巻片岩 | 19.0 | 7.5 | 4.8 | 1000 |
| 37-18 | 網蓋母石巻片岩 | 18.0 | 6.5 | 3.5 | 600 |
| 37-19 | 網蓋母石巻片岩 | 17.0 | 5.1 | 3.1 | 472 |
| 37-20 | 石英片岩 | 17.0 | 5.0 | 4.0 | 580 |
| 37-21 | 網蓋母石巻片岩 | 14.3 | 6.0 | 2.0 | 300 |

第37図 A区6号住居跡出土遺物

第3章 竹沼(A-D区)遺跡の調査

A区8号住居跡

| 図番 PL | 土器種別 器 種 | 法 量 (cm) ①口径②高さ③底径 | ①胎土 ②焼成 ③色調 | 成・整形技法の特徴 | 出土状態 | 残存状況 備 考 |
|-------------|-------------|-----------------------|--------------------------------|-------------------------------|-------|------------------|
| 37-1 72 | 土師器 坏 | ①(11.2) ②3.9 | ①細粒の砂、赤色鉱物粒を含む。 ②酸化焰 ③明黄褐色 | 底面へう割り、口縁部横ナデ、内面ナデ。 | P3周辺 | 1/2残存 |
| 37-2 72 | 土師器 坏 | ①(10.9) ②4.4 | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焰 ③橙色 | 底面へう割り、口縁部横ナデ、内面ナデ。 | 覆土 | 1/3残存 |
| 37-3 72 | 土師器 坏 | ①(11.6) ②(4.9) | ①細粒の砂、赤色鉱物粒を含む。 ②酸化焰 ③橙色 | 底面へう割り、口縁部横ナデ、内面ナデ。 | 南壁寄り | 1/3残存 |
| 37-4 72 | 須恵器 坏 | ①12.3 ②4.2 ③8.9 | ①粗 片岩粒を含む。 ②還元焰 ③灰青色 | 右回転ロクロ整形。 底面回転へう割り。 | 西部 | 完形 |
| 37-5 72 | 須恵器 蓋 | 横み3.8 ②1.9 ③(14.4) | ①細、白色鉱物粒を含む。 ②還元焰 ③灰黄色 | 右回転ロクロ整形。 | 西部 | 3/4残存 |
| 37-6 72 | 土師器 坏 | ①13.3 ②3.1 | ①細粒の砂を含む。 ②還元焰 ③にぶい黄色 | 底面へう割り、口縁部横ナデ。内面吸込による黒色処理。 | 西部 | 口縁部一部欠損 |
| 37-7 73 | 土師器 甕 | ①18.3 ②34.2 ③8.4 | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②還元焰 ③橙色 | 底面・胴部外面へう割り、口縁部横ナデ、内面ナデ。 | カマド周辺 | 口縁部一部欠損 炭化物付着 |
| 37-8 73 | 土師器 甕 | ①18.0 ②35.6 ③8.2 | ①細粒の砂を含む。 ②還元焰 ③橙色 | 底面ナデ、胴部外面へう割り、口縁部横ナデ。内面丁寧なナデ。 | 中央部 | 胴部一部欠損 炭化物付着 |
| 37-9 73 | 土師器 甕 | ①(26.0) ②29.8 ③8.8 | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②還元焰 ③にぶい橙色 | 胴部外面へう割り、口縁部横ナデ、内面ナデ。 | P4周辺 | 口縁部一部欠損 |
| 37-10 73 | 土師器 甕 | ①(19.9)②9.0 | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②還元焰 ③にぶい褐色 | 底面ナデ、胴部外面へう割り、内面ナデ。 | 北西壁寄り | 底部 |

A区9号住居跡 (第38~41図、PL.26・73)

位 置 Mo-31・32グリッドにかけて検出された。

A区10号住居跡を壊し、A区11号住居跡と扱っている。

形 状 長辺3.4m、短辺2.5mの長方形を呈している。

方 位 不明。

覆 土 ローム層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約20~38cmで床面に達する。床面からはほぼ垂直に立ち上がる。

床 面 貼床でやや凹凸がある。現状での面積は約

5.7m²。

掘り方 全体的に凹凸が顕著である。

周 溝 現状では全周している。幅約2~6cm、深さ5~16cmを測る。北壁下の周溝が深い。

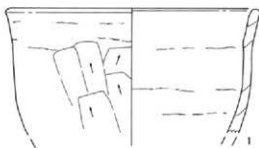
電 検出できなかった。

柱 穴 2個のビットが検出された。P1は深さ8cm、P2深さ4cmである。柱穴になるかどうかは判断つかない。

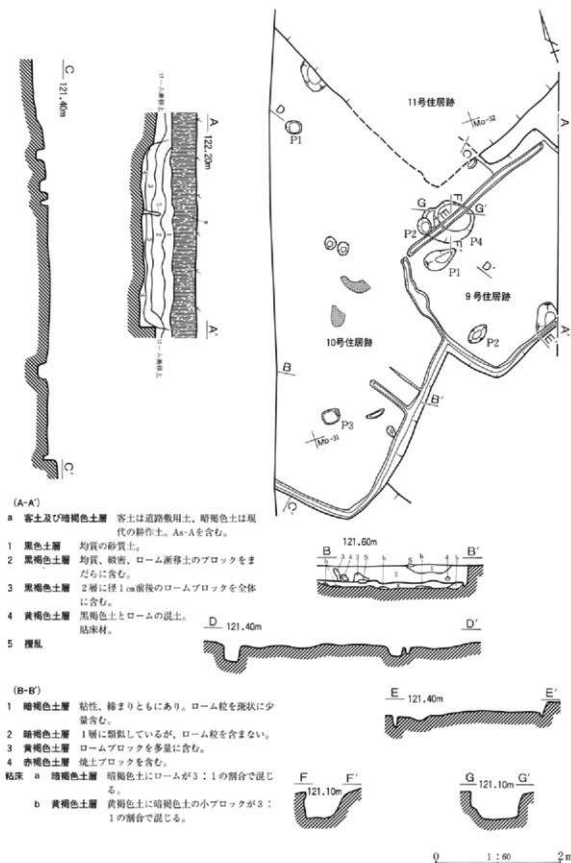
貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 覆土からは少量の遺物が出土しているだけである。

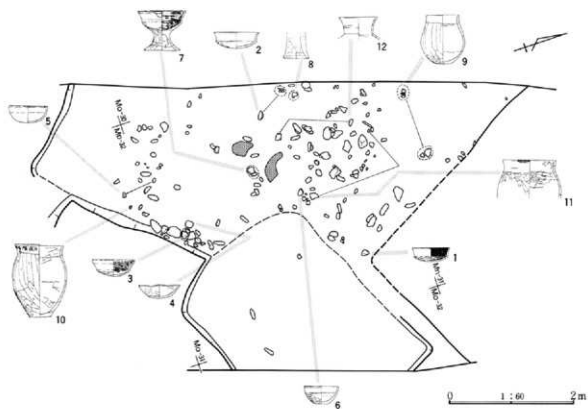
時 期 6世紀代。



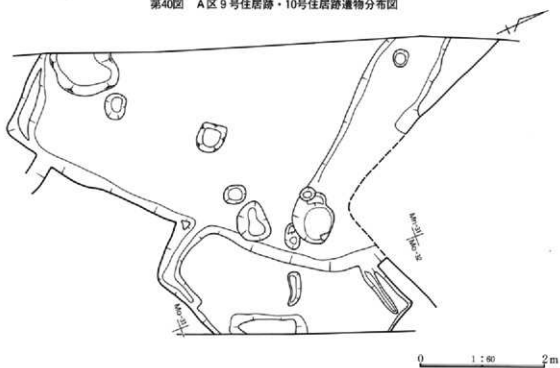
第38図 A区9号住居跡出土遺物



第39図 A区9号住居跡・10号住居跡

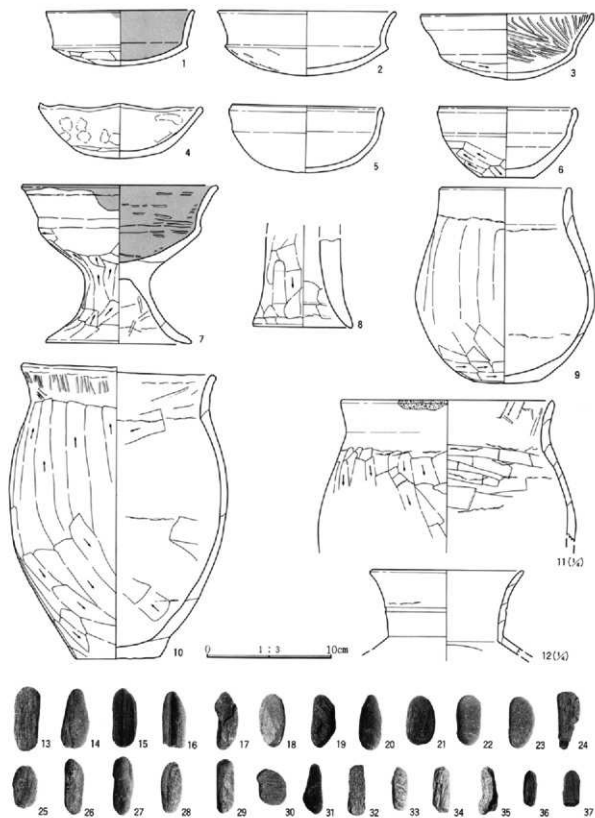


第40図 A区9号住居跡・10号住居跡遺物分布図



第41図 A区9号住居跡・10号住居跡掘り方

〔2〕A区検出の遺構と遺物



第42図 A区10号住居跡出土遺物

第3章 竹沼(A-D区)遺跡の調査

A区10号住居跡(第39~42図、PL.27・73)

位置 Ma-31、Mo-30・31、Mp-30・31グリッドにかけて検出された。A区9号住居跡・11号住居跡と重複している。

形状 完掘できなかったが、現状では長辺6.2m、短辺4.3mである。

方位 不明。

覆土 ローム層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は6(1~4・a・b)層に分かれた。a・b層は掘り方覆土である。

壁高 住居跡確認面より約21~26cmで床面に達する。床面から垂直に立ち上がる。

床面 やや凹凸が認められる。現状での面積は約15.6㎡。

掘り方 床面全体に凹凸が認められる。

周溝 部分的に検出された。幅5~10cm、深さ8cmである。南東壁に認められる周堀の変化は出入り口部に該当するものである。

竈 床面に地床炉が認められた。

柱穴 3個の柱穴が検出された。P1の深さは28cm、P2深さ12cm、P3深さ28cmである。

貯蔵穴 床面北東部から検出された。長径80cm、短径60cm、深さ40cmである。9号住居跡の床面下から検出された。

遺物 土師器の坏や甕が出土し、こも稲石が南東壁下、出入り口部周辺から出土している。

時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は6世紀前半の段階に相当する。

A区9号住居跡

| 図番 PL | 土器種別 器種 | 法量(m) ①口径②器高③底径 | ①胎土 ②焼成 ③色調 | 成・整形技法の特徴 | 出土状態 | 残存状況 備考 |
|------------|------------|--------------------|------------------------------|-------------------------------|------|------------|
| 38-1 73 | 土師器 甕 | ①(29.0) ②(9.7) | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焰 ③にぶい褐色 | 胴部外面ヘラ削り。口縁部横ナデ。輪積みみ残れる。内面ナデ。 | 覆土 | 破片 |

A区10号住居跡

| 図番 PL | 土器種別 器種 | 法量(m) ①口径②器高③底径 | ①胎土 ②焼成 ③色調 | 成・整形技法の特徴 | 出土状態 | 残存状況 備考 |
|-------------|------------|--------------------------|--------------------------------|-------------------------------------|-------|---------------------|
| 42-1 73 | 土師器 坏 | ①11.6 ②4.4 | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焰 ③褐色 | 底面ヘラ削り。口縁部横ナデ。内面ナデ。吸灰による黒色処理。 | 東部 | 完形 |
| 42-2 73 | 土師器 坏 | ①(14.0) ②5.0 | ①細粒の砂、赤色鉱物粒を含む。 ②酸化焰 ③褐色 | 底面ヘラ削り。磨滅。口縁部横ナデ。内面丁寧なナデ。 | 中央部 | 1/2残存 |
| 42-3 73 | 土師器 坏 | ①13.4 ②5.2 | ①細粒の砂、赤色鉱物粒を含む。 ②酸化焰 ③明赤褐色 | 底面ヘラ削り。口縁部横ナデ。内面ヘラ磨き。 | 南東壁寄り | 3/4残存 |
| 42-4 73 | 土師器 坏 | ①(12.8) ②4.3 | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焰 ③褐色 | 底面ヘラ削り。体部ナデ。内面ナデ。ヘラの工具痕。 | 南東壁寄り | 2/3残存 口縁部はやや破状 |
| 42-5 73 | 土師器 坏 | ①(12.0) ②5.2 | ①細粒の砂、白色鉱物を含む。 ②酸化焰 ③にぶい黄褐色 | 底面ヘラ削り。体部ナデ。口縁部横ナデ。内面丁寧なナデ。 | 南東壁寄り | 1/2残存 |
| 42-6 73 | 土師器 坏 | ①10.4 ②5.6 ③4.4 | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焰 ③褐色 | 底面・体部外面ヘラ削り。口縁部横ナデ。内面ナデ。 | 東部 | 2/3残存 |
| 42-7 73 | 土師器 高坏 | ①(15.4) ②12.5 ③11.5 | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焰 ③にぶい黄褐色 | 胴部外面ヘラ削り。内面ヘラ削り。ナデ。坏部底面ヘラ削り。口縁部横ナデ。 | 中央部 | 坏部1/3欠損 内面吸灰による黒色処理 |
| 42-8 73 | 土師器 高坏 | ②(7.0) ③(6.0) | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焰 ③明褐色 | 胴部外面ヘラ削り。 | 中央部 | 胴部1/2 引口に転用 |
| 42-9 73 | 土師器 小型甕 | ①(10.4) ②(5.1) ③(6.0) | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焰 ③褐色 | 底面・胴部外面ヘラ削り。口縁部横ナデ。外面割落。内面ナデ。 | 北部 | 1/2残存 |
| 42-10 73 | 土師器 小型甕 | ①(15.0) ②3.0 ③6.5 | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焰 ③にぶい黄褐色 | 底面ナデ。胴部外面ヘラ削り。内面ナデ。 | 南東壁寄り | 口縁から同上半部欠損 |
| 42-11 73 | 土師器 甕 | ①(22.4) ②(15.0) | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焰 ③褐色 | 胴部外面ヘラ削り。口縁部横ナデ。内面ナデ。 | 東部 | 口縁部1/3残存 |
| 42-12 73 | 土師器 甕 | ①(16.0) ②(8.7) | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焰 ③褐色 | 口縁部横ナデ。一糸の沈積。内面ナデ。 | 中央部 | 口縁部1/3残存 |

[2] A区検出の遺構と遺物

こも編石

| 図番 | 石 材 | 計測値 (cm・g) | | | |
|-------|----------|------------|-----|-----|------|
| | | 全長 | 幅 | 厚 | 重量 |
| 42-13 | 網芸母石製片 | 19.5 | 7.7 | 4.0 | 950 |
| 43-14 | 穴状編石片 | 18.0 | 8.2 | 4.6 | 1070 |
| 42-15 | 編芸母石製片 | 18.0 | 7.5 | 2.5 | 470 |
| 42-16 | 穴状編芸母石製片 | 16.8 | 7.4 | 4.0 | 790 |
| 42-17 | 石製編石片 | 12.3 | 7.0 | 4.0 | 790 |
| 42-18 | 網芸母石製片 | 16.0 | 8.0 | 3.2 | 640 |
| 42-19 | 網芸母石製片 | 16.5 | 7.0 | 5.8 | 870 |
| 42-20 | 磨石 | 17.2 | 7.0 | 5.3 | 925 |
| 42-21 | 網芸母石製片 | 14.8 | 8.6 | 3.3 | 660 |
| 42-22 | 磨石 | 15.5 | 7.5 | 3.5 | 700 |
| 42-23 | 網芸母石製片 | 15.7 | 7.8 | 3.0 | 570 |
| 42-24 | 穴状編芸母石製片 | 17.5 | 6.5 | 2.5 | 370 |
| 42-25 | 網芸母石製片 | 15.0 | 7.5 | 3.2 | 490 |

A区11号住居跡 (第43~45図, PL.28・29・74)

位 置 Mm-31・32、Mn-31・32、Mo-31グリッドにかけて検出された。A区10号住居跡によって壊されている。

形 状 完掘できなかったが、現状では長辺6m、短辺5.7mである。ほぼ正方形を呈するものと考えられる。

方 位 不明。

覆 土 ローム層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は6(3~8)層に分かれた。8層は掘り方覆土である。

壁 高 住居跡確認面より約40~50cmで床面に達する。床面から垂直に立ち上がる。

床 面 やや凹凸が認められる。現状での面積は約32.7㎡。

| 図番 | 石 材 | 計測値 (cm・g) | | | |
|-------|---------|------------|-----|-----|------|
| | | 全長 | 幅 | 厚 | 重量 |
| 42-26 | 緑塗母石片 | 17.0 | 6.4 | 4.5 | 600 |
| 42-27 | 磨石 | 17.4 | 6.8 | 5.5 | 1060 |
| 42-28 | 網芸母石片 | 15.5 | 6.0 | 4.3 | 560 |
| 42-29 | 網芸母石片 | 16.0 | 5.5 | 4.7 | 720 |
| 42-30 | 網芸母石片 | 11.4 | 8.6 | 2.5 | 400 |
| 42-31 | 磨石 | 17.2 | 7.0 | 5.3 | 920 |
| 42-32 | 穴状編芸母石片 | 15.0 | 5.5 | 1.7 | 250 |
| 42-33 | 網芸母石片 | 13.0 | 4.7 | 4.5 | 420 |
| 42-34 | 網芸母石片 | 14.1 | 5.3 | 3.0 | 320 |
| 42-35 | 磨石 | 14.0 | 5.5 | 4.0 | 450 |
| 42-36 | 穴状編芸母石片 | 19.2 | 4.1 | 3.2 | 200 |
| 42-37 | 穴状編芸母石片 | 11.9 | 5.2 | 1.4 | 150 |

掘り方 床面中央部を除いた周辺で凹凸が顕著である。

周 溝 検出できなかった。

竈 検出できなかった。おそらくは北東壁の未発掘区に存在しているのであろう。

柱 穴 3個の柱穴が検出された。P1の深さは31cm、P2深さは44cm、P3深さは47cmである。

貯蔵穴 床面南西隅から検出された。長径56cm、短径48cm、深さ40cmである。

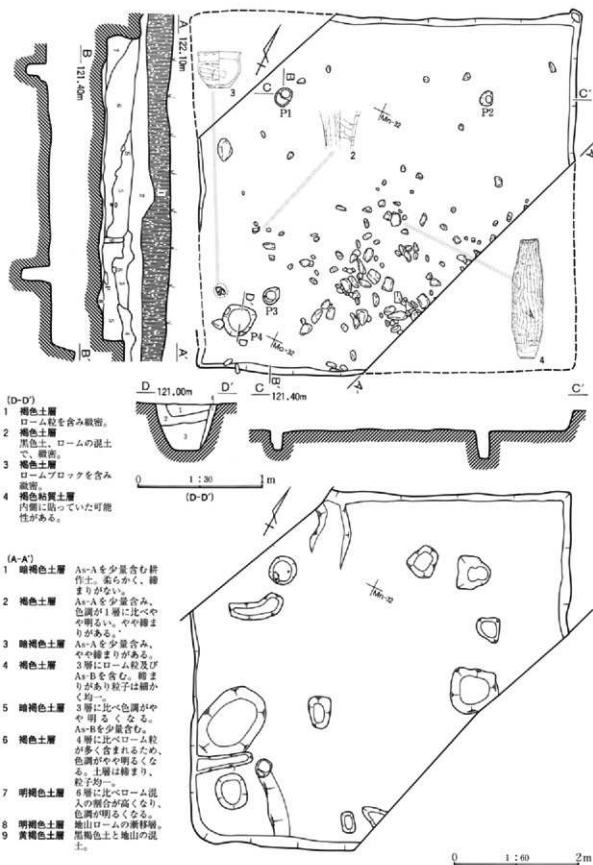
遺 物 住居跡南東部から礫が多量に出土している。また、土師器の坏や甕が出土し、こも編石9点が出土している。筒形土製品は床面中央部と東部から検出された。

時 期 出土遺物から判断すると、当住居跡は6世紀の段階に相当する。

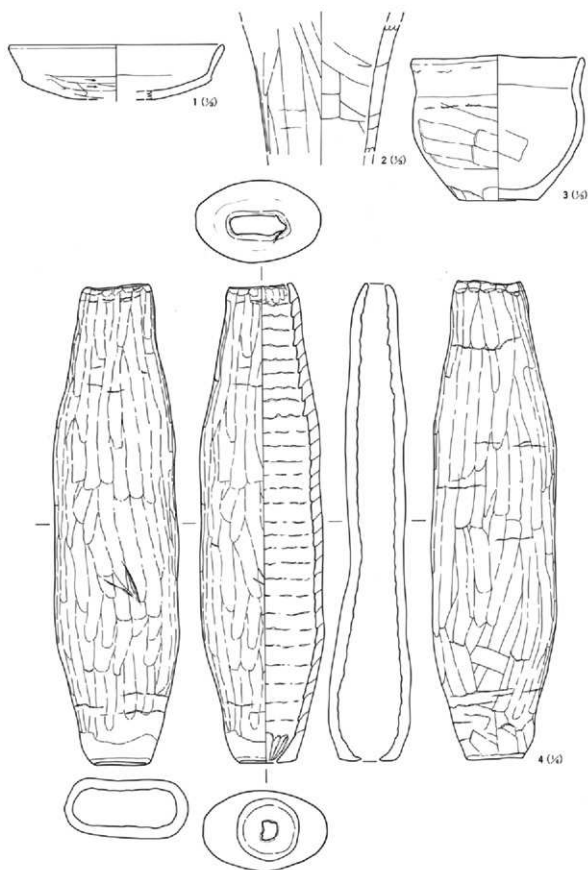
A区11号住居跡

| 図番 PL | 土器種別 器 種 | 法 量 (cm) ①口径②器高③器径 | ①胎土 ②焼成 ③色調 | 成・整形技法の特徴 | 出土状態 | 残存状況 備 考 |
|------------|-------------|-----------------------------|--------------------------------|----------------------------|-----------|-----------------|
| | | | | | | |
| 44-2 74 | 土師器 | 長さ: (10.1) 幅: (8.5~12.5) | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化焰 ③にぶい褐色 | 胴部内外面ナデ。輪積み痕残る。 | 南西部 | 部分 |
| 44-3 74 | 土師器 鉢 | ①(13.4) ②11.5③(6.2) | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焰 ③にぶい赤褐色 | 底面ナデ、胴部外面ヘラ削り。口縁部横ナデ。内面ナデ。 | 南西部寄り | 2/3残存。外面に輪積み痕残る |
| 44-4 74 | 筒形 土製品 | 長さ: 49.8 幅: 13.0 | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焰 ③褐色 | 外面ナデ。 内面に輪積み痕顕著に残る。 | 中央部 東部 | 完形 埋没に使用か |
| 45-5 74 | 土師器 甕 | ①(30.9) ②(24.6) | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焰 ③明褐色 | 胴部外面ヘラ削り。口縁部横ナデ。内面ナデ。 | 覆土 | 口縁一部下半 1/4残存 |
| 45-6 74 | 弥生土器 割部片 | | ①細粒の砂を含む。 ①良 ②にぶい黄褐色 | 沈殿による文様。 | 覆土 | 中期 |

| 図番 PL | 器 種 | 遺存状況 | 石 材 | 計測値 (cm・g) | | | | 特 徴 | 出土状態 |
|----------|-----|------|-----|------------|-----------|-----|------|-------------------|------|
| | | | | 全長 | 幅 | 厚 | 重量 | | |
| 45-7-74 | 砥石 | 定形 | 砂岩 | 16.1 | 7.2 | 3.5 | 630 | 3箇面を使用。 | 覆土 |
| 45-8-74 | 砥石 | 定形 | 砂岩 | 20.6 | 8.3 | 4.6 | 1200 | 4箇面を使用。 | 覆土 |
| 45-9-74 | 紡錘車 | 定形 | 蛇紋岩 | 径 4.4 | 孔径 0.8 | 2.4 | 59.4 | 表面全体に目の細かい削り痕が残る。 | 覆土 |

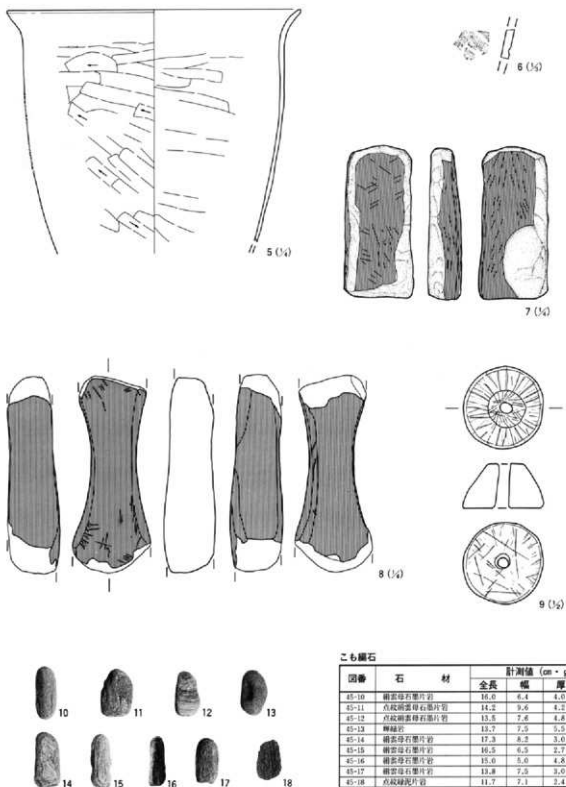


第43図 A区11号住居跡



第44図 A区11号住居跡出土遺物(1)

第3章 竹沼(A-D区)遺跡の調査



こも礫石

| 図番 | 石 材 | 計測値 (cm・g) | | | |
|-------|-----------|------------|-----|-----|-----|
| | | 全長 | 幅 | 厚 | |
| 45-10 | 網罟母石礫片岩 | 16.0 | 6.4 | 4.0 | 600 |
| 45-11 | 点紋網罟母石礫片岩 | 14.2 | 9.6 | 4.2 | 590 |
| 45-12 | 点紋網罟母石礫片岩 | 13.5 | 7.6 | 4.8 | 670 |
| 45-13 | 輝綠岩 | 13.7 | 7.5 | 5.5 | 880 |
| 45-14 | 網罟母石礫片岩 | 17.3 | 8.2 | 3.0 | 700 |
| 45-15 | 網罟母石礫片岩 | 16.5 | 6.5 | 2.7 | 470 |
| 45-16 | 網罟母石礫片岩 | 13.0 | 3.6 | 4.8 | 470 |
| 45-17 | 網罟母石礫片岩 | 13.8 | 7.5 | 3.0 | 490 |
| 45-18 | 点紋輝綠岩片岩 | 11.7 | 7.1 | 2.4 | 300 |

第45図 A区11号住居跡出土遺物(2)

A区12号住居跡 (第46・47図、PL.29・30・74)

位置 MI-31・32、Mm-31・32グリッドにかけて検出された。A区13号住居跡の南西に接している。

形状 完掘できなかったが、現状では長辺3.3m、短辺1.8mである。

方位 不明。

覆土 ローム層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4(3~6)層に分かれた。壁高 住居跡確認面より約35~40cmで床面に達する。床面から垂直に立ち上がる。

床面 やや凹凸が認められる。現状での面積は約

3㎡。

掘り方 壁際で凹凸が顕著である。

周溝 検出できなかった。

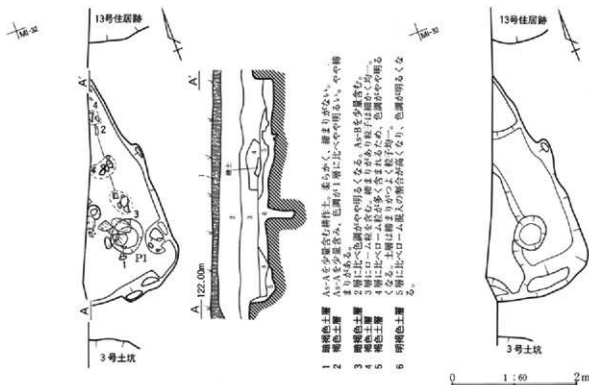
竈 検出できなかった。

柱穴 1個の柱穴が検出された。P1の深さは43cmである。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 土師器の高杯や甕が出土している。

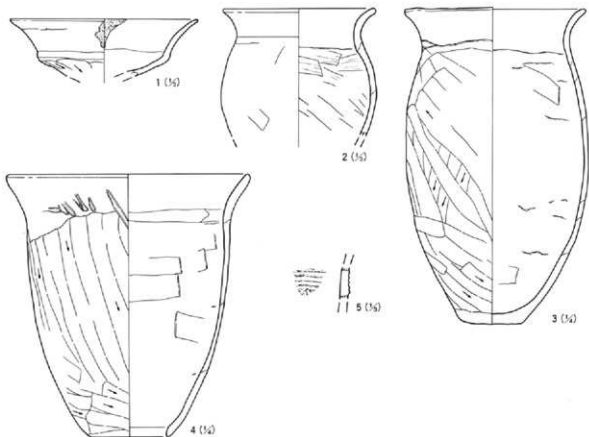
時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は6世紀前半の段階に相当する。



第46図 A区12号住居跡

A区12号住居跡

| 図番 PL | 土師器 種類 | 法量 (cm) ①口径②器高③底径 | ①胎土 ②焼色 ③色調 | 底・整形技法の特徴 | 出土状態 | 残存状況 備考 |
|------------|------------|------------------------|-------------------------------|-----------------------------|------|------------------|
| 47-1 74 | 土師器 高杯 | ①(14.7) ②(4.5) | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焰 ③褐色 | 平底面へう割り、口縁部横ナデ。内面ナデ。 | P1周辺 | 脚部欠損 |
| 47-2 74 | 土師器 小型甕 | ①(12.0) ②(10.0) | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焰 ③にぶい赤褐色 | 胴部へう割り、刻落して不明瞭。口縁部横ナデ。内面ナデ。 | 東壁寄り | 口縁一部1/3 |
| 47-3 74 | 土師器 壺 | ①19.0 ②33.0 ③6.8 | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化焰 ③明赤褐色 | 底面・胴部外面へう割り、口縁部横ナデ。内面丁寧なナデ。 | P1周辺 | 3/4残存 内面に輪轆み痕 |
| 47-4 74 | 土師器 甕 | ①(25.2) ②27.4③(8.1) | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焰 ③褐色 | 胴部外面へう割り、口縁部横ナデ。内面丁寧なナデ。 | 東壁寄り | 1/2残存 |
| 47-5 74 | 弥生土器 | 胴部片 | ①中粒の砂を含む。 ②良 ③灰褐色 | 横走する沈線による文様。 | 覆土 | 中期 |



第47図 A区12号住居跡出土遺物

A区13号住居跡 (第48～54図、PL.31～33・75～78)

位置 Mj-32・33、Mk-32・33、Mi-32・33グリッドにかけて検出された。A区12号住居跡に接している。

形状 完掘できなかったが、現状では長辺5m、短辺4.8mである。方形を呈するものと考えられる。

方位 N-10°-W。

覆土 ローム層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は6(1～3・a～c)層に分かれた。a～c層は掘り方覆土である。

壁高 住居跡確認面より約30～45cmで床面に達する。床面からはほぼ垂直に立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。現状での面積は約14.8㎡。

掘り方 床面南部で凹凸が顕著である。

周溝 東壁下、南壁下で検出された。幅5～8cm、深さ6cmである。

竈 北壁から検出され、燃焼部は床面に構築されている。1/2程調査することができた。袖部約70cmが残存し、両端に袖石が残されている。燃焼部には支石が残されていた。

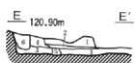
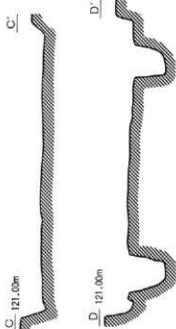
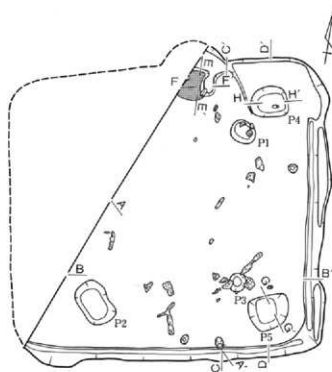
柱穴 3個の柱穴が検出された。P1の深さは43cm、P2深さ33cm、P3深さ22cmである。P1・P2周辺からは炭化材が検出された。

貯蔵穴 床面北東隅と南東隅の2箇所で見出された。P4が新しい。P4は長径60cm、短径48cm、深さ46cmである。P5は長径64cm、短径54cm、深さ100cmである。

遺物 土師器の坏や甕が多量に出土している。とりわけ坏は竈南部と貯蔵穴周辺や東壁下から、甕は床面中央部西よりから出土している。

時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は6世紀前半の段階に相当する。

〔2〕A区検出の遺構と遺物



- (A-A')
- 1 暗褐色土層 As-Bを少量含む。粘性、締まりある。
 - 2 暗褐色土層 1層に類似。ローム粒を所々に含む。
 - 3 黄褐色土層 2層にロームブロックを含む。色調がやや明るくなる。
- 粘珠
- a 暗褐色土層 ローム粒、粘土粒を少量含む。
 - b 黄褐色土層 ローム粒を含む。
 - c 黄褐色土層 ローム粒を含む。色調はbよりも明るい。

- カマド (E-E'・F-F')
- 1 褐色土層 径5-10mm大の焼土を多く含む。
 - 2 粘土層
 - 3 黄褐色土層 黒色土とロームの混土。(掘り方)
 - 4 暗褐色土層 焼土、ローム粒をまばらに含む。
 - 5 褐色土層 粘性があり、焼土をわずかに含む。
 - 6 青灰色粘土層 雑土。

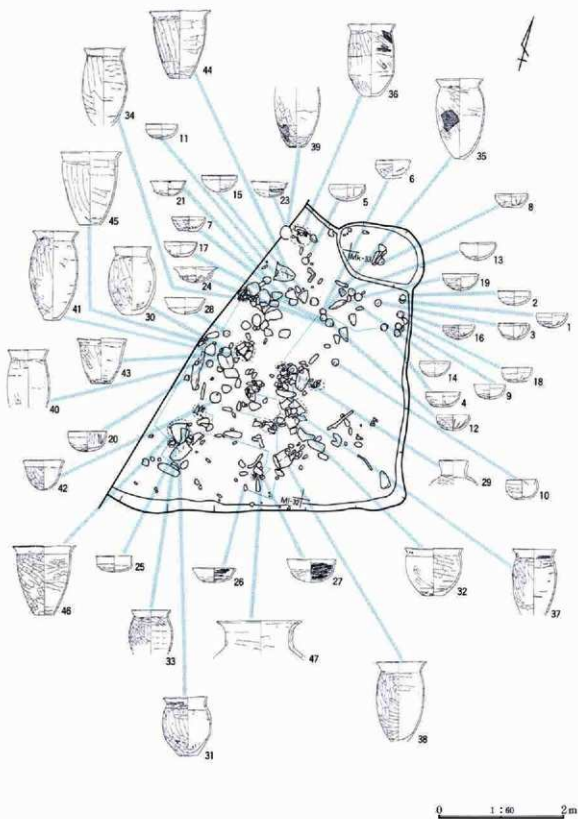
- 貯蔵穴 (G-G')
- 1 暗褐色土層 ローム粒、焼土を少量含む。
 - 2 暗褐色土層 ローム粒を少量含む。
 - 3 暗褐色土層 ローム粒、小石を含み、下位にはロームブロック混入。

- 貯蔵穴 (H-H')
- 1 暗褐色土層 ローム、炭化物粒を少量含む。
 - 2 暗褐色土層 径1cm前後のロームブロックをまばらに含む。
 - 3 黄褐色土層 暗褐色土とロームブロックとの混土。

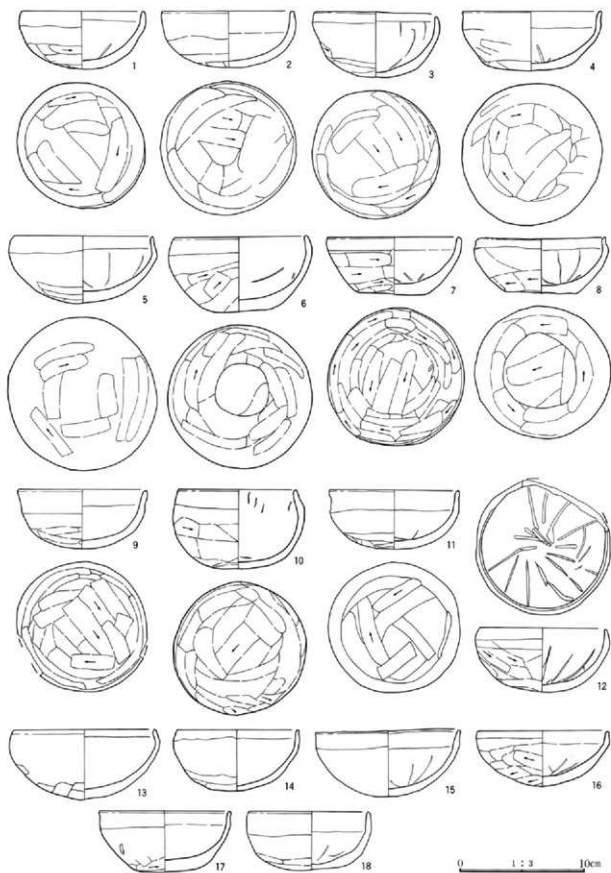
0 1:30 1m
(E-E'~H-H')

0 1:60 2m

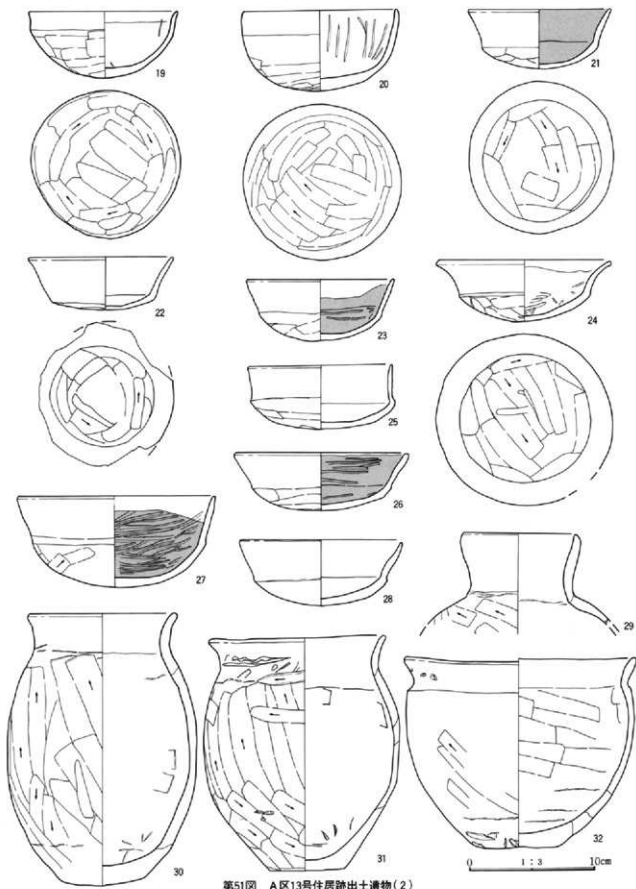
第48図 A区13号住居跡



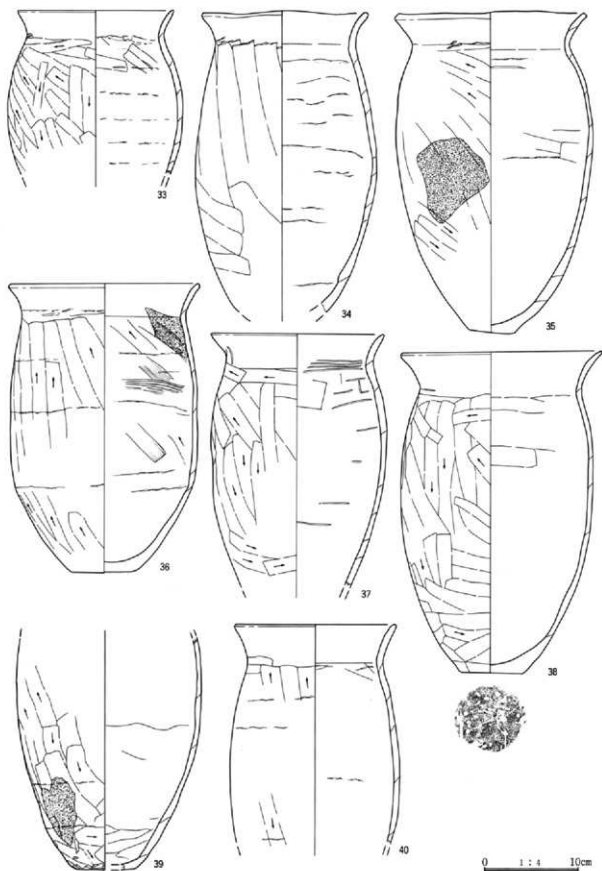
第49図 A区13号住居跡遺物分布図



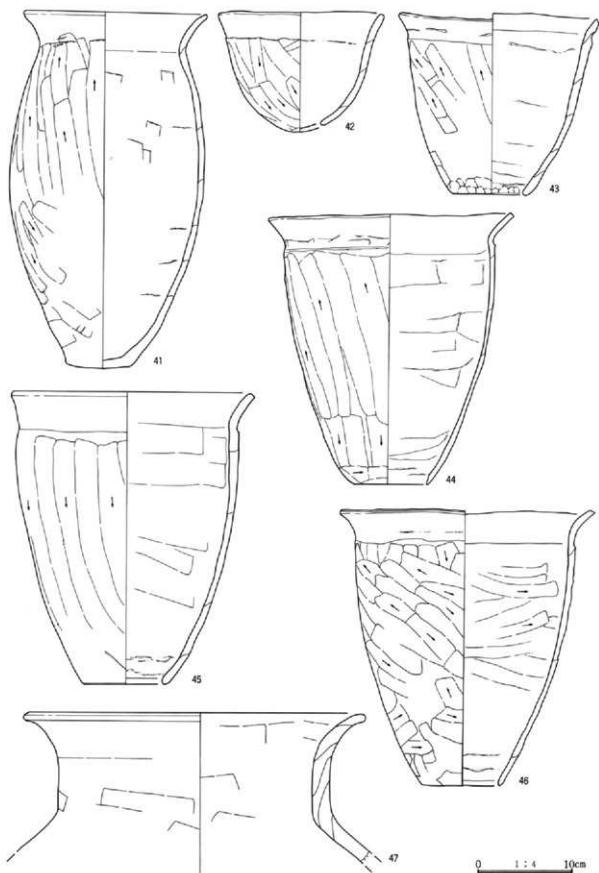
第50図 A区13号住居跡出土遺物(1)



第51図 A区13号住居跡出土遺物(2)

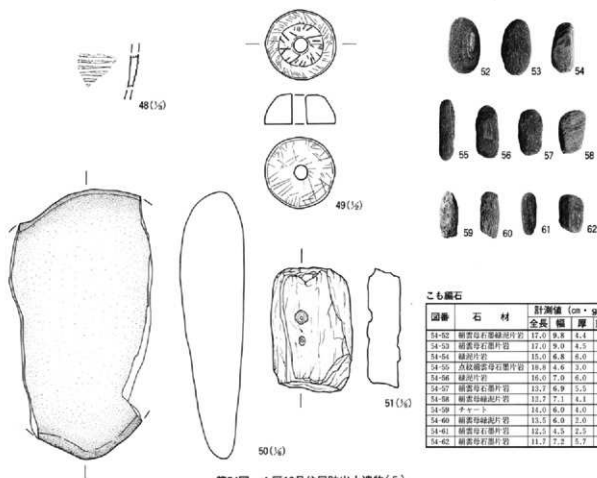


第52図 A区13号住居跡出土遺物(3)



第53図 A区13号住居跡出土遺物(4)

[2] A区検出の遺構と遺物



こも願石

| 図番 | 石 材 | 計測値 (cm・g) | | |
|-------|----------|------------|-----|----------|
| | | 全長 | 幅 | 重量 |
| 54-52 | 胡堂母石磨片 | 17.0 | 9.8 | 4.4 1061 |
| 54-53 | 胡堂母石磨片 | 17.0 | 9.0 | 4.5 900 |
| 54-54 | 緑泥片岩 | 15.0 | 6.8 | 6.0 1000 |
| 54-55 | 点紋面岩母石磨片 | 19.8 | 4.6 | 3.0 350 |
| 54-56 | 緑泥片岩 | 16.0 | 7.0 | 6.0 995 |
| 54-57 | 胡堂母石磨片 | 13.7 | 6.9 | 3.5 890 |
| 54-58 | 胡堂母石磨片 | 13.7 | 7.3 | 4.1 625 |
| 54-59 | ナマコ | 14.0 | 6.0 | 4.0 673 |
| 54-60 | 胡堂母石磨片 | 13.5 | 6.0 | 2.0 230 |
| 54-61 | 胡堂母石磨片 | 12.5 | 4.5 | 2.3 210 |
| 54-62 | 胡堂母石磨片 | 11.7 | 7.2 | 5.7 230 |

第54図 A区13号住居跡出土遺物(5)

A区13号住居跡

| 図番 PL | 土器種別 器 種 | 法 量 (cm) | | ①胎土 ②焼成 ③色調 | 成・整形技法の特徴 | 出土状態 | 残存状 備 考 |
|----------|-------------|--------------------|-----|---------------------------------|---------------------------------------|------|------------|
| | | ①口径 | ②高さ | | | | |
| 50-1 | 土師器 75 坏 | ①9.7 ②4.6 | | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焼 ③灰オリーブ色 | 底面ヘラ削り、体部ナデ、口縁部横ナデ、 内面ナデ、ヘラの工具痕。 | 東壁寄り | 完形 |
| 50-2 | 土師器 75 坏 | ①10.3 ②4.3 | | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焼 ③灰白色 | 底面ヘラ削り、体部ナデ、口縁部横ナデ、 内面ナデ、ヘラの工具痕。 | 東壁寄り | ほぼ完形 |
| 50-3 | 土師器 75 坏 | ①9.9 ②6.2 | | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焼 ③灰白色 | 底面ヘラ削り、体部ナデ、口縁部横ナデ、 内面ナデ、ヘラの工具痕。 | 北東部 | 完形 |
| 50-4 | 土師器 75 坏 | ①11.0 ②4.7 | | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焼 ③にぶい黄褐色 | 底面ヘラ削り、体部ナデ、口縁部横ナデ、 内面ナデ、ヘラの工具痕。 | 東壁寄り | 完形 |
| 50-5 | 土師器 75 坏 | ①10.8 ②5.3 | | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化焼 ③にぶい黄褐色 | 底面ヘラ削り、体部ナデ、口縁部横ナデ、 内面ナデ、ヘラの工具痕。 | 北部 | 完形 |
| 50-6 | 土師器 75 坏 | ①10.8 ②5.9 ③4.4 | | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焼 ③にぶい黄褐色 | 底面ヘラ削り、体部ナデ、口縁部横ナデ、 内面ナデ、ヘラの工具痕。 | 北東部 | 完形 |
| 50-7 | 土師器 75 坏 | ①10.5 ②4.6 | | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焼 ③灰色 | 底面・体部ヘラ削り、口縁部横ナデ、内 面ナデ、ヘラの工具痕。 | 北部 | 完形 |
| 50-8 | 土師器 75 坏 | ①10.0 ②4.3 ③5.6 | | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化焼 ③灰黄褐色 | 底面ヘラ削り、体部ヘラ削り、口縁部横 ナデ、内面ナデ、ヘラの工具痕。 | 貯蔵穴 | 完形 |
| 50-9 | 土師器 75 坏 | ①10.0 ②4.6 | | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焼 ③浅黄褐色 | 底面ヘラ削り、体部ナデ、口縁部横ナデ、 内面ナデ、ヘラの工具痕。 | 東壁寄り | 完形 |
| 50-10 | 土師器 75 坏 | ①9.1 ②6.2 | | ①粗粒の砂、片岩粒を多量に含む。 ②酸化焼 ③赤色 | 底面ヘラ削り、体部ナデ、口縁部横ナデ、 内面ナデ、ヘラの工具痕。 | 東部 | 完形 |
| 50-11 | 土師器 75 坏 | ①10.2 ②4.6 | | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焼 ③にぶい黄褐色 | 底面ヘラ削り、体部ナデ、口縁部横ナデ、 内面ナデ、ヘラの工具痕。 | 北部 | 完形 |
| 50-12 | 土師器 75 坏 | ①10.0 ②5.1 | | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化焼 ③にぶい黄褐色 | 底面ヘラ削り、体部ナデ、口縁部横ナデ、 内面ナデ、ヘラの工具痕。 | 北東部 | 口縁部一部欠損 |

第3章 竹沼(A-D区)遺跡の調査

| 調査 PL | 土器種別 器 種 | 法 量 (cm) ①口径②器高③底径 | ①胎土 ②焼成 ③色調 | 成・整形技法の特徴 | 出土状態 | 残存状況 備 考 |
|----------|-------------|--------------------------|--------------------------------|---|------|--------------------|
| 50-13 | 土師器 75 | ①11.3 ②5.5 | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焰 ③にぶい黄褐色 | 底面へう割り、体部ナデ、口縁部横ナデ、 内面ナデ、へうの工具痕。 | P1 | 完形 |
| 50-14 | 土師器 75 | ①9.7 ②4.8 | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焰 ③にぶい黄褐色 | 底面へう割り、体部ナデ、口縁部横ナデ、 内面ナデ、へうの工具痕。 | P1 | 完形 |
| 50-15 | 土師器 75 | ①11.4 ②5.1 | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化焰 ③にぶい褐色 | 底面へう割り、体部ナデ、口縁部横ナデ、 内面ナデ、へうの工具痕。 | 北部 | 完形 |
| 50-16 | 土師器 75 | ①10.2 ②4.3 | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化焰 ③にぶい褐色 | 底面へう割り、体部ナデ、口縁部横ナデ、 内面ナデ、へうの工具痕。 | 東壁寄り | 完形 |
| 50-17 | 土師器 75 | ①10.5 ②4.8 | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焰 ③にぶい褐色 | 底面へう割り、体部ナデ、口縁部横ナデ、 内面ナデ、へうの工具痕。 | 北東部 | 完形 |
| 50-18 | 土師器 75 | ①(9.7) ②4.6 | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焰 ③明褐色 | 底面へう割り、体部ナデ、口縁部横ナデ、 内面ナデ、へうの工具痕。 | 東壁寄り | 3/4残存 |
| 51-19 | 土師器 75 | ①11.7 ②5.2 | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焰 ③にぶい褐色 | 底面へう割り、体部ナデ、口縁部横 ナデ、内面ナデ、へうの工具痕。 | P1 | 完形 |
| 51-20 | 土師器 75 | ①12.0 ②6.3 | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化焰 ③褐色 | 底面へう割り、体部ナデ、口縁部横ナデ、 内面ナデ、放射状のミガキ。 | 中央部 | 完形 |
| 51-21 | 土師器 75 | ①11.2 ②4.6 | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焰 ③褐色 | 底面へう割り、口縁部横ナデ。内面吸炭 による黒色処理。ミガキ。 | 北部 | 完形 |
| 51-22 | 土師器 75 | ①(11.5) ②4.1 | ①細粒の砂、赤色鉱物粒を含む。 ②酸化焰 ③褐色 | 底面へう割り、体部ナデ。内面ナデ。 | 覆土 | 口縁部欠損 |
| 51-23 | 土師器 75 | ①11.5 ②4.8 | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焰 ③明赤褐色 | 底面へう割り、口縁部横ナデ。内面吸炭 による黒色処理。ミガキ。 | 北壁寄り | 口縁部一部欠損 |
| 51-24 | 土師器 75 | ①13.5 ②4.9 | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焰 ③明赤褐色 | 底面へう割り、体部ナデ、口縁部横ナデ。内面吸炭 による黒色処理。ミガキ。 | 北東部 | 完形 |
| 51-25 | 土師器 75 | ①(11.4) ②5.0 | ①細粒の砂、褐色鉱物粒を含む。 ②酸化焰 ③褐色 | 底面へう割り、口縁部横ナデ。内面ナデ。 | P2周辺 | 口縁部一部欠損 |
| 51-26 | 土師器 75 | ①(13.5) ②4.6 | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化焰 ③褐色 | 底面へう割り不明瞭。口縁部横ナデ・ミ ガキ。吸炭による黒色処理。 | 南壁寄り | 2/3残存 |
| 51-27 | 土師器 75 | ①15.6 ②7.1 | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焰 ③褐色 | 底面へう割り、口縁部横ナデ。内面吸炭 による黒色処理。ミガキ。 | 南部 | 口縁部一部欠損 |
| 51-28 | 土師器 75 | ①12.7 ②5.2 | ①細粒の砂、褐色鉱物粒を含む。 ②酸化焰 ③褐色 | 底面へう割り不明瞭。口縁部横ナデ。内 面ナデ。 | 中央部 | 口縁部一部欠損 |
| 51-29 | 土師器 76 | ①(9.0) ②(10.5) | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焰 ③にぶい黄褐色 | 胴部外面へう割り。口縁部ナデ。内面ナ デ。 | 中央部 | 胴下半部欠損 |
| 51-30 | 土師器 76 | ①11.6 ②21.2 ③6.0 | ①細粒の砂、片岩粒を多量に含む。 ②酸化焰 ③明赤褐色 | 底面ナデ、胴部外面へう割り。口縁部横 ナデ、内面ナデ、へうの工具痕。 | 中央部 | 口縁部一部欠損 |
| 51-31 | 土師器 76 | ①14.0 ②18.3 ③6.0 | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化焰 ③にぶい褐色 | 底面へう割り、胴部外面へう割り。口縁 部横ナデ、内面丁寧なナデ。 | P2 | 完形 |
| 51-32 | 土師器 76 | ①18.2 ②14.9 ③7.0 | ①細粒の砂、赤色鉱物粒を含む。 ②酸化焰 ③褐色 | 底面ナデ、胴部外面へう割り。口縁部横 ナデ、内面丁寧なナデ。 | 中央部 | 完形 |
| 52-33 | 土師器 76 | ①16.6 ②(17.2) | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焰 ③にぶい褐色 | 胴部外面へう割り。口縁部横ナデ。内面 ナデ。 | P2 | 胴下半部欠損 |
| 52-34 | 土師器 76 | ①17.5 ②(31.7) | ①細粒の砂、片岩粒を多量に含む。 ②酸化焰 ③明赤褐色 | 胴部外面へう割り。口縁部横ナデ、内面 ナデ。輪積み直残る。 | 北部 | 底部欠損 |
| 52-35 | 土師器 76 | ①20.4 ②3.9 ③5.0 | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焰 ③明赤褐色 | 底面ナデ、胴部外面へう割り。口縁部横 ナデ、内面ナデ。 | 北部 | 胴部一部欠損 外面煤付着 |
| 52-36 | 土師器 76 | ①(30.0) ②(30.0)③(6.7) | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焰 ③褐色 | 底面ナデ、胴部外面へう割り。内面ナデ。 | 北壁寄り | 口縁・底部 一部欠損 |
| 52-37 | 土師器 76 | ①18.5 ②(26.7) | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焰 ③明赤褐色 | 胴部外面へう割り。口縁部横ナデ、内面 ナデ。 | 中央部 | 底部欠損 |
| 52-38 | 土師器 76 | ①21.3 ②3.8 ③5.6 | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化焰 ③褐色 | 底面ナデ、胴部外面へう割り。口縁部横 ナデ、内面ナデ、輪積み直残る。 | 南部 | ほぼ完形 |
| 52-39 | 土師器 77 | ②(24.5) ③5.8 | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焰 ③黄褐色 | 底部意図的穿孔。胴部外面へう割り。内 面ナデ。 | 北壁寄り | 胴上半部欠損 外面に炭化物付着 |
| 52-40 | 土師器 77 | ①(17.2) ②(23.0) | ①細粒の砂、片岩粒を多量に含む。 ②酸化焰 ③褐色 | 胴部外面へう割り不明瞭。口縁部横ナデ、 内面ナデ。 | 中央部 | 口縁・胴部1/2 残形 |
| 53-41 | 土師器 77 | ①19.2 ②37.5 ③7.0 | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焰 ③褐色 | 底面ナデ、胴部外面へう割り。口縁部横 ナデ、内面丁寧なナデ。 | 中央部 | 完形 外面に煤が付着 |

[2] A区検出の遺構と遺物

| 図番 PL | 土師器別 器種 | 法量 (cm) ①口径②高さ③底径 | ①輪土 ②焼成 ③色調 | 成・整形技法の特徴 | 出土状態 | 残存状況 備考 |
|-------------|------------|----------------------|---------------------------------|--------------------------------|------|---------------|
| | | | | | | |
| 53-42 77 | 土師器 小型瓶 | ①17.6 ②12.6 ③0.5 | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焙 ③灰黄褐色 | 胴部外面へう崩り。口縁部横ナデ、内面ナデ。 | 中央部 | 完形 |
| 53-43 77 | 土師器 小型瓶 | ①20.7 ②19.0 ③7.6 | ①粗粒の砂、片岩粒を多量に含む。 ②酸化焙 ③褐色 | 胴部外面へう崩り。口縁部横ナデ、内面ナデ。輪積み痕残る。 | 中央部 | 完形 |
| 53-44 77 | 土師器 瓶 | ①25.6 ②28.6 ③7.8 | ①細粒の砂、片岩粒を多量に含む。 ②酸化焙 ③赤褐色 | 胴部外面へう崩り。口縁部横ナデ、内面丁寧ナデ。 | 北部 | 完形 |
| 53-45 77 | 土師器 瓶 | ①25.6 ②30.5 ③8.8 | ①粗粒の砂、片岩粒を多量に含む。 ②酸化焙 ③にぶい褐色 | 胴部外面へう崩り。口縁部横ナデ、内面ナデ。輪積み痕一部残る。 | 中央部 | ほぼ完形 |
| 53-46 77 | 土師器 瓶 | ①27.0 ②28.7 ③8.2 | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焙 ③灰黄色 | 胴部外面へう崩り。口縁部横ナデ、内面丁寧ナデ。 | P2周辺 | 胴部一部欠損 |
| 53-47 77 | 土師器 壺 | ①(36.2) ②(15.8) | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化焙 ③にぶい褐色 | 胴部外面ナデ、口縁部横ナデ、内面ナデ。 | 南部 | 口縁一胴上半 1/3 |
| 54-48 78 | 弥生土器 | 胴部片 | ①細粒の砂を含む。 ②良 ③にぶい黄褐色 | 沈殿が施されている。 | 陥床中 | 破片 中期 |

| 図番 PL | 器種 | 遺存状況 | 石 材 | 計測値 (cm・g) | | | | 特 徴 | 出土状態 |
|----------|-----|------|---------|------------|--------|-----|------|-------------------|-------|
| | | | | 全長 | 幅 | 厚 | 重量 | | |
| 54-49-78 | 紡錘車 | 完形 | 滑石 | 径3.8 | 孔径0.8 | 1.6 | 35.3 | 表面全体に目の細かい削り痕が残る。 | 覆土 |
| 54-50-78 | 白石 | 部分 | 輝石 | 28.5 | (15.0) | 6.7 | 5660 | 両面に磨耗痕が認められる。 | 覆土 縄文 |
| 54-51-78 | 多孔石 | 完形 | 細雲母緑泥片岩 | 12.7 | 8.5 | 3.4 | 660 | 片面に2個の凹み穴が認められる。 | 覆土 縄文 |

A区1号掘立柱建物跡 (第55図、PL.34)

位置 Mt-30、Mu-29・30、Mv-29グリッドにかけて検出された。A区5号住居跡の南に位置している。平面形・規模 完掘していないので明らかでない。柱穴 形状は径約16～34cmの楕円形を呈する。深さは22～36cmである。ピットから遺物の出土はなかった。

時期 不明。

A区1号溝 (第55図、PL.34)

位置 Mt-30、Mu-30グリッドにかけて検出された。A区5号住居跡の南に位置し、1号掘立柱建物跡と重複している。

規模 現状では長さ約3.1m、幅約30～46cm、深さ約6cmを測る。

時期 不明。覆土から土師器片1点が出土している。

A区2号溝 (第55図、PL.34)

位置 Mu-29・30グリッドにかけて検出された。A区1号溝の南西約2.5mの所に位置している。

規模 現状では長さ約4.5m、幅約36～68cm、深さ約22cmを測る。

時期 不明。覆土からは縄文土器片1点、土師器片8点が出土している。

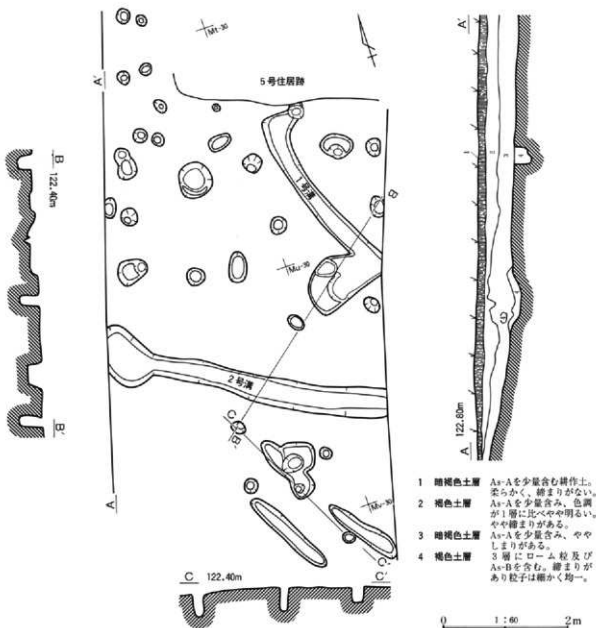
A区3号土坑 (第56図、PL.34)

位置 Mm-31・32グリッドにかけて検出された。A区11号住居跡、A区12号住居跡に接している。

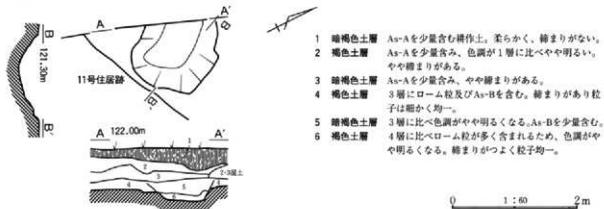
規模 現状では長径140cm、短径130cm、深さ約22cmを測る。

覆土 2(5・6)層に分かれた。

時期 不明。覆土からは遺物の出土はなかった。

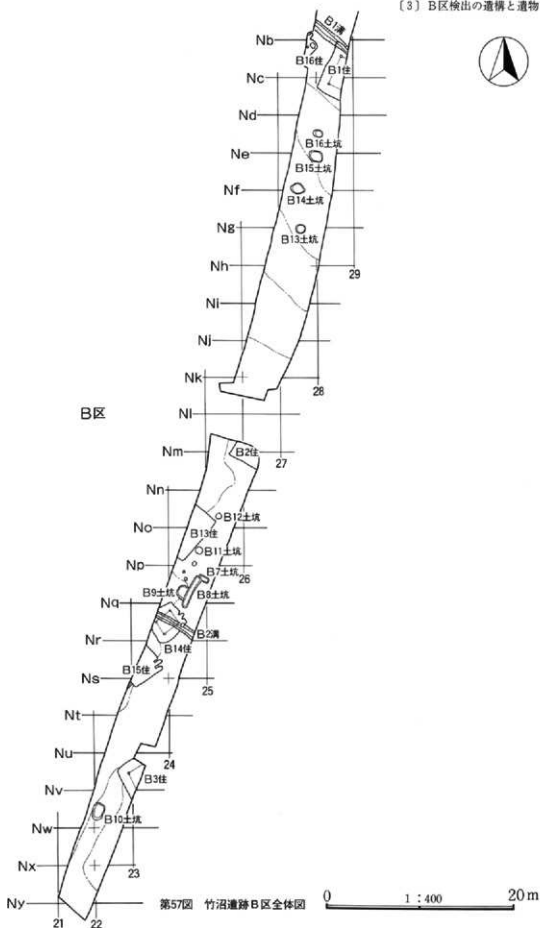


第55図 A区1号掘立柱建物跡・1号溝・2号溝



第56図 A区3号土坑

〔3〕 B区検出の遺構と遺物



第57図 竹沼遺跡B区全体図

[3] B区検出の遺構と遺物

B区1号住居跡(第58・59図、PL.37・38・78)

位置 Nb-28、Nc-28グリッドにかけて検出された。B区16号住居跡の南東約2mの所に位置している。また、B区1号溝によって住居跡の北壁を壊されている。

形状 完掘できなかったが、現状では長辺5m、短辺3mである。

方位 不明。

覆土 ローム層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は7層に分かれた。7層は掘り方覆土である。

壁高 住居跡確認面より約22～30cmで床面に達する。床面からはほぼ垂直に立ち上がる。

床面 はほぼ平坦である。現状での面積は約11.4㎡。掘り方床面全体に凹凸が顕著である。

周溝 南壁下、西壁下の一部で検出された。幅2～10cm、深さ2～8cmである。

竈 検出できなかった。

柱穴 2個の柱穴が検出された。P1は長径・短径

19cm、深さは37cm、P2は長径30cm、短径27cm、深さ33cmである。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 土師器の坏や高坏、甕が出土している。

時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は6世紀前半の段階に相当する。

備考 当住居跡は、市教委調査(F1竹沼遺跡)のBH-1号住居跡と同一住居である。

B区1号溝(第58図、PL.46)

位置 Na-27・28、Nb-28グリッドにかけて検出された。B区1号住居跡の北に位置し、その北壁を壊している。

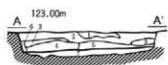
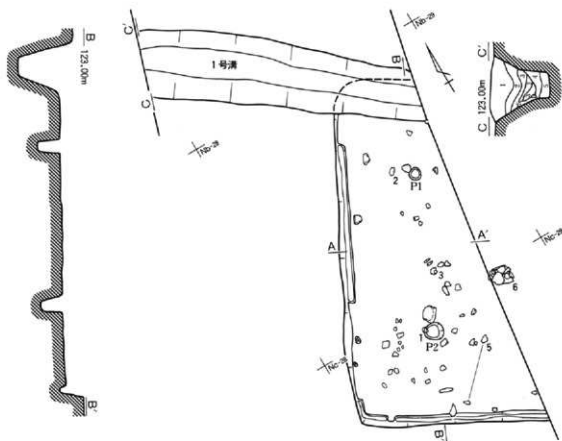
規模 現状では長さ約4.5m、幅約80～110cm、深さ約95cmを測る。

時期 不明。覆土からは遺物の出土はなかった。

備考 南約62mの所に位置しているB区2号溝と走行と規模がほぼ一致している。

B区1号住居跡

| 図番 PL | 土器種別 器種 | 法量 (cm) ①口径②高さ③底径 | ①胎土 ②焼成 ③色調 | 成・整形技法の特徴 | 出土状態 | 残存状況 備考 |
|------------|------------|----------------------|-----------------------------|--------------------------------------|--------|-------------------|
| 59-1 78 | 土師器 坏 | ①(3.9) ②(4.5) | ①粗粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化焰 ③褐色 | 底面ナデ、底部外面ヘラ磨き、内面ナデ。 | P2周辺 | 2/3残存 |
| 59-2 78 | 土師器 坏 | ①14.3 ②(5.6) | ①細粒の砂、赤色鉱物粒を含む。 ②酸化焰 ③褐色 | 底面ヘラ削り、口縁部横ナデ、内面ナデ。 | P1周辺 | 1/4残存 |
| 59-3 78 | 土師器 高坏 | ①(8.0) ②10.0 | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化焰 ③褐色 | 脚部外面ヘラ削り、ナデ。内面ヘラ削り。 坏内面ヘラ磨き、黒色処理。 | 中央部 | 脚部はほぼ全面 外面に張付着 |
| 59-4 78 | 土師器 高坏 | ②(6.6) | ①粗粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焰 ③褐色 | 脚部外面ナデ、内面ナデ。坏内面ヘラ磨き、黒色処理。 | 覆土 | 部分 脚部に達し |
| 59-5 78 | 土師器 甕 | ①(16.0) ②(10.0) | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焰 ③褐色 | 胴部外面ヘラ削り、口縁部横ナデ。内面 丁寧ナデ。 | 南壁寄り | 口縁部1/3 内面に輪縁み痕 |
| 59-6 78 | 土師器 甕 | ①(28.5) ②9.1 | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焰 ③明赤褐色 | 底面ナデ。胴部外面ヘラ削り、ナデ。内 面ナデ、ヘラの工具痕。 | 住居跡中央部 | 口縁部欠損 |
| 59-7 78 | 縄文土器 | 割部片 | ①細粒の砂を含む。 ②良 ③明赤褐色 | 断片。 | 覆土 | 中期後半 |

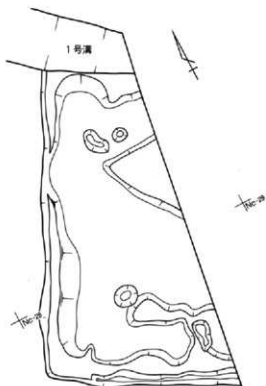


(A-A')

- 1 褐色土層 軽石粒、ローム粒を全体に含む。
- 2 黒色土層 砂質土、ローム粒を少量含む。埋土の上半部を全体に覆う。
- 3 黒色土層 2層よりも黒い色調。ローム粒等を一切含まず。2層のブロックともいえる。
- 4 褐色土層 ローム粒と褐色土との混土。炭化物、ロームブロックをまばらに含む。
- 5 褐色土層 4層に黄褐色の粘土ブロックをまばらに含む。
- 6 黄褐色土層 ロームと褐色土との混土。壁部の崩落土。
- 7 粘床 ロームと褐色土との混土。径2-3cmのロームブロックをところどころに含む。1cm程度の砂を斑点状に含む。

1号溝 (O-C')

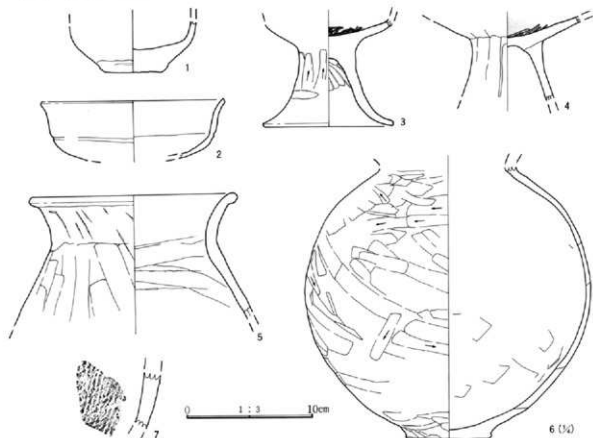
- 1 褐色土層 黒色土とロームの混土。
- 2 黄褐色土層 黒色土とロームの混土。ロームが90%以上。
- 3 黄褐色土層 ローム粒を主体とする。
- 4 黄褐色土層 黒色土ブロックとロームブロックの混土。
- 5 黄褐色土層 ロームブロック。



第58図 B区1号住居跡・1号溝

0 1:60 2m

第3章 竹沼(A~D区)遺跡の調査



第59図 B区1号住居跡出土遺物

B区2号住居跡 (第60図, PL. 38)

位置 NI-25・26、Nm-25・26グリッドにかけて検出された。B区13号住居跡の北東約6.5mの所に位置している。

形状 完掘できなかったが、現状では長辺3.4m、短辺1.7mである。

方位 不明。

覆土 ローム層を掘り込んで堅穴住居は構築されている。

壁高 住居跡確認面より約40~44cmで床面に達する。床面からほぼ垂直に立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。現状での面積は約4.5㎡。

周溝 検出できなかった。

竈 検出できなかった。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 覆土からは礫が出土している。

時期 不明。市教委調査BH-2住と同一住居。

B区3号住居跡 (第61図, PL. 39)

位置 Nu-22・23、Nv-22・23グリッドにかけて検出された。B区15号住居跡の南約7.5mの所に位置している。

形状 完掘できなかったが、現状では長辺3.7m、短辺3.1mである。

方位 不明。

覆土 ローム層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は6(2~7)層に分かれた。6・7層は掘り方覆土である。

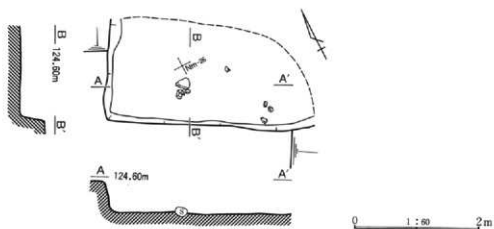
壁高 住居跡確認面より約35~45cmで床面に達する。床面からほぼ垂直に立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。現状での面積は約6.6㎡。掘り方 全体的に凹凸が顕著である。

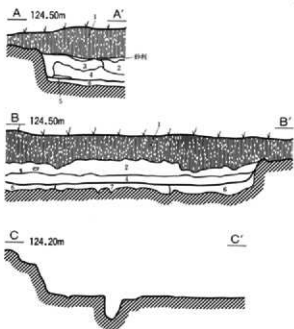
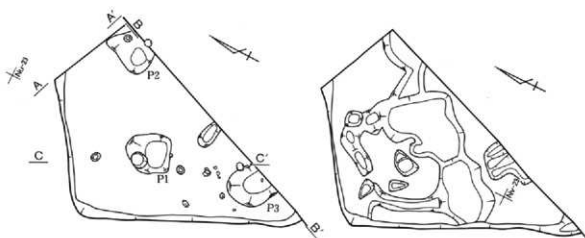
周溝 検出できなかった。

竈 検出できなかった。

柱穴 3個のビットが検出された。P1の深さは40cm、P2深さ4cm、P3深さ5cmである。P1は柱穴に



第60図 B区2号住居跡

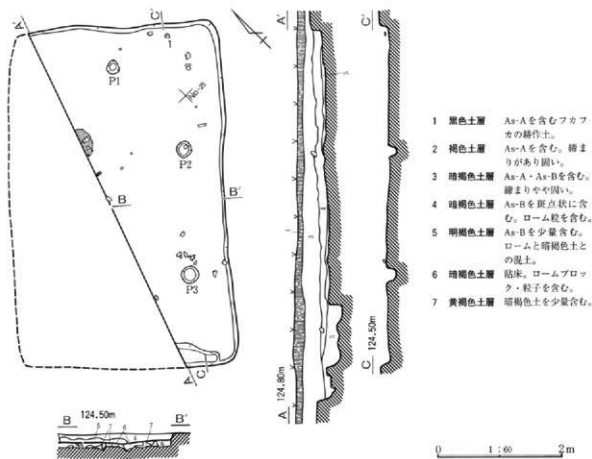


- 1 現耕作土及び道路敷用土。
- 2 褐色土層 As-Aをまばらに含む。
- 3 暗褐色土層 灰白色粒、ローム粒をまばらに含む。
- 4 暗褐色土層 ロームブロックと褐色土との混土。全体にフカフカしている。
- 5 ロームブロック
- 6 暗褐色土層 貼束ロームブロックをとところろに含む。
- 7 黄褐色土層 貼束。暗褐色土をまばらに含む。

道路敷 道路砂は、昭和51年土地改良前の農道と一致するが、この断面によるとその年代の上限はA柱石降下までさかのぼる。断面に見るA柱石は地をさした右側の掘跡にのみ堆積し、左側は砂利敷で充填されている。掘跡は上幅約10cm、深さ5cmで左右の芯々で約120cmを測る。

0 1:60 2m

第61図 B区3号住居跡



第62図 B区13号住居跡

なるものと考えられる。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 ほとんど出土していない。

時期 6世紀代。市教委調査BH-3住と同一住居。

B区13号住居跡 (第62・63図, PL.40・78)

位置 Nn-24・25、No-24・25グリッドにかけて検出された。B区2号住居跡の南西約6.2mの所に位置している。

形状 発掘できなかったが、現状では長辺5.5m、短辺3mである。

方位 N-42°-E。

覆土 ローム層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4(4-7)層に分かれた。6・7層は掘り方覆土である。

壁高 住居跡確認面より約10~15cmで床面に達す

る。床面からほぼ垂直に立ち上がる。

床面 やや凹凸がある。現状での面積は約9.9㎡。

掘り方 全体的に凹凸が認められる。

周溝 検出できなかった。

炉 床面から焼土の分布が認められた。

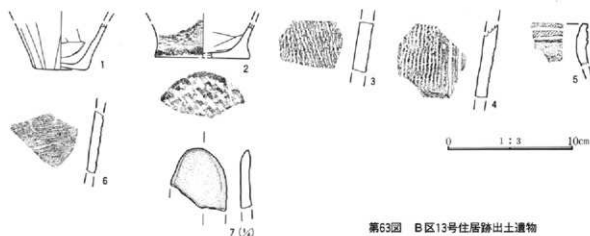
柱穴 3個のピットが検出された。P1は長径21cm、短径20cm、深さ36cm。P2は長径26cm、短径24cm、深さ13cm。P3は長径28cm、短径27cm、深さ16cmである。

遺物 覆土からは弥生後期土器片17点、縄文土器片9点が出土している。

時期 弥生後期。

B区14号住居跡 (第64-67図, PL.41・42・78・79)

位置 Np-24、Nq-23・24、Nr-23グリッドにかけて検出された。B区15号住居跡の北東約1mの所



第63図 B区13号住居跡出土遺物

B区13号住居跡

| 図番 PL. | 土器種別 器種 | 法量 (cm) ①口径②器高③底径 | ①胎土 ②焼成 ③色調 | 成・整形技法の特徴 | 出土状態 | 残存状況 備考 |
|------------|--------------|----------------------|-------------------------|---------------------------------|------|------------|
| | | | | | | |
| 63-2 78 | 弥生土器 甕 | ②(3.8) ③(7.4) | ①細粒の砂を含む。 ②良 ③にぶい黄棕色 | 底面網代。胴部に縄文か。 内面ナデ。 | 覆土 | 底部1/3 |
| 63-3 78 | 縄文土器 胴部片 | | ①細粒の砂を含む。 ②良 ③灰褐色 | 熱赤し施紋。 | 覆土 | 中期後半 |
| 63-4 78 | 胴部片 | | ①細粒の砂を含む。 ②良 ③褐色 | 熱赤し施紋。 沈線を下下。 | 覆土 | 中期後半 |
| 63-5 78 | 弥生土器 口縁部片 | | ①細粒の砂を含む。 ②良 ③暗赤褐色 | 口唇部・口縁部に縄文施紋。原体はLⅡ 二本の沈線を横走。 | 覆土 | 中期 |
| 63-6 78 | 弥生土器 胴部片 | | ①細粒の砂を含む。 ②良 ③橙色 | 糸線が施されている。 | 覆土 | 中期 |

| 図番 PL. | 器種 | 遺存状況 | 石 材 | 計測値 (cm・g) | | | | 特 徴 | 出土状態 |
|-----------|----|------|-----|------------|-----|---------|------|-------------|------|
| | | | | 全長 | 幅 | 厚 | 重量 | | |
| 53-7-78 | 磨石 | 1/2 | 砂岩 | (6.2) | 6.0 | 0.8-1.1 | (50) | 深い凹みが認められる。 | 覆土 |

に位置している。B区2号溝によって住居跡の中央部を壊されている。

形状 完掘できなかったが、現状では長辺3.7m、短辺3.4mである。方形を呈するものと考えられる。

方位 N-58°-E。

覆土 ローム層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は5(1-3・8・9)層に分かれた。8・9層は掘り方覆土である。

壁高 住居跡確認面より約40-55cmで床面に達する。床面からはほぼ垂直に立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。現状での面積は約10.3㎡。

掘り方 全体的に凹凸が顕著である。

周溝 検出できなかった。

竈 北東壁の中央部から検出され、燃焼部は床面から外側に構築されている。袖部約50cmが残存し、

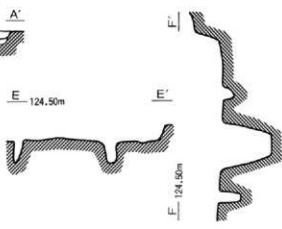
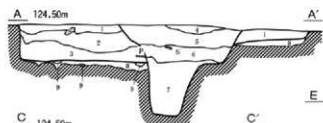
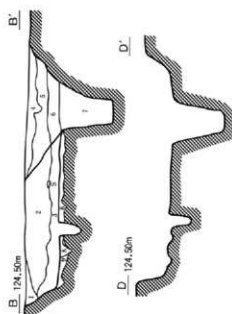
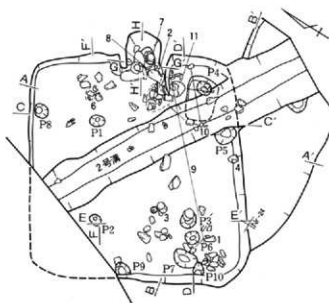
支石が残されている。規模は煙道方向100cm、両袖方向90cmである。

柱穴 10個のビットが検出された。P1の深さは25cm、P2深さ37cm、P3深さ32cm、P4深さ7cm、P5深さ10cm、P6深さ7cm、P7深さ8cm、P8深さ18cm、P9深さ26cm、P10深さ35cmである。P1からP3が主柱穴になる。他の1個は2号溝によって壊されたものである。

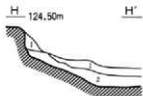
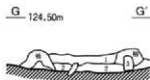
貯蔵穴 床面北東隅から検出された。2号溝によって2/3程壊されているが、推定規模は長径70cm、短径32cmである。

遺物 土師器の甕が竈内や周辺から出土している。また、こも礫石は南東コナ周辺から出土。

時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は6世紀後半の段階に相当する。



0 1:40 2m



0 1:30 1m
(G-G'・H-H')

(A-A'・B-B')

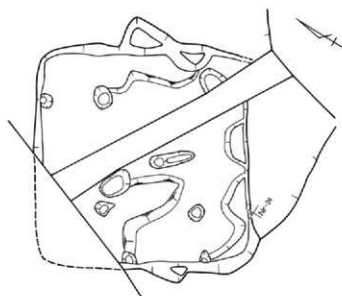
- 1 褐色土層 砂質土。灰白色粒を含む。
- 2 褐色土層 砂質土。全体にローム粒を含む。
- 3 黄褐色土層 褐色土とローム粒との混土。ローム粒は全体に大粒で一部はブロック状をなす。点々と炭化物を含む。
- 4 褐色土層 1層と同一性状。
- 5 褐色土層 ローム粒を含む。
- 6 黄褐色土層 褐色土とローム粒との混土。14位の土器が転落している。
- 7 黄褐色土層 暗褐色土とローム粒との混土。ローム粒は縦状乃至ブロック状で基底面近くは特に多い。
- 8 暗褐色土層 粘床ローム粒を含む。
- 9 黄褐色土層 粘床。暗褐色土を少量含む。

- 1-3・8・9層はB区14号住居跡の埋土。全体は2層で覆いつくされ、3層が底面を覆う。水平に堆積し自然流入と考えられる。
 - 4-7層はB区2号溝の埋土。ローム粒の有無により、4・5層と6・7層に大別される。6・7層はローム粒が特に多く、壁面に於いてはすき間をもつ程で締まっていない。
- 溝本来としては、水が流れたとは考えられず、境界が区画の役割を持つものか。

カマド (G-G'・H-H')

- 1 暗褐色土層 ローム粒と黒褐色土との混土。焼土を含む。
- 2 褐色土層 ロームと黒褐色土との混土。
- 3 褐色土層 粘土・焼土を含む。

第64図 B区14号住居跡・2号溝

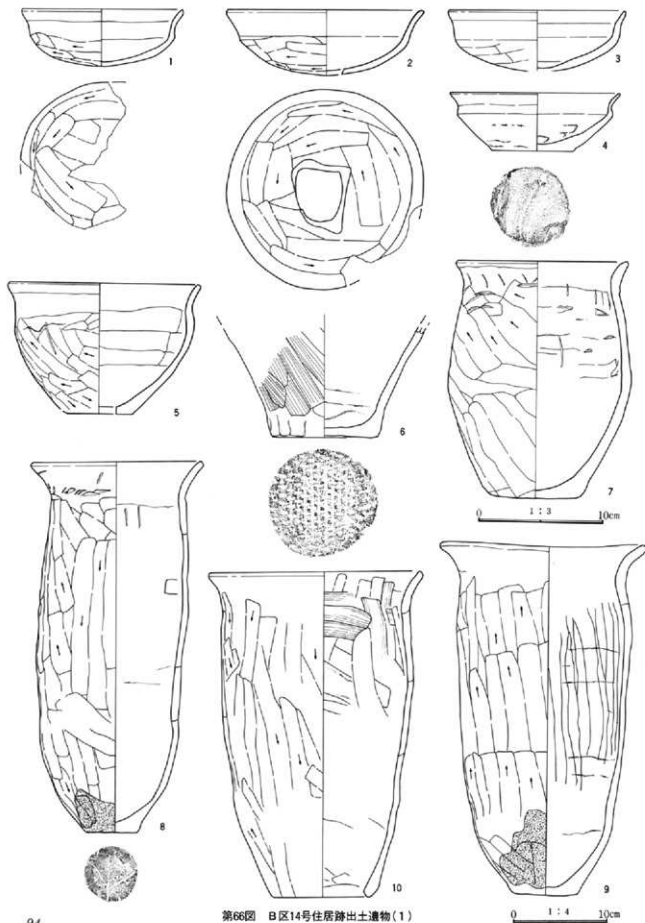


第65図 B区14号住居跡掘り方

B区14号住居跡

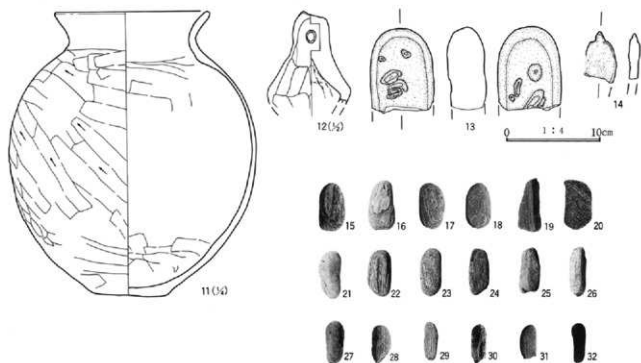
| 図番 PL | 土器種別 器種 | 法量 (cm) ①口径②器高③底径 | ①胎土 ②焼成 ③色調 | 成・整形技法の特徴 | 出土状態 | 残存状況 備考 |
|-------------|------------|----------------------|--------------------------------|---------------------------------------|-----------|--------------|
| 66-1 78 | 土師器 坏 | ①(12.8) ②(4.5) | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焰 ③棕色 | 底面ヘラ削り、口縁部横ナデ。内面ナデ。 | F6周辺 | 2/3残存 |
| 66-2 78 | 土師器 坏 | ①15.6 ②(5.2) | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焰 ③にぶい褐色 | 底面ヘラ削り、口縁部横ナデ。内面ナデ。 変れている。 | カマド | 底面一部欠損 |
| 66-3 78 | 土師器 坏 | ①14.2 ②4.9 | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焰 ③棕色 | 底面ヘラ削り、口縁部横ナデ。内面ナデ。 | 中央部 | 完形 |
| 66-4 78 | 土師器 坏 | ①(13.5) ②4.6 ③6.4 | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焰 ③にぶい褐色 | 底面ヘラ削り、体部ナデ、口縁部横ナデ。 内面ナデ。 | 東壁 | 口縁一部欠損 |
| 66-5 78 | 土師器 小型瓶 | ①15.7 ②10.3 ③6.0 | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焰 ③にぶい褐色 | 底面ナデ、胴部外面ヘラ削り。口縁部横 ナデ。内面丁寧なナデ。 | F3 | 完形 |
| 66-6 | 熟生土器 壺 | ②(8.7) ③(8.4) | ①粗粒の砂、片岩粒を多量に含む。 ②良 ③明黄褐色 | 底面に網代。胴部外面ハケメ。内面ナデ。 | 北西部 | 底部全周 |
| 66-7 78 | 土師器 小型壺 | ①13.6 ②18.7 ③7.4 | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化焰 ③明黄褐色 | 底面ナデ、胴部外面ヘラ削り。口縁部横 ナデ。内面ナデ、輪積み痕残る。 | カマド | 完形 |
| 66-8 79 | 土師器 壺 | ①18.3 ②39.5 ③5.4 | ①粗粒の砂、片岩粒を多量に含む。 ②酸化焰 ③棕色 | 底面木製痕。胴部外面ヘラ削り。口縁部 横ナデ。内面ナデ、輪積み痕。 | カマド | ほぼ完形 |
| 66-9 79 | 土師器 壺 | ①21.8 ②36.9 ③7.0 | ①粗粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焰 ③にぶい褐色 | 底面ヘラ削り、胴部外面ヘラ削り、口縁 部横ナデ。内面ナデ、輪積み痕。 | カマド周 辺 | 完形 外面に膠付着 |
| 66-10 79 | 土師器 瓶 | ①22.3 ②34.5 ③10.2 | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焰 ③棕色 | 胴部外面ヘラ削り、口縁部横ナデ、内面 丁寧なナデ。 | カマド周 辺 | 完形 |
| 67-11 79 | 土師器 壺 | ①16.4 ②30.0 ③8.4 | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化焰 ③にぶい褐色 | 底面ナデ、胴部外面ヘラ削り。口縁部横 ナデ。内面ナデ。 | カマド周 辺 | 胴部一部欠損 |
| 67-12 79 | 土師 器 | ①(4.8) 34.6g | ①細粒の砂を含む。 ②良 ③灰黄褐色 | 外面ナデ、つまみ部に径6mmの円孔。 | 覆土 | 下部欠損 |

| 図番 PL | 器種 | 遺存状況 | 石 材 | 計測値 (cm・g) | | | | 特 徴 | 出土状態 |
|----------|-----|------|--------|------------|-----|---------|-------|------------------|-------|
| | | | | 全長 | 幅 | 厚 | 重量 | | |
| 67-13-79 | 円石 | 1/2 | 砂岩 | (8.2) | 6.7 | 5.0 | (222) | 両面に計4個の凹みが認められる。 | 覆土 縄文 |
| 67-14-79 | 石製品 | 2/3 | 砂岩 | (4.9) | 3.6 | 0.8~1.1 | (250) | 先端が加工されている。 | 覆土 |



第66図 B区14号住居跡出土遺物(1)

[3] B区検出の遺構と遺物



こも羅石

| 図番 | 石 材 | 計測値 (cm・g) | | | |
|-------|-----------|------------|-----|-----|-----|
| | | 全長 | 幅 | 重量 | |
| 67-15 | 網芸母石墨片岩 | 14.0 | 7.7 | 4.3 | 710 |
| 67-16 | 網芸母石墨片岩 | 15.0 | 8.5 | 4.5 | 820 |
| 67-17 | 網芸母石墨片岩 | 14.0 | 6.8 | 3.5 | 630 |
| 67-18 | 網芸母石墨片岩 | 14.0 | 6.5 | 3.5 | 560 |
| 67-19 | 網芸母石墨片岩 | 16.0 | 6.8 | 3.3 | 510 |
| 67-20 | 網芸母石墨片岩 | 15.0 | 9.0 | 2.5 | 560 |
| 67-21 | 緑泥片岩 | 14.5 | 7.5 | 4.5 | 790 |
| 67-22 | 網芸母石墨片岩 | 6.5 | 6.3 | 3.0 | 120 |
| 67-23 | 凸紋網芸母石墨片岩 | 14.5 | 6.0 | 3.2 | 490 |

| 図番 | 石 材 | 計測値 (cm・g) | | | |
|-------|---------|------------|-----|-----|-----|
| | | 全長 | 幅 | 厚 | 重量 |
| 67-24 | 緑凝結泥片岩 | 14.0 | 5.0 | 3.5 | 470 |
| 67-25 | 緑凝結泥片岩 | 14.0 | 6.5 | 5.0 | 690 |
| 67-26 | 網芸母片岩 | 15.0 | 5.0 | 4.4 | 500 |
| 67-27 | 右巻緑泥片岩 | 13.0 | 5.0 | 4.5 | 560 |
| 67-28 | 網芸母石墨片岩 | 11.5 | 5.0 | 4.5 | 420 |
| 67-29 | 緑泥片岩 | 11.5 | 4.5 | 1.8 | 120 |
| 67-30 | 網芸母石墨片岩 | 12.0 | 4.5 | 3.0 | 185 |
| 67-31 | 網芸母石墨片岩 | 12.0 | 4.8 | 2.5 | 220 |
| 67-32 | 網芸母石墨片岩 | 11.5 | 4.5 | 1.5 | 100 |

第67図 B区14号住居跡出土遺物(2)

B区15号住居跡 (第68~70図、PL.42・43・79・80)

位置 Nr-23、Ns-23グリッドにかけて検出された。B区14号住居跡の南西約1mの所に位置している。

形状 完掘できなかつたが、現状では長辺4.1m、短辺3.2mである。方形を呈するものと考えられる。

方位 N-53°-E。

覆土 ローム層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は6(2・4・5・a-c)層に分かれた。a-c層は掘り方覆土である。

壁高 住居跡確認面より約30~45cmで床面に達する。床面からはほぼ垂直に立ち上がる。

床面 はほぼ平坦である。中央部に粘土の堆積が認められた。現状での面積は約7.2m²。

掘り方 全体的に凹凸が顕著である。

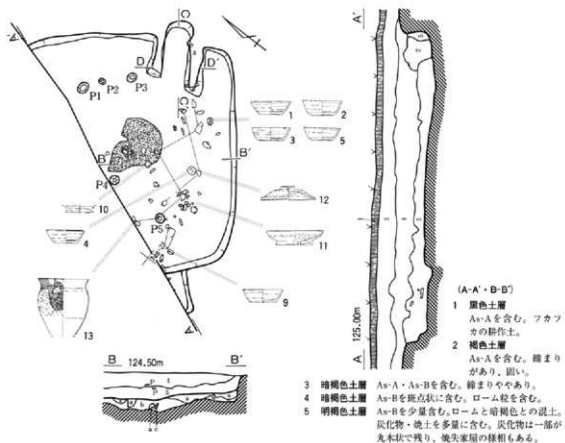
周溝 検出できなかつた。

竈 北東壁から検出され、燃焼部の大部分は床面に構築されている。袖部約80cmが残存し、袖石が残されている。規模は煙道方向110cm、両袖方向95cmである。

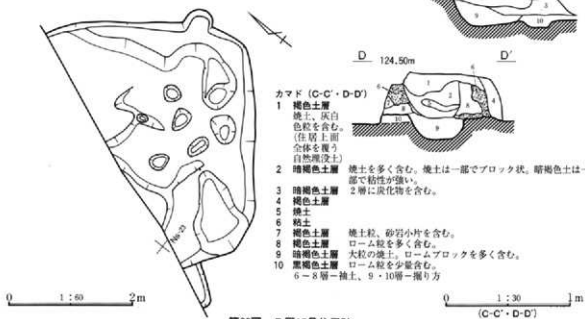
柱穴 5個のビットが検出された。P1の深さは11cm、P2深さ4cm、P3深さ9cm、P4深さ9cm、P5深さ6cmである。いずれのビットも柱穴にはなりえない。

貯蔵穴 検出できなかつた。

遺物 土師器の甕や須恵器の坏や蓋が出土している。また、こも羅石は床面南西部から出土している。時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は8世紀後半の段階に相当する。

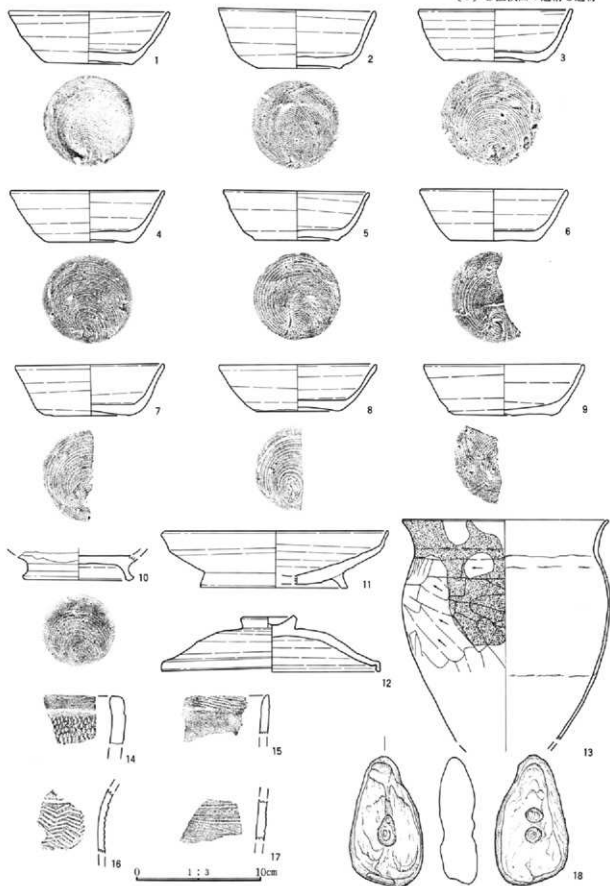


- 点床 a 暗褐色土層 ローム粒を少量含む。
b 黄褐色土層 暗褐色土をブロックで含む。
c ロームブロック



第68図 B区15号住居跡

〔3〕B区検出の遺構と遺物



第69回 B区15号住居跡出土遺物(1)

0 1 : 4 10cm
(13・18)

第3章 竹沼(A-D区)遺跡の調査



こも編石

| 図番 | 石 材 | 計測値 (cm・g) | | | |
|-------|-----------|------------|-----|-----|-----|
| | | 全長 | 幅 | 厚 | 重量 |
| 70-19 | 緑泥緑片岩 | 16.9 | 6.5 | 2.5 | 325 |
| 70-20 | 網状緑石黒片岩 | 14.5 | 5.2 | 3.5 | 410 |
| 70-21 | 緑泥片岩 | 13.2 | 6.3 | 2.5 | 296 |
| 70-22 | 網状緑石黒片岩 | 13.6 | 4.6 | 3.3 | 399 |
| 70-23 | 点状網状緑石黒片岩 | 11.0 | 3.0 | 1.5 | 75 |
| 70-24 | 石葉片岩 | 10.5 | 4.0 | 1.5 | 100 |

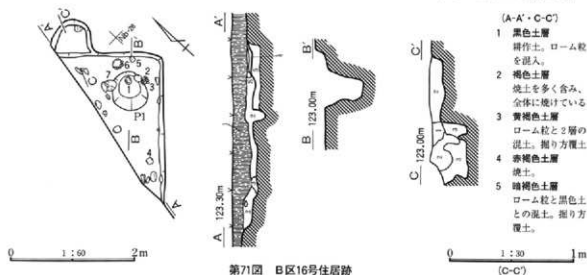
第70回 B区15号住居跡出土遺物(2)

B区15号住居跡

| 図番 PL | 土器種別 器 種 | 法 量 (cm) ①口径②器高③底径 | ①胎土 ②焼成 ③色調 | | | 成・整形技法の特徴 | 出土状態 | 残存状況 備考 |
|-------------|--------------|-------------------------|--------------------------------|--|------------------------|-----------|--------|------------|
| | | | | | | | | |
| 69-1 79 | 須恵器 坏 | ①12.8 ②4.1 ③7.0 | ①細 片岩粒を含む。 ②還元焰 ③灰色 | | 右回転ロクロ整形 底面回転糸切り | 東壁寄り | 完形 | |
| 69-2 79 | 須恵器 坏 | ①12.4 ②4.6 ③6.8 | ①粗 片岩粒を含む。 ②還元焰 ③灰黄褐色 | | 右回転ロクロ整形 底面回転糸切り | 東壁寄り | 完形 | |
| 69-3 79 | 須恵器 坏 | ①12.2 ②4.1 ③8.0 | ①細 片岩粒を少量含む。 ②還元焰 ③黄灰色 | | 右回転ロクロ整形 底面回転糸切り | 東壁寄り | 完形 | |
| 69-4 79 | 須恵器 坏 | ①12.3 ②4.0 ③7.0 | ①細 片岩粒を少量含む。 ②還元焰 ③灰色 | | 右回転ロクロ整形 底面回転糸切り | 東壁寄り | 完形 | |
| 69-5 79 | 須恵器 坏 | ①11.5 ②3.9 ③7.0 | ①細 還元焰 ③灰黄褐色 | | 右回転ロクロ整形 底面回転糸切り | 東壁寄り | 口縁一部欠損 | |
| 69-6 79 | 須恵器 坏 | ①(11.8) ②4.1 ③(7.0) | ①細 白色鉱物粒を含む。 ②還元焰 ③灰色 | | 右回転ロクロ整形 底面回転糸切り | 覆土 | 1/2残存 | |
| 69-7 79 | 須恵器 坏 | ①(11.8) ②4.0 ③(7.0) | ①細 黒色鉱物粒を少量含む。 ②還元焰 ③灰オリーブ色 | | 右回転ロクロ整形 底面回転糸切り | 覆土 | 1/2残存 | |
| 69-8 79 | 須恵器 坏 | ①(12.5) ②3.7 ③(6.5) | ①細 片岩粒を少量含む。 ②還元焰 ③灰色 | | 右回転ロクロ整形 底面回転糸切り | 覆土 | 1/2残存 | |
| 69-9 79 | 須恵器 坏 | ①(12.7) ②4.0 ③(8.0) | ①細 白色鉱物粒を含む。 ②還元焰 ③灰色 | | 右回転ロクロ整形 底面回転糸切り | 南壁寄り | 1/2残存 | |
| 69-10 79 | 須恵器 塊 | ①(2.2) ②8.8 | ①細 片岩粒を含む。 ②還元焰 ③灰色 | | 底面回転糸切り後、高台貼付。 | 中央部 | 高台部 | |
| 69-11 79 | 須恵器 塊 | ①(18.0) ②4.5③(11.7) | ①粗 片岩粒を含む。 ②還元焰 ③灰色 | | 右回転ロクロ整形 高台貼付 | 南東部 | 1/2残存 | |
| 69-12 79 | 須恵器 蓋 | 積み4.4 ②4.4 ③17.3 | ①粗 片岩粒を含む。 ②還元焰 ③灰色 | | ロクロ整形 天井部回転ヘラ削り | 東壁寄り | 完形 | |
| 69-13 80 | 土師器 蓋 | ①(21.6) ②(23.4) | ①細粒の砂を含む。 ②還元焰 ③赤褐色 | | 胴部へラ削り、口縁部横ナデ。内面丁寧ナデ。 | 南西部 | 胴下半部欠損 | |
| 69-14 80 | 縄文土器 口縁部片 | ①中粒の砂を含む。 ②良 ③にぶい褐色 | | | 帯糸し施紋。 口唇部は肥厚する。 | 覆土 | 中期後半 | |
| 69-15 80 | 弥生土器 口縁部片 | ①中粒の砂を含む。 ②良 ③にぶい黄褐色 | | | 口縁部縄文施紋。 | 覆土 | 中期 | |
| 69-16 80 | 弥生土器 胴部片 | ①細粒の砂を含む。 ②良 ③にぶい褐色 | | | 山形の沈様が施されている。 | 覆土 | 中期 | |
| 69-17 80 | 弥生土器 胴部片 | ①中粒の砂を含む。 ②良 ③褐色 | | | 帯線が施されている。 内面は丁寧ナデ。 | 覆土 | 中期 | |

| 図番 PL | 器 種 | 遺存状況 | 石 材 | 計測値 (cm・g) | | | | 特 徴 | 出土状態 |
|----------|-----|------|---------------|------------|-----|---------|-----|------------------|-------|
| | | | | 全長 | 幅 | 厚 | 重量 | | |
| 69-18-80 | 凹石 | 完形 | 点状網状緑石 黒片岩 | 13.7 | 7.2 | 3.0~3.8 | 560 | 両面に計3個の凹みが認められる。 | 覆土 縄文 |

〔3〕B区検出の遺構と遺物



B区16号住居跡 (第71・72図、PL.44・80)

位置 Na-27、Nb-27・28グリッドにかけて検出された。B区1号住居跡の北西約2mの所に位置している。

形状 完掘できなかったが、現状では長辺3m、短辺1.7mである。

方位 N-45°-E。

覆土 ローム層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4(2~4)層に分かれた。5層は掘り方覆土である。

壁高 住居跡確認面より約10cmで床面に達する。床面からはほぼ垂直に立ち上がる。

床面 やや凹凸がある。現状での面積は約2.1㎡。

掘り方 全体的に凹凸がある。

周溝 検出できなかった。

竈 北東壁から検出された。間口約60cm、奥行約50cmの半円状の掘り方をもつ。残存部分でロームを約5cm掘り下げている。焚口には砂岩の切石を横につけ、袖石も同様と推定される。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 長径61cm、短径52cm、深さ55cmを測る。

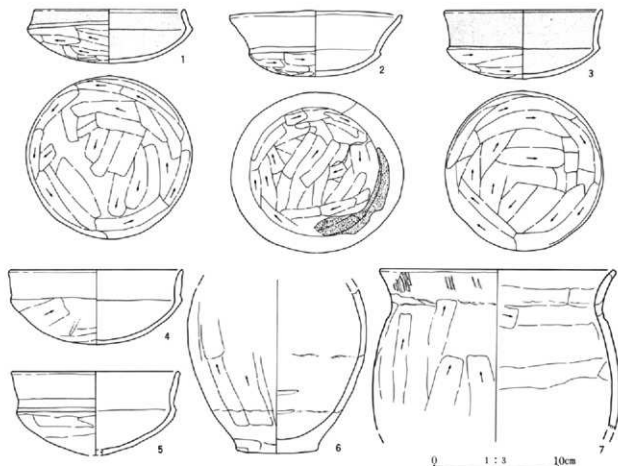
遺物 貯蔵穴周辺から土師器の坏や甕が出土している。

時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は6世紀前半の段階に相当する。

B区16号住居跡

| 図番 PL. | 土師器 種類 | 法量 (cm) ①口径②器高③器底径 | ①胎土 ②焼成 ③色調 | 成・整形技法の特徴 | 出土状態 | 残存状況 備考 |
|------------|------------|-----------------------|---------------------------------|-------------------------------------|------|---------------|
| 72-1 80 | 土師器 坏 | ①11.8 ②4.2 | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焙 ③明赤褐色 | 底面ヘラ削り、口縁部横ナデ内面丁寧ナデ。口縁内外面に漆と思われる痕跡。 | P1 | 完形 |
| 72-2 80 | 土師器 坏 | ①13.6 ②5.3 | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焙 ③黄褐色 | 底面ヘラ削り、口縁部、内面丁寧ナデ。 | P1 | 完形 外面に漆が付着 |
| 72-3 80 | 土師器 坏 | ①12.4 ②5.4 | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焙 ③にぶい赤褐色 | 底面ヘラ削り、口縁部横ナデ内面ナデ、口縁部内外面に黒漆と思われる痕跡。 | P1 | 完形 |
| 72-4 80 | 土師器 坏 | ①(13.5) ②6.0 | ①細粒の砂、赤色鉱物粒を含む。 ②酸化焙 ③にぶい黄褐色 | 底面ヘラ削り、口縁部横ナデ、内面ナデ。 | 北壁寄り | 1/2残存 |
| 72-5 80 | 土師器 坏 | ①(13.7) ②(6.6) | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焙 ③にぶい黄褐色 | 底面ヘラ削り、口縁部横ナデ、内面ナデ。 | 北壁寄り | 1/4残存 |
| 72-6 80 | 土師器 小型甕 | ②(13.0) ③6.2 | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化焙 ③赤褐色 | 底面ナデ、胴部外面ヘラ削り。内面丁寧ナデ。 | 北壁寄り | 胴下半部 |
| 72-7 80 | 土師器 小型甕 | ①18.5 ②(12.5) | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焙 ③にぶい黄褐色 | 胴部外面ヘラ削り、口縁部横ナデ、内面丁寧ナデ。 | P1 | 口縁~胴上半 1/3 |

第3章 竹沼(A-D区)遺跡の調査



第72図 B区16号住居跡出土遺物

B区7号土坑 (第73図、PL.45)

位置 Np-24・25グリッドにかけて検出された。8号土坑と重複している。

規模 現状では長径142cm、短径62cm、深さ約22cmを測る。

時期 不明。覆土からは遺物の出土はなかった。

B区8号土坑 (第73図、PL.45)

位置 Np-24、Nq-24グリッドにかけて検出された。7・9号土坑と重複している。

規模 長辺370cm、短辺70cm、深さ約36～50cmを測る。

時期 不明。覆土からは遺物の出土はなかった。

B区9号土坑 (第73図、PL.45)

位置 Np-24において検出された。8号土坑によって壊されている。

規模 長径128cm、短径100cm、深さ約56cmを測る。

時期 不明。覆土からは縄文土器片1点、土師器片43点、須恵器片7点が出土している。

B区10号土坑 (第73図、PL.45)

位置 Nv-21・22グリッドにかけて検出された。

規模 長径140cm、短径136cm、深さ約50cmを測る。

時期 覆土からは縄文土器片2点、土師器片18点が出土しているが、江戸期の構築。

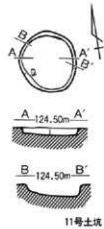
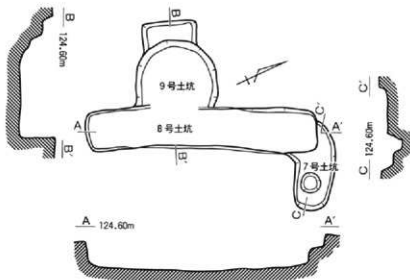
B区11号土坑 (第73図、PL.45)

位置 No-24グリッドにおいて検出された。B区13号住居跡に接している。

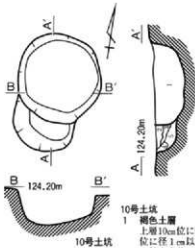
規模 長径98cm、短径90cm、深さ約12cmを測る。

時期 不明。覆土からは遺物の出土はなかった。

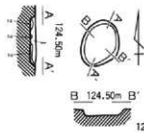
[3] B区検出の遺構と遺物



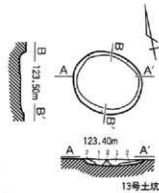
11号土坑
1 暗褐色土層 As-Bとローム粒を少量含む。



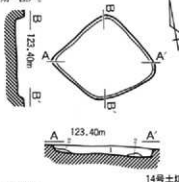
10号土坑
1 褐色土層
上層10cm位に軽石。下位に径1cm以下のローム粒を全体に含む。
2 褐色土層 1層と同一性状。軽石、ローム粒は少ない。
3 褐色土層
4 褐色土層 塚際の崩落土。ロームは塊状。
5 褐色土層 褐色土を主体にロームと黒色土との混土。
2基の土坑の混土。1層-10号土坑、2-5層-古い土坑全体に均質。緻密で、1層については人為的に埋没か。時期・江戸。



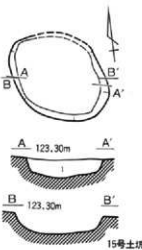
12号土坑
1 暗褐色土層 黒色ブロックを少量含む。
2 黄褐色土層 ロームの比率が多い。



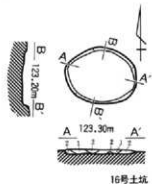
13号土坑



13・14号土坑
1 暗褐色土層 黒色ブロックを少量含む。
2 黄褐色土層 ローム粒と黒色ブロックを混入。



15号土坑
1 暗褐色土層 ローム小ブロックを塊点状に混入。

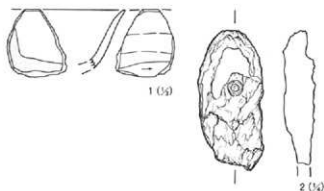


16号土坑
1 暗褐色土層 褐色土と黒色土の混土。
2 黄褐色土層 褐色土とロームブロックの混土。

0 1:60 2m

第73図 B区7号~16号土坑

第3章 竹沼(A-D区)遺跡の調査



第74図 B区9号土坑出土遺物

B区9号土坑

| 図番 PL | 土器種別 器種 | 法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径 | ①胎土 ②焼成 ③色調 | 産・整形技法の特徴 | 出土状態 | 残存状況 備考 |
|------------|------------|------------------------|-----------------------|-------------------------------|------|------------|
| 74-1 80 | 須恵器 坏 | 口縁部片 | ①細粒の砂を含む。 ②黄灰色 ③灰色 | 右回転ロクロ整形。底面回転ヘラ削り、 内面に津付着。 | | 破片 |

| 図番 PL | 器種 | 遺存状況 | 石 材 | 計測値 (cm・g) | | | 特 徴 | 出土状態 |
|----------|----|------|---------|------------|-----|---------|-----|--------------------------|
| | | | | 全長 | 幅 | 厚 | | |
| 74-2-80 | 凹石 | 完形 | 須恵母石薄片質 | 14.0 | 6.7 | 1.5~3.2 | 420 | 片面に1個の凹みが認められる。 覆土 縄文 |

B区12号土坑 (第73図、PL.46)

位置 Nn-25グリッドにおいて検出された。B区13号住居跡に近接している。

規模 長径78cm、短径58cm、深さ約8cmを測る。

時期 不明。覆土からは遺物の出土はなかった。

B区13号土坑 (第73図、PL.46)

位置 Nf-27、Ng-27グリッドにかけて検出された。B区14号土坑の南約3mの所に位置している。

規模 長径110cm、短径95cm、深さ約10cmを測る。

時期 不明。覆土からは遺物の出土はなかった。

B区14号土坑 (第73図、PL.46)

位置 Ne-27、Nf-27グリッドにかけて検出された。B区15号土坑の南西約3mの所に位置している。

規模 長径125cm、短径115cm、深さ約12cmを測る。

時期 不明。覆土からは縄文土器片2点、土師器片8点、須恵器片1点が出土している。

B区15号土坑 (第73図、PL.46)

位置 Nd-27・28、Ne-27・28グリッドにかけて検出された。B区16号土坑の南約1.4mの所に位置している。

規模 長径145cm、短径135cm、深さ約28cmを測る。

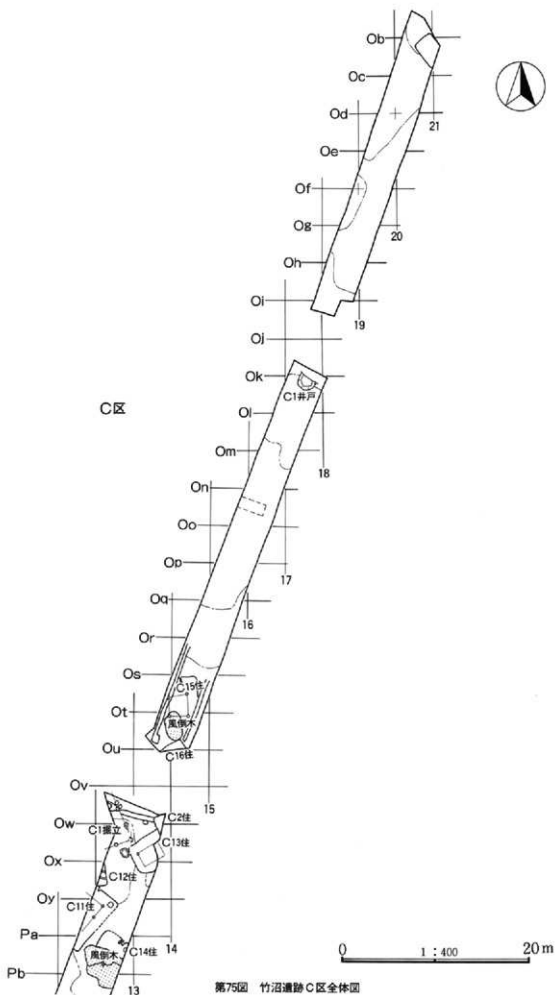
時期 不明。覆土からは遺物の出土はなかった。

B区16号土坑 (第73図)

位置 Nd-27・28グリッドにかけて検出された。B区15号土坑の北約1.4mの所に位置している。

規模 長径115cm、短径90cm、深さ約7cmを測る。

時期 不明。覆土からは遺物の出土はなかった。



第75図 竹沼遺跡C区全体図

〔4〕 C区検出の遺構と遺物

C区11号住居跡(第76~80図、PL.47・48・80・81)

位置 Ox-11・12、Oy-11・12、Pa-11グリッドにかけて検出された。C区14号住居跡の北西約1mの所、C区12号住居跡に接している。

形状 掘掘できなかったが、現状では長辺6.8m、短辺3.4mである。

方位 N-42°-E。

覆土 ローム層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は7(3・a-f)層に分かれた。a-f層は掘り方覆土である。

壁高 住居跡確認面より約20~30cmで床面に達する。床面からはほぼ垂直に立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。現状での面積は約11.8㎡。南東壁下中央部に浅い掘り込みが検出されたが、住居出入り口部になる可能性がある。

掘り方 壁に沿って幅80cm程掘り込まれている。

周溝 検出できなかった。

竈 北東壁のほぼ中央部と思われる位置から検出され、燃焼部の大部分は床面に構築されている。袖部約60cmが残存している。規模は煙道方向70cm、両軸方向55cmである。また、竈周辺には焼土・炭化物を含んだ粘土の分布が認められた。

柱穴 3個のピットが検出された。P1は長径30cm、短径20cm、深さ37cm。P2は長径65cm、短径(29cm)、深さ36cm。P4は長径27cm、短径26cm、深さ33cmである。P3は貯蔵穴になる。

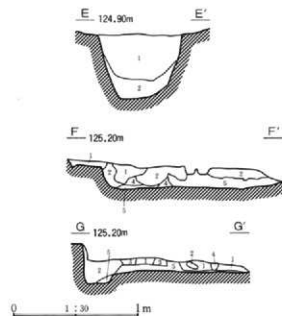
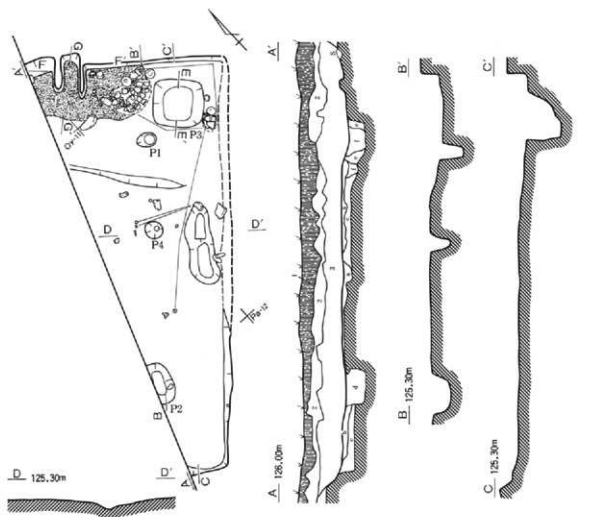
貯蔵穴 床面北東隅から検出された。規模は長径81cm、短径76cm、深さ51cmである。

遺物 土師器の坏や甕が竈と貯蔵穴の中間から出土している。

時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は6世紀後半の段階に相当する。

C区11号住居跡

| 図番 PL | 土器種別 器 種 | 法 量 (cm) ①口径②器高③底径 | ①胎土 ②焼成 ③色調 | 成・整形技法の特徴 | 出土状態 | 残存状況 備 考 |
|-------------|-------------|---------------------------|----------------------------------|---------------------------------|-------|-------------|
| 79-1 80 | 土師器 坏 | ①13.4 ②5.1 | ①細粒の砂、赤色炭化物を含む。 ②酸化治 ③橙色 | 底面へう割り、口縁部横ナデ。内面ナデ。 | P4周辺 | 完形 |
| 79-2 80 | 土師器 坏 | ①11.4 ②5.9 | ①細粒の砂を含む。 ②酸化治 ③明赤褐色 | 底面へう割り、口縁部横ナデ。内面炭灰による黒色処理。ミガキ。 | P4周辺 | 口縁部一部欠損 |
| 79-3 80 | 土師器 坏 | ①(15.5) ②(7.2) | ①細粒の砂、赤色炭化物を含む。 ②酸化治 ③橙色 | 底面へう割り、口縁部横ナデ。内面ナデ。へうの工具痕。 | 北東壁寄り | 2/3残存 |
| 79-4 80 | 土師器 高坏 | ①16.4 ②(6.9) | ①細粒の砂、赤色炭化物を含む。 ②酸化治 ③橙色 | 坏部底面へう割り。口縁部横ナデ。内面丁寧なナデ。 | 北東壁寄り | 胴部欠損 |
| 79-5 80 | 土師器 小型甕 | ①12.4 ②16.1 ③5.5 | ①細粒の砂を含む。 ②酸化治 ③橙色 | 底面・胴部外面へう割り、口縁部横ナデ。内面丁寧なナデ。 | 北東壁寄り | 完形 |
| 79-6 80 | 土師器 小型甕 | ①16.8 ②13.6 ③5.0 | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化治 ③明赤褐色 | 底面ナデ、胴部外面へう割り。口縁部横ナデ。内面ナデ。輪積み載。 | 北東壁寄り | 完形 |
| 79-7 80 | 土師器 鉢 | ①(15.7) ②(13.2) ③(6.0) | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化治 ③明赤褐色 | 底面・胴部外面へう割り、口縁部横ナデ。内面ナデ。 | カマド周辺 | 口縁一部下部一部欠損 |
| 79-8 80 | 土師器 鉢 | ①12.6 ②12.1 ③5.6 | ①細粒の砂、片岩粒を多量に含む。 ②酸化治 ③にぶい赤褐色 | 底面・胴部外面へう割り、口縁部横ナデ。内面ナデ。へうの工具痕。 | 貯蔵穴周辺 | 口縁部一部欠損 |
| 79-9 80 | 土師器 小型甕 | ①(14.2) ②17.2 ③(4.2) | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化治 ③にぶい赤褐色 | 胴部外面へう割り、口縁部横ナデ。内面丁寧なナデ。 | 貯蔵穴周辺 | 1/2残存 |
| 79-10 80 | 土師器 鉢 | ①21.5 ②16.5 ③7.5 | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化治 ③赤褐色 | 底面ナデ、胴部外面へう割り。口縁部横ナデ。内面ナデ。 | 貯蔵穴周辺 | 口縁部一部欠損 |
| 79-11 81 | 土師器 甕 | ①(26.5) ②36.4 | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化治 ③にぶい橙色 | 底面ナデ、胴部外面へう割り。内面丁寧なナデ。 | 東壁寄り | 胴下部炭化物付着 |
| 79-12 81 | 土師器 甕 | ①16.8 ②36.2 ③5.8 | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化治 ③明赤褐色 | 底面ナデ、胴部外面へう割り。口縁部横ナデ。内面ナデ。輪積み載。 | カマド周辺 | 完形 |



(A-A')

- 1 褐色土層 As-Aを含む耕作土。締まりがあまりない。
- 2 灰茶褐色土層 As-Bを多量に含む。粒子が一定。締まりが非常にある。
- 3 暗褐色土層 上層にAs-Bの混入が少量認められる。暗褐色土にローム粒を所々に含む。締まり、粘性ややあり。

粘床

- a 暗褐色土層 ローム、褐色土、黒色土の混土。
- b 赤色土層 ローム粒を凝状に含む。
- c 黄褐色土層 ロームと黒色土の混土。
- d 褐色土層 ローム粒を含む。
- e 暗褐色土層 ローム、褐色土、黒色土の混土。
- f 褐色土層 褐色土と青灰色土の混土。

(E-E')

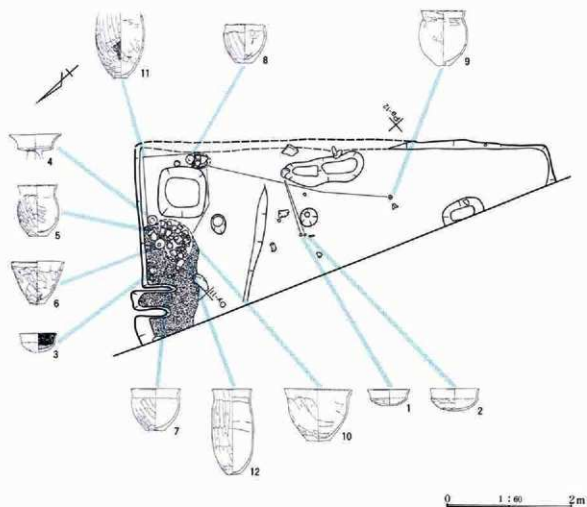
- 1 暗褐色土層 やわらかくて粘性が非常にある。ロームブロック、ローム粒を多量に含む。
- 2 黄褐色土層 やわらかくて粘性が非常にある。ロームブロック、ローム粒が主体の土。

(F-F'・G-G')

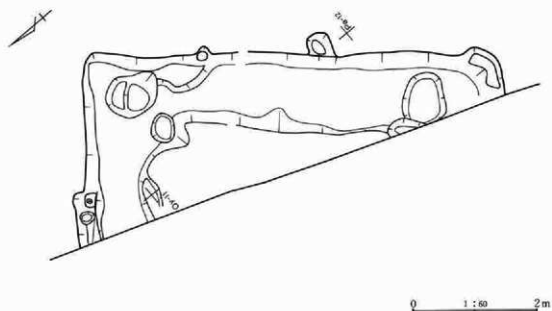
- 1 暗褐色土層 袖用粘土。粘性があり、粒子が細かく均一。
- 2 灰白色土層 凍土を含む。
- 3 赤褐色土層 凍土を含む。
- 4 黄褐色土層 砂質ロームブロック。
- 5 暗褐色土層 黒色土とローム粒の混土。焼土を少量含む。

第76図 C区11号住居跡

第3章 竹沼(A-D区)遺跡の調査

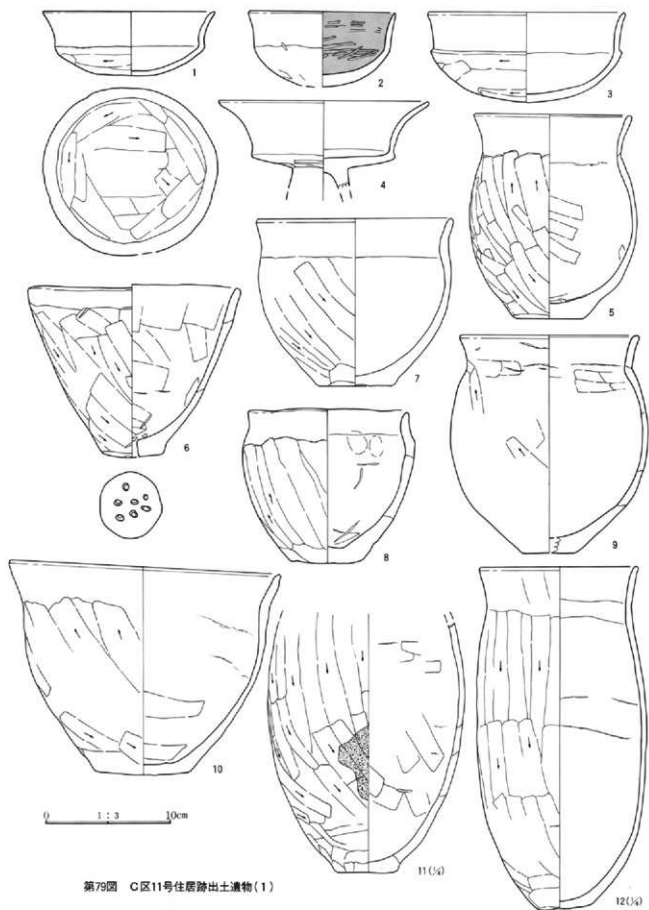


第77図 C区11号住居跡遺物分布図



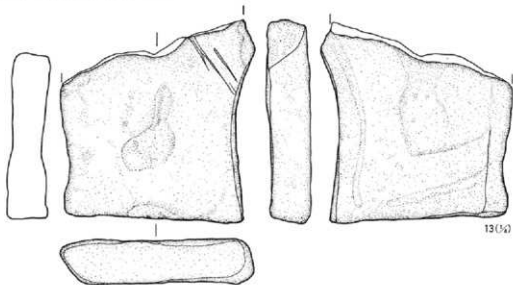
第78図 C区11号住居跡掘り方

〔4〕C区検出の遺構と遺物



第79図 C区11号住居跡出土遺物(1)

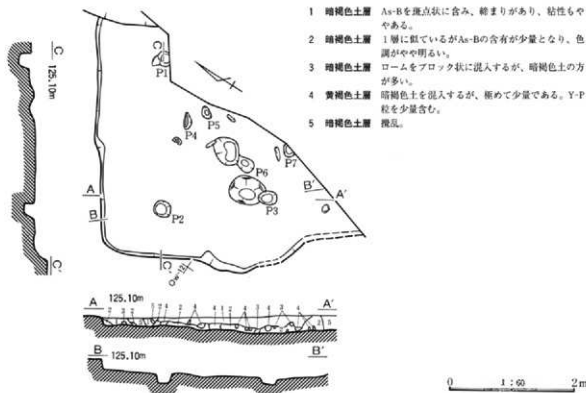
12(5)



第80図 C区11号住居跡出土遺物(2)

C区11号住居跡

| 図番 PL | 器種 | 遺存状況 | 石 材 | 計測値 (cm・g) | | | | 特 徴 | 出土状態 |
|----------|----|------|-----|------------|------|---------|--------|----------|------|
| | | | | 全長 | 幅 | 厚 | 重量 | | |
| 79-13-81 | 灰石 | 一部欠損 | 砂岩 | (21.3) | 18.0 | 3.0~4.7 | (2350) | 灰炭として使用。 | 覆土 |



第81図 C区13号住居跡

C区13号住居跡 (第81回, PL.50)

位置 Ow-12・13、Ox-13グリッドにかけて検出された。C区2号住居跡と重複している。

形状 完掘できなかったが、現状では長辺4.2m、短辺3.7mである。

方位 不明。

覆土 ローム層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約10～22cmで床面に達する。床面からはほぼ垂直に立ち上がる。

床面 やや凹凸がある。現状での面積は約9.2㎡。

掘り方 全体的に凹凸がある。

周溝 検出できなかった。

竈 検出できなかった。

柱穴 7個のビットが検出された。P1の深さは14cm、P2の深さ16cm、P3の深さ11cm、P4の深さ13cm、P5の深さ8cm、P6の深さ8cm、P7の深さ5cmである。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 覆土から遺物の出土はほとんどなかった。

時期 覆土等から6世紀代と考えられる。

C区14号住居跡 (第82・83回, PL.51・81)

位置 Oy-12、Pa-12、Pb-12グリッドにかけて検出された。C区11号住居跡の南東約1mの所に位置している。風倒木によって住居跡の南半分を壊され

ている。

形状 完掘できなかったが、現状では長辺5m、短辺3mである。

方位 N-31°E。

覆土 ローム層を掘り込んで堅穴住居は構築されている。

壁高 住居跡確認面より約5cmで床面に達する。

床面 はほぼ平坦である。現状での面積は約14.9㎡。

掘り方 全体的にやや凹凸がある。

周溝 検出できなかった。

竈 北東壁の中央部と思われる位置から検出され、燃焼部の大部分は床面に構築されている。袖部約80cmが残存している。規模は煙道方向90cm、両袖方向65cmである。竈には袖石と支石、臺が残されていた。

柱穴 3個のビットが検出された。P1の深さは16cm、P2深さ27cm、P3深さ3cmである。P1・P2は主柱穴になるものと考えられる。

貯蔵穴 床面北東隅から検出された。完掘できなかったが、現状での規模は長径40cm、短径(22cm)、深さ30cmである。

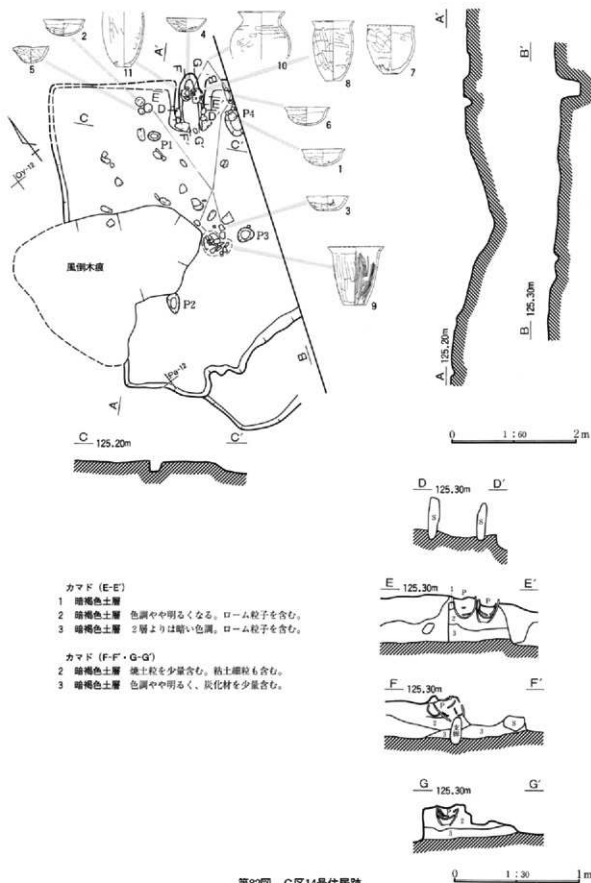
遺物 土師器の坏や甕が竈と貯蔵穴の周辺から出土している。

時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は6世紀前半の段階に相当する。

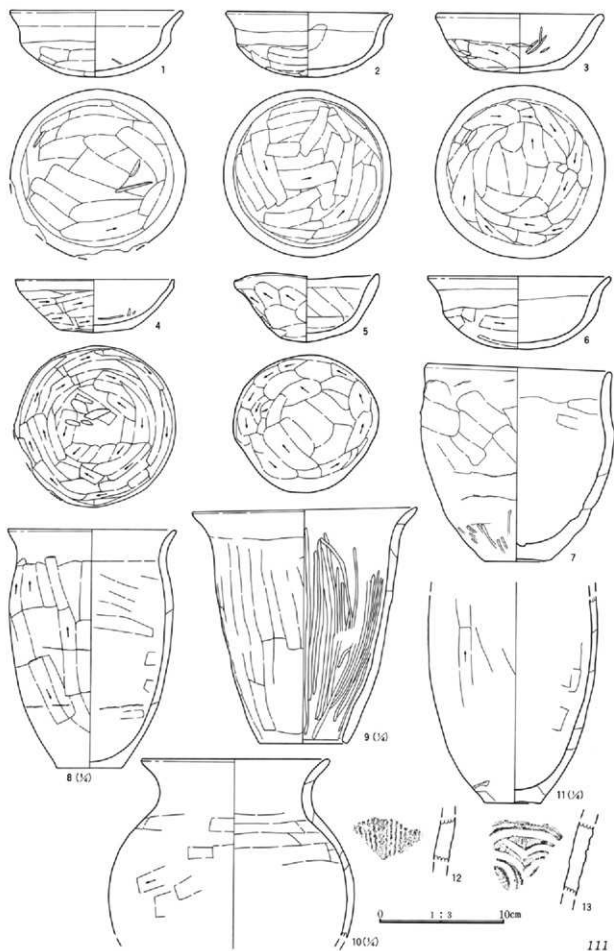
C区14号住居跡

| 回番 PL | 土器種類 器 種 | 量 重 (cm) ①C区②東区③西区 | ①胎土 ②焼成 ③色調 | 成・整形技法の特徴 | 出土状態 | 残存状況 備 考 |
|----------|---------------|-----------------------|------------------------------|----------------------------------|-------|-------------|
| 83-1 | 土師器 81 坏 | ①13.5 ②5.3 | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焰 ③にぶい褐色 | 底面へつ削り、口縁部横ナデ。内面ナデ。へつの工具痕。 | P4内 | ほぼ完形 |
| 83-2 | 土師器 81 坏 | ①13.2 ②5.1 | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焰 ③にぶい褐色 | 底面へつ削り、口縁部横ナデ。内面丁寧なナデ。へつの工具痕。 | 北壁寄り | 完形 |
| 83-3 | 土師器 81 坏 | ①13.2 ②4.6 ③7.0 | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焰 ③にぶい褐色 | 底面・体部へつ削り、口縁部横ナデ。内面丁寧なナデ。へつの工具痕。 | 中央部 | 完形 器厚は薄い |
| 83-4 | 土師器 81 坏 | ①12.5 ②4.2 ③6.1 | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焰 ③にぶい褐色 | 底面・体部へつ削り、口縁部横ナデ。内面ナデ。へつの工具痕。 | コマド | 完形 |
| 83-5 | 土師器 81 坏 | ①11.4 ②5.3 | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焰 ③にぶい褐色 | 底面・体部へつ削り、口縁部横ナデ。内面ナデ。 | 北壁寄り | 完形 器厚は薄い |
| 83-6 | 土師器 81 坏 | ①14.3 ②5.8 | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化焰 ③褐色 | 底面へつ削り、口縁部横ナデ。内面ナデ。 | 北東壁寄り | ほぼ完形 |
| 83-7 | 土師器 81 小型甕 | ①14.8 ②15.4 ③5.6 | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焰 ③にぶい褐色 | 底面ナデ、胴部外面へつ削り。口縁部横ナデ、内面ナデ。 | コマド | 口縁部一部欠損 |
| 83-8 | 土師器 81 甕 | ①17.8 ②25.2 ③7.0 | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焰 ③にぶい褐色 | 底面割落、胴部外面へつ削り。口縁部横ナデ、内面丁寧なナデ。 | コマド | 口縁・胴上部一部欠損 |

第3章 竹沼(A-D区)遺跡の調査



第82図 C区14号住居跡



第93图 C区14号住居跡出土遺物

第3章 竹沼(A-D区)遺跡の調査

C区14号住居跡

| 図番 PL | 土器種別 器 種 | 法 量 (cm) ①口径②器底③底径 | ①胎土 ②焼成 ③色調 | 底・整形技法の特徴 | 出土状態 | 残存状況 備 考 |
|-------------|-------------|-----------------------|------------------------------|-------------------------------|------|-------------|
| 83-9 81 | 土師器 甌 | ①24.0 ②24.8 ③9.3 | ①細粒の砂、片岩粒を多量に含む。 ②酸化焰 ③橙色 | 胴部外面へつ削り、口縁部横ナデ。内面 ナデ、ミガキ。 | 中央部 | 胴部一部欠損 |
| 83-10 81 | 土師器 壺 | ①20.0 ②(18.9) | ①細粒の砂、片岩粒を多量に含む。 ②酸化焰 ③橙色 | 胴部外面へつ削り不明瞭、口縁部横ナデ。 内面ナデ。 | カマド | 胴下半部欠損 |
| 83-11 81 | 土師器 壺 | ①(21.9) ②(6.0) | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焰 ③赤褐色 | 底面ナデ、胴部外面へつ削り不明瞭。内 面ナデ。 | カマド | 胴上半部欠損 |
| 83-12 81 | 縄文土器 朝顔片 | | ①中粒の砂を含む。 ②良 ③におい褐色 | 熱糸し施紋。 | 覆土 | 中期後半 |
| 83-13 81 | 縄文土器 朝顔片 | | ①中粒の砂を含む。 ②良 ③灰褐色 | 沈積による文様。 | 覆土 | 中期 |

C区15号住居跡 (第84・85図、PL.52・82)

位 置 Os-13・14、Ot-13・14グリッドにかけて検出された。C区16号住居跡と接し、C区2号住居跡の北約8mの所に位置している。風倒木によって住居跡の南部を壊されている。

形 状 完掘できなかったが、現状では長辺6.8m、短辺4.7mである。

方 位 N-7°-W。

覆 土 ローム層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約10cmで床面に達する。

床 面 やや凹凸がある。現状での面積は約23.8㎡。

周 溝 検出できなかった。

竈 北壁から検出されたが、残存状況は非常に悪く、焼土の堆積が認められただけであった。

柱 穴 10個のピットが検出された。このうちP1～P4は主柱穴になると考えられる。P1の深さは25cm、P2深さ15cm、P3深さ35cm、P4深さ42cmである。P5は貯蔵穴になる。

貯蔵穴 床面北東隅から検出された。規模は長径63cm、短径60cm、深さ20cmである。

遺 物 土師器壺の破片や小型土器が出土してい

る。

時 期 出土遺物から判断すると、当住居跡は6世紀の段階に相当する。

C区16号住居跡 (第84図、PL.49)

位 置 Ot-13・14グリッドにかけて検出された。C区15号住居跡の南に接している。

形 状 完掘できなかったが、現状では長辺2.3m、短辺1.5mである。

方 位 不明。

覆 土 ローム層を掘り込んで堅穴住居は構築されている。

壁 高 住居跡確認面より約16～30cmで床面に達する。

床 面 やや凹凸がある。現状での面積は約1.9㎡。

周 溝 検出できなかった。

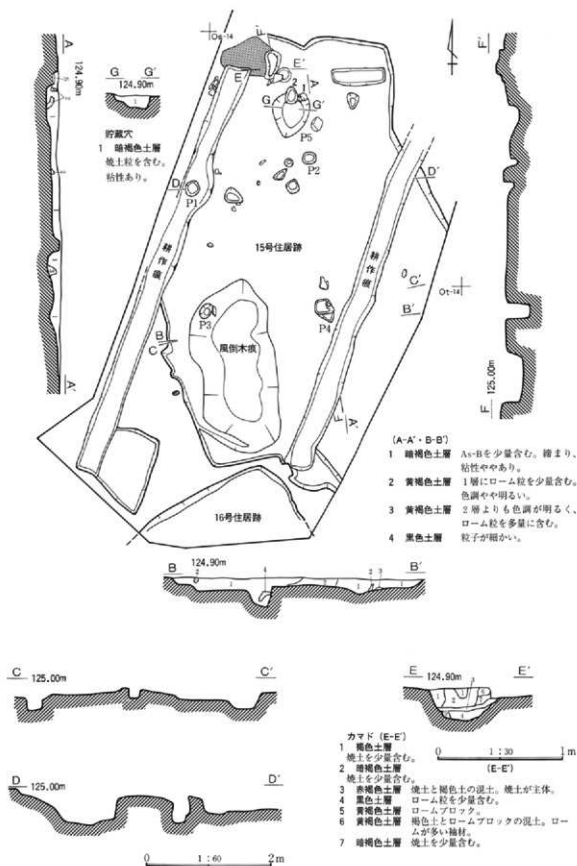
竈 検出できなかった。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

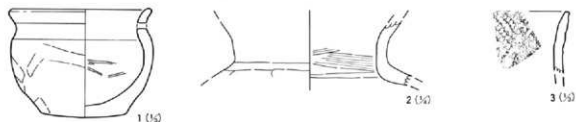
遺 物 覆土からは遺物の出土はなかった。

時 期 6世紀代。



第94図 C区15号住居跡・16号住居跡

第3章 竹沼(A-D区)遺跡の調査



第85図 C区15号住居跡出土遺物

C区15号住居跡

| 図番 PL | 土器種別 器 種 | 法 量 (cm) ①口径 ②高さ ③底径 | ①胎土 ②焼成 ③色調 | 成・整形技法の特徴 | 出土状態 | 残存状況 備 考 |
|------------|--------------|-------------------------|---------------------------|----------------------------|------|------------------|
| 85-1 82 | 土師器 鉢 | ①11.3 ②8.5 ③6.8 | ①凝粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化煎 ③褐色 | 底面ナデ、胴部外面へう削り。口縁部横ナデ、内面ナデ。 | F5周辺 | 定形 口縁部に 一對の穿孔 |
| 85-2 82 | 土師器 壺 | ②(6.8) | ①凝粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化煎 ③褐色 | 胴部外面へう削り不明瞭、口縁部横ナデ、内面ナデ。 | F5周辺 | 頸部全周 |
| 85-3 82 | 縄文土器 口縁部片 | | ①凝粒の砂を含む。 ②良 ③褐色 | 縄文輪紋。原体はR止横位、内面ナデ。 | 覆土 | 中期後半 |

C区2号住居跡 (第86図、PL.47)

位置 Ov-13、Ow-13グリッドにかけて検出された。C区13号住居跡と重複している。

形状 完掘できなかつたが、現状では長辺2.5m、短辺1.2mである。

方位 不明。

覆土 ローム層を掘り込んで堅穴住居は構築されている。

壁高 住居跡確認面より約24~28cmで床面に達する。

床面 ほほ平坦である。現状での面積は約1.1㎡。

周溝 検出できなかった。

竈 検出できなかった。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 覆土からは遺物の出土はなかつた。

時期 奈良時代。市教委調査CH-2住と同一住居。

C区12号住居跡 (第86図、PL.49)

位置 Ox-12グリッドにおいて検出された。C区11号住居跡に接している。

形状 完掘できなかつたが、現状では長辺2.5m、短辺1.2mである。

方位 不明。

覆土 ローム層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は3層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約18~30cmで床面に達する。

床面 やや凹凸がある。現状での面積は約1.6㎡。

周溝 検出できなかった。

竈 検出できなかった。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 覆土からは遺物の出土はなかつた。

時期 6世紀代。

C区1号掘立柱建物跡 (第86図、PL.52)

位置 Ov-12、Ow-12グリッドにかけて検出された。C区13号住居跡に接している。

規模 完掘できなかったために不明であるが、2間×3間になるものと考えられる。

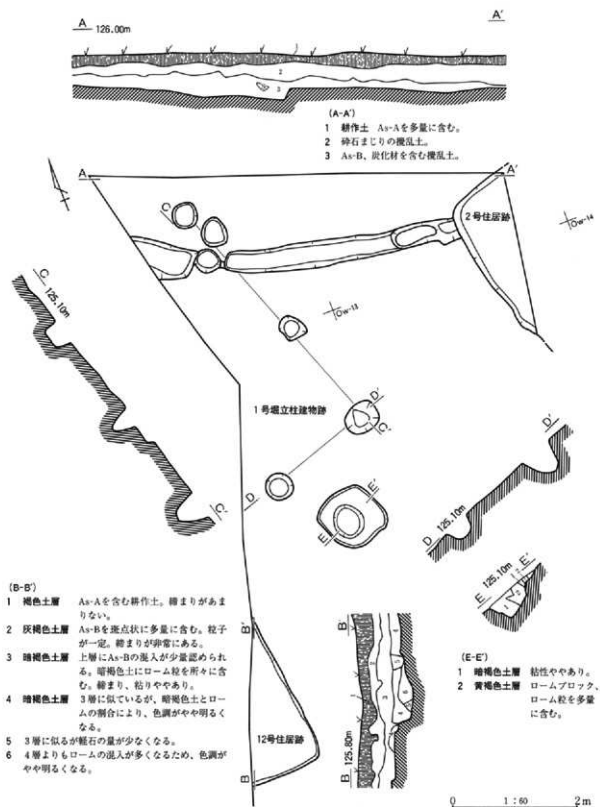
柱穴 形状は径約38~56cmの楕円形を呈する。深さは6~41cmである。ピットから遺物の出土はなかつた。

時期 不明。

C区1号井戸 (第87・88図、PL.82)

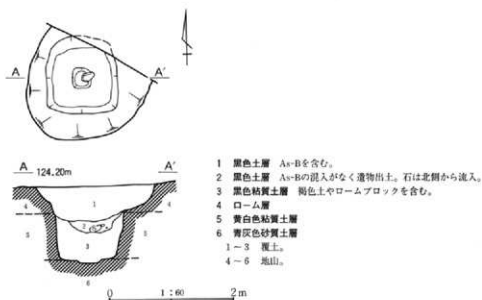
位置 Dj-17、Dk-17グリッドにかけて検出された。

規模 確認面から30cm付近までは円形を呈し、さら



第86図 C区2号住居跡・12号住居跡・1号掘立柱建物跡

第3章 竹沼(A-D区)遺跡の調査



第87図 C区1号井戸



第88図 C区1号井戸出土遺物

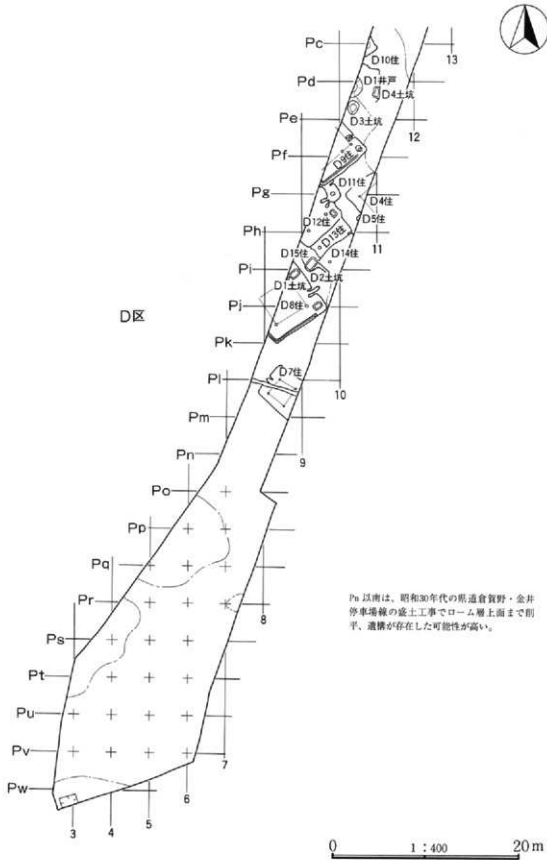
C区1号井戸

| 図番 PL | 土器種別 器種 | 法量 (cm) ①口径②器高③底径 | ①胎土 ②焼成 ③色調 | 成・整形技法の特徴 | 出土状態 | 残存状況 備考 |
|------------|------------|-------------------------|------------------------------|-----------|------|------------|
| 88-1 82 | 筑志器 杯 | ①(13.1) ②(3.6)③(5.0) | ①細 白色泥物粒を含む。 ②還元焼 ③灰オリーブ色 | 右回転ロクロ整形。 | 覆土 | 1/4残存 |

| 図番 PL | 器種 | 遺存状況 | 石 材 | 計測値 (cm・g) | | | 特 徴 | 出土状態 |
|----------|----|------|-----|------------|-------|---------------|----------|------|
| | | | | 全長 | 幅 | 厚 重量 | | |
| 88-2-82 | 砥石 | 部分 | 砂岩 | (5.5) | (4.1) | 3.3-4.1 (160) | 4 側面を使用。 | 覆土 |

に方形に掘り込まれている。上面の規模は長径
190cm、短径 (155cm) である。方形の掘り込みは長

辺125cm、短辺123cm、深さ82cmである。確認面から
の深さは123cmとなる。



第89図 竹沼遺跡D区全体図

[5] D区検出の遺構と遺物

D区4号住居跡 (第90・91図, PL.56・82)

位置 Pf-10、Pg-10グリッドにかけて検出された。D区9号住居跡の南東約2mの所、D区5号住居跡と接している。

形状 完掘できなかったが、現状では長辺4.7m、短辺2.7mである。

方位 不明。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は5(3~5・a・b)層に分かれた。a・b層は掘り方覆土である。

壁高 住居跡確認面より約25cmで床面に達する。床面からは垂直に立ち上がる。

床面 はほぼ平坦である。現状での面積は約6m²。

掘り方 全体的にやや凹凸がある。

周溝 現状では全周している。幅約5~10cm、深さ約5~9cmである。

電 検出できなかった。

柱穴 7個のピットが検出された。このうちP1は柱穴になる。P1の深さは22cm、P2深さ11cm、P3深さ8cm、P4深さ3cm、P5深さ5cm、P6深さ8cm、P7深さ3cmである。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 覆土からは土師器片4点、縄文土器片2点が

出土している。

時期 明確な時期は不明であるが、当住居跡は6世紀の段階に相当すると考えられる。市教委調査DH-4住と同一住居。

D区5号住居跡 (第91図, PL.56)

位置 Pg-10グリッドにおいて検出された。D区4号住居跡に接している。

形状 完掘できなかったが、現状では長辺0.7m、短辺0.4mである。

方位 不明。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は2層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約36cmで床面に達する。

床面 やや凹凸がある。現状での面積は約0.1m²。

周溝 検出できなかった。

電 検出できなかった。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 覆土からは遺物の出土はなかった。

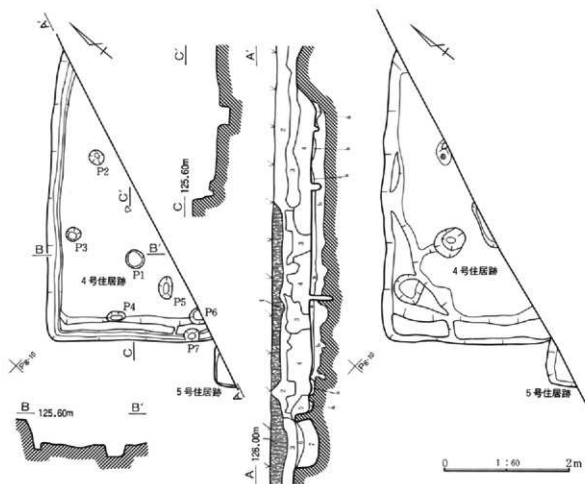
時期 6世紀代。市教委調査DH-5住と同一住居。滑石工房址。



第90図 D区4号住居跡出土遺物

D区4号住居跡

| 図番 PL | 土器種別 器種 | 法量 (cm) ①口径②器高③底径 | ①胎土 ②焼成 ③色調 | 底・整形技法の特徴 | 出土状態 | 残存状況 備考 |
|------------|-------------|----------------------|----------------------------|-------------------------|------|------------|
| 90-1 82 | 縄文土器 胴部片 | | ①細粒の砂、繊維を含む。 ②良 ③にぶい黄褐色 | 縄文地紋。粗粒。乱推。内面は丁寧な調整。 | 覆土 | 前期開山式 |
| 90-2 82 | 縄文土器 胴部片 | | ①細粒の砂、繊維を含む。 ②良 ③灰褐色 | 縄文地紋。底面は直前段合換。内面は丁寧な調整。 | 覆土 | 前期開山式 |



- | | | | |
|----------|------------------------------------|-------------|-------------------------------------|
| 1 覆層土 | バラス、細石、不純物を含む。 | 6 暗褐色土層 | やや固く締まり粘性あり。ロームブロック・ローム粒子を含む。 |
| 2 灰茶褐色土層 | As-Bを斑点状に含む。粒子が一定。締まりが非常にある。 | 7 暗褐色土層 | やや固く締まり粘性非常にあり。ロームブロック・ローム粒子を多量に含む。 |
| 3 暗褐色土層 | As-Bの混入が少量認められ、暗褐色土にローム粒を所々に含む。 | 掘り方 a 黄褐色土層 | ロームと黒色土との混土。粘床材、固い。 |
| 4 暗褐色土層 | 3層に似ているが、暗褐色土とロームの割合により色調がやや明るくなる。 | b 暗褐色土層 | ロームと黒色土、褐色土との混土。各々は5cm大のブロック状。 |
| 5 黄褐色土層 | 地山ロームを少量含んだ層。粘性、締まりがある。 | | |

第91図 D区4号住居跡・5号住居跡

D区7号住居跡 (第92~94図、PL.57・58・82)

位置 Pk-8、P1-7・8、Pm-8グリッドにかけて検出された。D区8号住居跡の南約2mの所に位置している。住居跡中央部を溝作溝によって壊されている。

形状 完掘できなかったが、現状では長辺4.5m、短辺4.1mである。

方位 N-53°-W。

覆土 ローム層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は7(3~6・a-c)層に分かれた。a-c層は掘り方覆土である。

壁高 住居跡確認面より約10~23cmで床面に達する。床面からほぼ垂直に立ち上がる。

床面 ほほ平坦である。現状での面積は約14.6㎡。

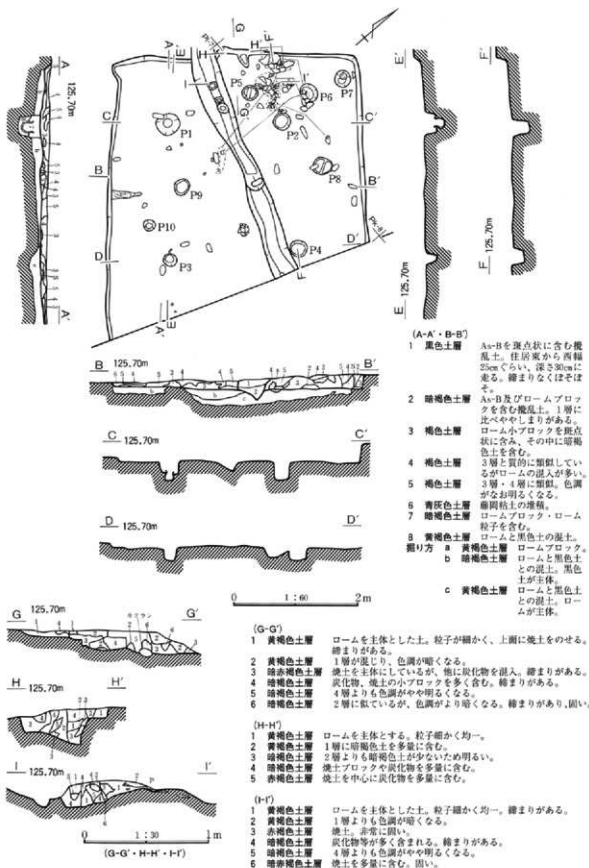
掘り方 全体的にやや凹凸がある。

溝 検出できなかった。

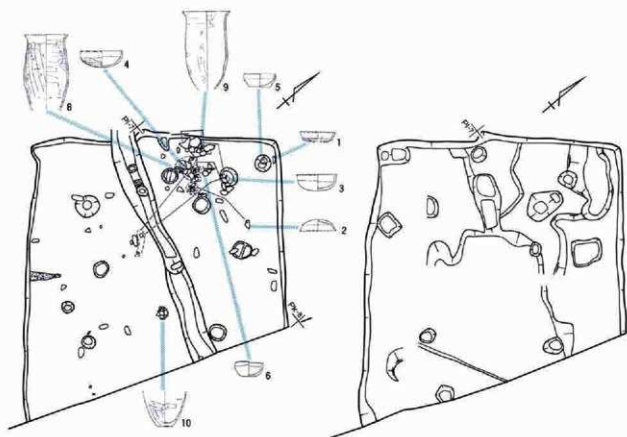
竈 北西壁の中央部から検出され、燃焼部の大部分は床面に構築されている。袖部約30cmが残存している。規模は煙道方向30cm、両袖方向推定70cmである。

柱穴 9個のピットが検出された。P1~P4が主柱穴となる。P1の深さは30cm、P2深さ28cm、P3深さ20cm、P4深さ20cmである。P5深さ5cm、P8深さ20cm、P9深さ15cm、P10深さ8cmである。

貯蔵穴 P6・P7が該当する可能性がある。P6の規



第92図 D区7号住居跡



第93図 D区7号住居跡遺物分布図と掘り方

0 1:60 2m

模は長径30cm、短径24cm、深さ13cm、P7の規模は長径26cm、短径24cm、深さ20cmである。

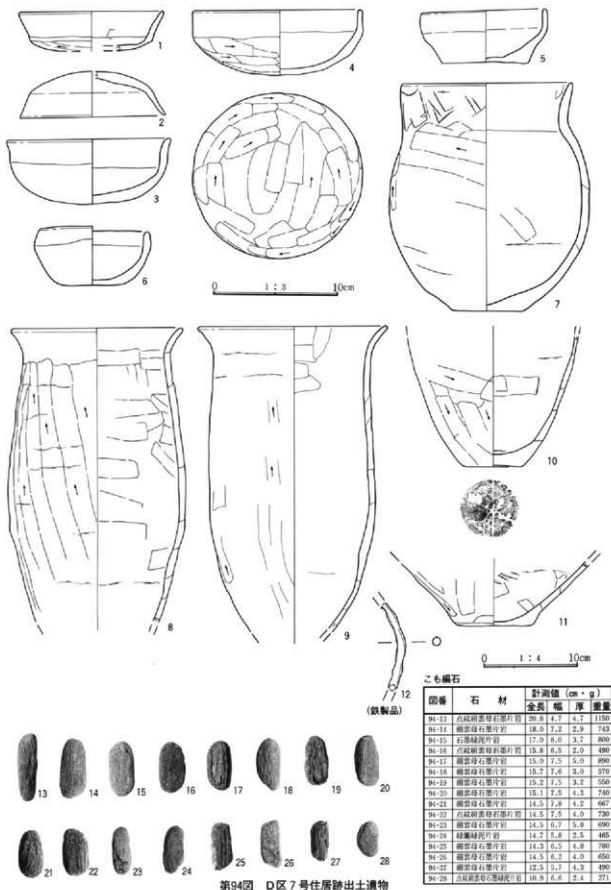
遺物 土師器の坏や甕が竈周辺と貯蔵穴内から出土している。

時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は6世紀後半の段階に相当する。

D区7号住居跡

| 図番 PL. | 土師器 器種 | 法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径 | ①胎土 ②焼成 ③色調 | 成・整形技法の特徴 | 出土状態 | 残存状況 備考 |
|------------|-----------|------------------------|--------------------------------|----------------------------|-------|------------|
| | | | | | | |
| 94-1 82 | 土師器 坏 | ①(11.5) ②(3.2) | ①細粒の砂、赤色鉱物粒を含む。 ②酸化焰 ③褐色 | 底面ヘラ削り、口縁部横ナデ。内面ナデ。 | 北壁寄り | 1/3残存 |
| 94-2 82 | 須恵器 蓋 | ①(11.5) ②3.6 | ①細 ②還元焰 ③灰白色 | 右回転クロコ整形 | 北東部 | 1/2残存 |
| 94-3 82 | 土師器 坏 | ①12.9 ②5.1 | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化焰 ③にぶい褐色 | 底面ヘラ削り不明瞭。口縁部横ナデ。内面ナデ。 | P6 | 3/4残存 |
| 94-4 82 | 土師器 坏 | ①13.2 ②5.1 | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化焰 ③にぶい黄色 | 底面ヘラ削り、口縁部横ナデ。内面ナデ。 | カマド周辺 | 口縁部一部欠損 |
| 94-5 82 | 土師器 坏 | ①10.0 ②4.1 ③6.8 | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焰 ③にぶい褐色 | 底面ヘラ削り、体部ナデ、口縁部横ナデ。内面ナデ。 | P7 | 口縁部一部欠損 |
| 94-6 82 | 土師器 坏 | ①8.8 ②4.7 | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焰 ③にぶい褐色 | 底面・体部ナデ。口縁部横ナデ。内面ナデ。 | P6周辺 | 完形 |
| 94-7 82 | 土師器 甕 | ①13.6 ②18.0 ③5.6 | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焰 ③にぶい黄褐色 | 底面ナデ、胴部外面ヘラ削り。口縁部横ナデ。内面ナデ。 | 覆土 | 完形 |
| 94-8 82 | 土師器 甕 | ①(18.3) ②(31.1) | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焰 ③にぶい褐色 | 胴部外面ヘラ削り。口縁部横ナデ。内面ナデ。 | カマド周辺 | 口縁部下半部残存 |

第3章 竹沼(A~D区)遺跡の調査



第94図 D区7号住居跡出土遺物

D区7号住居跡

| 図番 PL | 土器種別 器種 | 法量 (cm) ①口径②器高③底径 | ①胎土 ②焼成 ③色調 | 成・整形技法の特徴 | 出土状態 | 残存状況 備考 |
|-------------|------------|----------------------|--------------------------------|----------------------------------|-----------|----------------|
| | | | | | | |
| 94-9 82 | 土師器 甕 | ①20.0 | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化焙 ③褐色 | 胴部外面へう割り、口縁部横ナデ。輪積 み残れる。内面ナデ。 | 北西壁寄 り | 口縁一部・底部 欠損 |
| | | ②(32.9) | | | | |
| 94-10 82 | 土師器 甕 | ①(13.7) | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焙 ③灰黄褐色 | 底面木炭痕、胴部外面へう割り。内面ナ デ。 | 中央部 | 胴下半部 内面に帯付着 |
| | | ②(6.2) | | | | |
| 94-11 82 | 土師器 壺 | ①(6.8) | ①細粒の砂、褐色鉱物粒を含む。 ②酸化焙 ③にぶい褐色 | 底面へう割り、口縁部横ナデ。内面ナデ。 | 覆土 | 底部全周 |
| | | ②8.6 | | | | |

D区8号住居跡 (第95~98図、PL.58~60・82・83)

位置 Ph-8、Pi-8・9、Pj-8・9グリッドにかけて
検出された。D区14号住居跡の南西約2mの所に位
置している。

形状 完掘できなかったが、現状では長辺7m、
短辺6.3mである。

方位 N-57°-E。

覆土 ローム層を掘り込んで堅穴住居は構築さ
れ、そこに堆積した覆土は6(1~4・a・b)層に分
かれた。a・b層は掘り方覆土である。

壁高 住居跡確認面より約10~25cmで床面に達す
る。床面からはほぼ垂直に立ち上がる。

床面 はほぼ平坦である。現状での面積は約24.9m²。

掘り方 床面中央部を除いてやや凹凸がある。

周溝 はほぼ全周している。幅約10~16cm、深さ約
4~9cmである。

竈 北東壁から検出され、燃焼部の大部分は床
面に構築されている。袖部約90cmが残存している。
規模は煙道方向150cm、両袖方向92cmである。

柱穴 5個のピットが検出された。P1~P3が主柱
穴となる。P1の深さは60cm、P2深さ48cm、P3深さ42cm
である。P4は貯蔵穴にある。P5は深さ18cm。

貯蔵穴 P4が該当する。規模は長径125cm、短径
90cm、深さ38cmである。

遺物 土師器の坏や甕が竈と貯蔵穴の周辺から、
こも堀りは南東壁中央部下から出土している。

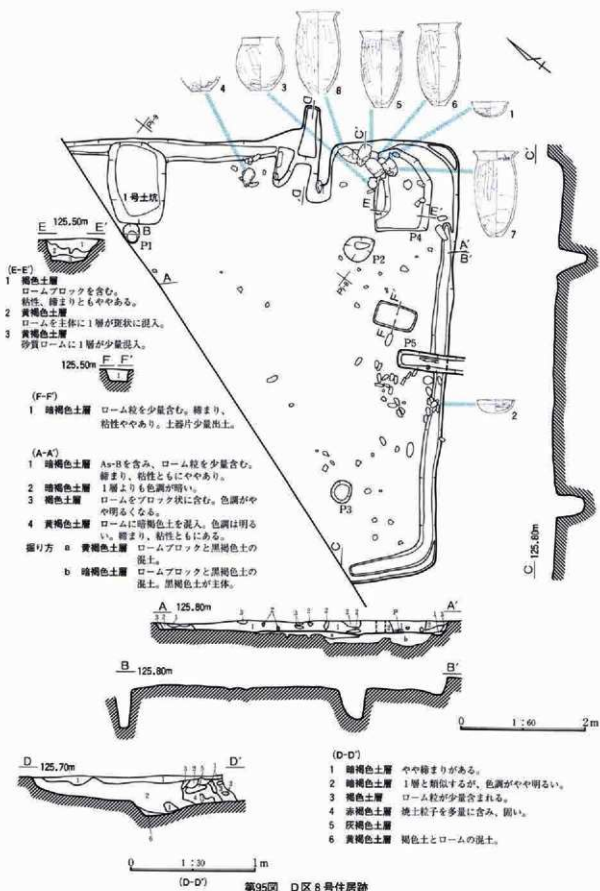
時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は6世
紀後半の段階に相当する。

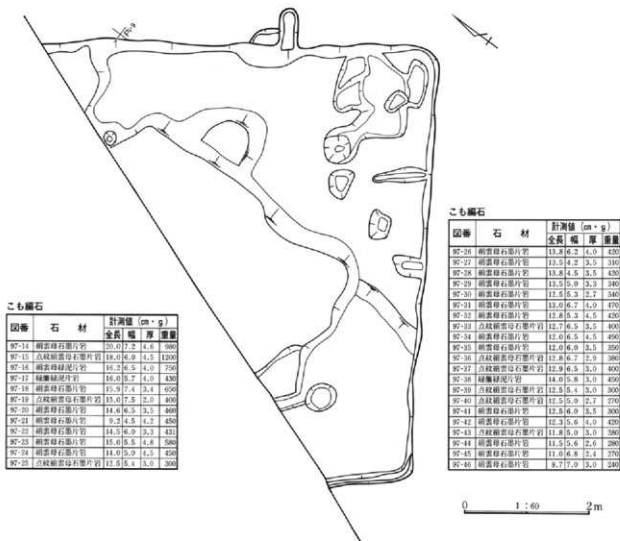
D区9号住居跡

| 図番 PL | 土器種別 器種 | 法量 (cm) ①口径②器高③底径 | ①胎土 ②焼成 ③色調 | 成・整形技法の特徴 | 出土状態 | 残存状況 備考 |
|------------|------------|----------------------|---------------------------------|--|-----------|-------------------------|
| | | | | | | |
| 98-1 82 | 土師器 坏 | ①11.8 | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焙 ③にぶい黄褐色 | 底面へう割り、口縁部横ナデ。内面ナデ。 | 貯蔵穴 | 完形 |
| | | ②4.8 | | | | |
| 98-2 82 | 土師器 坏 | ①12.0 | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焙 ③明黄褐色 | 底面へう割り不明瞭、体部ナデ。口縁部 横ナデ。内面炭灰による黒色処理、荒れ ている。 | 南東壁寄 り | 完形 |
| | | ②4.2 | | | | |
| 98-3 82 | 土師器 小型甕 | ①(11.3) | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焙 ③暗褐色 | 底面ナデ、胴部外面へう割り不明瞭。口 縁部横ナデ。内面ナデ。 | 貯蔵穴 | 2/3残存 |
| | | ②(16.6) ③6.0 | | | | |
| 98-4 82 | 土師器 甕 | ①(13.5) | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化焙 ③にぶい黄褐色 | 底面木炭痕、胴部外面へう割り。内面ナ デ。 | 北東壁寄 り | 底部2/3欠損 |
| | | ②(6.0) | | | | |
| 98-5 83 | 土師器 甕 | ①18.3 | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焙 ③にぶい黄褐色 | 底面・胴部外面へう割り、口縁部横ナデ。 内面ナデ。 | 北東壁寄 り | 口縁一部下半 1/3欠損 |
| | | ②32.7 ③6.0 | | | | |
| 98-6 83 | 土師器 甕 | ①18.6 | ①粗粒の砂、片岩粒を多量に含む。 ②酸化焙 ③褐色 | 底面木炭痕、胴部外面へう割り。口縁部 横ナデ。内面ナデ。 | 貯蔵穴 | 口縁部一部欠損 |
| | | ②35.2 ③5.3 | | | | |
| 98-7 83 | 土師器 甕 | ①(19.1) | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焙 ③にぶい褐色 | 底面木炭痕、胴部外面へう割り。口縁部 横ナデ。内面ナデ。輪積み痕。 | 貯蔵穴 | 胴部一部欠損 |
| | | ②(17.7) ③(14.5) | | | | |
| 98-8 83 | 土師器 甕 | ①(17.7) | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焙 ③赤褐色 | 胴部外面へう割り、口縁部横ナデ。内面 ナデ。 | 北東壁寄 り | 口縁一部上半 1/2欠損 底部欠損 |
| | | ②(17.7) ③(14.5) | | | | |
| 98-9 83 | 非生土器 | 銅部片 | ①中粒の砂を含む。 ②良 ③にぶい褐色 | 縄文施設。原体はRⅡ。 沈殿による区画。 | 覆土 | 中期 |

| 図番 PL | 器種 | 遺存状況 | 石 材 | 計測値 (cm・g) | | | 特 徴 | 出土状況 | |
|----------|----|------|--------|------------|-----|---------|-----|-----------------|-------|
| | | | | 全長 | 幅 | 厚 | | | 重量 |
| 98-11-83 | 四石 | 完形 | 点紋緑泥片岩 | 18.2 | 7.5 | 3.2~3.8 | 800 | 片面に2個の凹みが認められる。 | 覆土 縄文 |
| 98-12-83 | 磨石 | 完形 | 絹雲母片岩 | 6.2 | 5.5 | 1.6 | 58 | 両面に磨耗痕が認められる。 | 覆土 |
| 98-13-83 | 磨石 | 完形 | 緑泥片岩 | 10.7 | 3.8 | 1.3 | 100 | 両面に磨耗痕が認められる。 | 覆土 |

第3章 竹沼(A~D区)遺跡の調査





こも編石

| 図番 | 石 材 | 計測値 (cm・g) | | |
|-------|-----------|------------|-----|---------|
| | | 全長 | 幅 | 厚 重量 |
| 97-14 | 網罟母石巻片岩 | 20.0 | 7.2 | 4.0 506 |
| 97-15 | 点紋網罟母石巻片岩 | 18.0 | 6.9 | 4.1 420 |
| 97-16 | 網罟母緑泥片岩 | 16.2 | 6.5 | 4.0 756 |
| 97-17 | 緑泥緑泥片岩 | 16.0 | 6.7 | 4.0 430 |
| 97-18 | 網罟母石巻片岩 | 15.9 | 7.4 | 3.4 656 |
| 97-19 | 点紋網罟母石巻片岩 | 15.0 | 7.5 | 2.0 400 |
| 97-20 | 網罟母石巻片岩 | 14.6 | 6.5 | 3.1 469 |
| 97-21 | 網罟母石巻片岩 | 9.2 | 4.5 | 4.2 456 |
| 97-22 | 網罟母石巻片岩 | 14.5 | 6.9 | 3.7 421 |
| 97-23 | 網罟母石巻片岩 | 15.0 | 6.5 | 4.4 546 |
| 97-24 | 網罟母石巻片岩 | 14.0 | 5.9 | 4.1 456 |
| 97-25 | 点紋網罟母石巻片岩 | 12.5 | 6.4 | 3.0 300 |

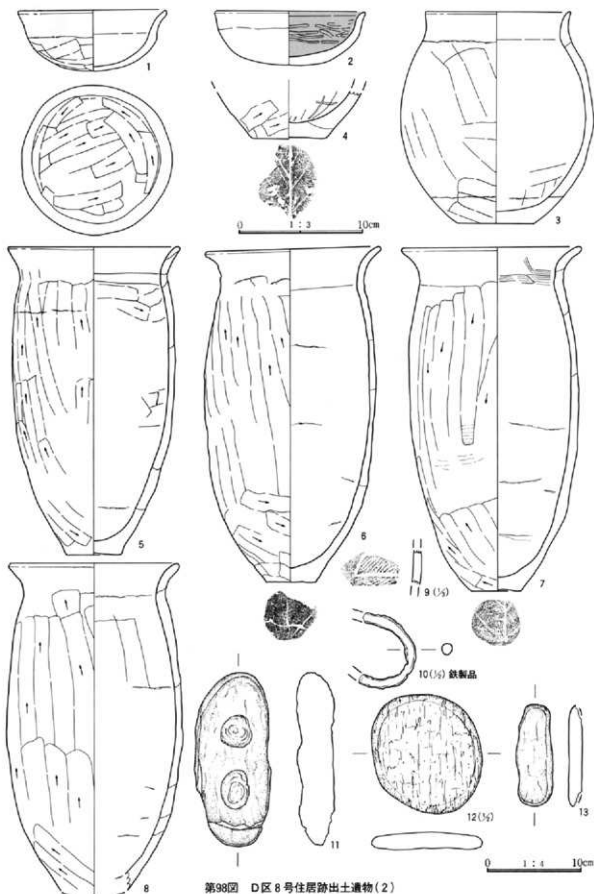
こも編石

| 図番 | 石 材 | 計測値 (cm・g) | | |
|-------|-----------|------------|-----|---------|
| | | 全長 | 幅 | 厚 重量 |
| 97-26 | 網罟母石巻片岩 | 13.8 | 6.2 | 4.0 430 |
| 97-27 | 網罟母石巻片岩 | 13.0 | 4.2 | 3.5 210 |
| 97-28 | 網罟母石巻片岩 | 13.8 | 4.5 | 3.5 420 |
| 97-29 | 網罟母石巻片岩 | 13.5 | 5.0 | 3.1 340 |
| 97-30 | 網罟母石巻片岩 | 12.5 | 5.3 | 2.7 340 |
| 97-31 | 網罟母石巻片岩 | 13.0 | 6.7 | 4.0 470 |
| 97-32 | 網罟母石巻片岩 | 12.6 | 5.3 | 4.5 430 |
| 97-33 | 点紋網罟母石巻片岩 | 12.7 | 6.5 | 3.5 400 |
| 97-34 | 網罟母石巻片岩 | 12.0 | 6.5 | 4.5 456 |
| 97-35 | 網罟母石巻片岩 | 12.0 | 6.0 | 3.5 356 |
| 97-36 | 点紋網罟母石巻片岩 | 12.8 | 6.7 | 2.9 360 |
| 97-37 | 点紋網罟母石巻片岩 | 12.9 | 6.5 | 3.0 400 |
| 97-38 | 緑泥緑泥片岩 | 14.0 | 5.8 | 3.0 456 |
| 97-39 | 点紋網罟母石巻片岩 | 12.5 | 5.4 | 3.0 300 |
| 97-40 | 点紋網罟母石巻片岩 | 12.5 | 5.9 | 2.7 270 |
| 97-41 | 網罟母石巻片岩 | 12.5 | 6.0 | 3.5 300 |
| 97-42 | 網罟母石巻片岩 | 12.3 | 5.6 | 4.0 430 |
| 97-43 | 点紋網罟母石巻片岩 | 11.8 | 5.0 | 3.0 260 |
| 97-44 | 網罟母石巻片岩 | 11.5 | 5.4 | 2.0 280 |
| 97-45 | 網罟母石巻片岩 | 11.0 | 4.8 | 2.4 270 |
| 97-46 | 網罟母石巻片岩 | 8.7 | 7.0 | 3.0 340 |

第96図 D区8号住居跡掘り方



第97図 D区8号住居跡出土遺物(1)



第98図 D区8号住居跡出土遺物(2)

D区9号住居跡（第99～104図、PL.60～62・83・84）

位置 Pe-9・10、Pf-9・10グリッドにかけて検出された。D区11号住居跡と重複している。

形状 完掘できなかつたが、現状では長辺6.3m、短辺4.1mである。

方位 N-48°-E。

覆土 ローム層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は6（1～4・a・b）層に分かれた。a・b層は掘り方覆土である。

壁高 住居跡確認面より約10～20cmで床面に達する。床面からはほぼ垂直に立ち上がる。

床面 はほぼ平坦である。現状での面積は約13.6㎡。

掘り方 床面中央部を除いてやや凹凸がある。

周溝 部分的に検出された。幅約10～18cm、深さ約7cmである。

竈 北東壁から検出され、燃焼部の大部分は床面に構築されている。袖部約90cmが残存し、左右に袖石が残る。その上面には凝灰岩の切石を鳥居状に架す。内部には甕2個体が検出された。規模は煙道方向100cm、両袖方向60cmである。

柱穴 4個のピットが検出された。P1の深さは19cm、P2は貯蔵穴である。P3深さ20cm、P4深さ16cmである。

貯蔵穴 P2が該当する。規模は長径74cm、短径68cm、深さ58cmである。

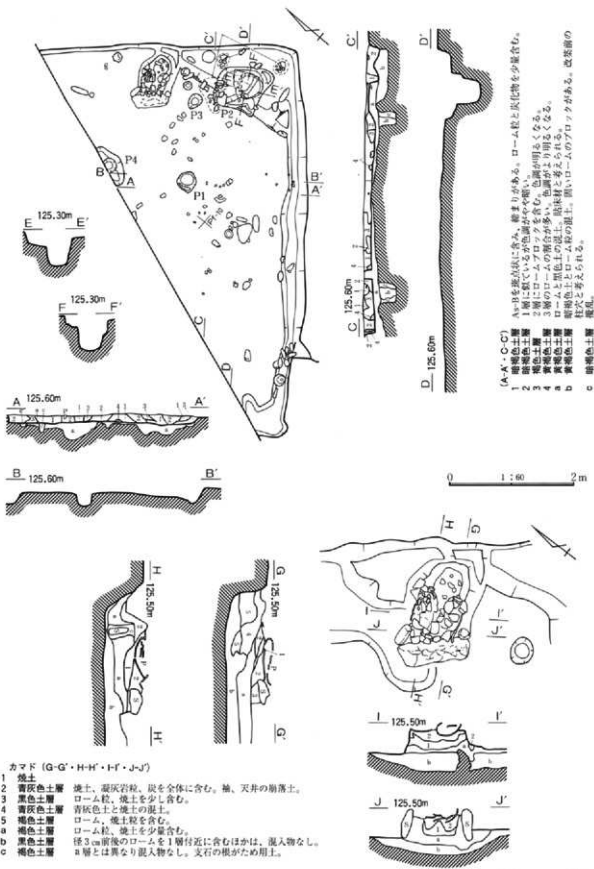
遺物 土師器の坏や甕が竈と貯蔵穴の周辺から出土している。

時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は6世紀前半の段階に相当する。

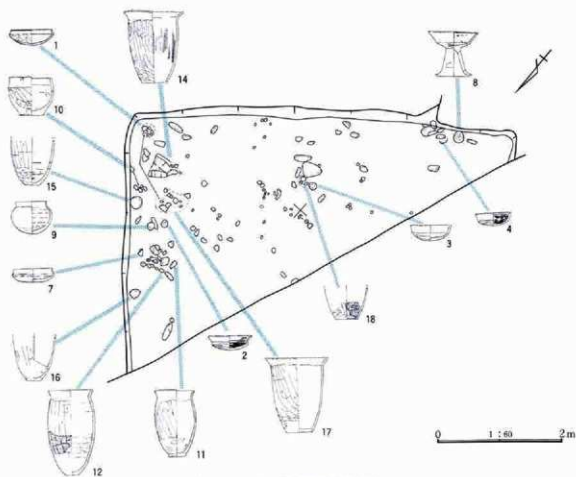
D区9号住居跡

| 図番 PL | 土器種別 器種 | 法量 (cm) ①口径 ②器高 ③器径 | ①胎土 ②焼成 ③色調 | 成・整形技法の特徴 | 出土状態 | 残存状況 備考 |
|--------------|------------|------------------------|----------------------------------|-----------------------------------|-------|------------|
| 102-1 83 | 土師器 坏 | ①12.8 ②4.9 | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焰 ③褐色 | 底面へう削り、口縁部横ナデ。内面丁寧なナデ。口縁外面～内面に黒塗。 | 東壁寄り | ほぼ完形 |
| 102-2 83 | 土師器 坏 | ①14.0 ②4.5 ③11.5 | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焰 ③灰黄色 | 底面へう削り、口縁部横ナデ。内面吸炭による黒色処理。ミガキ。 | 北東部 | 完形 |
| 102-3 83 | 土師器 坏 | ①13.0 ②5.0 | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化焰 ③緑褐色 | 底面へう削り、口縁部横ナデ。内面ナデ。 | 南東部 | 完形 |
| 102-4 83 | 土師器 坏 | ①11.5 ②4.0 | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化焰 ③にぶい黄褐色 | 底面へう削り、口縁部横ナデ。内面吸炭による黒色処理。ミガキ。 | 南東壁寄り | 完形 |
| 102-5 83 | 土師器 坏 | ①(12.2) ②4.5 | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焰 ③褐色 | 底面へう削り不明瞭、口縁部横ナデ、内面ナデ。 | 覆土 | 3/4残存 |
| 102-6 83 | 須恵器 坏 | ①(10.8) ②3.5 | ①細 ②透光焰 ③灰色 | 右回転コクロ整形 底面回転へう削り | 覆土 | 2/3残存 |
| 102-7 83 | 須恵器 坏 | ①12.1 ②4.3 | ①細 片岩粒を含む。 ②透光焰 ③灰色 | 右回転コクロ整形 底面回転へう削り | コマド | 口縁部欠損 |
| 102-8 83 | 土師器 高坏 | ①15.7 ②14.1③(11.0) | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焰 ③明褐色 | 胴部外面へう削り、内面ナデ。坏部内面吸炭による黒色処理。 | 南東部 | 胴部一部欠損 |
| 102-9 83 | 須恵器 短頸甕 | ①(9.9) ②10.4 | ①細 白色紅土粒を含む。 ②酸化焰 ③灰色 | 右回転コクロ整形 底面回転へう削り | 北東部 | 口縁部一部欠損 |
| 102-10 83 | 土師器 鉢 | ①13.2 ②12.0 ③8.0 | ①細粒の砂、褐色紅土粒を含む。 ②酸化焰 ③にぶい褐色 | 底面ナデ、胴部外面へう削り。口縁部横ナデ。内面丁寧なナデ。 | 北東壁寄り | 胴部一部欠損 |
| 102-11 84 | 土師器 甕 | ①16.8 ②28.7 ③7.2 | ①細粒の砂、片岩粒を多量に含む。 ②酸化焰 ③明黄褐色 | 底面ナデ、胴部外面へう削り。口縁部横ナデ。内面ナデ。 | コマド | 胴部一部欠損 |
| 102-12 84 | 土師器 甕 | ①(18.5) ②35.6 ③6.4 | ①粗粒の砂、片岩粒を多量に含む。 ②酸化焰 ③にぶい赤褐色 | 底面木炭灰、胴部外面へう削り。口縁部横ナデ。内面丁寧なナデ。 | コマド | 口縁部一部欠損 |
| 102-13 84 | 土師器 甕 | ①19.3 ②35.5 ③6.2 | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焰 ③褐色 | 底面木炭灰、胴部外面ナデ。口縁部横ナデ。内面ナデ。 | 覆土 | 胴部一部欠損 |
| 102-14 84 | 土師器 甕 | ①25.8 ②30.0③(10.5) | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化焰 ③にぶい黄褐色 | 胴部外面へう削り、口縁部横ナデ。内面ナデ。ミガキ。 | 貯蔵穴 | 完形 |

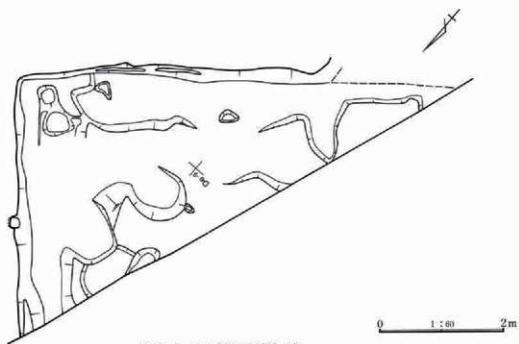
第3章 竹沼(A-D区)遺跡の調査



第99図 D区9号住居跡

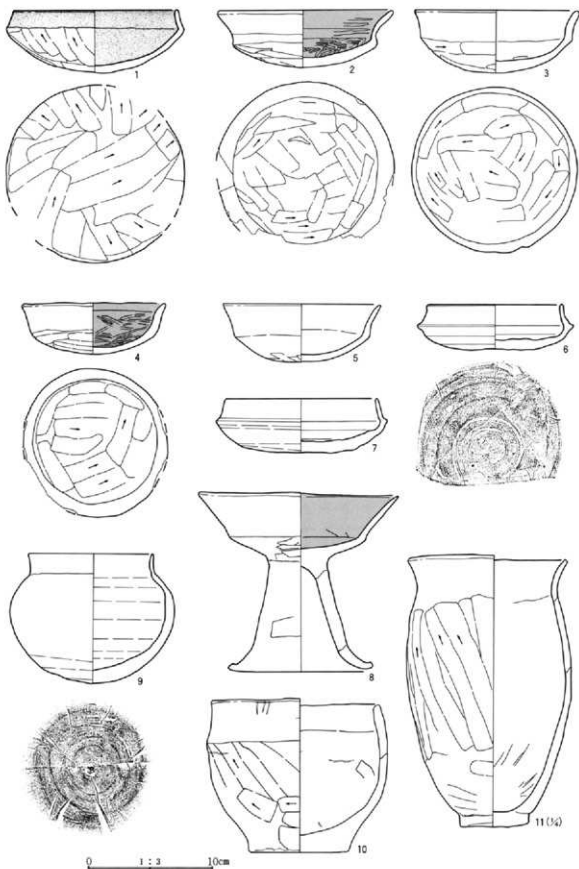


第100図 D区9号住居跡遺物分布図

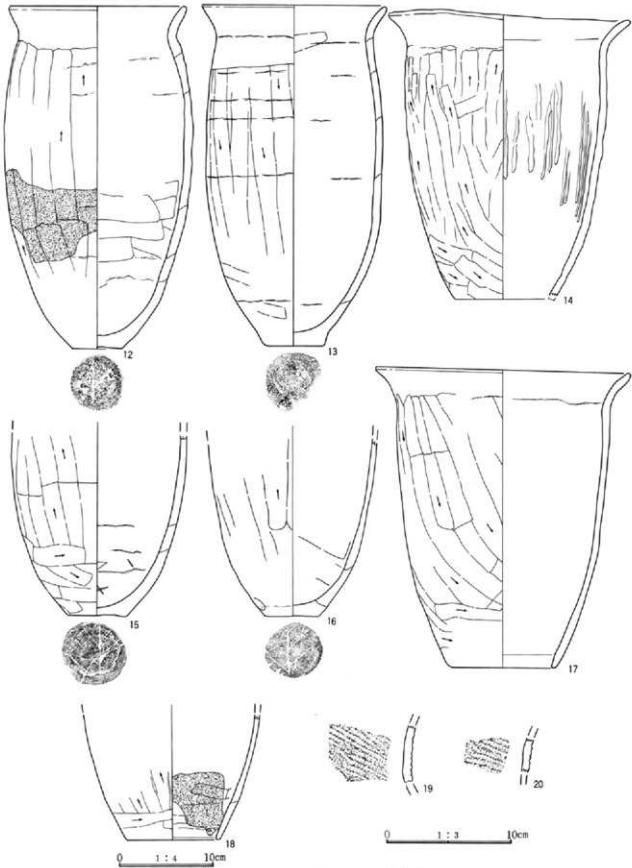


第101図 D区9号住居跡掘り方

第3章 竹沼(A-D区)遺跡の調査

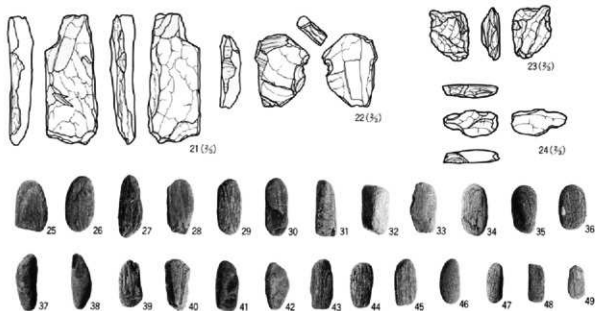


第102図 D区9号住居跡出土遺物(1)



第103図 D区9号住居跡出土遺物(2)

第3章 竹沼(A-D区)遺跡の調査



第104図 D区9号住居跡出土遺物(3)

D区9号住居跡

| 図番 PL | 土器種別 器種 | 法量 (cm) ①口径②器高③底径 | ①胎土 ②焼成 ③色調 | 成・整形技法の特徴 | 出土状態 | 残存状況 備考 |
|--------------|-------------|----------------------|---------------------------------|------------------------------|-------|-----------------|
| 103-15 84 | 土師器 甕 | ②(19.1) ③6.5 | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化焰 ③にふい赤褐色 | 底面本葉痕、側部外面へう前り。 内面丁家なナデ。 | 北東壁寄り | 胴上平部欠損 |
| 103-16 84 | 土師器 甕 | ②(18.7) ③5.8 | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化焰 ③黄褐色 | 底面本葉痕、側部外面へう前り。 内面丁家なナデ。 | 北東壁寄り | 胴上平部欠損 |
| 103-17 84 | 土師器 甕 | ①27.0 ②31.5 ③10.8 | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化焰 ③にふい赤褐色 | 側部外面へう前り、口縁部横ナデ、内面 丁家なナデ。 | 貯蔵穴周 | 胴部一部欠損 |
| 103-18 84 | 土師器 甕 | ②13.0 ③9.5 | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化焰 ③明赤褐色 | 側部外面へう前り。 内面ナデ。ミガキ。 | 南東部 | 底部全周 内面炭化物付着 |
| 103-19 84 | 縄文土器 割部片 | | ①細粒の砂を含む。 ②良 ③明赤褐色 | 縄文施設。原体はR止横位。 内面は丁家な調整。 | 覆土 | 中期前半 |
| 103-20 84 | 縄文土器 割部片 | | ①細粒の砂を含む。 ②良 ③にふい赤褐色 | 縄文施設。原体はR止横位。 内面はやや丁家な調整。 | 覆土 | 中期前半 |

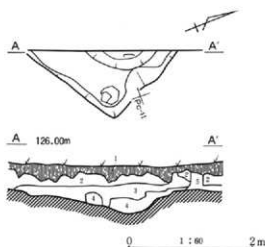
| 図番 PL | 器種 | 石材 | 計測値 (cm・g) | | | | 所見 | 出土状態 |
|--------------|----|----|------------|------|------|------|--------------------|------|
| | | | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | 重量 | | |
| 104-21 84 | 割片 | 滑石 | 5.10 | 2.10 | 1.00 | 12.5 | 左、右側は工具痕の後、折り取り。 | 覆土 |
| 104-22 84 | 割片 | 滑石 | 2.90 | 1.10 | 0.70 | 6.8 | 勾玉形割品。 | 覆土 |
| 104-23 84 | 割片 | 滑石 | 2.05 | 1.50 | 0.70 | 2.2 | 打面は階段状の割離面(図の右側)。 | 覆土 |
| 104-24 84 | 割片 | 滑石 | 1.05 | 2.20 | 0.50 | 1.2 | 上面は、刀子痕 折れ面で形成される。 | 覆土 |

こも礫石

| 図番 | 石 材 | 計測値 (cm・g) | | | |
|--------|-------------|------------|-----|-----|------|
| | | 全長 | 幅 | 厚 | 重量 |
| 104-25 | 網雲母右巻緑泥石片 | 15.5 | 9.5 | 3.0 | 790 |
| 104-26 | 網雲母右巻片岩 | 17.0 | 8.4 | 5.8 | 1200 |
| 104-27 | 網雲母右巻片岩 | 19.0 | 7.4 | 4.5 | 900 |
| 104-28 | 緑泥石片 | 16.5 | 8.0 | 3.3 | 476 |
| 104-29 | 網雲母右巻片岩 | 16.8 | 7.5 | 4.5 | 800 |
| 104-30 | 緑泥石片 | 17.8 | 6.0 | 2.5 | 420 |
| 104-31 | 網雲母右巻片岩 | 17.0 | 6.5 | 4.7 | 920 |
| 104-32 | 網雲母右巻緑泥石片 | 14.0 | 8.0 | 5.8 | 1200 |
| 104-33 | 点状網雲母右巻緑泥石片 | 15.0 | 6.5 | 4.0 | 700 |
| 104-34 | 網雲母右巻片岩 | 16.0 | 8.0 | 4.0 | 920 |
| 104-35 | 点状網雲母右巻片岩 | 14.3 | 7.4 | 5.5 | 900 |
| 104-36 | 点状網雲母右巻片岩 | 13.8 | 7.8 | 2.8 | 550 |
| 104-37 | 輝緑石 | 17.1 | 4.9 | 3.5 | 790 |

| 図番 | 石 材 | 計測値 (cm・g) | | | |
|--------|-----------|------------|-----|-----|------|
| | | 全長 | 幅 | 厚 | 重量 |
| 104-38 | 輝緑石 | 17.0 | 4.5 | 4.0 | 720 |
| 104-39 | 石英片岩 | 14.3 | 7.0 | 4.4 | 580 |
| 104-40 | 石英片岩 | 16.0 | 7.0 | 6.0 | 980 |
| 104-41 | 輝緑石 | 15.2 | 7.5 | 5.5 | 1019 |
| 104-42 | 網雲母右巻片岩 | 14.5 | 7.0 | 3.5 | 420 |
| 104-43 | 点状網雲母右巻片岩 | 15.0 | 6.5 | 2.8 | 450 |
| 104-44 | 網雲母右巻片岩 | 13.9 | 6.9 | 4.5 | 706 |
| 104-45 | 網雲母右巻片岩 | 13.7 | 7.5 | 4.0 | 620 |
| 104-46 | 網雲母右巻片岩 | 13.5 | 6.0 | 4.3 | 550 |
| 104-47 | 網雲母右巻片岩 | 11.8 | 5.0 | 3.5 | 320 |
| 104-48 | 網雲母右巻片岩 | 11.7 | 5.0 | 3.0 | 340 |
| 104-49 | 輝緑石片 | 10.2 | 5.0 | 1.1 | 401 |

〔5〕D区検出の遺構と遺物



- 1 暗褐色土層 A-Aを含む耕作土。締まりがあまりない。
 2 灰茶褐色土層 A-Aを垂直状に多量に含む。粒子が一定。締まりが非常にある。
 3 暗褐色土層 上層にA-Aの混入が少量認められる。暗褐色土にローム粒を所々に含む。締まり、粘性ややあり。
 4 暗褐色土層 3層に似ているが、暗褐色土とロームの割合により色調がやや明るくなる。
 5 灰茶褐色土層 2層にローム粒を少量含んだ層。

第105図 D区10号住居跡

D区10号住居跡 (第105図、PL.62)

位置 Pb-10、Pc-10・11グリッドにかけて検出された。D区9号住居跡の北8mの所に位置している。

形状 完掘できなかったが、現状では長辺1.8m、短辺1.5mである。

方位 不明。

覆土 ローム層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は2層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約15cmで床面に達する。

床面 凹凸がある。現状での面積は約1㎡。

周溝 検出できなかった。

竈 検出できなかった。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 覆土からは遺物の出土はほとんどなかった。

時期 覆土の状態から6世紀代と考えられる。

D区11号住居跡 (第106～109図、PL.63)

位置 Pf-9・10、Pg-9・10グリッドにかけて検出された。D区9・12号住居跡によって壊されている。

形状 現状では長辺2.1m、短辺1.5mである。

方位 N-60°-E。

覆土 ローム層を掘り込んで堅穴住居は構築されている。

壁高 住居跡確認面より約24cmで床面に達する。床面からはほぼ垂直に立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。現状での面積は約2.7㎡。

掘り方 やや凹凸がある。

周溝 検出できなかった。

竈 北東壁から検出され、燃焼部の大部分は床面に構築されている。袖部約80cmが残存している。規模は煙道方向110cm、両袖方向(50cm)である。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 床面北東隅から検出された。規模は長径90cm、短径65cm、深さ25cmである。

遺物 竈周辺から土師器の壺が少量出土している。

時期 出土遺物から判断すると、当住居跡は6世紀の段階に相当する。

D区12号住居跡 (第106～112図、PL.64・65・85・86)

位置 Pf-9、Pg-9・10、Ph-8・9グリッドにかけて検出された。D区11・13・15号住居跡を壊している。

形状 完掘できなかったが、現状では長辺5.3m、短辺4mである。

方位 N-45°-E。

覆土 ローム層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は5層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約20cmで床面に達する。

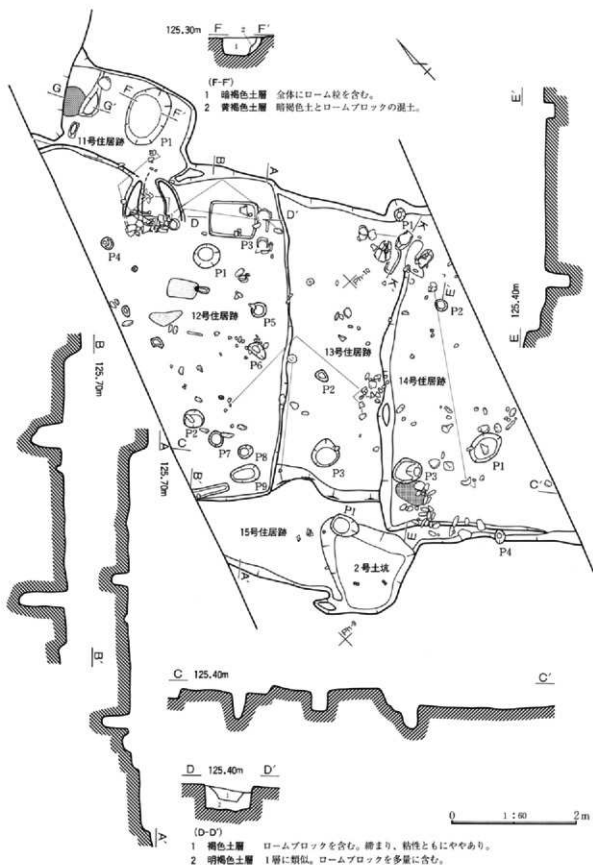
床面からはほぼ垂直に立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。現状での面積は約12.5㎡。

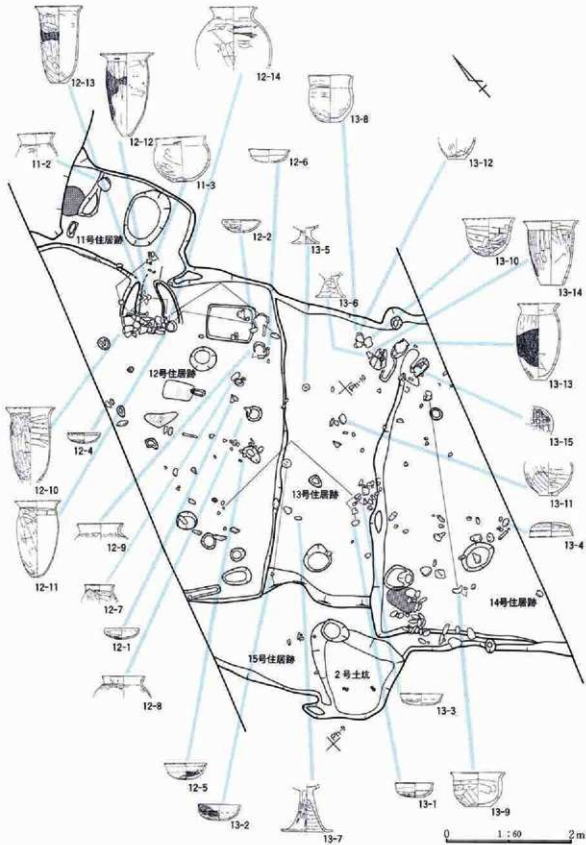
掘り方 床面中央部を除いてやや凹凸がある。

周溝 検出できなかった。

竈 北東壁から検出され、燃焼部の大部分は床面に構築されている。袖部約80cmが残存している。内部からは壺4個体が検出された。規模は煙道方向90cm、両袖方向95cmである。

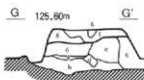


第106図 D区11号・12号・13号・14号・15号住居跡・2号土坑

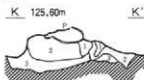


第107図 D区11号・12号・13号・14号・15号住居跡遺物分布図

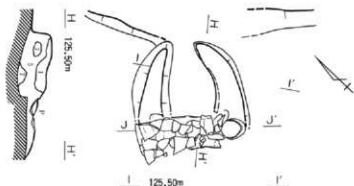
第3章 竹沼(A-D区)遺跡の調査



- 11住カマド
- 1 暗褐色土層 粘り、粘まりややあり。
 - 2 黄褐色土層 地山砂質ロームの色調やや淡い土色。粒子細かく均一。
 - 3 赤褐色土層 焼土、炭化物を多く含む。固く、粘りあり。
 - 4 灰白色土層 腐河粘土。奇常に固く、粒子細かく均一。
 - 5 黄褐色土層 2層と3層の混じり。
 - 6 暗褐色土層 1層と2層の混じり。
 - 7 赤褐色土層 1層と3層の混じり。
 - 8 灰白色土層 6層と4層の混じり。
- a 焼土層
b 黒色土層 ローム粒を含む。
c 赤褐色土層 黒色土とロームの混土。
d 暗褐色土層

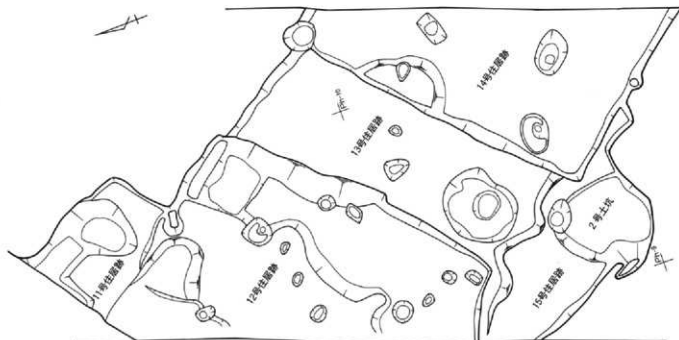


- 13住カマド
- 1 灰白色土層 腐河粘土。粒子細かく均一。粘まり、粘性ともに大。
 - 2 褐色土層 ローム粒を少量含む。粘まり、粘性ややあり。
 - 3 黄褐色土層 2層にローム粒を多く含む。色調やや明るい。



0 1:30 m

- 12住カマド
- 1 暗褐色土層 粘性、粘まりややあり。
 - 2 焼土層
 - 3 褐色土層 褐色土と焼土の混土。袖材。4層を芯軸にして2層と3層で補強。
 - 4 粘土(袖の芯材)
 - 5 灰白色土層 粘土と焼土の混土。
 - 6 暗褐色土層 暗褐色土とロームの混土。
 - 7 赤褐色土層 暗褐色土と焼土の混土。



0 1:60 2m

第108図 D区11号・12号・13号・14号・15号住居跡

柱 穴 9個のピットが検出された。P1の深さは50cm、P2深さ74cmである。P3は貯蔵穴。P4深さ31cm、P5深さ25cm、P6深さ5cm、P7深さ26cm、P8深さ45cm、P9深さ15cmである。

貯蔵穴 P3が該当する。規模は長径80cm、短径56cm、深さ35cmである。

遺 物 土師器の坏や甕が竈と貯蔵穴の周辺から出土している。

時 期 出土遺物から判断すると、当住居跡は7世紀後半の段階に相当する。

D区13号住居跡 (第106~108・113~115図、PL.64-66-67-86-87)

位 置 Pg-9・10、Ph-8・9グリッドにかけて検出された。D区12・14・15号住居跡と重複している。14号住居跡を壊し、12号住居跡によって壊されている。

形 状 完掘できなかつたが、現状では長辺4.8m、短辺4.7mである。

方 位 N-45°-E。

覆 土 ローム層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は2層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約20cmで床面に達する。床面からはほぼ垂直に立ち上がる。

床 面 やや凹凸が認められる。現状での面積は約7.2㎡。

掘り方 床面中央部を除いてやや凹凸がある。

周 溝 検出できなかった。

竈 北東壁から検出され、燃焼部の大部分は床面に構築されている。内部からは甌・甕3個体が検出された。規模は煙道方向90cm、両袖方向90cmである。

柱 穴 3個のピットが検出された。P1の深さは20cm、P2深さ8cm、P3深さ22cmである。P3は柱穴になるものと考えられる。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 土師器の坏や甕が竈の周辺から出土している。

時 期 出土遺物から判断すると、当住居跡は6世

紀後半の段階に相当する。

D区14号住居跡 (第106~108・115図、PL.66・67・87)

位 置 Ph-9・10、Pi-9グリッドにかけて検出された。D区13・15号住居跡と重複している。13号住居跡によって壊されている。

形 状 完掘できなかつたが、現状では長辺5.2m、短辺3.2mである。

方 位 不明。

覆 土 ローム層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約40~60cmで床面に達する。床面からはほぼ垂直に立ち上がる。

床 面 やや凹凸が認められる。現状での面積は約8.6㎡。

掘り方 床面中央部を除いてやや凹凸がある。

周 溝 検出できなかった。

竈 検出できなかった。

柱 穴 3個のピットが検出された。P1の深さは46cm、P2深さ18cm、P3深さ40cmである。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 土師器の坏や甕が少量出土している。

時 期 重複関係から考えると、当住居跡は6世紀後半以前の段階に相当する。

D区15号住居跡 (第106~108図、PL.66)

位 置 Ph-8・9グリッドにかけて検出された。D区12・13・14号住居跡、2号土坑と重複している。

形 状 完掘できなかつたが、現状では長辺3.5m、短辺1.7mである。

方 位 不明。

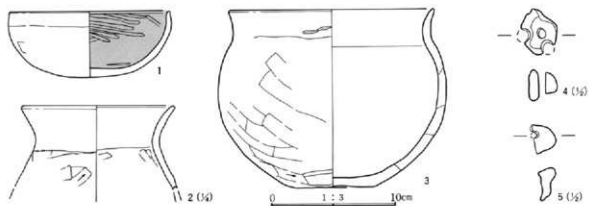
覆 土 ローム層を掘り込んで堅穴住居は構築されている。

壁 高 住居跡確認面より約10cmで床面に達する。床面からはほぼ垂直に立ち上がる。

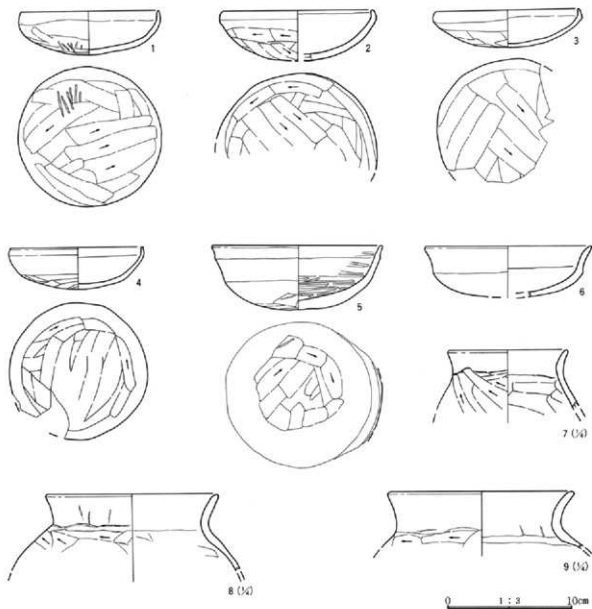
床 面 やや凹凸が認められる。現状での面積は約4.4㎡。

掘り方 床面中央部を除いてやや凹凸がある。

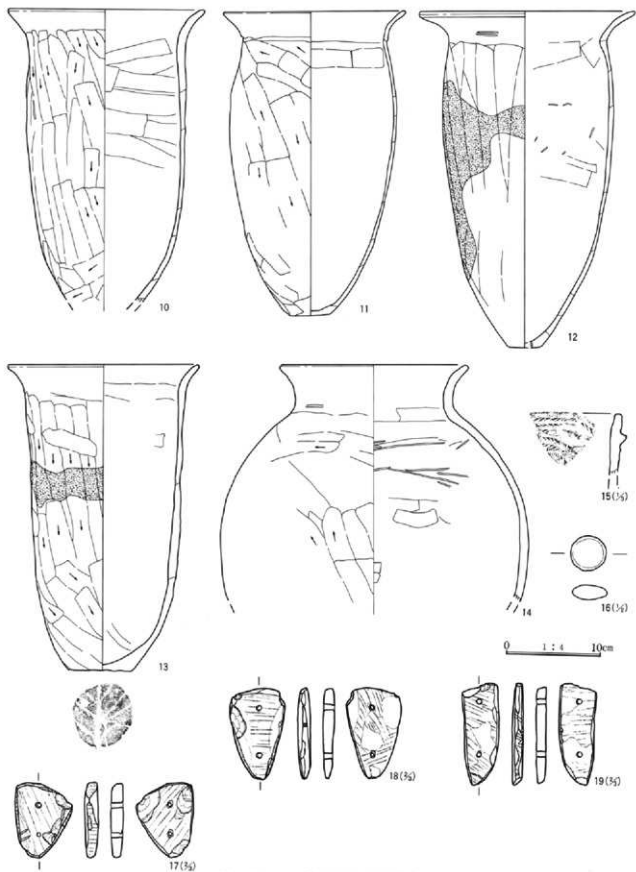
第3章 竹沼(A~D区)遺跡の調査



D区11号住居跡出土遺物

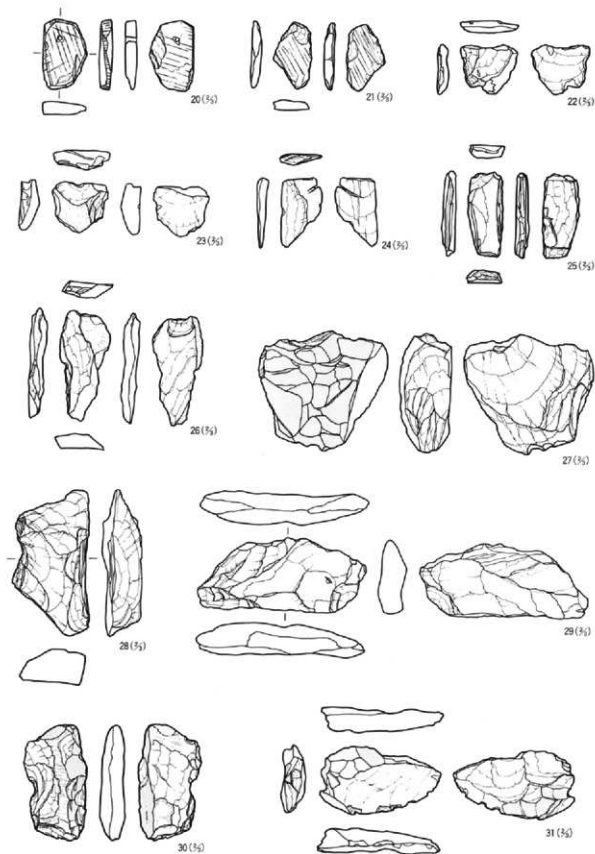


第106図 D区11号・12号住居跡出土遺物(1)

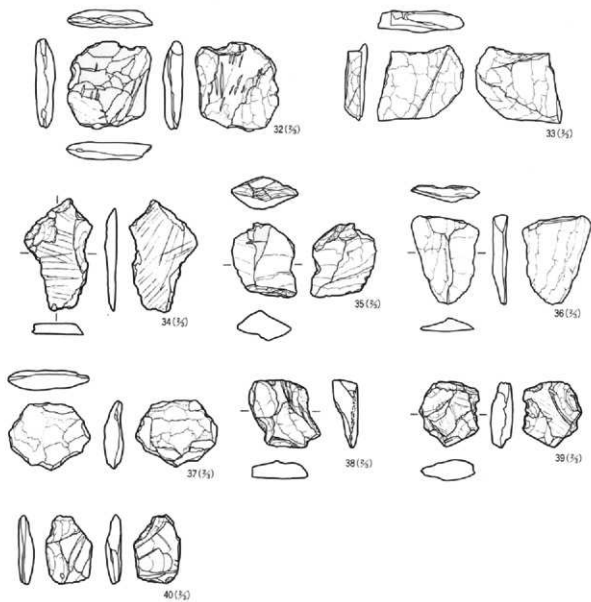


第110図 D区12号住居跡出土遺物(2)

第3章 竹沼(A~D区)遺跡の調査



第111図 D区12号住居跡出土遺物(3)

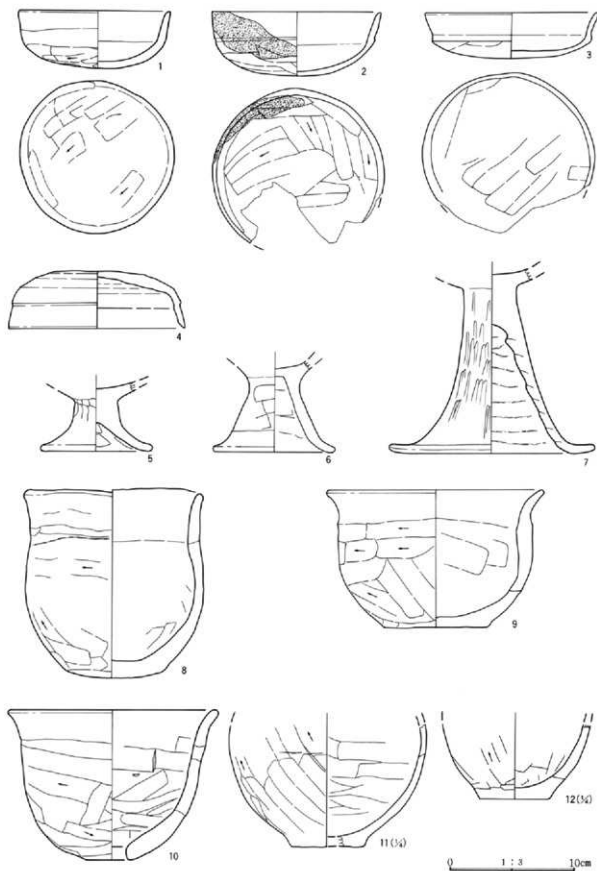


こも礫石

| 図番 | 石 材 | 計測値 (cm・g) | | |
|--------|--------|------------|-----|-----|
| | | 全長 | 幅 | 厚 |
| 112-41 | 網浜砂岩片岩 | 15.0 | 7.5 | 3.5 |
| 112-42 | 網浜砂岩片岩 | 15.5 | 4.7 | 3.5 |
| 112-43 | 砂泥片岩 | 14.3 | 5.5 | 3.5 |
| 112-44 | 網浜砂岩片岩 | 15.8 | 5.4 | 3.2 |
| 112-45 | 輝緑岩 | 13.0 | 4.5 | 4.0 |
| 112-46 | 片紋輝石片岩 | 12.5 | 5.0 | 2.5 |
| 112-47 | 緑泥片岩 | 12.1 | 5.1 | 2.8 |
| 112-48 | 片岩片岩 | 11.8 | 5.0 | 2.5 |
| 112-49 | 網浜砂岩片岩 | 10.5 | 5.8 | 2.5 |
| 112-50 | 網浜砂岩片岩 | 11.0 | 5.4 | 2.0 |

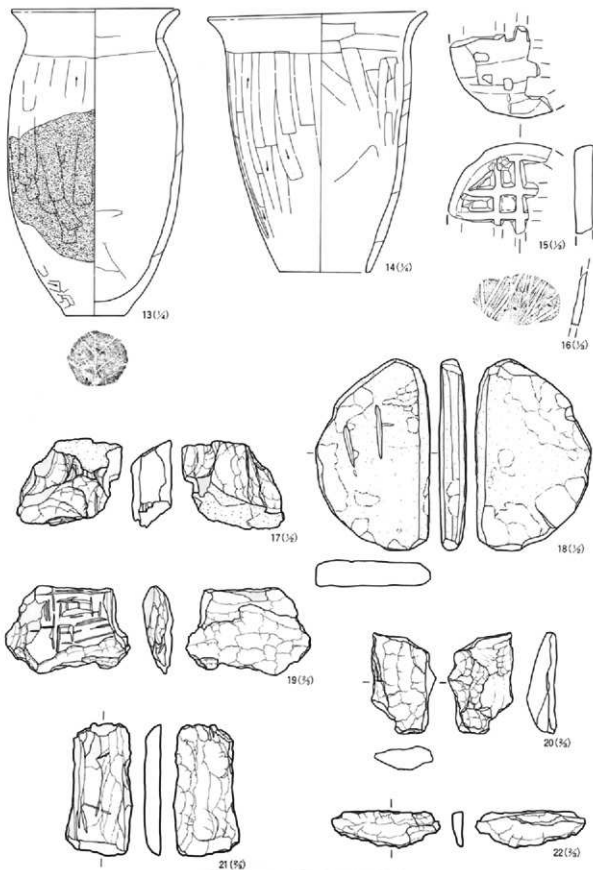
第112図 D区12号住居跡出土遺物(4)

第3章 竹沼(A~D区)遺跡の調査



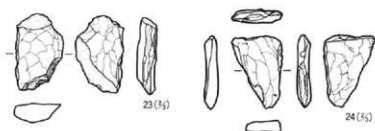
第113図 D区13号住居跡出土遺物(1)

[5] D区検出の遺構と遺物



第114図 D区13号住居跡出土遺物(2)

第3章 竹沼(A-D区)遺跡の調査

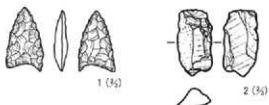


こも麻石

| 図番 | 石 材 | 計測値 (cm・g) | | | |
|--------|-------------|------------|-----|-----|------|
| | | 全長 | 幅 | 厚 | 重量 |
| 115-25 | 網蓋母石墨片岩 | 19.5 | 5.9 | 3.0 | 480 |
| 115-26 | 網蓋母石墨片岩 | 16.8 | 6.5 | 5.0 | 1060 |
| 115-27 | 網蓋母緑泥片岩 | 15.4 | 6.6 | 4.5 | 680 |
| 115-28 | 網蓋母石墨片岩 | 15.4 | 5.3 | 6.8 | 622 |
| 115-29 | 輝緑岩 | 14.2 | 7.0 | 2.8 | 430 |
| 115-30 | 点紋網蓋母石墨緑泥片岩 | 14.6 | 4.5 | 3.0 | 390 |
| 115-31 | 石墨片岩 | 15.0 | 4.8 | 4.3 | 360 |
| 115-32 | 緑泥片岩 | 13.7 | 5.5 | 3.8 | 440 |
| 115-33 | 輝緑岩 | 14.0 | 5.5 | 3.4 | 380 |
| 115-34 | 網蓋母石墨片岩 | 14.0 | 6.3 | 2.5 | 320 |
| 115-35 | 点紋網蓋母石墨片岩 | 14.0 | 4.8 | 3.0 | 300 |
| 115-36 | 網蓋母石墨片岩 | 13.4 | 4.8 | 2.6 | 290 |
| 115-37 | 輝緑岩 | 14.0 | 5.5 | 3.0 | 430 |
| 115-38 | 緑泥片岩 | 12.5 | 5.0 | 3.8 | 490 |

| 図番 | 石 材 | 計測値 (cm・g) | | | |
|--------|-------------|------------|-----|-----|-----|
| | | 全長 | 幅 | 厚 | 重量 |
| 115-39 | 網蓋母石墨片岩 | 13.7 | 5.3 | 2.5 | 280 |
| 115-40 | 点紋網蓋母石墨緑泥片岩 | 12.8 | 6.8 | 2.4 | 360 |
| 115-41 | 網蓋母緑泥片岩 | 12.3 | 5.9 | 3.0 | 350 |
| 115-42 | 網蓋母石墨片岩 | 13.8 | 5.9 | 2.3 | 360 |
| 115-43 | 網蓋母石墨片岩 | 13.5 | 3.8 | 3.0 | 250 |
| 115-44 | 網蓋母石墨片岩 | 13.0 | 5.6 | 2.0 | 250 |
| 115-45 | 網蓋母石墨片岩 | 12.0 | 6.9 | 3.0 | 440 |
| 115-46 | 緑泥片岩 | 12.0 | 5.5 | 3.2 | 400 |
| 115-47 | 網蓋母片岩 | 12.0 | 4.9 | 2.8 | 170 |
| 115-48 | 点紋緑泥片岩 | 12.0 | 6.5 | 2.5 | 260 |
| 115-49 | 網蓋母石墨片岩 | 11.8 | 3.8 | 2.0 | 200 |
| 115-50 | 網蓋母石墨片岩 | 11.5 | 6.6 | 3.5 | 410 |
| 115-51 | 輝緑岩 | 10.8 | 5.5 | 3.0 | 300 |
| 115-52 | 網蓋母石墨片岩 | 8.5 | 5.5 | 3.0 | 230 |

D区13号住居跡出土遺物(3)



D区14号住居跡出土遺物

第115図 D区13号・14号住居跡出土遺物

[5] D区検出の遺構と遺物

D区11号住居跡

| 図番 PL | 土器種別 器種 | 法量 (cm) ①口径②器高③底径 | ①胎土 ②焼成 ③色調 | 成・整形技法の特徴 | 出土状態 | 残存状況 備考 |
|-------------|------------|------------------------|-------------------------------|-----------------------------------|------|------------|
| 109-1 85 | 土師器 坏 | ①(12.8) ②5.2 | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焙 ③棕色 | 底面ヘラ削り不明瞭。口縁部横ナデ、内面ナデ。 | 覆土 | 1/2残存 |
| 109-2 85 | 土師器 壺 | ①16.0 ②(9.4) | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化焙 ③明赤褐色 | 胴部外面ヘラ削り、口縁部横ナデ、内面ナデ。 | カマド脇 | 口縁~胴上半 |
| 109-3 85 | 土師器 小型壺 | ①(16.3) ②14.1③(7.0) | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焙 ③にぶい赤褐色 | 底面ヘラ削り不明瞭。口縁部横ナデ。内面吸穴による黒色処理、ミガキ。 | 貯蔵穴内 | 1/2残存 |
| 109-4 85 | 土製品 | 重量3.4g | ①細粒の砂を含む。 ②やや良 ③棕色 | 3箇所の穿孔が認められる。 | 覆土 | 部分 |
| 109-5 85 | 土製品 | 重量1.3g | ①細粒の砂を含む。 ②やや良 ③棕色 | 1箇所の穿孔が認められる。 | 覆土 | 部分 |

D区12号住居跡

| 図番 PL | 土器種別 器種 | 法量 (cm) ①口径②器高③底径 | ①胎土 ②焼成 ③色調 | 成・整形技法の特徴 | 出土状態 | 残存状況 備考 |
|--------------|------------|----------------------|---------------------------------|--------------------------------|-------|---------------|
| 109-1 85 | 土師器 坏 | ①10.9 ②3.4 | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焙 ③棕色 | 底面ヘラ削り、体部ナデ、口縁部横ナデ、内面丁寧なナデ。 | 覆土 | 完形 |
| 109-2 85 | 土師器 坏 | ①(12.0) ②(4.0) | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焙 ③棕色 | 底面・体部ヘラ削り、口縁部横ナデ、内面丁寧なナデ。 | 貯蔵穴 | 1/2残存 |
| 109-3 85 | 土師器 坏 | ①(11.4) ②(2.9) | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焙 ③にぶい褐色 | 底面ヘラ削り、口縁部横ナデ、内面丁寧なナデ。 | 覆土 | 1/3残存 |
| 109-4 85 | 土師器 坏 | ①10.4 ②3.3 | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焙 ③にぶい赤褐色 | 底面ヘラ削り、体部ナデ、口縁部横ナデ、内面丁寧なナデ。 | 床面中央部 | ほぼ完形 |
| 109-5 86 | 土師器 坏 | ①(13.5) ②5.0 | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焙 ③にぶい褐色 | 底面ヘラ削り、口縁部横ナデ、内面ナデ。 | 東壁寄り | 3/4残存 |
| 109-6 85 | 土師器 坏 | ①(13.2) ②(4.1) | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焙 ③にぶい褐色 | 底面ヘラ削り、体部ナデ、口縁部横ナデ、内面丁寧なナデ。 | 貯蔵穴周辺 | 1/4残存 |
| 109-7 85 | 土師器 壺 | ①(12.8) ②(6.4) | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焙 ③にぶい黄褐色 | 胴部外面ヘラ削り、口縁部横ナデ、内面ナデ。 | 床面中央部 | 口縁部全周 |
| 109-8 85 | 土師器 壺 | ①18.4 ②(8.9) | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焙 ③にぶい黄褐色 | 胴部外面ヘラ削り、口縁部横ナデ、内面ナデ。 | 東壁寄り | 口縁部全周 |
| 109-9 85 | 土師器 壺 | ①19.7 ②(6.0) | ①細粒の砂、片岩粒を多量に含む。 ②酸化焙 ③棕色 | 胴部外面ヘラ削り、口縁部横ナデ、内面ナデ。 | 貯蔵穴周辺 | 口縁部全周 |
| 110-10 85 | 土師器 壺 | ①20.8 ②(30.4) | ①粗粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焙 ③にぶい褐色 | 胴部外面ヘラ削り、口縁部横ナデ、内面ナデ。 | カマド | 底部欠損 |
| 110-11 85 | 土師器 壺 | ①19.5 ②32.2 ③4.3 | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焙 ③にぶい褐色 | 底面ナデ、胴部外面ヘラ削り、口縁部横ナデ、内面丁寧なナデ。 | カマド | 胴部一部欠損 |
| 110-12 85 | 土師器 壺 | ①22.8 ②35.7③(3.5) | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焙 ③明赤褐色 | 胴部外面ヘラ削り、口縁部横ナデ、内面丁寧なナデ。 | カマド | 胴下半部一部欠損 |
| 110-13 85 | 土師器 壺 | ①20.2 ②31.9 ③6.9 | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焙 ③にぶい褐色 | 底面木炭痕、胴部外面ヘラ削り、口縁部横ナデ、内面丁寧なナデ。 | カマド | 完形 |
| 110-14 85 | 土師器 壺 | ①(29.0) ②(25.6) | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化焙 ③にぶい黄褐色 | 胴部外面ヘラ削り、口縁部横ナデ、内面ナデ。 | カマド | 口縁~胴下半 1/4 |
| 110-15 86 | 縄文土器 | 口縁部片 | ①中粒の砂を含む。 ②良 ③にぶい褐色 | 波状口縁部片。 細い粘土層にきざみ。 | 覆土 | 前期縄織B式 |
| 110-16 86 | 土製品 | 重量2g | ①細粒の砂を含む。 ②良 ③棕色 | | 覆土 | 完形 |

第3章 竹沼(A-D区)遺跡の調査

D区12号住居跡

| 図番 PL | 器種 | 石材 | 計測値 (cm・g) | | | | 所見 | 出土状態 |
|--------------|-----|-----|------------|------|------|------|--|------|
| | | | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | 重量 | | |
| 110-17 86 | 刺形 | 滑石 | 3.00 | 2.25 | 0.50 | 4.8 | 穿孔方向は表→裏。 | 覆土 |
| 110-18 86 | 刺形 | 滑石 | 3.60 | 2.15 | 0.50 | 4.8 | 穿孔方向は表→裏。 | 覆土 |
| 110-19 86 | 刺形 | 滑石 | 4.05 | 1.45 | 0.40 | 4.0 | 穿孔方向は裏→表。 | 覆土 |
| 111-20 86 | 勾玉 | 滑石 | 2.80 | 1.70 | 0.50 | 4.0 | 穿孔方向は裏→表。 | 覆土 |
| 111-21 86 | 勾玉 | 滑石 | 2.60 | 1.50 | 0.40 | 2.0 | 研磨工程。 | 覆土 |
| 111-22 86 | 刺片 | 滑石 | 1.95 | 2.30 | 0.45 | 2.2 | 打面、左側折り取り。表面に工具痕。 | 覆土 |
| 111-23 86 | 刺片 | 滑石 | 2.00 | 2.20 | 0.70 | 3.7 | | 覆土 |
| 111-24 86 | 刺片 | 滑石 | 2.75 | 1.65 | 0.40 | 1.6 | 打面折り取り。 | 覆土 |
| 111-25 86 | 刺片 | 滑石 | 3.40 | 1.40 | 0.50 | 3.8 | 主刺離面の方向不明。側面はすべて折り取り。表面側に二次加工(上面の削り痕、下部の刺離痕)あり。 | 覆土 |
| 111-26 86 | 刺片 | 滑石 | 4.35 | 2.00 | 0.60 | 5.3 | 左側に加工痕。打面に加工痕。 | 覆土 |
| 111-27 86 | 紡錘車 | 滑石 | 4.80 | 5.20 | 2.00 | 52.2 | 刀子ケズリによる成形。 | 覆土 |
| 111-28 86 | 石核 | 蛇紋岩 | 5.75 | 3.05 | 1.55 | 31.0 | 鉄製工具による打割痕が残る。 | 覆土 |
| 111-29 86 | 刺片 | 滑石 | 2.90 | 6.70 | 1.25 | 27.7 | 勾玉の素材。 | 覆土 |
| 111-30 86 | 刺片 | 滑石 | 4.55 | 2.50 | 1.00 | 12.5 | 正面左辺から基辺に向けて、正・反の打撃による二次加工。基辺は前段の刺離痕が、工具痕を切っている。正面のテカリは自然面か? | 覆土 |
| 111-31 86 | 刺片 | 滑石 | 2.70 | 4.80 | 0.90 | 12.3 | 背面は縁化が強く、テカリがある。 | 覆土 |
| 112-32 86 | 刺片 | 滑石 | 3.50 | 3.30 | 0.75 | 10.7 | 背面に穿孔痕と削り痕、左側に削り痕。 | 覆土 |
| 112-33 86 | 刺片 | 滑石 | 3.05 | 3.40 | 0.75 | 9.7 | 左側、上面(打面)折り取り。 | 覆土 |
| 112-34 86 | 勾玉 | 滑石 | 4.45 | 2.70 | 0.45 | 5.9 | 研磨工程。 | 覆土 |
| 112-35 86 | 刺片 | 滑石 | 3.60 | 2.60 | 1.30 | 9.0 | 打面部分と背面に削り痕あり。 | 覆土 |
| 112-36 86 | 刺片 | 滑石 | 3.50 | 2.70 | 0.50 | 4.9 | 打面折り取り。 | 覆土 |
| 112-37 86 | 刺片 | 滑石 | 2.65 | 3.20 | 0.75 | 5.9 | 背面構成不明。打面は階段状の刺離面。加工痕なし。 | 覆土 |
| 112-38 86 | 刺片 | 滑石 | 2.70 | 2.65 | 0.95 | 6.7 | | 覆土 |
| 112-39 86 | 刺片 | 滑石 | 2.60 | 2.30 | 0.85 | 5.6 | | 覆土 |
| 112-40 86 | 刺片 | 滑石 | 2.75 | 1.85 | 0.60 | 3.5 | 折断後ケズリ成形。 | 覆土 |

D区13号住居跡

| 図番 PL | 土器種別 器種 | 法量 (cm) | ①胎土 ②焼成 ③色調 | 成・整形技法の特徴 | 出土状態 | 残存状況 備考 |
|-------------|------------|---------------|--------------------------------|---------------------|-----------|------------|
| | | | | | | |
| 113-1 86 | 土師器 坏 | ①12.1 ②4.6 | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化焰 ③にぶい棕色 | 底面へう割り、口縁部横ナデ、内面ナデ。 | 住居跡南 部 | 完形 |
| 113-2 86 | 土師器 坏 | ①13.5 ②5.2 | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焰 ③にぶい棕色 | 底面へう割り、口縁部横ナデ、内面ナデ。 | 住居跡西 部 | 口縁部一部欠損 |
| 113-3 86 | 土師器 坏 | ①13.5 ②3.1 | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焰 ③棕色 | 底面へう割り、口縁部横ナデ、内面ナデ。 | 住居跡南 部 | 3/4残存 |

[5] D区検出の遺構と遺物

D区13号住居跡

| 図番 PL | 土器種別 器種 | 法量 (cm) ①口径②高さ③底径 | ①釉土 ②焼成 ③色調 | | | 成・整形技法の特徴 | 出土状態 | 残存状況 備考 |
|--------------|------------|-------------------------|---------------------------------|-----------------------------------|---|-----------|---------|------------|
| | | | ① | ② | ③ | | | |
| 113-4 86 | 須恵器 蓋 | ①13.9 ②4.6 | ①細 褐色灰物粒を含む。 ②還元焼 ③灰色 | 右回転ロクロ整形 天井部回転ヘラ削り | | 住居跡東部 | ほぼ完形 | |
| 113-5 86 | 土師器 高坏 | ②(5.5) ③(8.8) | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焼 ③灰色 | 舞部外面ヘラ削り、内面ナデ。 | | 住居跡西部 | 坏部欠損 | |
| 113-6 86 | 土師器 高坏 | ②(7.2) ③(9.7) | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焼 ③にぶい褐色 | 舞部外面ヘラ削り、内面ナデ。 | | カマド周部 | 坏部欠損 | |
| 113-7 86 | 土師器 高坏 | ②(14.6) ③(16.1) | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化焼 ③褐色 | 舞部外面ミガキ。内面輪積み痕跡者に残る。 | | 住居跡南部 | 舞部全周 | |
| 113-8 86 | 土師器 小型甕 | ①13.9 ②14.8 ③7.8 | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化焼 ③にぶい赤褐色 | 底面ナデ、胴部外面ヘラ削り、口縁部横ナデ、輪積み肌、内面丁寧ナデ。 | | カマド周部 | 完形 | |
| 113-9 86 | 土師器 鉢 | ①(17.0) ②10.8 ③(8.2) | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焼 ③にぶい褐色 | 底面・胴部外面ヘラ削り、口縁部横ナデ、内面ナデ。 | | 住居跡南部 | 3/4残存 | |
| 113-10 86 | 土師器 飯 | ①16.4 ②11.8 ③3.0 | ①細粒の砂、片岩粒を少量含む。 ②酸化焼 ③にぶい褐色 | 胴部外面ヘラ削り、口縁部横ナデ、内面丁寧ナデ。 | | カマド周部 | 完形 | |
| 113-11 86 | 土師器 壺 | ②(13.0) ③(7.2) | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焼 ③褐色 | 胴部外面ヘラ削り不明瞭。内面ナデ、輪積み肌。 | | 住居跡中央部 | 底部1/2残存 | |
| 113-12 86 | 土師器 甕 | ②(7.8) ③(7.5) | ①細粒の砂、片岩粒を含む。 ②酸化焼 ③にぶい赤褐色 | 底面ナデ、胴部外面ヘラ削り、内面ナデ。 | | カマド周部 | 底部全周 | |
| 114-13 87 | 土師器 甕 | ①(17.8) ②32.4 ③6.3 | ①細粒の砂、片岩粒を多量に含む。 ②酸化焼 ③にぶい褐色 | 底面木炭痕、胴部外面ヘラ削り。口縁部横ナデ、内面ナデ。 | | カマド | 口縁部一部欠損 | |
| 114-14 87 | 土師器 飯 | ①23.4 ②26.9 ③9.5 | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焼 ③明赤褐色 | 胴部外面ヘラ削り、口縁部横ナデ、内面丁寧ナデ。 | | カマド | 完形 | |
| 114-15 86 | 土製品 | ①(6.2) ②(7.2) | ①細粒の砂を含む。 ②酸化焼 ③にぶい褐色 | | | カマド | 1/4残存 | |
| 114-16 86 | 弥生土器 | 割断片 | ①細粒の砂を含む。 ②良 ③にぶい褐色 | 染痕が施されている。 内面に灰化物が付着。 | | 覆土 | 中層 | |

D区13号住居跡

| 図番 PL | 器種 | 石材 | 計測値 (cm・g) | | | | 所見 | 出土状態 |
|--------------|----|----|------------|------|------|-------|----------------------|------|
| | | | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | 重量 | | |
| 114-17 87 | 割片 | 滑石 | 4.90 | 5.50 | 2.10 | 48.1 | | 覆土 |
| 114-18 87 | 底石 | 砂岩 | 10.15 | 6.10 | 1.40 | 102.2 | | 覆土 |
| 114-19 87 | 割片 | 滑石 | 3.45 | 4.95 | 1.10 | 20.2 | 正面に刀子痕あり。右側は折り取り。 | 覆土 |
| 114-20 87 | 割片 | 滑石 | 4.00 | 2.55 | 1.10 | 11.1 | 打面は制塵時の折れ。右側面は折り取り。 | 覆土 |
| 114-21 87 | 割片 | 滑石 | 5.20 | 2.60 | 0.60 | 12.8 | 正面の削り痕は主要制塵面に切られている。 | 覆土 |
| 114-22 87 | 割片 | 滑石 | 1.50 | 4.30 | 0.40 | 2.9 | 打面は制塵時に欠損。 | 覆土 |
| 115-23 87 | 割片 | 滑石 | 3.05 | 1.90 | 0.70 | 5.4 | 側面折り取り。 | 覆土 |
| 115-24 87 | 割片 | 滑石 | 2.90 | 2.00 | 0.50 | 3.3 | 側面、打面を工具で傷つけて折り取り。 | 覆土 |

第3章 竹沼(A~D区)遺跡の調査

D区14号住居跡

| 図番 PL | 器種 | 遺存状況 | 石 材 | 計測値 (cm・g) | | | | 特 徴 | 出土状態 |
|-------------|----|------|-----|------------|-----|-----|-----|-------------------------|------|
| | | | | 全長 | 幅 | 厚 | 重量 | | |
| 115-1 87 | 石鏃 | 完形 | 黒曜石 | 2.5 | 1.5 | 0.5 | 1.3 | 側縁は外湾し、基部の狭りは浅い逆U字状を呈す。 | 陸床中 |

| 図番 PL | 器種 | 石 材 | 計測値 (cm・g) | | | | 所 見 | 出土状態 |
|-------------|----|-----|------------|------|------|-----|-----|------|
| | | | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | 重量 | | |
| 115-2 87 | 刮片 | 滑石 | 2.60 | 1.30 | 0.70 | 2.7 | | 覆土 |

周 溝 検出できなかった。

竈 検出できなかった。

柱 穴 1個のピットが検出された。P1の深さは26cm。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 ほとんど出土していない。

時 期 不明。重複関係から考えると、当住居跡は6世紀後半以前の段階に相当する。

D区1号土坑 (第116図、PL.67)

位置 Pi-8グリッドにおいて検出された。D区8号住居跡を壊している。

規模 長径140cm、短径90cm、深さ20cmを測る。

覆土 3層に分かれた。土師器片3点が出土している。

時期 不明。

D区2号土坑 (第116・117図、PL.64・87)

位置 Ph-9グリッドにおいて検出された。D区15号住居跡を壊している。

規模 長径165cm、短径130cm、深さ30cmを測る。

覆土 古銭が出土している。

時期 中世。

D区3号土坑 (第116図、PL.67)

位置 Pd-10グリッドにおいて検出された。D区1号井戸に接している。

規模 長径130cm、短径120cm、深さ28cmを測る。

覆土 遺物の出土はなかった。

時期 不明。

D区4号土坑 (第116図、PL.67)

位置 Pd-10・11グリッドにかけて検出された。D区1号井戸の東約1mの所に位置している。

規模 長径110cm、短径105cm、深さ13cmを測る。

覆土 3層に分かれた。遺物の出土はなかった。

時期 不明。

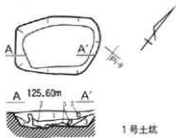
D区1号井戸 (第116・117図、PL.67・87)

位置 Pc-10、Pd-10グリッドにおいて検出された。完掘できなかった。

規模 現状では、長径250cm、短径90cm、深さ135cmを測る。

覆土 4層に分かれた。

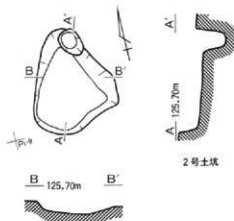
時期 不明。



1号土坑

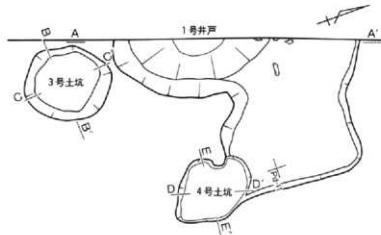
D区1号土坑

- 1 暗褐色土層 As-Bを斑点状に含む。締まりがあり、粒子が細かい。粘性はあまりない。
- 2 黄褐色土層 1層と3層の混じり。比率は3層が多く、ブロック状に混入。粘性、締まりややあり。
- 3 黄褐色土層 ロームの割合が多く、均一に入り込んでいる。締まりはややあり、粘性もある。



2号土坑

B 125,70m B'



D区4号土坑

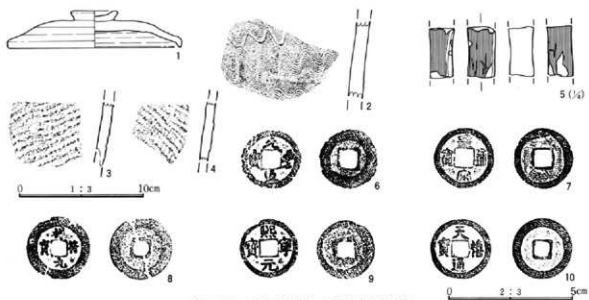
- 1 暗褐色土層 As-Bを斑点状に含む。締まりがあり、粒子が細かい。粘性はあまりない。
- 2 黄褐色土層 1層と3層の混じりだが、3層を多く含む。締まり、粘性ともにややある。ロームを多量に含む。締まり、粘性ともに2層よりある。
- 3 黄褐色土層

D区1号井戸

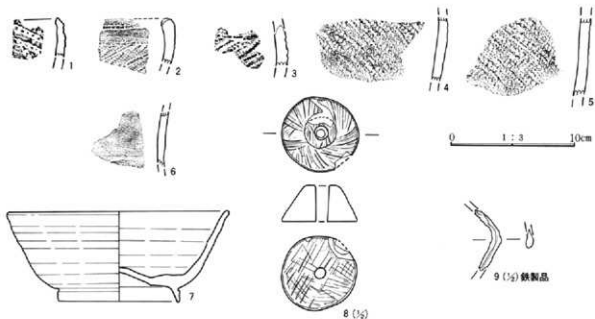
- 1 褐色土層 As-Aを含む耕作土。締まりがあまりない。
- 2 灰褐色土層 As-Bを斑点状に多量に含む。粒子が一定。締まり非常にある。
- 3 暗褐色土層 上層にAs-Bの混入が少量認められる。暗褐色土にローム粒を所々に含む。締まり、粘性ややあり。
- 4 3層に似るが軽石の量が少なくなる。
- 5 4層に似るが軽石が見られない。
- 6 暗褐色土層 3層に似ているが、暗褐色土とロームの割合により、色調がやや明るくなる。
- 7 6層よりもロームの混入が多くなるため、やや色調が明るくなる。

第116図 D区1号・2号・3号・4号土坑・1号井戸

第3章 竹沼(A-D区)遺跡の調査



第117図 D区1号井戸・2号土坑出土遺物



第118図 D区表探

D区1号井戸

| 図番 PL. | 土器種別 器 種 | 法 量 (cm) ①口径②器高③底径 | ①胎土 ②焼成 ③色調 | 成・整形技法の特徴 | 出土状態 | 残存状況 備 考 |
|-------------|-------------|-----------------------|---------------------------|-----------------------------|------|-------------|
| | | | | | | |
| 117-1 87 | 須恵器 蓋 | ②(2.9) ③(13.8) | ①粗 片岩粒含む。 ②還元焰 ③灰色 | 右回転口クロ整形 | 覆土 | 1/4残存 |
| 117-2 87 | 須恵器 鬘 | 胴部片 | ①細 白色磁物粒を含む。 ②還元焰 ③灰色 | 波状文。 | 覆土 | |
| 117-3 87 | 縄文土器 | 胴部片 | ①細粒の砂を含む。 ②良 ③にぶい黄褐色 | 縄文施紋。原体はLⅡ。 内面は丁寧な調整。 | 覆土 | 中期前半 |
| 117-4 87 | 縄文土器 | 胴部片 | ①細粒の砂、繊維を含む。 ②良 ③にぶい褐色 | 縄文施紋。原体はRⅡ横位。 内面は横方向の調整。 | 覆土 | 前期黒沢式 |

[5] D区検出の遺構と遺物

D区1号井戸

| 図番 PL | 器種 | 遺存状況 | 石 材 | 計測値 (cm・g) | | | | 特 徴 | 出土状態 |
|----------|----|------|-----|------------|-----|---------|------|---------|------|
| | | | | 全長 | 幅 | 厚 | 重量 | | |
| 117-5-87 | 砥石 | 部分 | 砂岩 | (5.4) | 2.8 | 2.3~2.6 | (60) | 4側面を使用。 | 覆土 |

| 図番 PL | 器 種 | 遺存状況 | 計測値 (g・mm) | | | | 種 類・年 代 | 出土状態 |
|-----------|-----|------|------------|-----------|------|---------|-----------------------|--------|
| | | | 重量 | 口径(タテ・ヨコ) | 銃厚 | | | |
| 117-6-87 | 古銭 | 一部欠損 | (2.75) | 2.38 | 2.38 | 0.9~1.3 | 元豊通寶 北宋元豊元年 西暦1078年 | D区2号土坑 |
| 117-7-87 | 古銭 | 完形 | 1.39 | 2.4 | 2.35 | 0.8~1.1 | 皇宋通寶 寶元元年 西暦1039年 | D区2号土坑 |
| 117-8-87 | 古銭 | 一部欠損 | (2.51) | 2.5 | 2.5 | 0.6~1.1 | 祥符元寶 北宋大中祥符元年 西暦1008年 | D区2号土坑 |
| 117-9-87 | 古銭 | 完形 | 2.59 | 2.38 | 2.35 | 0.8~1.1 | 熙寧元寶 北宋熙寧元年 西暦1068年 | D区2号土坑 |
| 117-10-87 | 古銭 | 完形 | 3.53 | 2.4 | 2.4 | 1.0~1.6 | 天禧通寶 北宋天禧元年 西暦1018年 | D区2号土坑 |

D区表探

| 図番 PL | 土器種別 器 種 | 法 量 (cm) ①口径②器高③底径 | ①胎土 ②焼成 ③色調 | 成・整形技法の特徴 | 出土状態 | 残存状況 備 考 |
|-------------|-------------|-----------------------|----------------------------|------------------------------|------|-------------|
| 118-1 87 | 縄文土器 | 口縁部片 | ①細粒の砂、繊維を含む。 ②良 ③にぶい赤褐色 | 平載竹管による平行沈積、刺突が施されている。 | 表探 | 前期黒浜式 |
| 118-2 87 | 縄文土器 | 口縁部片 | ①細粒の砂、繊維を含む。 ②良 ③赤褐色 | 縄文施設。原体はLⅡ平載竹管による刺突、内面横ミガキ。 | 表探 | 前期黒浜式 |
| 118-3 87 | 縄文土器 | 胴部片 | ①細粒の砂、繊維を含む。 ②やや良 ③赤褐色 | 縄文施設。原体はLⅡ平載竹管による刺突、内面横ミガキ。 | 表探 | 前期黒浜式 |
| 118-4 87 | 縄文土器 | 胴部片 | ①細粒の砂、繊維を含む。 ②良 ③にぶい黄褐色 | 縄文施設。原体はRⅡ横位。 内面はやや丁寧な調整。 | 表探 | 前期黒浜式 |
| 118-5 87 | 縄文土器 | 胴部片 | ①細粒の砂、繊維を含む。 ②良 ③灰褐色 | 縄文施設。原体はRⅡ横位。 内面はやや丁寧な調整。 | 表探 | 前期黒浜式 |
| 118-6 87 | 弥生土器 | 胴部片 | ①細粒の砂を含む。 ②良 ③にぶい赤褐色 | 縄文施設。原体はLⅡ。 | 表探 | 中期 |
| 118-7 87 | 須恵器 埴 | ①16.7 ②7.0 ③9.5 | ①細 白色粘物料を含む。 ②透光質 ③灰色 | 右回転ロクロ整形。 高台貼付。 | 表探 | ほぼ完形 |

| 図番 PL | 器 種 | 遺存状況 | 石 材 | 計測値 (cm・g) | | | | 特 徴 | 出土状態 |
|----------|-----|------|-----|------------|-----|-----|------|-----------------|------|
| | | | | 径 | 孔径 | 厚 | 重量 | | |
| 118-8-87 | 柄鉢車 | 一部欠損 | 蛇紋岩 | 4.0 | 0.7 | 1.9 | 35.0 | 表面全体に目の細かい傷が残る。 | 表探 |

第4章

分析とまとめ



竹沼遺跡

[1] 緑柱遺跡群 植物珪酸体分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

緑柱遺跡は群馬県藤岡市に所在し、鏡川の支流である鮎川左岸の段丘上に位置する。

今回、発掘調査が行われた2区～5区の発掘区では、天仁元年(1108年)の示標テフラである浅間B軽石(As-B:新井, 1979)および天明三年(1783年)の示標テフラである浅間A軽石(As-A:新井, 1979)の堆積が認められた。As-B直下の黒色土層では畠址(4区:6層)・水田址(2区:7層, 3区:7層, 5区:5層)などの遺構が確認されている。しかし、条里制区画に符合する遺構は確認されていない。また、本遺跡の水田形態は、畦畔を構築せず、等高線に沿って溝で区画されている。一方、As-A下位では畠址が検出されており、As-A降灰以前に畑作が行われていたことが想定されている。

今回の自然科学分析調査では、現地にて発掘調査担当者と協議を行い、As-B下位に堆積する黒色土層に主眼をおいて、As-B降灰以前の稲作の様態を検討することとした。また、明確な遺構は検出されていないが、As-A下位の堆積層を対象として、As-A降灰以前の畑作に関する検討を行うこととした。

現地調査時の土層観察では、各土層中の花粉化石が酸化作用により分解・消失していることが予想されたため、比較的酸化作用に強く、イネ科の栽培植物、特にイネ属の有無を検討する上で有効な植物珪酸体分析を行った。

1. 試料

試料採取地点は、水田址・畠址が検出された2区(FI-55)・3区(Ic-55)・4区(Ju-55)・5区(Km-55)を対象とし、As-A降灰以前の土層からAs-B下位の水田址・畠址の耕作土を中心に、長さ5～29cmの柱状ブロック試料を採取した。採取したブロック試料は、室内にて層相などを観察し、分析目的を考慮しながら分析試料を抽出した(図1)。

2. 分析方法と結果の表示方法

分析は、近藤・佐瀬(1986)の方法を参考にした*¹。試料中の植物珪酸体は、過酸化水素水(H₂O₂)・塩酸(HCl)処理、超音波処理(70w, 250KHz, 1分間)、沈定法、重液分離法(臭化亜鉛、比重2.3)の順に物理・化学処理を行って分離・濃集する。これを封入(封入剤:プリユウラックス)し、プレパラートを作成して、400倍の光学顕微鏡下で全面を走査する。その間に、出現するイネ科葉部(葉身と葉鞘)の葉部短細胞に由来した植物珪酸体(以下、短細胞珪酸体と呼ぶ)および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体(以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ)を、近藤・佐瀬(1986)の分類に基づいて同定・計算する。

引用文献

- 新井芳夫「関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層」『考古学ジャーナル』137, p.41-52 1979

*1: 近藤・佐瀬(1986)の方法は、イネ科植物体内の植物珪酸体の組成および生産量が異なる(近藤, 1983)ことを考慮して、植物体に形成される植物珪酸体全てを同定の対象とし、種類毎の出現率から過去の植生や栽培植物の有無を推定するものである。例えば、イネ(イネ属)では機動細胞珪酸体の生産量が多いが、コムギ(イネ科)などでは機動細胞珪酸体はほとんど形成されない。

近藤三・佐瀬隆「植物珪酸体分析、その特性と応用」『第四紀研究』25, p.31-64 1986

計数結果を一覧表に示す。また、検出された植物珪酸体の出現傾向から稲作および畑作について検証するために、植物珪酸体組成図を作成した。各種類 (Taxa) の出現率は、短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体の各珪酸体ごとに、それぞれの総数を基数とする百分率で求めた。

3. 植物珪酸体の産状

計数結果および各地点の植物珪酸体組成を、図2～5に示す。イネ科葉部起源の植物珪酸体は各区試料で多く検出される。その保存状態は短細胞珪酸体で良好であるが、機動細胞珪酸体では不良であり、表面に多数の小孔 (溶食痕) が生じているものが認められる。

各区では植物珪酸体組成の層位的変化はみられず、As-B降下以前とAs-A降下以前ではほぼ同様である。

栽培植物であるイネ族イネ属 (以下、イネ属とする) の短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体は、As-B降灰以前の水田址 (2区: 7層, 3区: 7層, 5区: 5層)・畝址 (4区: 6層) の耕作土でわずかながら検出される。また、各区ではキビ族のヒエ属・キビ属・エノコログサ属、イチゴツナギ亜科のオオムギ族などの短細胞珪酸体もわずかに検出される。ただし、現状の植物珪酸体の分類では、これらの植物珪酸体が栽培種に由来したものが否かを判別することは困難である。

以上のほかに、各区試料からはタケ亜科 (ネザサ節・その他)、ヨシ属、ウシクサ族 (コブナグサ属・ススキ属)、イチゴツナギ亜科 (その他) の短細胞珪酸体あるいは機動細胞珪酸体が産出する。これらの種類の出現率はほぼ同様であり、その中ではタケ亜科が高率に出現する。また、細胞列もわずかながら認められる。

一方、As-A降灰以前の堆積層 (5区: 2層, 4区: 2層, 3区: 2層, 2区: 3層・4層) でも、イネ属の植物珪酸体がわずかながら検出される。また、4区を除いてヒエ属・キビ属・オオムギ属などの植物珪酸体もわずかながら検出するが、これらが栽培種に由来したものが否かを判別することは困難である。

4. 本調査区の農耕について

ここでは、今回の分析結果と現水田耕土のイネ属出現率を比較して、As-A降灰以前およびAs-B降灰前後の稲作の消長について検討する。

イネ属の出現率を判断基準とした過去の稲作について、現状では稲作耕土中の植物珪酸体の堆積過程が判明していないために議論の余地もある。しかし、この手法は過去の稲作の消長を考察する上で示唆に富むものと思われる。現在の水田耕土におけるイネ属の出現率としては、近藤 (1988) の調査例がある。それによれば、イナワラ堆肥連用 (8年間、500kg/10a/年) の水田土壌表層では、イネ属機動細胞珪酸体の出現率は16%を示すとされている。

近藤三「十二遺跡の植物珪酸体分析」『鎗師屋遺跡群一長野県北佐久郡御代田町十二遺跡発掘調査報告書』p.377-388 1988

今回の分析結果では、As-Bで埋没した水田址あるいは畝址のうち、イネ属機動細胞珪酸体の出現率が2区7層最上部で9.6%の値を得たが、3区7層最上部、4区6層最上部、5区5層最上部では、イネ属機動細胞珪酸体の検出個数が十分でないために出現率を算出できなかった。ただし、各区の遺構検出面下位では、10%前後の出現率が得られた。また、As-A降灰以前の土層では各区試料の検出個数が十分でないために、機動細胞珪酸体の出現率を算出できなかった試料があったものの、2区・3区・4区では概して10%前後の出現率が得られた。これらの値は、現在の水田土壌表層における出現率と比較して低い。しかし、各区のほとんどの土層からは、イネ属の葉部に形成される短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体がともに検出された。また、As-B降灰以前の土層から、ともに水田址あるいは畝址が検出されている。

以上のことから、2区・3区・5区ではAs-B降灰以前に稲作が行われていたと推定される。これについては、低湿地などの湿潤な環境下に生育することが多いヨシ属・コブナグサ属を伴うことから水田耕作であった可能性がある。この点については、遺構内の水分状態を明らかにするために、珪藻分析でさらに検討する必要がある。

ところで、各区のAs-A降灰以前の土層では栽培種か否かの判別が困難であるものの、キビ族のヒエ属・キビ属・エノコログサ属、イチゴツナギ亜科のオオムギ属など、畑作物の栽培種を含む種類の短細胞珪酸体もわずかに検出された。今回検出された植物珪酸体が栽培種に由来すると仮定すれば、イネだけでなくムギ・キビなどの栽培が行われた可能性がある。なお、現在では畑作を行う際に畝の保温・保湿材として稲藁が、また肥料として稲藁堆肥が使用されることがある。仮に当時このような形で稲藁が使用されたとすれば、検出されたイネ属珪酸体は利用された稲藁に由来する可能性も考えられる。4区や2区～5区より検出されたイネ属が栽培されたものか、稲藁に由来するものかの判別はつきにくく、今後の類例の蓄積をさらに進める必要があろう。

植物珪酸体組成からみて、As-A降灰以前まで生育していた種類にあまり変化がなく、本調査区の近辺にはタケ亜科、ヨシ属、ウシクサ族、イチゴツナギ亜科などのイネ科植物が生育していたと推定される。現在では、ネザサ節は光の射す開けた地面に生育し(室井, 1960)、ススキ属やイチゴツナギ亜科の仲間と比較的乾いた場所に、ヨシ属、コブナグサ属は低湿地などの湿潤な環境下に生育することが多い。このことから、周囲に存在した湿潤的な場所にはヨシ属、コブナグサ属が、地面に光の射すやや乾いた場所ではネザサ節、ススキ属、イチゴツナギ亜科の仲間が生育していたと考えられる。

本調査区で得られた分析調査結果は、これまで緑地地区遺跡群で行われたAs-B降灰時の水田耕土を対象とした分析調査結果と調和的であり、緑地地区における平安時代の稲作(水田耕作)の存在を支持するものとなった。なお、本調査区の発掘調査から畝址が検出され、その畝址を用いたイネやムギなどの

室井 幹「竹藪の生態を中心とした分布」『富士竹類植物園報告』p.103-122 1960

栽培や稲藁の利用の可能性も予想された。また、平安時代以降では稲作の存在が予想されるものの、水田址は検出されていない。これらより、緑整地区が水田耕作に適した地形にあるのにも関わらず、何らかの要因により畑作耕地化したと推定される。これらの点は緑整地区の稲作の様態を考える上で十分に留意しておきたい。

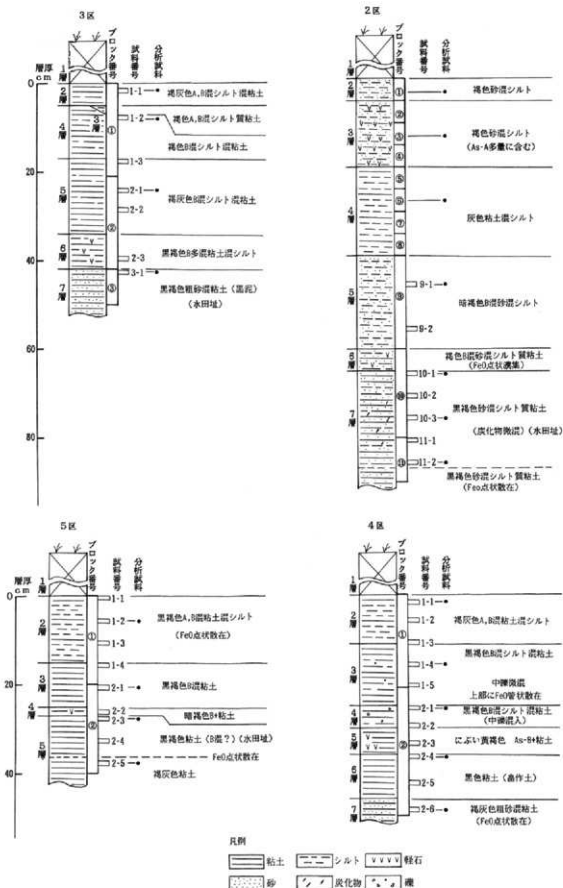


図1 緑藻遺跡 各区の模式柱状図と分析試料

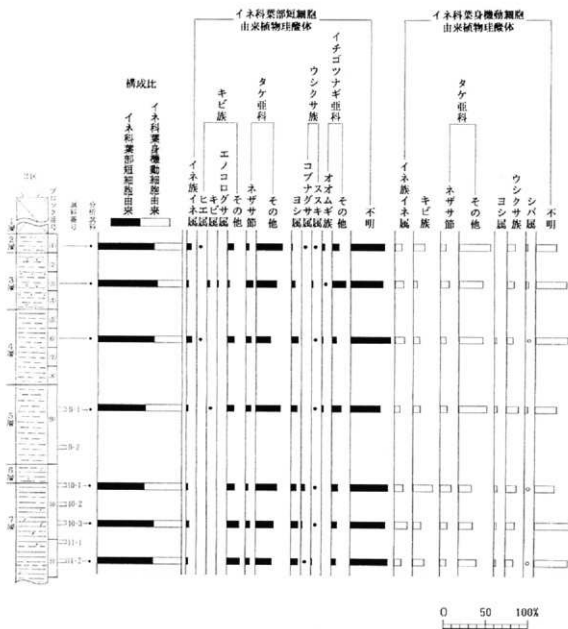


図2 緑盤遺跡 2区試料 植物珪酸体組成

出現率は、イネ科葉部短細胞珪酸体はイネ科葉部短細胞珪酸体総数、イネ科葉身機動細胞珪酸体はイネ科葉身機動細胞珪酸体総数をそれぞれ基数として百分率で算出した。なお、●○は1%未満をあらわす。

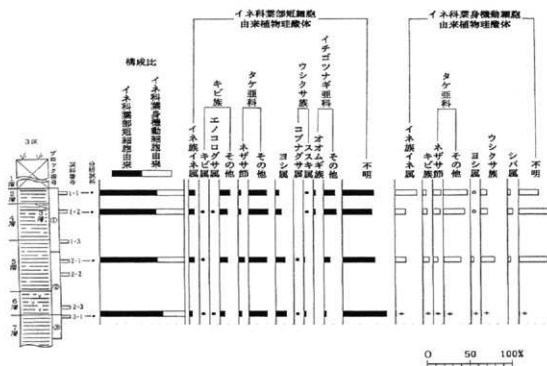


図3 緑葉遺跡 3区試料 植物珪酸体組成

出現率は、イネ科葉部短細胞珪酸体はイネ科葉部短細胞珪酸体総数、イネ科葉身機動細胞珪酸体はイネ科葉身機動細胞珪酸体総数をそれぞれ基数として百分率で算出した。なお、●は1%未満をあらわす。+は、イネ科葉身機動細胞珪酸体の総数が100個未満の試料において出現した種類をあらわす。

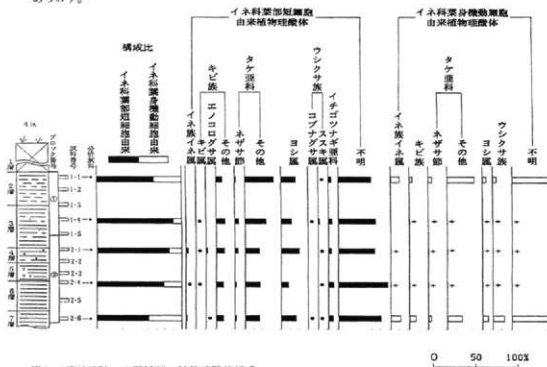


図4 緑葉遺跡 4区試料 植物珪酸体組成

出現率は、イネ科葉部短細胞珪酸体はイネ科葉部短細胞珪酸体総数、イネ科葉身機動細胞珪酸体はイネ科葉身機動細胞珪酸体総数をそれぞれ基数として百分率で算出した。なお、●は1%未満をあらわす。+は、イネ科葉身機動細胞珪酸体の総数が100個未満の試料において出現した種類をあらわす。

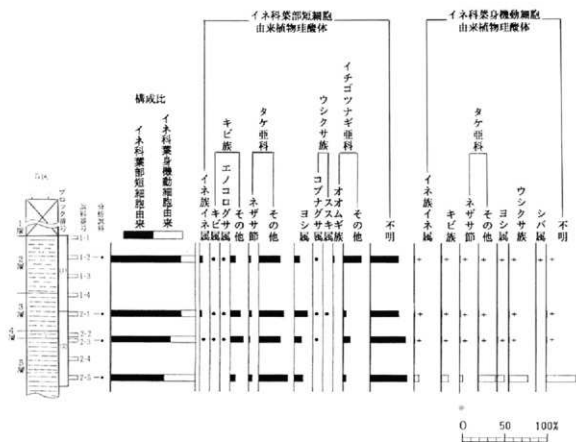
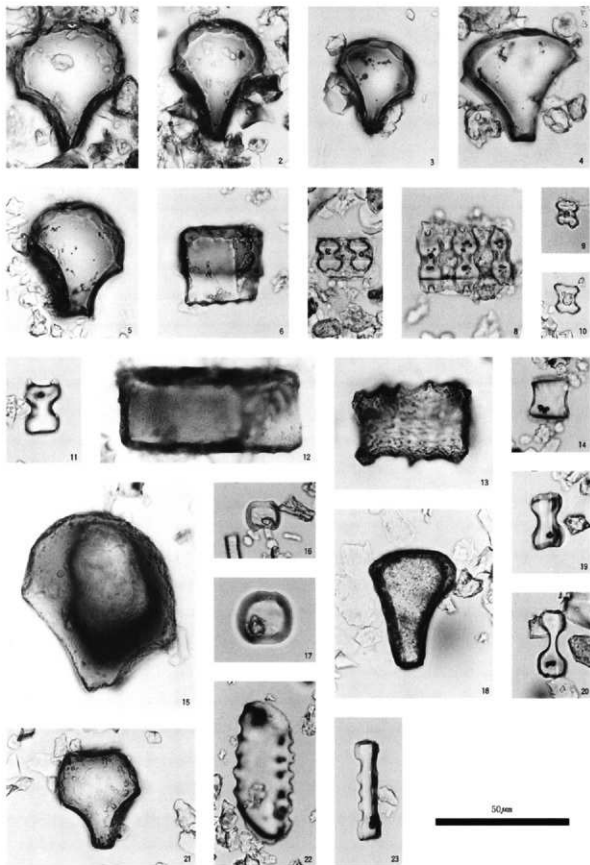


図5 線堂遺跡 5区試料 植物花粉体組成

出現率は、イネ科葉部短細胞花粉体はイネ科葉部短細胞花粉体総数、イネ科葉身機動細胞花粉体はイネ科葉身機動細胞花粉体総数をそれぞれ基数として百分率で算出した。なお、●は1%未満をあらわす。+は、イネ科葉身機動細胞花粉体の総数が100個未満の試料において出現した種類をあらわす。

植物珪酸体の顕微鏡写真



〔2〕竹沼遺跡で石材として取り扱った その種類と地質的関連

陣内 圭一

1. 当遺跡の地形および地質的特徴

緑蔭地域は地形上からみると、南西から北東に緩傾斜する地盤上に位置している。当遺跡は標高凡そ110m付近で、現在では桑畑や水田がよく発達した農耕地帯に在り、北部には幹線の国道254号線が東西に走り、西側には程近く一般県道金井・倉賀野停車場線が南北に走る交通上からも好都合な要地であることは、古代人の考察も同じであるのかと思う。当地域は、往時においては、鮎川及び鮎川のはん濠原であった地盤であり洪積世の時点において、非常に厚層な河岸段丘礫層を形成しているものであり、所によっては、鮎川の河川流水は、伏流状態をなす部分もみられるものである。

この広大な扇状地的な河岸段丘は、当地域においては、鮎川方向に傾斜する地形をなしており、旧河川敷は一段と断崖で河岸が形成されていて、洪水などの危険に襲われる難を免れることのできる地点であると先住民は選択したものであろう。

地質的にみると、当地域の基盤は、新生代第三紀中部中新世の吉井層である。この吉井層は、泥岩・砂岩がよく発達し互層をなし、凝灰岩層を挟在するのが一般的な層序である。平成2年度末頃、吉井町吉井の東部、国道254号線の南側路肩で、凝灰岩層の崩壊に対する施工が大きく実施されていたが、凝灰岩の挟在をよくみせてくれていた。その凝灰岩層の露頭がみえなくなったのは残念である。

その基盤上に厚層な砂礫土層を堆積している当地点は、先住民にとって居住の拠点としては、すこぶる好適地であったと考えられる。それは、第一に日照が快適であり、次いで、生活用水が近接していることであり、更に農耕にもこと欠かない土質状態である。

現在は、灌漑用水路が、西部の竹沼貯水池から大瀬用水路で、水田分布を拡大して好都合の状態にしている地域である。

一般的な地質状態は、洪積世の砂礫土層の上部に薄層の粘土に礫を僅かに混入する地層と粘性土層とで凡そ数10cm位で、その上部を浅間火山の褐色板鼻軽石層が薄層で覆いその上部に風化した軽石層が普通1m位存在し、その上部を黄色板鼻軽石層が凡そ20cm位の層厚で被覆している。その上部は、鮎川などの河川作用で堆積した砂質シルトの沖積層が所によっては、50～60cm程の層厚で、耕作土層としての堆積状態をみせている。

以上のような地形及び地質に恵まれた当地点は、先住民の生活環境として、好適なものであったと考えられるが、この地を捨てざるを得なかった理由は知らない。

2. 当遺跡の石材に関連をもつ地質的環境

a. 石材の数量と成因別について

竹沼遺跡において、石材として、取り扱った数量は、総数1,711点*で40種類の岩石であった。これらを成因別に分けてみると、火成岩類が9種類の211点で、総数量の12.3%を占めるものである。ついで、堆積岩類は10種類で98点あり、総数量の5.7%に当たる少量である。さらに変成岩類は21種類の1,402点であり、総数量比81.9%と非常に多量である。この変成岩類の特殊な状況などについては、後の項の記述によって、ご了解を頂きたいと思うところである。

更に、個々の石材については、項を改めて、解説を加えることとし、ここでは、石材鑑定分別にかかわりをもった、分類別・成因別表を掲げることとする。

*竹沼遺跡のA～D区出土の礫の総数。住居跡カマドやこも礫石、その他層土中から出土した礫すべてを含んでいる。

(1) 火成岩の分類表

| | | | | |
|----------------------|------------|-----------|-------|-------|
| 産出状態 | 流紋岩 | 石炭 | 斜長石 | 輝石 |
| | カリ長石 | アルカリ長石 | 輝石 | |
| | 雲母 | 角閃石 | かんらん岩 | |
| | その他の鉱物 | | | |
| 深成岩的 | 花崗岩 花崗閃緑岩 | 閃緑岩 | はんれい岩 | 超塩基性岩 |
| 半深成岩的 | 花崗斑岩 | ひん岩 | 輝緑岩 | |
| 火山岩的 | 流紋岩 石英安山岩 | 安山岩 粗面岩 | 玄武岩 | |
| SiO ₂ (%) | 66% | 52% | 45% | |
| 色指数(有色鉱物の量) | (白っぽい) 10% | 40% (濃い色) | 70% | |

(2) 堆積岩の分類と地質時代該当表

| | | | | | | | |
|-----|------------|--------|------|-------------|---------------------|---------|-------------|
| 未固結 | 泥 粘土 | 砂 | 礫 | 火山灰 軽石 岩屑 | 石灰岩類 石灰軟泥 | 第四紀 | 新 生 代 |
| 固結 | シルト岩 泥岩 泥岩 | 砂岩 | 礫岩 | 凝灰岩 集塊岩 | 泥石灰 石灰岩 (大理石) | 第三紀 | |
| 甚固結 | 粘板岩 | 硬砂岩 珪岩 | 緑色珪岩 | 角礫凝灰岩 輝緑凝塊岩 | 石灰岩 (大理石) | 中生代 古生代 | |

(3) 沈澱岩の分類表

| | | | |
|--------|------------|----------|--------|
| 鹹質溶液 | 柱質溶液 | 石灰質溶液 | 鉄質溶液 |
| 岩塩 カリ塩 | 雄黄 チャート 角礫 | 灰華 礫状石灰岩 | 鉄華 黄土石 |

(4) 変成岩の分類表

| 原岩 | 接触変成岩 | 広域変成岩 | | |
|------|---------------------|------------------------------|------------------------|------|
| | | 低度変成 | 中程度変成 | 強度変成 |
| 砂質岩 | ホルンヘルス | 珪質千枚岩 | 石英片岩 絹雲母片岩 紅糜片岩 | 礫片麻岩 |
| 粘土質岩 | ホルンヘルス 黒青石ホルンヘルス | 千枚岩 石層千枚岩 | 黒雲母片岩 雲母片岩 堇青石片岩 | |
| 凝灰質岩 | ホルンヘルス 陽起石ホルンヘルス | 所謂〔輝岩〕 オフトレライト千枚岩 霞閃片岩 | 緑泥片岩 緑糜片岩 角閃岩 | |
| 蛇紋岩 | | | 滑石片岩 | |
| 石灰岩 | 晶質石灰岩 | 晶質石灰岩(大理石) | 石灰片岩 | |
| 鉄質岩 | | | 赤鉄鉱片岩 | |

b. 石材の種類・産地の予想・特徴の一端

石材の鑑定は、顕微鏡による造岩鉱物の決定に及ぶことなく、肉眼によつてのみの観察を主としたものであり、大まかな岩石の種類別であることを、最初に申し上げ、さらに産地点の想定等は、拙い経験によるものであり、適切な解説には程遠いこととなると思う。以下個々の石材について、先に掲げた分類表の項分けなどに従って、簡単な説明を加えることとする。

★岩石名の右に記した()内の数字は、個数を示す。

(1) 火成岩類について

①蛇紋岩(3)* 産地は鮎川上流で、御荷鉾式変成岩分布地帯には広域に露頭がみられる岩石である。この岩石は、普通には暗緑色の緻密な脂感があるので、他の岩石と区別し易い。また、硬度が3~4位と低いので、軟らかく細工がしやすい石材である。所によっては、赤色などを交え、五色石などと珍重される岩石である。

②角閃岩(5) 鮎川上流域で、前者と同様な地帯に存在し、角閃石の集合体であり、その集合状態は繊維状、片状である。特に岩塊の比重が大きく、他の岩石と比べて重く、新しい面は灰黒色の輝があるなどの特徴がはっきりみえるものである。

③斑動岩(1) 産地は、前者同様に鮎川上流域地帯と想定される。緑黒色柱状の結晶がみえるのは、角閃石であり、斜長石が混入している状態がある。全体として濃い色合いで「黒みかげ」などといわれ、墓石などには珍重される美しさがあるものである。

④閃緑岩(3) 産地は鮎川流域である。主として下仁田町付近から上流付近に産出するものであるが、当地点は鮎川のはん蓋原であった時点を考えれば、当遺跡付近での転在はあってしかるべきである。深成岩であり、黒味がかつた、角閃石の柱状結晶がみえるものである。やや白っぽい石英閃緑岩質のものもみえる。

⑤輝緑岩(165) 産地は鮎川上流域である。普通暗緑色、灰緑色細粒の岩石である。この岩石は、古生層中に岩脈状態でみられることもある。上野村で神流川を横断する岩脈を観察したことがあった。御荷鉾式変成岩帯には岩床として存在する岩石である。

この岩石は曹長石と輝石や輝石から変わった緑泥石を含んでいるものとされている。当遺跡では、火成岩類の中で最多量の存在を占めているものである。

⑥石英斑岩(2) 産地は鮎川沿岸であるので、段丘礫層中に混在しているものである。岩石の石基が有色鉱物に乏しいので、全体として白っぽくみえるのが特徴であり、濃緑色にみえるのは黒雲母である。また石英の斑晶がよくみえる。

⑦安山岩(12) 産地は鮎川流域でなく、鮎川流域のものである。一般に斑状で、色指数は40または35~10位で、浅黒い色の仲間、輝石安山岩などでは、輝石がよくみえるものである。自然の露頭では板状の節理がよく発達しているのが

みられる。なお、しそ輝石、角閃石安山岩なども包括して、すべて安山岩とした。この岩石は鍋の谷では古来から庭石や敷石に使用された。

⑧石英安山岩(2) 産地は鍋川上流である。SiO₂平均値が66%を越す仲間であらう。斑状をなす火山岩で、色指数が10以下に入るものである。この岩石も石材として、鍋川中上流地域では、建造物によく使用されていたものである。南牧川流域での櫛石は、コンクリート建造が盛んになる以前では珍重された建築石材であった。

⑨流紋岩(18) 産地は鮎川流域にはなく、おそらく、南牧川上流地域、南牧村砥沢は古来から、その産地として有名である。酸性の岩石で、岩石の色は帯白、帯褐色その他縁がかかったものなどあるが、一般的に砥石材として使用されている。特に虎の斑のような縞状に流紋構造をもつものが珍重され、刃物の研磨材として、家庭用、大工用刃物を研ぐ中砥的なものである。遺跡の中でも研磨に利用された様子が石材に残っていた。

(2) 堆積岩類について

堆積岩の分類表の項立てに従って、固結度の低いものから高いものへと、地質時代の若い新生代から中生代・古生代のものへと列記したい。

①砂岩(17) 当遺跡を擁する地域の基盤は、第三紀中部中新世の吉井層であるが、この地層を形成する岩石は、主として、砂岩と泥岩であり、凝灰岩を挟入するものである。

その中の砂岩は、遺跡でも研磨材として、刃物などを研ぐ荒砥材として用いられたものであろう。海底に堆積した砂の固結形成された岩石である。この地域の南西にある牛伏山(490m)付近には、砂岩を形成する砂粒の粒度が大きく花崗質の牛伏砂岩といわれるものが分布している。共に砂岩であり、見かけの上で、粒子が流水の作用で運搬されたものであるもので、丸味を帯びているのが特徴である。またよく、帯褐色であるが、これは、含有する鉄分が酸化して、褐鉄鉱となったためである。

②泥岩(砂質泥岩)(9) 産地は前者と同様当該地域の基盤岩中に存在するものであるが泥岩として粘土のみから形成されたものであったら、風化が激しく作用して崩壊してしまうが、砂分を混入した砂質泥岩であったので、崩壊しない石材である。

③凝灰岩(10) 産地は前者と同様であり、砂岩と泥岩の互層中に挟入している。主に灰白色の堆積岩で、第三期の頃の火山噴火による降灰の堆積岩である。比較的耐火性に富んでいるので、「かまど」材に使用されたかと想定するものである。

岩質は砂岩や泥岩と異なり、火山灰として軽石粒を混入するのが特徴である。

④凝灰質砂岩(4) 産地は前者と同様である。砂分を含有することは、凝灰岩の形成された周辺地帯であって、砂分の混入が作用しているものであろう。

⑤頁岩(2) 産地は鍋川上流であらう。剝離性の発達した泥質頁岩で、泥板岩と

もいう。

頁岩が更にかたくなり、割離性の増したものは粘板岩とよばれるものである。

⑥硬砂岩(3) 産地は鮎川上流の秩父古世層地帯から運搬されたものである。安山岩と見まちがえるような、褐灰色の顔つきをしているが、新しい面では、安山岩では組成鉱物に結晶形がみえるが、硬砂岩では、粒子が円形であるのが多く、硬堅である。

⑦輝緑凝灰岩(2) 産地や漂着状況は前者と同じである。古生代における火山噴火による火山灰の堆積形成されたもので、古世層中に挟在され分布している。暗赤紫色や緑色であり、白色の石灰岩の斑紋があることが多く、見分けの観点にもなる。硬度は低いが、庭石などに「ブドウ石」などといわれて、使われる。

⑧チャート(26) 産地は前者同様で、鮎川上流地域に広く分布する古生代の堆積岩である。灰色や赤色、白色で非常に硬く、ハンマーで打つと火花が飛び一種独特のキナ臭いにおいがする。カチカチ石そのもので、石英分 SiO_2 が95%に達するものもある。

⑨珪岩(21) 産地など前者と同じであるが、石英質砂岩などといわれ、白色ガラス質光沢をもつ、硬度が高く古世層中に分布している岩石である。

⑩赤色珪質板岩(4) 産地は古世層地帯であるので、前者と同じように鮎川によって運ばれた岩石である。赤色板状の石英分よりなるもので、赤色珪質頁岩ともいう。平板状に劈開するが硬度は高いものである。

(3) 変成岩類について

変成岩分類表の項立てにそって、接触変成岩類から広域変成岩類と、更に低度変成のものから、中程度変成のものへ、なお砂質岩から粘土質岩へと当遺跡群でみられた石材について、列記することとする。

①熱変成岩(10) 鍋川沿岸では好都合に採取される石材である。遺跡で生活を営んだ人々は、硬質の岩石であるので、石器工作に貴重な資料として、採集されたものであろう。火成岩の貫入などによって接触した岩石が熱変成岩(ホルンヘルス)となったものである。鍋川でみかけるものは、新しい面は黒灰色でガラスのように貝殻状断面をみせ、また、珪質化している。表面が風化しているので、打破すると特徴がわかる。

②石英片岩(130) 分類表の砂質岩の中程度変成岩であり、珪石ともいう。鮎川の中流に広く分布する三波川変成岩帯を産地とする。白色で他の変成岩層中に挟在され、硬度が高く、 SiO_2 の純度の高いものである。

③千枚岩(3) 細粒堆積岩源の細粒変成岩で、細粒で片理がよく発達しているので薄板状によく割れ易いのでこの名がある。産地は、古世層分布地帯縁部でよくみられる。

④絹雲母片岩(40) 砂質岩の中程度変成岩類である。以下掲げる変成岩類、すなわち結晶片岩類は、その鉱物組成が多様多様であり、その含有する種類についても、多い少ないがある。この場合、その岩石名を呼ぶとき、普通識別に際

して、その造岩鉱物の少なくみえる鉱物名をさきにあげ、順次多量に混在する鉱物名を述べ、石英は多量であるがこれを加えないのが普通の習わしである。この絹雲母石英片岩も絹雲母片岩と呼ぶ。これら結晶片岩類は鮎川流域に広く分布するので、以下産地の特記を略したい。

⑤石黒絹雲母片岩(10) 美しく絹糸光沢をみせている絹雲母片岩に、わずかに石黒を混在している石材である。これらの岩石は、河川作用で運搬され、片理構造も手伝ってか、平板状、または、短棒状に造形され、往時の生活に生かされたことになる。

⑥石黒片岩(4) 前者同様な変成岩であり、風化の進んだこの岩石片は指先に黒鉛のように付着する。断面では、やや高純度の石黒塊に接する。石黒は鉛筆の芯に使う。

⑦絹雲母石黒片岩(671) この石材は、当遺跡の総石材量の39%を越す量を示しているものである。このことは、当遺跡にこの石材の産地が接近した地点にあることが、唯一の特色であり、また、それだけに利用価値が高かったものであると想定される。

⑧点紋絹雲母石黒片岩(131) 絹雲母石黒片岩に、ボツボツと白色の点紋を散在する岩石であり、点紋は曹長石などである。前者と同様な産地である。

⑨紅簾絹雲母石黒片岩(3) この石材は絹雲母石黒片岩に、美しい細い短柱状の紅簾石を混在するものである。紅簾絹雲母片岩であると、みごとな岩石である。

⑩絹雲母緑泥石黒片岩(7) この石材は前者と同様に石基は石黒片岩であり、それに緑泥石と極わずかな絹雲母を混在しているものである。

⑪脆雲母石黒片岩(1) この石材は、石基は石黒片岩であり、それに、雲母と外観は似ているが、雲母より脆弱で、剥離片は弾性に乏しい脆雲母が混在している。

⑫絹雲母脆雲母片岩(1) この石材は、石基が脆雲母であって、そこに、絹雲母が混在している岩石組成である。前者と共に珍しい石材であった。

⑬緑泥片岩(91) この石材は、緑色で、往時から片理構造をもつ結晶片岩ということで、板碑などに活用されたものである。当遺跡では、その数量が比較的少量である。

⑭点紋緑泥片岩(21) この石材は緑泥片岩に、白色のボツボツと点紋をもつものである。点紋は曹長石などであり、また、黄鉄鉱をも点在するものみかけた。

⑮絹雲母緑泥片岩(39) この石材は緑泥片岩に、絹雲母が混在しているもので、緑色の基地に絹糸光沢の絹雲母が混入したきれいな岩石である。

⑯石黒緑泥片岩(11) この石材は、緑色の石基に、わずかに石黒が加わって、黒味を帯びた状態の岩石である。

⑰絹雲母石黒緑泥片岩(12) この石材は、緑泥片岩の石基に、石黒とさらにわ

ずかな絹雲母を筋状に混在しているものである。

①点紋絹雲母緑泥片岩(31) この石材は、石基は緑泥片岩であり、絹雲母とさらにわずかに点紋状に曹長石、斜長石などを散在している状態の岩石である。

②緑簾緑泥片岩(58) この石材は、緑泥石の深緑色と緑簾石の黄緑色とを斑状に交え、さらに白色の石英が織りなす模様的美しさをもつ岩石である。三波石として、鑑賞用石材として、天下の銘石となっているものが、この岩石である。

③輝岩(37) この岩石は、凝灰質岩の広域変成岩で、低度変成を受けたものである。緑色変成岩であり、片理構造のあまり発達していない岩石である。

④滑石片岩(83) 三波川結晶変岩地帯に産出する岩石であるので、鮎川流域には滑石が採鉱された地点が分布している。蛇紋岩が変成作用を受けて生成された岩石で、多くは灰白色で、極めて軟らかく、爪で傷がつく、最も硬度の低い岩石である。なお、真珠光沢があり、指で触れると、蠟のような脂感がある。潤滑剤として使われたり、細工に珍重される石材であり、遺跡に生活過程のあとを残しているようである。

c. 鮎川を主とする石材概況

当竹沼遺跡で取扱われた石材を概観するに当たり、付近の地質的な分布状態から、考察を加えることとする。石材すなわち、岩石がその地点に存在するには、その地盤が岩石によって形成されていて、風化現象によって生活に活用し易い状態におかれるか、岩石が自然現象によって、運搬されているか、また人為的に、人の力で運搬される、等々が想定されるのである。当地点においては、河川動力による運搬堆積された岩石の礫を、生活に利用したものが主体であると考えられる。

このことに、最大の影響を及ぼしているのが、鮎川である。鮎川は1級河川であり、源を藤岡市上日野、赤久縄山(1,522m)の西部で分水嶺となる杖植峠付近に発し、高崎市山名付近で鍋川に合流するまで、延々33,809mを流下するものである。当遺跡付近は、最終合流点より、4km程上流地点付近に位置することをみると、いかに大きな影響を受けて形成された地盤であるかが察知される。なお、当地点付近は、先にも記したように、鍋川のはん崖原にも属する地域であるので、鍋川流域に分布する地質地帯からの岩石が、礫として段丘礫層形成に関与していることは必定であり、見逃せないことである。以下、地質図により、石材の産地等に関連づけて結論化したい。

(1) 秩父古生層

鮎川の上流は、地質図でみられるように、秩父古生層地帯を流下するもので、当地でみかけることのできる硬砂岩、輝緑凝灰岩、チャートや珪岩などは、秩父古生層地帯から運搬されたものであろう。

(2) 三波川結晶片岩層

鮎川は、全延長の凡そ80%は、地質図(図1)でみられるように、三波川結

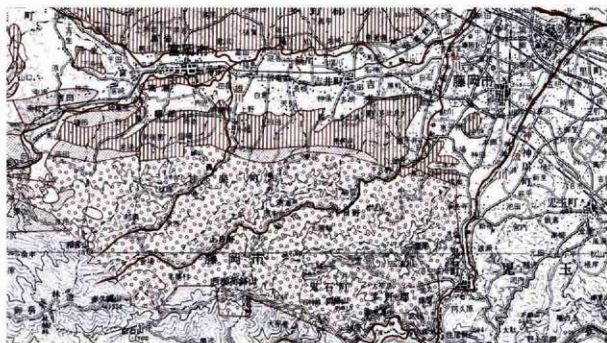


図1 群馬県地質図の〔鮎川沿岸〕

(内外地図株式会社から)

0 1 : 200000 6 km

参考文献

- 『地質学ハンドブック』1966 朝倉書店
- 『地学事典』1983 平凡社
- 『藍色岩石図鑑』1955 保育社
- 『かぶらの自然』1972 かぶら理科研究会
- 『関東地方-日本の地図3』1988 共立出版
- 『関東地方-日本地方地質誌』1980 朝倉書店
- 『田沼中原遺跡』1990 (財)群馬県環境文化財調査事業団

晶片岩地帯を侵食して、地質構成物質を、下流である当地域に運搬堆積したものである。従って当遺跡でみられる石材の80%を超える多量の種類が、三波川結晶片岩類となっていることは当然のことであると察察いただけるのである。岩石は、全体として片理構造がよく発達していること、比較的短小な割れ形をすることなどが、特殊な生活用品として活用されたようであるのは、この地質構成に預っている岩石の一大特色であるといえる。

(3) 中生代の地層

当遺跡では、頁岩が混入していたが、これは、鍋川流域の産物であるものと

想定される。鮎川の流域には、中生代の地質分布地帯はみられないのである。

(4) 第三紀の地層

鮎川が三波川結晶片岩地帯を流出した下流地帯は、新生代第三紀中新世の富岡層群の分布する地域となる。ここで、砂岩、泥岩、凝灰岩などが基盤岩となるので、当遺跡で活用されていることが確認される。

(5) 火成岩層と熱変成岩

普通の火山岩層や火成岩漿の貫入起源による接触熱変成岩層は、鮎川の流域においては、みることのできないものである。然し、輝緑岩は岩脈などとして分布しているので産出がある。ほか、当遺跡へ、搬入されている火成岩や熱変成岩は、鑛川の河川作用、または、人力によって運ばれたものであろうと思う。

以上で、先人が、生活の中で、各種石材の特徴を試行錯誤を繰り返しながら、石材を資材化してゆかれた姿に対して、敬意を表しつつ行き届かぬコメントを終わらせていただきます。

〔3〕 鍋川流域の古墳時代玉作

女屋和志雄

1. はじめに

竹沼遺跡は、鮎川の谷口に位置する集落である。その時期は、古墳時代では前期と後期の2つがあり、谷地の対岸にある緑塗上郷遺跡を含めると前期から後期の様相を知ることができる。この時期、下流の白石古墳群では白石稲荷山古墳以後も七嶽山古墳や二子山古墳、萩原塚古墳が作られ、鮎川対岸には後期群墳集の平井古墳群がある。竹沼やその周辺遺跡は、それら古墳被葬者を支えた集落の一つである。ここで検出された玉作は、6世紀中頃の滑石製模造品を集団で生産しており流域でも典型となる資料である。ここでは、石製品と滑石製模造品を玉作として一括し、現在知られている県内玉作資料の半数を占める鍋川流域での特徴をあげる。

2. 研究抄史

群馬県では、滑石製模造品の出土が数多く知られている。古くは、赤城山榎石や境町鈍石などの祭祀遺跡、最近では集落に加えて豪族居館もあげられる⁽¹⁾。また、5世紀前半の藤岡市白石稲荷山古墳や6世紀初頭の安中市築瀬二子塚古墳などでは、武器・農具に地方色を帯びた杵や盤、履などが副葬されている。古墳への副葬が衰退するに伴い、集落での出土が増加する傾向にあり、生産背景、製品の供給関係をつかむことが課題といえる。

工房については、戦前に伊勢崎市八寸城山遺跡が子持勾玉の製作跡と推定されていた。初めて実態を明らかにしたのが、昭和36年甘楽郡甘楽町笹遺跡の調査⁽²⁾である。そこでは、調査された12軒のうち3軒が古墳時代後期の滑石製模造品工房で、剣形や勾玉、白玉、紡錘車などが製作されていた。専門集団の形態、結晶質片岩の工具類や砂岩製砥石の豊富さは、工房の内容を知るのに十分であった。その後、昭和51年に藤岡市竹沼遺跡が調査され⁽³⁾、白玉と紡錘車の製作工程が復元されている。ここでは谷地をはさんで複数の工房があり、笹遺跡との比較資料となるばかりでなく、本格的な生産実態を明らかにした。また、原石の滑石質蛇紋岩について、鮎川上流日野地域が産出地に推定され、産地と工房との関係が初めて指摘された。昭和54年には、高崎市下佐野遺跡で古墳時代前期の工房が調査され⁽⁴⁾、県内での玉作の導入期の様相が明らかにされた。中でも、碧玉質から滑石質への転換が三波川変成帯の滑石質蛇紋岩を介している点で、導入後の展開を知る資料となった。その後は、調査の増加とともに工房数も増し21遺跡がある（図1）。鍋川流域での集中がみられる一方で、非三波川系と思われる頁岩製の模造品の存在が明らかになり、新たな資料が加えられている。また、古墳時代以後、布生産に関係させて紡錘車に推移していくことが言及されている⁽⁵⁾。

3. 県内の古墳時代玉作

群馬県の玉作は、4世紀の導入期、5・6世紀の展開期に区分される。その特徴は、(1)関東地方では最も早く滑石質材への転換を図ること
(2)導入後、5・6世紀を通じて生産を継続すること
(3)豊富な原石産出地である三波川変成帯があることがあげられる。

4世紀中頃、畿内政権下にあった北陸地方玉作は解体する。東日本の玉作は、これを契機にはじまり各地域に遺跡が出現する。長野県では、4世紀後半の丸子町社軍神遺跡、望月町後沖遺跡などがあり、北陸技法で碧玉製管玉やその他石製品が製作されている。関東地方では、遅くとも4世紀末頃までに神奈川県海老名市本郷遺跡、千葉県香取郡下総町大和田遺跡、茨城県土浦市烏山遺跡などで生産が始まる。

群馬県では、高崎市下佐野遺跡、同市新保田中村前遺跡、前橋市芳賀東部団地遺跡がある。県中央部での立地は、毛野中樞勢力下での生産と考えられる。下佐野遺跡では、4世紀後半で3期に区分される3群7軒の工房が検出されている。Ⅰ期は、滑石質蛇紋岩に混在して碧玉でも管玉を生産、Ⅱ・Ⅲ期になると滑石質蛇紋岩のみになり、勾玉、管玉に加えて本村型琴柱形石製品を生産している。本村型琴柱形石製品は、福井県、長野県、埼玉県、静岡県、千葉県、山形県で出土しており、下佐野遺跡の製品流通範囲を示すとも考えられる。

展開期は、滑石製模造品製作の最盛期で、古墳への多葬を圏期におおよそ5世紀と6世紀に分けられる。関東地方では、6世紀中頃まで生産が継続し、栃木県でも5世紀後半には小山市で生産がはじまる。埼玉県では、比企郡川島町正直遺跡で6世紀代にも碧玉製管玉が生産され、武蔵国を南北に二分した玉作の様相が指摘されている。県内では、5世紀前半から6世紀中頃にかけての古墳に副葬されること、7世紀前後まで生産が継続する点に特徴がある。

5世紀の工房は、後半代の4遺跡で検出されている。主に滑石質蛇紋岩で、管玉、勾玉、白玉、剣形、有孔円板、紡錘車を生産している。4世紀代とは原石や技法の点で継続性がみられるが、古墳に特徴的な器種は含まれず集落と古墳とは本来工房を別にすると考えられる。5世紀後半太田市鶴山古墳の刀子は、熟練した複数の工人か工房の手になると指摘されているが、副葬品向け専業工人の存在が暗示される。

6世紀の工房は、14遺跡で検出されている。県西部では、鍋川の支流、神流川、烏川に沿ってまとまる。滑石でも硬軟、色調の点で明瞭な差異がみられ、多元化した生産形態を反映している。県東部でも、伊勢崎市八寸大道上遺跡で主に白玉が生産されている。また、豪族居館の伊勢崎市原之城遺跡や前橋市大屋敷遺跡など、主に利根川以東に頁岩を用いた模造品が分布する。生産形態は不明だが、原石産地には足尾山地が推定されている。専業形態を確立した西部に容認された、東部の自立への動きといえる。

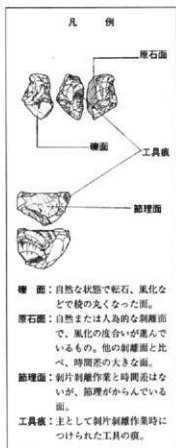
4. 鍋川流域の玉作

鍋川は、長野県境付近の水源から県南西部を流れて鳥川に合流する。南には、三波川変成帯の北縁にあたる赤久縄山を最高峰とする山並みが連なる。ここからは、滑石や蛇紋岩、結晶質片岩、砂岩が豊富に産出し、原石や工具として利用されている。鍋の谷と呼ばれる流域は、川沿いの段丘上に多くの遺跡がある。古墳時代では、谷の入口に盟主ともいえる白石古墳群、中流の甘楽町には谷で最大の6世紀後半笹森稲荷古墳、同じく富岡市には豪族居館の本宿郷土遺跡、7千点以上の滑石製模造品が出土した祭祀遺構の久保遺跡がある。

工房は、5世紀後半から6世紀後半までの10遺跡で検出されている。その分布は、高田川、丹生川、雄川、白倉川、鮎川の支流ごとにまとまる傾向と鍋川との合流点に近いことが特徴である。原石入手の容易さと製品の流通を意図した立地といえる。現状では地理的な点から、高田川・丹生川流域、雄川・白倉川流域、鮎川流域の3つに群別することができる。6世紀初頭から中頃に生産の最盛期があること、拠点集落での集団による専業生産が共通した特徴である。

恵下原、笹、甘楽条里、竹沼の各遺跡は、その典型で複数の工房による量産形態を知ることができる。ここでは、勾玉、白玉、剣形、有孔円板の模造品と紡錘車が生産されている。5世紀代は古墳副葬品に共通する作りの精巧さ、最盛期は集落需要を反映した量産・粗製化、6世紀後半は白玉と紡錘車が主流となる、特徴の推移があげられる。原石は、滑石質蛇紋岩が広く流通する一方で、時期が下るに従い滑石でも軟質のものや白色系のものが主流となる。量産への対応と加工の容易さが大きな理由である。

鍋川流域での生産は、古墳への滑石製模造品の副葬とその流行で専業化をたどる。古墳への副葬は、前方後円墳に限らず円墳にまで普及し石製品に代わる需要を生んだ。しかし、6世紀初頭には衰退に向かい、集落での祭祀が盛行する。滑石製模造品は、祭祀具のひとつに加えられ広い範囲で流通する。その需要に三波川変成帯への地の利で集団を形成し、専業で生産したのが鍋川流域である。しかし、6世紀中頃には古墳への副葬は衰退、集落での祭祀も手持勾玉や須恵器の流行で需要を失い、急速に規模を縮小して生産の幕を閉じる。



- 註1 東日本埋蔵文化財研究会「古墳時代の祭祀」(1993)
- 2 群馬県立博物館「笹遺跡—鍋川流域における滑石製品出土遺跡の研究」(群馬県立博物館研究報告 1963)
- 3 藤岡市教育委員会「F1 竹沼遺跡」(1978)
- 4 群馬県埋蔵文化財調査事業団「下佐野遺跡II地区」(1986)
- 5 中沢 悟・春山秀幸・関口功一「古代布生産と在地社会—矢田遺跡出土紡錘車の分析を通して」『群馬の考古学』(1988)
- 6 寺村光晴「古代玉作形成史の研究」(1980)
- 7 石岡憲雄「北武蔵の玉作」『研究紀要』第2号 埼玉県立歴史資料館(1980)

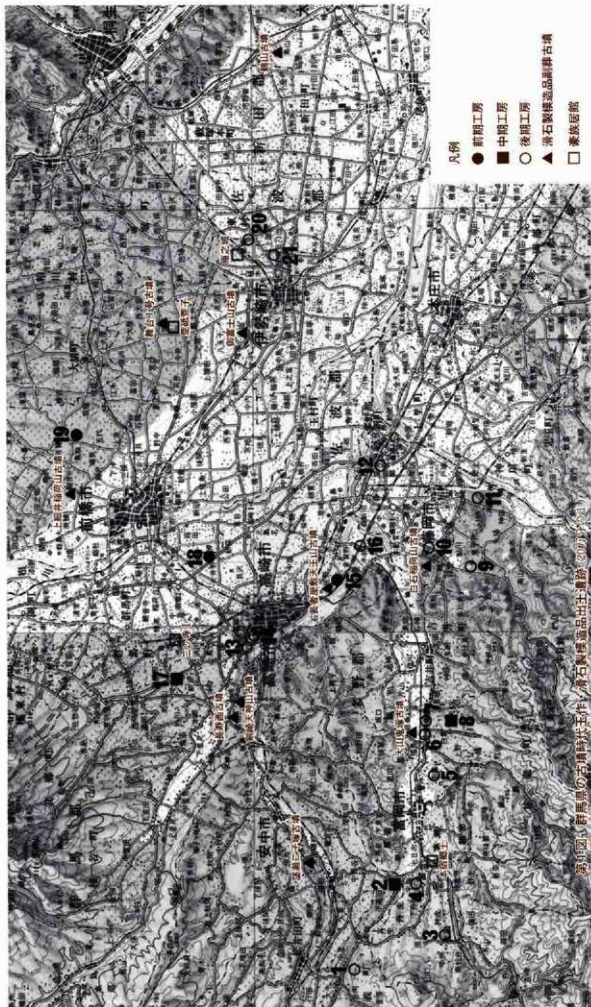
- 8 右島和夫「鶴山古墳出土遺物の基礎調査Ⅰ」『群馬県立歴史博物館調査報告書』第2号(1986)
- 9 前原 豊「2つの石製模造品の石材—北関東における古墳時代後期の石製模造品の掘り方」『発掘者』305 発掘者談話会(1994)

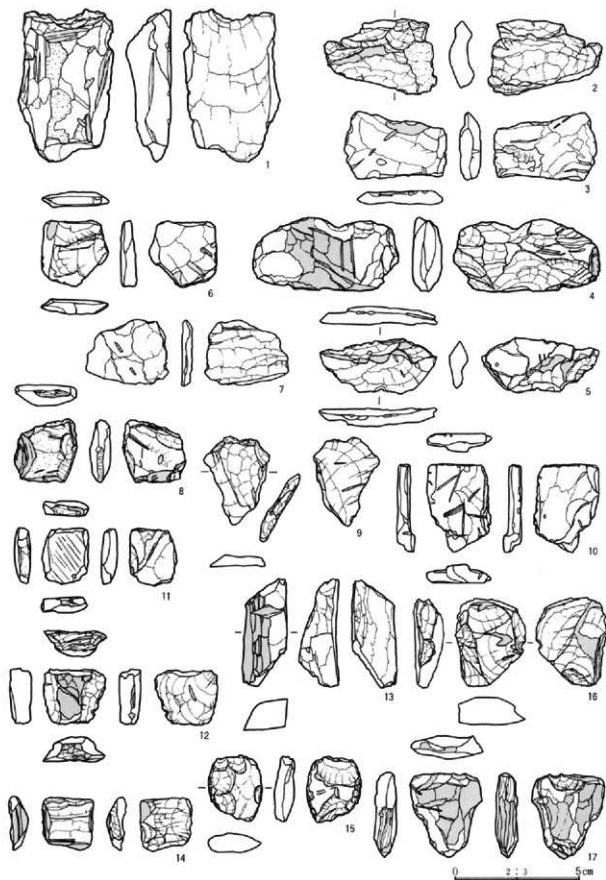
群馬県の古墳時代玉作・滑石製模造品遺跡一覧表

| 番号 | 遺跡名 | 所在地 | 時期 | 検出遺構 | 主要遺物 | 調査年・機関 |
|----|--------|----------|----|-------|---------------------|--------------|
| 1 | 古立中村 | 妙義町古立 | 後期 | 工房2軒 | 碧玉・白玉・銅形 | 昭和62年妙義町教委 |
| 2 | 高島井 | 妙義町下高田 | 中期 | 工房2軒 | 碧玉・勾玉・白玉・霏玉・剣玉・子持勾玉 | 昭和58年妙義町教委 |
| 3 | 前畑 | 富岡市野沼 | 中期 | 工房1軒 | 原石 | 昭和63年富岡市教委 |
| 4 | 恵下原 | 富岡市宇田 | 後期 | 未調査 | 碧玉・勾玉・白玉・有孔円板 | |
| 5 | 原田鎌 | 富岡市原田鎌 | 後期 | 工房1軒 | 白玉 | 昭和59年富岡市教委 |
| 6 | 笹 | 甘楽町小川 | 後期 | 工房3軒 | 勾玉・白玉・轆轤車 | 昭和36年群馬県博 |
| 7 | 甘楽桑里 | 甘楽町白倉 | 後期 | 工房11軒 | 勾玉・白玉・銅形・子持勾玉・轆轤車 | 昭和61年甘楽町教委 |
| 8 | 天引向原 | 甘楽町天引 | 中期 | 工房3軒 | 勾玉・白玉・銅形・有孔円板 | 平成元年はか郡理文 |
| 9 | 竹沼 | 藤岡市西平井 | 後期 | 工房10軒 | 勾玉・白玉・轆轤車 | 昭和52年藤岡市教委 |
| 10 | 滝前 | 藤岡市中大塚 | 後期 | 工房1軒 | 白玉 | 昭和60年藤岡市教委 |
| 11 | 本郷山根 | 藤岡市本郷 | 後期 | 工房1軒 | 白玉・轆轤車 | 昭和62年群馬理文 |
| 12 | 温井 | 藤岡市岡之郷 | 後期 | | 碧玉・勾玉・白玉・銅形・有孔円板 | 昭和48年群馬理文 |
| 13 | 上笠榎屋敷前 | 高崎市上笠榎町 | 後期 | 工房2軒 | 碧玉・勾玉・白玉・有孔円板 | 平成3年高崎市教委 |
| 14 | 笠榎合原 | 高崎市笠榎町 | 後期 | 工房多数 | 白玉・轆轤車 | 平成2年高崎市教委 |
| 15 | 下佐野 | 高崎市下佐野町 | 前期 | 工房7軒 | 碧玉・勾玉・琴柱形 | 昭和55年はか郡理文 |
| 16 | 田端 | 高崎市阿久津町 | 後期 | 工房1軒 | 勾玉・白玉・轆轤車 | 昭和50年はか郡理文 |
| 17 | 行力 | 高崎市行力町 | 中期 | 工房2軒 | 碧玉 | 平成3年群馬理文 |
| 18 | 新保田中村 | 高崎市新保田中町 | 前期 | | 碧玉・勾玉・白玉 | 昭和59年はか郡理文 |
| 19 | 芳賀東部埋地 | 前橋市鳥取町 | 前期 | 工房1軒 | 碧玉・勾玉 | 昭和51年はか前橋市教委 |
| 20 | 八寸大道上 | 佐波郡東村八寸 | 後期 | 工房1軒 | 白玉 | 昭和57年群馬理文 |
| 21 | 八寸城山 | 伊勢崎市八寸町 | 不明 | | 白玉・銅形・子持勾玉 | |

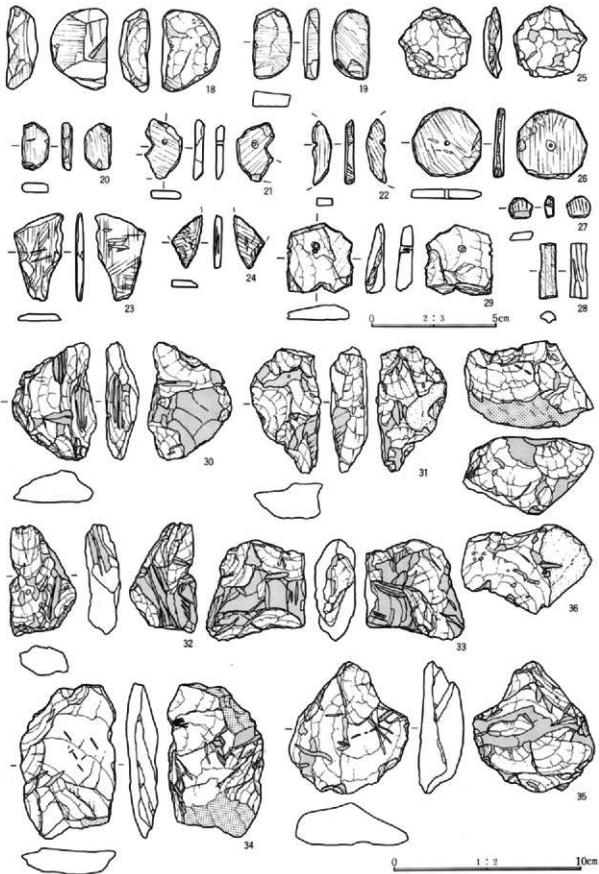
参考文献

- 1 妙義町遺跡調査会ほか「古立東山遺跡・古立中村遺跡・八木連沼遺跡・八木連瓦畑遺跡」(1990)
- 2 妙義町教育委員会「妙義東部遺跡群(Ⅱ)」(1985)
- 3 富岡市教育委員会ほか「前畑遺跡・内出1遺跡・丹生城西遺跡・五分一遺跡・千足遺跡」(1992)
- 4 富岡市史編さん室「富岡市史 自然編・原始古代中世編」(1987)
- 5 富岡市教育委員会「上田鎌古墳群・原田鎌遺跡」(1984)
- 6 群馬県立博物館「信濃路—熊川流域における滑石製模造品出土遺跡の研究」
群馬県立博物館研究報告第1集(1983) 同第3集(1986)
- 7 甘楽町教育委員会「甘楽町桑里遺跡」(1989)
- 8 群馬県埋蔵文化財調査事業団ほか「白倉下原・天引向原遺跡Ⅱ」(1994)
- 9 藤岡市教育委員会「F1 竹沼遺跡」(1978)
- 10 滝前・滝下遺跡調査会「滝前・滝下遺跡」(1988)
- 11 群馬県埋蔵文化財調査事業団ほか「本郷山根遺跡」(1989)
- 12 群馬県埋蔵文化財調査事業団ほか「温井遺跡」(1981)
- 13 高崎市遺跡調査会「上笠榎屋敷前遺跡」(1992)
- 14 高崎市教育委員会「高崎市内埋蔵文化財緊急発掘調査報告書」(1991)
- 15 群馬県埋蔵文化財調査事業団ほか「下佐野遺跡Ⅱ地区」(1986)
- 16 群馬県埋蔵文化財調査事業団ほか「田端遺跡」(1988)
- 17 群馬県埋蔵文化財調査事業団ほか「行力遺跡」(1995)
- 18 群馬県埋蔵文化財調査事業団ほか「新保田中村前遺跡Ⅰ」(1990)
- 19 前橋市教育委員会「芳賀東部埋地遺跡群Ⅰ」(1984)
- 20 群馬県埋蔵文化財調査事業団ほか「八寸道上遺跡」(1989)
- 21 岩沢正作「群馬県における祭祀関係遺跡概観」『毛野』5号(1933)

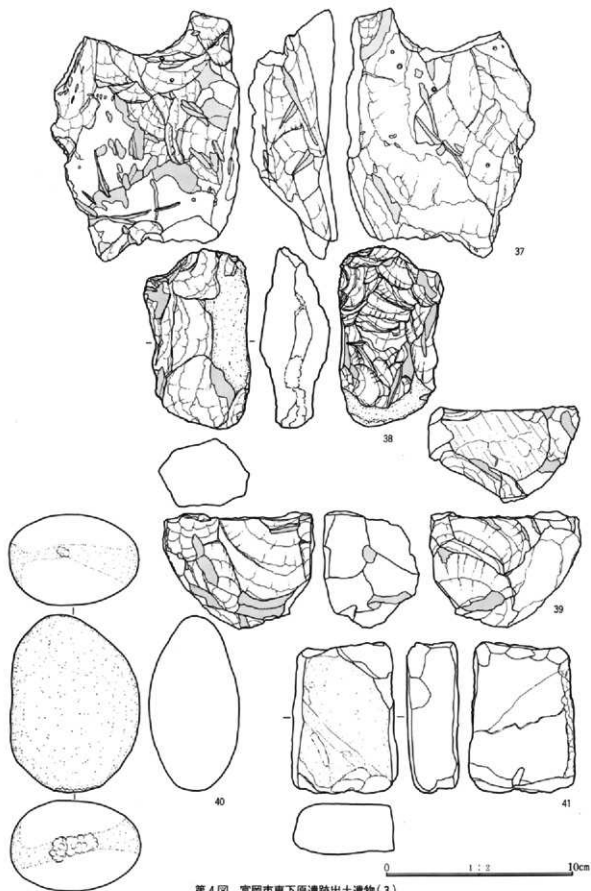




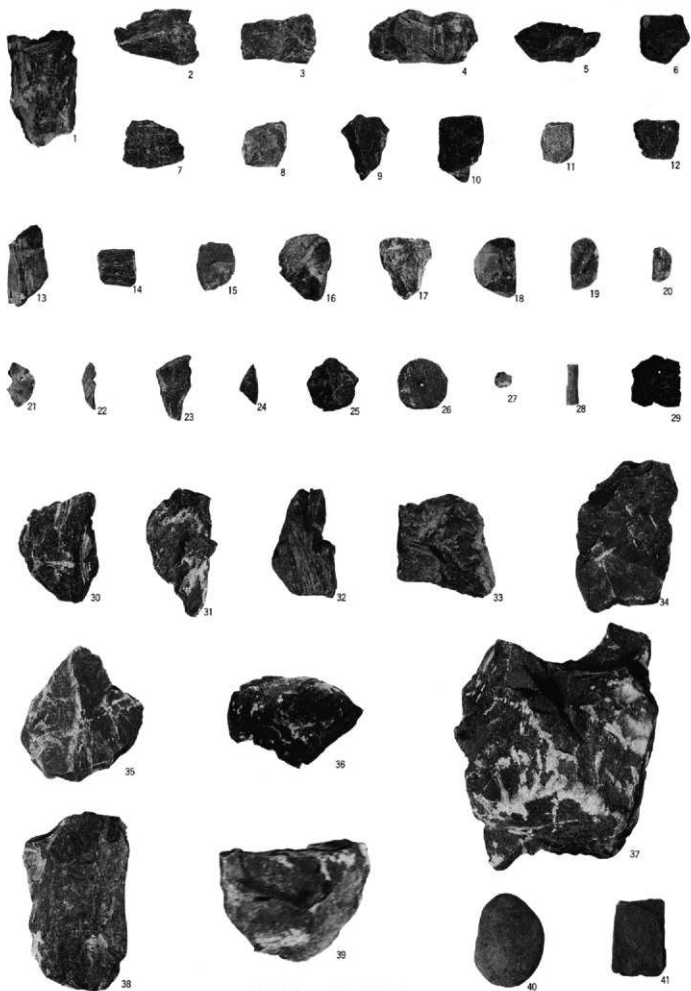
第2図 富岡市恵下原遺跡出土遺物(1)



第3図 富岡市恵下原遺跡出土遺物(2)



第4図 富岡市恵下原遺跡出土遺物(3)



富岡市惠下原遺跡出土遺物

第4章 分析とまとめ

| 図番 PL | 器種 | 石材 | 計測値 (mm - g) | | | 重量 | 所見 |
|-------------|------|----|--------------|------|------|------|---|
| | | | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | | |
| 2-1 181 | 剥片 | 滑石 | 6.05 | 3.80 | 1.70 | 46.5 | 石核からの粗製剥片。表面に3方向からの工具痕。 |
| 2-2 181 | 剥片 | 滑石 | 3.00 | 4.50 | | 11.9 | 背面の加工痕は刮り痕で、石核を削った痕。打面の加工痕は、主要剥離面に切られている。 |
| 2-3 181 | 剥片 | 滑石 | 2.70 | 4.05 | 0.85 | 10.9 | 石核からの粗製剥片、折断後は勾玉、剣形の素材となる。 |
| 2-4 181 | 剥片 | 滑石 | 2.90 | 5.80 | 1.20 | 23.9 | 切断面の剥片、上端中央に折断用のノッチ、切削による調整。 |
| 2-5 181 | 剥片 | 滑石 | 2.20 | 4.70 | 0.70 | 7.7 | 横割粗製剥片、端部折断後勾玉の素材になる。 |
| 2-6 181 | 剥片 | 滑石 | 2.60 | 2.65 | 0.60 | 4.9 | 端部を折断した剥片。勾玉の素材。 |
| 2-7 181 | 剥片 | 滑石 | 2.50 | 2.30 | 0.40 | 4.1 | 勾玉の素材か。 |
| 2-8 181 | 勾玉 | 滑石 | 2.50 | 2.50 | 0.80 | 6.7 | 端部折断剥片に側縁を切削した形削工程品。 |
| 2-9 181 | 剥片 | 滑石 | 3.50 | 2.60 | 0.50 | 4.6 | 石核からの粗製剥片、勾玉の素材か。 |
| 2-10 181 | 剥片 | 滑石 | 3.50 | 2.50 | 0.70 | 6.9 | 上端を折断、勾玉か剣形の素材か。 |
| 2-11 181 | 勾玉 | 滑石 | 2.20 | 1.80 | 0.60 | 3.7 | 端部折断剥片を研磨と切削した形削工程品。 |
| 2-12 181 | 勾玉 | 滑石 | 2.20 | 2.50 | 0.85 | 6.3 | 端部折断剥片を利用した形削工程品。 |
| 2-13 181 | 剥片 | 滑石 | 4.20 | 1.80 | 1.50 | 11.4 | 背面に刮り痕。打面は筋理によって折れ。 |
| 2-14 181 | 勾玉 | 滑石 | 2.15 | 2.10 | 0.60 | 4.5 | 両端折断後、折断切削による調整。 |
| 2-15 181 | 勾玉 | 滑石 | 2.60 | 2.10 | 0.80 | 5.0 | 端部折断剥片に側面から粗く調整した形削工程品。 |
| 2-16 181 | 勾玉 | 滑石 | 3.10 | 3.60 | 1.20 | 12.3 | 形削工程品。調整剥離後側面や表裏の一部に切削。 |
| 2-17 181 | 勾玉 | 滑石 | 3.40 | 2.90 | 0.85 | 9.6 | 切削による調整をした形削工程品。 |
| 3-18 181 | 勾玉 | 滑石 | 3.20 | 2.20 | 1.20 | 11.2 | 研磨工程品。 |
| 3-19 181 | 勾玉 | 滑石 | 2.80 | 1.50 | 0.60 | 4.0 | 研磨工程品。 |
| 3-20 181 | 勾玉 | 滑石 | 1.90 | 1.05 | 0.40 | 1.3 | 研磨工程品。 |
| 3-21 181 | 勾玉 | 滑石 | 2.40 | 1.45 | 0.35 | 1.8 | 穿孔方向は表→裏。下端部欠損。 |
| 3-22 181 | 勾玉 | 滑石 | 2.55 | 0.75 | 0.40 | 1.0 | 勾玉の一部。穿孔方向は表→裏。 |
| 3-23 181 | 勾玉 | 滑石 | 3.45 | 1.95 | 0.30 | 2.8 | 研磨工程品。側面未了。 |
| 3-24 181 | 勾玉 | 滑石 | 2.10 | 1.20 | 0.30 | 0.8 | 研磨工程品。 |
| 3-25 181 | 有孔円盤 | | 2.85 | 2.85 | | 6.3 | 粗製剥片の側縁を粗く調整した形削工程品。裏面の一部に切削。 |
| 3-26 181 | 有孔円板 | 滑石 | 2.75 | 2.75 | 0.35 | 4.7 | 穿孔方向は表→裏。 |
| 3-27 181 | 臼玉 | 滑石 | 0.85 | 0.95 | 0.35 | 0.4 | 側面には工具による磨滅面がある。 |
| 3-28 181 | 管玉 | 滑石 | 2.20 | 0.70 | | 0.9 | 角柱状研磨後、穿孔時の破損品。両面穿孔。 |
| 3-29 181 | 剥片 | 滑石 | 2.75 | 2.65 | 0.75 | 5.8 | 中央及び左端・上端・下端に穿孔痕。臼玉の素材か。 |

| 図番 PL | 器 種 | 石 材 | 計測値 (cm・g) | | | | 所 見 |
|-------------|-----|-----|------------|-------|------|-------|---|
| | | | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | 重量 | |
| 3-30 181 | 石核 | 滑石 | 6.20 | 4.45 | 1.70 | 40.8 | 円盤状に整形、右側から間接折法により剥離。 |
| 3-31 181 | 石核 | 滑石 | 6.65 | 3.70 | 2.00 | 47.6 | 原石から粗割された剥片を円盤状に整形、上縁折面から剥離。 |
| 3-32 181 | 石核 | 滑石 | 5.80 | 3.55 | 1.80 | 36.6 | 原石から粗割された剥片。表裏、側面に切削。 |
| 3-33 181 | 石核 | 滑石 | 5.35 | 5.30 | 2.10 | 71.5 | 原石から粗割された剥片を切削で整形。 |
| 3-34 181 | 石核 | 滑石 | 8.20 | 6.10 | 1.70 | 70.6 | 原石からの粗割剥片、両側面からの節理面を利用した剥離。 |
| 3-35 181 | 石核 | 滑石 | 6.95 | 6.40 | 2.40 | 90.2 | 円盤状に整形、節理面を利用した右上方からの剥離。 |
| 3-36 181 | 石核 | 滑石 | 6.85 | 4.80 | 3.95 | 128.7 | 原石からの分割後、折面を転移しながら剥離。確皮を残す。 |
| 4-37 181 | 石核 | 滑石 | 13.20 | 10.00 | 4.40 | 575.0 | 側面を折面とし粗割を重ねる。表裏に8ヶ所の穿孔痕。穿孔後に剥片を剥離したのか。 |
| 4-38 181 | 石核 | 滑石 | 9.60 | 5.65 | 3.90 | 202.4 | 左側縁から連結した剥離。確皮を残す。 |
| 4-39 181 | 石核 | 蛇紋岩 | 6.10 | 8.00 | 5.00 | 259.6 | 原石を分割し、石核としたもの。 |
| 4-40 181 | 礫器 | | 9.40 | 6.90 | 4.75 | 416.1 | 全体に磨耗、上下両端部に敲打痕。 |
| 4-41 181 | 砥石 | 砂岩 | 8.05 | 5.65 | 2.70 | 177.5 | 平砥石、表裏と側面に磨面。 |

5. 竹沼遺跡、恵下原遺跡の滑石製模造品生産

竹沼遺跡では、1977年の調査で白玉と紡錘車の製作工程が復元されている。紡錘車製作工程の剥片を、勾玉や剣形、白玉などの素材にしている点特徴である。複数の器種を一括生産する効率的な方法で、量産期の遺跡に多くみられる。導入期の下佐野遺跡でも、勾玉などの素材に円盤状石核の調整剥片が使われており、技法的な初源といえる。

恵下原遺跡は、未調査ながら6世紀代の工房が知られている。ここでは、勾玉、管玉、白玉、円板などを生産しているが、石核や剥片に特徴をみることが出来る(第2～4図)。石核には、2つの剥離方法がある。1つは、打面を転移して無作為に剥離していく方法(30～36, 37, 39)。打面が半ばつきるまで行われ、最終形状として不定形の円盤状態になる。2つは、当初から紡錘車を意図して周縁から交互に剥離していく方法である(38)。剥片は、両端か一方を折断されたものが特徴である。不定形な中から、有効な素材を選んで利用していることがわかる。折断は、あらかじめ工具で折り目を入れるか(4)、石核に直接折り目を入れる方法がある(32・33)。また、29に残る穿孔痕は、白玉の素材を得る分割用、37はあらかじめ穿孔して剥離したものとも思われる。

工程の中では、鉄製工具を多用していること、粗割から分割までが不規則であることに特徴がある。不規則な中にも、熟練した様子がうかがえる。

〔4〕竹沼遺跡の調査変遷

菊池 実

鮎川流域での考古学的調査の歴史は古い。1933（昭和8）年に白石稲荷山古墳の発掘調査が後藤守一氏と相川龍雄氏によって実施され、1935（昭和10）年には『上毛古墳総覧』にまとめられた古墳の分布調査などが行われている。戦後も、「白石古墳群の調査」が群馬大学により1952年10月6日から10月13日にかけて実施され、その成果もようやく1989年になって『藤岡市史』資料編別巻として刊行された。また、上野国分寺に瓦を供給したとされる金井金山瓦窯跡の学術調査も立正大学により、1964（昭和39）年7月に実施されている。

1973（昭和48）年以降、鮎川中流域に所在する緑壁遺跡群・緑壁上郷遺跡・竹沼遺跡の周辺では、二度にわたる大規模な農業構造改善基盤整備事業が実施され、鮎川中流域左岸の広範な地域が調査の対象となった。

藤岡市西平井字島・天神・濁り池・金ヶ谷戸、緑壁字吉田谷戸・久保にまたがる竹沼遺跡の調査は、1973（昭和48）年度・1975（昭和50）年～1977（昭和52）年度にかけて、県教育委員会による調査、市教育委員会による調査が行われてきた。そして当事業団による調査が1990（平成2）年度に実施され、また市教育委員会でも同年度西平井字島・天神にかけて調査を実施している。当初命名された遺跡名である「竹沼遺跡」の調査範囲も、このように広範囲な地域にまで及んでいる。当事業団調査においては、従来の経緯を尊重して遺跡名称を踏襲したが、竹沼遺跡本来の範囲を理解するには適当ではない。そこで、従来の調査状況の外観とその結果をまとめ調査変遷をあとづけたい。

1973・1975～1977（昭和48・50～52）年度の4ヶ年に亘り実施された調査場所（第1・2図）と調査結果は次のとおりである。

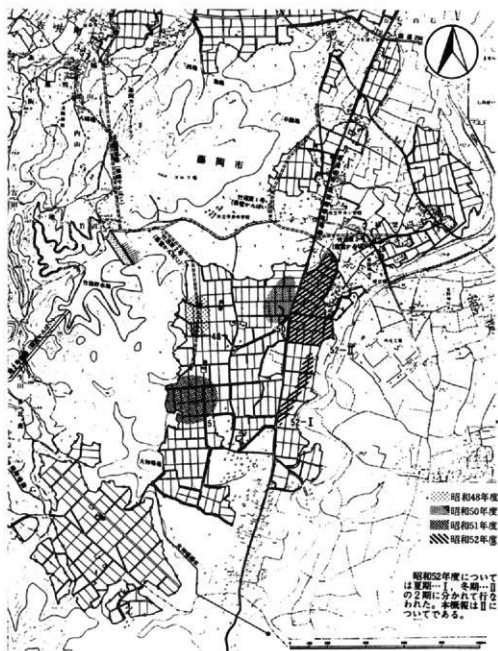
1973（昭和48）年度の調査は、県教育委員会が主体となり発掘をすすめた。調査場所は西平井字天神というだけで、発掘箇所の特定はできていない。発掘の結果、古墳時代の住居跡1軒、溝3条が検出されたが報告書は未刊行である。

1974（昭和49）年度は発掘は実施されていない。

1975（昭和50）年度の調査は、1976（昭和51）年2月27日～3月18日の20日間 にわたって市教育委員会の調査が行われている。調査場所は西平井字島であるが、発掘箇所は不明である。発掘の結果、古墳時代後期の住居跡が確認されているが報告書は未刊行である。

1976（昭和51）年度の調査は、1977（昭和52）年1月14日～3月26日に亘って市教育委員会の調査が行われた。調査場所は西平井字濁り池であるが、発掘箇所は不明である。平安時代の住居跡2軒が検出されているが報告書は未刊行である。

1977（昭和52）年度の調査は夏期と冬期の2期に亘って実施された。夏期調



第1図 竹沼遺跡昭和48年度・昭和50～52年度調査場所

(F1 竹沼遺跡 転載)



第2図 竹沼遺跡昭和52年度調査区 (F1 竹沼遺跡 転載)

査は市教育委員会による調査で、緑字吉田谷戸・久保、西平井字ケ谷戸で実施されている。発掘の結果、古墳時代後期の住居跡5軒、平安時代の住居跡2軒が検出されているが報告書は未刊行である。

そして、冬期調査も市教育委員会により12月5日から翌1978（昭和53）年3月15日まで実施され、9,401㎡が調査された。この調査は、「昭和48・50～52年度夏期調査を継承しているものではない。前回までの調査においても個々が有機的関連をもつものではない。各年度の調査が体系的・計画的になされたならば、広範囲な遺跡の実態、集落のあり方等、数多くの属性を把握できたものと思われる」と、報告書でも記されているように、過去の調査に問題点があったために、その成果を生かすことはできていない。これは後々まで尾を引いて今回の調査にまで波及している。

ところで、冬期調査で検出された遺構・遺物は、先土器時代終末～縄文時代草創期の所産である両面加工石器、縦形搔器、石核、有舌尖頭器、次に、縄文時代中期住居跡3軒・土壇5基、弥生時代中期土壇1基・同後期終末～古墳時代前期住居跡4軒、古墳時代後期住居跡17軒、滑石工房跡9軒である。歴史時代に至っては、住居跡1軒と須恵器が多量に集中して検出された他、井戸跡1基、溝10条が挙げられる。時期不明のものとして、土壇6基、住居跡3軒が調査されている。

そして上記の冬期調査検出の遺構群に、今回の調査例が追加されたことになる。

具体的に記せば、A区においては5号住居跡～13号住居跡の9軒、B区においては、2号住居跡と3号住居跡がだぶり、13号住居跡～16号住居跡の4軒が追加された。C区においては、2号住居跡がだぶり、11号住居跡～16号住居跡の6軒が追加された。D区では、4号住居跡と5号住居跡がだぶり、7号住居跡～15号住居跡の9軒が追加された。

この結果、竹沼遺跡A区では古墳時代後期の住居跡13軒、B区では縄文時代の住居跡3軒、古墳時代後期の住居跡16軒、C区では古墳時代後期の住居跡14軒、奈良時代の住居跡1軒、不明1軒、D区では古墳時代中期の住居跡1軒、後期の住居跡13軒、不明1軒となった。この他に土坑や溝、井戸も追加されている。

しかし、「F1 竹沼遺跡 昭和52年度発掘調査概報」には、縄文時代の住居跡・弥生時代の住居跡・古墳時代の滑石工房跡1軒がそれぞれ報告されているだけであり、その他多くの住居跡の形態、付属施設、遺物分布等の全容は不明のままである。また、完掘できた住居跡も非常に少なく、遺跡を理解する上で大きな障害となっていることは否めない。今回の調査もまた、完掘できた住居跡は少なかった。

当遺跡周辺には緑野屯倉と考えられる地点の存在や、下流の白石古墳群、鮎川対岸の平井古墳群の存在等、それら古墳被葬者を支えた集落の一つであるだけに、調査全容が把握できないのは残念である。

第4章 分析とまとめ

藤岡市竹沼遺跡住居跡一覧表

(藤岡市教育委員会昭和52年度調査分と(財)群馬県歴史文化財調査事業団平成2年度分〔ゴシツク〕を含む)

| 区名 | 住居跡 | 規模 | プラン | 竈・炉 | 柱穴 | 主軸・長軸方向 | 時代・時期 | 備考 |
|-----|---------|----------------------------|-----|---------|-----|----------|------------|--|
| A区 | H-1 | 710×663 | 方形 | 西 | | N-114°-W | 鬼高 | |
| | H-2 | 402×400 | 方形 | 北 | | N-38°-E | 鬼高 | 覆土より碑200点弱出土 滑石製紡錘車 |
| | H-3 | (236)×478 | | | | | | |
| | H-4 | (381)×(387) | | | | (3) | | 壁外柱穴(3) |
| | 5 | 530×(330) | | | | (2) | | 6世紀前半 完掘できなかった |
| | 6 | (630)×(530) | | | | (1) | | 6世紀前半 完掘できなかった |
| | 7 | 470×(270) | | | | (2) | N-16°-E | 6世紀前半 完掘できなかった |
| | 8 | 470×(460) | | 北 北東 | | (3) | N-55°-E | 6世紀前半 完掘できなかった |
| | 9 | 340×250 | 長方形 | | | | | 6世紀代 完掘できなかった |
| | 10 | 620×(430) | | 地床炉 | (3) | | | 6世紀前半 完掘できなかった |
| | 11 | (600)×(570) | 正方形 | (北東) | (3) | | | 6世紀代 完掘できなかった |
| | 12 | (330)×(180) | | | (1) | | | 6世紀前半 完掘できなかった |
| | 13 | 500×480 | 方形 | 北 | (3) | N-10°-W | | 6世紀前半 完掘できなかった |
| B区 | J-1 | 526×480 | 円形 | 石囲炉 | 5 | N-50°-W | 加曾利E | |
| | J-2 | 536×514 | 円形 | 石囲炉 | 5 | N-36°-W | 加曾利E | |
| | J-3 | 322×320 | 円形 | 一 | | | 勝坂 | 小竈穴? |
| | H-1 | 524×(173) 500×(300) | 方形 | 北東 | (2) | | 鬼高 | 6世紀前半 完掘できなかった |
| | H-2 | (357)×(332) (340)×(170) | 方形 | | | | | 完掘できなかった |
| | H-3 | (381)×(279) (370)×(310) | 方形 | 東 | (1) | | 鬼高 | 6世紀代 完掘できなかった |
| | H-4 | 514×460 | 方形 | | — | | 鬼高 | 住居構築途中? ロームによる 造り出し |
| | H-5 | 730×760 | 方形 | (東) | | | | H-5-12はプラン確認 の後、保存。これら8軒は 鬼高期の所産 |
| | H-6 | 525×550 | 方形 | (西) | | | | 焼失住居 |
| | H-7 | 415×(361) | 方形 | | | | | |
| | H-8 | 540×541 | 方形 | | | | | |
| | H-9 | 726×733 | 方形 | | | | | |
| C区 | H-10 | 475×(486) | 方形 | | | | | |
| | H-11 | 405×420 | 方形 | (東) | | | | |
| | H-12 | 415×375 | 方形 | | | | | |
| | 事業団 | 13 550×(300) | | 地床炉 | | N-42°-E | 弥生後期 | 完掘できなかった |
| D区 | 14 | 370×340 | 方形 | 北東 | (3) | N-58°-E | 6世紀後半 | 完掘できなかった |
| | 15 | 410×320 | 方形 | 北東 | | N-53°-E | 8世紀後半 | 完掘できなかった |
| | 16 | (300)×(170) | 方形 | 北東 | | N-45°-E | 6世紀前半 | 完掘できなかった |
| | H-1 | (329)×— | | | | | | |
| | H-2 | 412×388 (250)×(120) | 方形 | 東 | | N-104°-E | 真間 奈良時代 | 完掘できなかった |
| | H-3 | — | | | | | 鬼高 | |
| | H-4 | 376×(291) | | | | | 鬼高 | |
| | H-5 | (363)×(368) | | | | | 鬼高 | |
| | H-6 | 288×321 | 方形 | 西 | — | N-60°-E | 鬼高 | 覆土中より有舌尖頭器 |
| | H-7 | (389)×(272) | | 東 | | | 鬼高 | |
| H-8 | (216)×— | | | | | 鬼高 | | |
| E区 | H-9 | (183)×298 | | 東 | | N-85°-E | 鬼高 | |
| | H-10 | (451)×(314) | | | | | 鬼高 | |
| | 11 | 680×(340) | | 北東 | | N-42°-E | 6世紀後半 | 完掘できなかった |
| | 12 | (250)×(120) | | | | | 6世紀代 | 完掘できなかった |
| | 13 | (420)×(370) | | | | | 6世紀代 | 完掘できなかった |
| | 14 | 500×(300) | | 北東 | (2) | | 6世紀前半 | 完掘できなかった |
| 事業団 | 15 | (680)×(470) | | 北 | 4 | N-7°-W | 6世紀代 | 完掘できなかった |
| | 16 | (230)×(150) | | | | | 6世紀代 | 完掘できなかった |

| 区名 | 住居跡 | 規模 | プラン | 竈・炉 | 柱穴 | 主軸・長軸方向 | 時代・時期 | 備考 | | | | |
|--------|------|-------------|-------------|-------------------|-----|---------|-------------------------|----------------------|----------|---------|------------|-------------------|
| D 区 | H-1 | 675×(200) | 方形 | 東 | (1) | N-71°-E | 和泉 鬼高 | 滑石工房址 | | | | |
| | H-2 | (126)×408 | 方形 | | | | | | | | | |
| | H-3 | 502×(440) | 方形 | | | | | | | | | |
| | H-4 | (192)×— | | | | | | | | | | |
| | H-5 | (470)×(270) | 方形 | | | | | | 東 | N-60°-E | 6世紀代 鬼高 | 完掘できなかった 滑石工房址 |
| | H-6 | (70)×(40) | 方形 | | | | | | 東 | N-66°-E | 6世紀代 鬼高 | 完掘できなかった 滑石工房址 |
| | | 7 | (450)×410 | | 北西 | 4 | N-53°-W | 6世紀後半 | 完掘できなかった | | | |
| | | 8 | 700×(630) | | 北東 | (3) | N-57°-E | 6世紀後半 | 完掘できなかった | | | |
| | | 9 | 630×(410) | | 北東 | | N-48°-E | 6世紀前半 | 完掘できなかった | | | |
| | | 10 | (180)×(150) | | | | | 6世紀代 | 完掘できなかった | | | |
| | | 11 | (210)×(150) | | 北東 | | N-60°-E | 6世紀代 | | | | |
| | | 12 | 530×(400) | | 北東 | (1) | N-45°-E | 7世紀後半 | 完掘できなかった | | | |
| | | 13 | 480×(470) | | 北東 | | N-45°-E | 6世紀後半 | 完掘できなかった | | | |
| | | 14 | 520×(320) | | | | | 6世紀後半以前 | 完掘できなかった | | | |
| | | 15 | (350)×(170) | | | | | 6世紀後半以前 | 完掘できなかった | | | |
| E 区 | H-1 | 562×452 | 長方形 | 東 | (2) | N-57°-E | 鬼高 | 滑石工房址カマド2基 滑石製紡錘車 | | | | |
| | H-2 | 378×396 | 方形 | | | N-75°-E | 鬼高 鬼高 | | | | | |
| | H-3 | (186)×(224) | | | | | | | | | | |
| | H-4 | (40)×(186) | | | | | | | | | | |
| | H-5 | (69)×(85) | | | | | | | | | | |
| | H-6 | (186)×(148) | | | | | | | | | | |
| | H-7 | (120)×(106) | | | | | | | | | | |
| | H-8 | (120)×(215) | | | | | | | | | | |
| | H-9 | 406×(371) | 方形 | 東 | | | | | 鬼高 | | | |
| | H-10 | 561×(378) | 方形 | 東 | | | | | 鬼高 | | | |
| | H-11 | (390)×(327) | 方形 | 東 | | | | | 鬼高 | | | |
| | H-12 | 442×506 | | 東 | | | N-88°-E | | 鬼高 | | | |
| | H-13 | 469×(212) | | 東 | | | 鬼高 | | | | | |
| | H-14 | 570×(207) | | | | | 鬼高 | | | | | |
| | H-15 | (307)×(229) | | | | | 鬼高 | | | | | |
| | H-16 | (236)×(186) | | | | | | | | | | |
| | H-17 | (288)×(210) | | | | | | 焼失住居 | | | | |
| | H-18 | (48)×(61) | | | | | | | | | | |
| | H-19 | (73)×(65) | | | | | | | | | | |
| | H-20 | 440×420 | 方形 | 地床炉 ¹⁾ | 5 | N-37°-W | 弥生時代後期～古墳時代前期 古墳時代前期 | | | | | |
| | H-21 | 359×(99) | | | | | | | | | | |
| | H-22 | (20)×(34) | | | | | | | | | | |
| | H-23 | (302)×(252) | | | | | | | | | | |

1) 規模における()は現存値及び発掘区域内出土部分の計測値を表す。

2) —は存在しないことを表し、空欄は不明を示す。

報告書抄録

| | |
|---------|-------------------------------------|
| フリガナ | ミドノイセキグン・ミドノカミゴウイセキ・タケヌマイセキ |
| 書名 | 緑壁遺跡群・緑壁上郷遺跡・竹沼遺跡 |
| 副書名 | 関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| 巻 | 第42集 |
| シリーズ名 | (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告 |
| シリーズ番号 | 第215集 |
| 編著者名 | 菊池 実 女屋和志雄 |
| 編集機関 | (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 |
| 編集機関所在地 | 〒377 群馬県勢多郡北橋村下箱田784-2 0279-52-2511 |
| 発行年 | 1997年2月 |

| フリガナ 所取遺跡 | フリガナ 所在地 | コード | | 北緯 °'" | 東経 °'" | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|--------------|-------------|--------|------|-----------|-----------|-----------|--------|------|
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| 緑壁遺跡群 | 藤岡市白石・緑壁 | | | 36°13'47" | 139°2'9" | 19900801～ | 3,100㎡ | 高速道路 |
| 緑壁上郷遺跡 | 藤岡市緑壁 | 102091 | | ～ | ～ | 19910131 | 1,200㎡ | 建設 |
| 竹沼遺跡 | 藤岡市西平井 | | | 36°14'21" | 139°2'30" | | 2,000㎡ | |

| 所取遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | 特記事項 |
|--------|----|----------------------|----------------------|----|--------|-------|
| 緑壁遺跡群 | 生産 | 江戸時代 平安時代 | 水田・畠・土坑・鎌倉街道 水田・畠 | | 板碑 | |
| 緑壁上郷遺跡 | 生産 | 江戸時代 平安時代 | 斎藤代官屋敷跡 水田 | | | |
| 竹沼遺跡 | 集落 | 弥生時代 古墳時代 奈良時代 | 竪穴住居跡 | 1 | 土器 | 滑石工房跡 |
| | | その他 | 竪穴住居跡 竪穴住居跡 | 32 | 土器・石製品 | |
| | | | 竪穴住居跡 | 1 | 土器 | |
| | | | 掘立柱建物跡 土坑・井戸・溝 | 2 | | |

PLATES



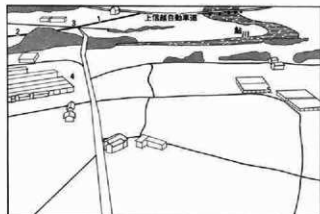
1947年米軍撮影
綠塗遺跡群
綠塗上郷遺跡
竹沼遺跡



(雨から)



- 1 緑葦遺跡群・緑葦上郷遺跡
- 2 竹沼遺跡
- 3 市立平井小学校



- 1 緑地遺跡群・緑地上郷遺跡
- 2 竹沼遺跡
- 3 市立平井小学校
- 4 市光工業藤岡製作所
- 5 久保製作所藤岡工場



1. 緑笠遺跡群・調査前
(北から)



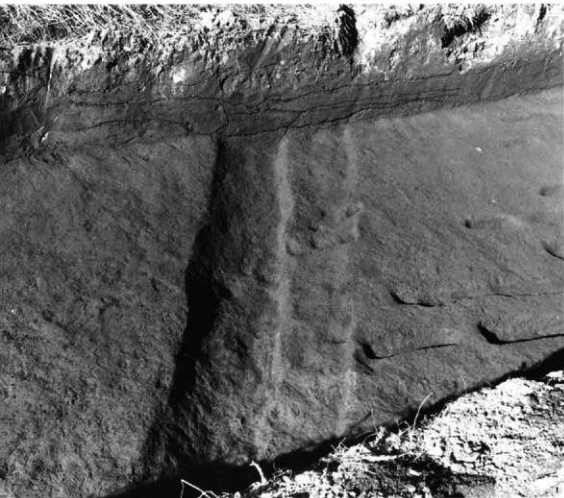
2. 緑笠遺跡群・遠景
(北から)



1. 緑地遺跡群・調査前
(南から)



2. 緑地遺跡群・遠景 (南から)



PL.6

1. 緑塗遺跡群・EM-1全景(南東から)
2. 緑塗遺跡群・EM-2西壁(東から)

PL.7

1. 緑塗遺跡群・1区画全景(南西から)
2. 緑塗遺跡群・1区画全景(南西から)







1. 緑盆遺跡群・EM-48-49(南東から)

2. 緑盆遺跡群・鎌倉街道全景(南から)

3. 緑盆遺跡群・GM-8西壁(東から)



緑笠遺跡群・石敷遺構全景(南から)

緑笠遺跡群・GM-4全景(南東から)

緑笠遺跡群・GM-10全景(南から)







1. 緑葉遺跡群・3区画全景(南から)

2. 緑葉遺跡群・AZ-6全景(東から)

3. 緑葉遺跡群・H-55全景(南から)





緑坐遺跡群・4区As-B下畠(南から)

1. 線笠遺跡群・KM-18全景(南から)
2. 線笠上郷遺跡・調査前(南から)
3. 線笠上郷遺跡・表土掘削



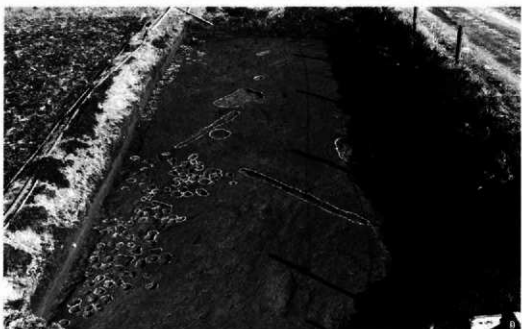
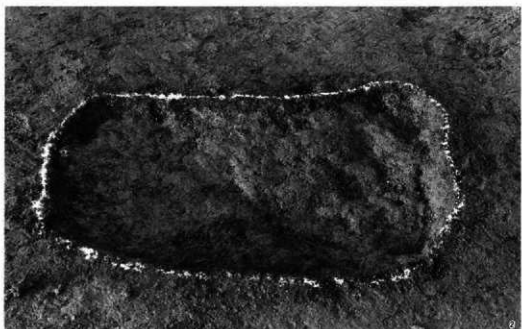


P L . 14

1. 緑道上郷遺跡・JM-2A・KM-3全景
(南から)
2. 緑道上郷遺跡・1号土坑
(南東から)
3. 緑道上郷遺跡・As-B下水田
(南西から)

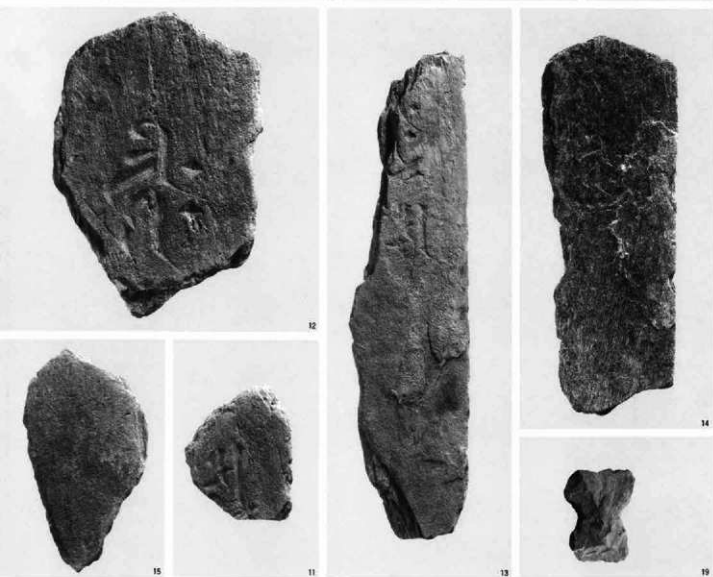
P L . 15

1. 緑道上郷遺跡・斎藤代官屋敷
(北から)
2. 緑道上郷遺跡・斎藤代官屋敷石垣
(南東から)

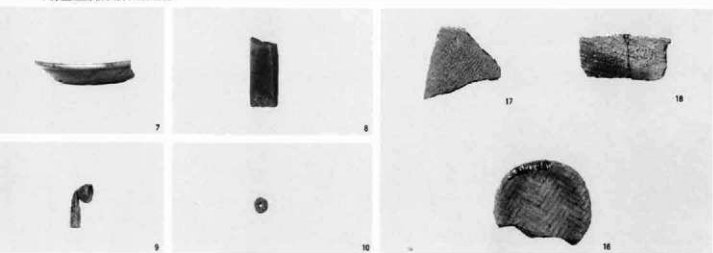




▼綠塗遺跡群出土遺物



▼綠塗遺跡群表層出土遺物





竹沼遺跡 A区全景(南から)



PL. 18

1. A区調査風景(南西から)

2. A区調査風景(南から)

PL. 19

1. A区5号住居跡(北から)

2. A区5号住居跡遺物出土状況
(西から)







1. A区5号住居跡遺物出土状況
(北から)



2. A区5号住居跡遺物出土状況
(東から)



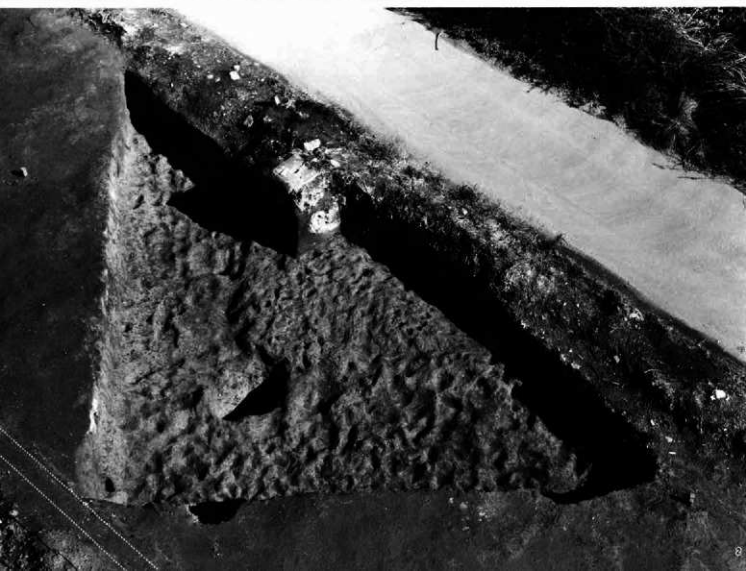
3. A区5号住居跡遺物出土状況
(南東から)

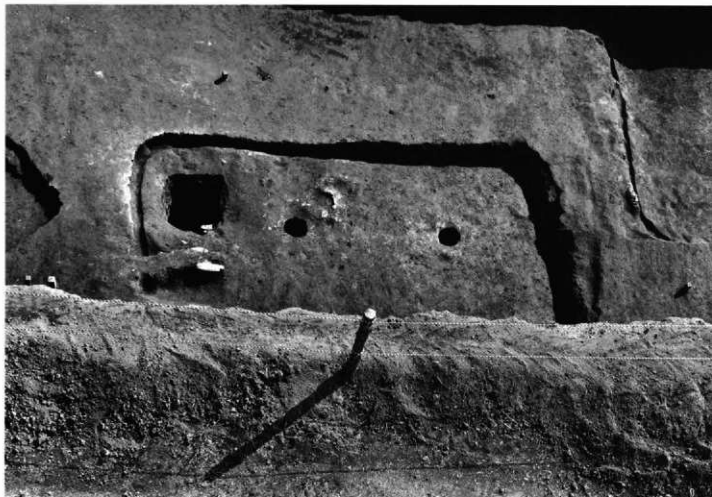
A区5号住居跡
掘り方(北から)



A区6号住居跡
掘り方(南西から)





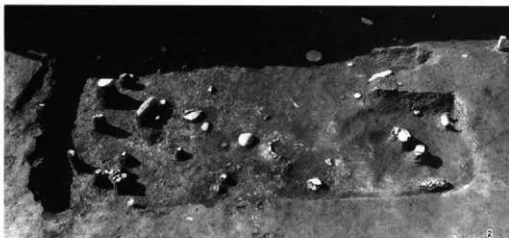


P L .22

1. A区6号住居跡(南西から)
2. A区6号住居跡掘り方(南西から)

P L .23

1. A区7号住居跡(西から)
2. A区7号住居跡遺物出土状況
(東から)
3. A区7号住居跡カマド(南西から)





1. A区7号住居跡貯蔵穴(南から)

2. A区7号住居跡炭化材出土状況
(北から)

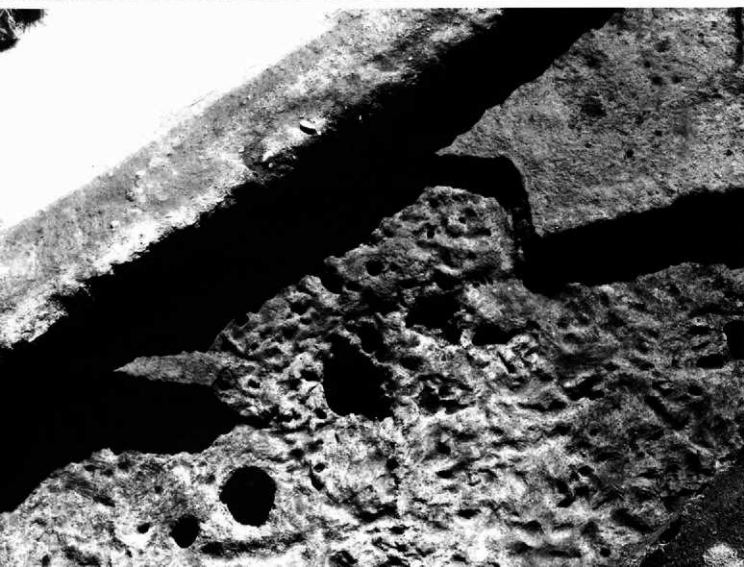
3. A区7号住居跡掘り方(北から)





1. A区8号住居跡(南西から)
2. A区8号住居跡カマド(南西から)
3. A区8号住居跡掘り方(北西から)





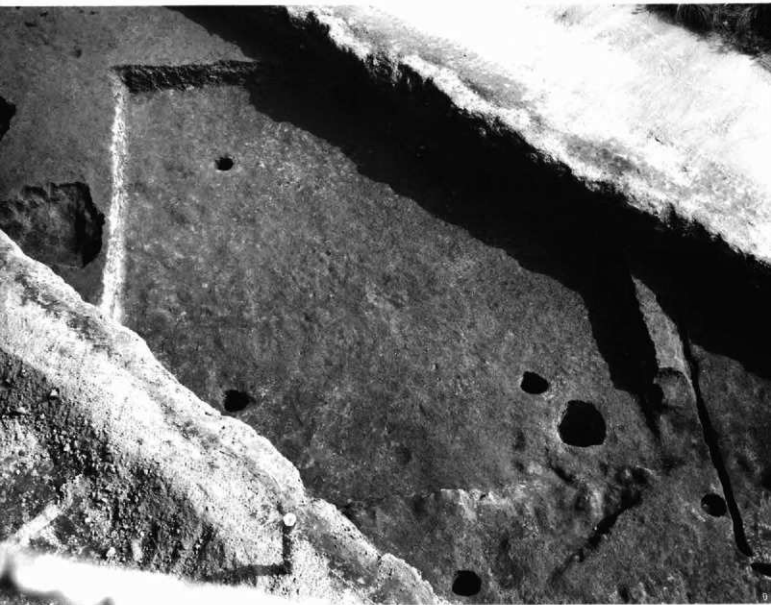
P L . 26

1. A区9号住居跡(南西から)
2. A区9号住居跡掘り方(北から)

P L . 27

1. A区10号住居跡(西から)
2. A区10号住居跡遺物出土状況
(東から)
3. A区10号住居跡掘り方(北西から)





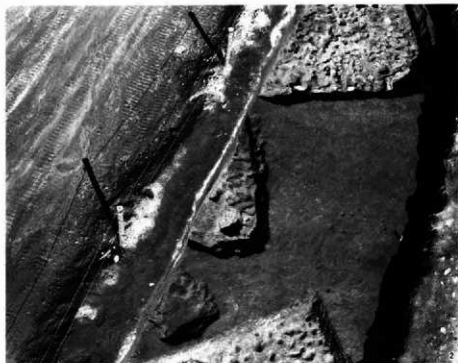
P L . 28

1. A区11号住居跡(南西から)
2. A区11号住居跡遺物出土状況(北東から)

P L . 29

1. A区11号住居跡掘り方(南西から)
2. A区12号住居跡(南から)





P L . 30

1. A区12号住居跡(東から)
2. A区12号住居跡振り方(南から)

P L . 31

1. A区13号住居跡(南から)
2. A区13号住居跡遺物出土状況(南から)





P L . 32

1. A区13号住居跡遺物出土状況
(南から)
2. A区13号住居跡遺物出土状況
(北東から)



P L . 33

1. A区13号住居跡貯蔵穴(南から)
2. A区13号住居跡南東隅貯蔵穴
(北から)
3. A区13号住居跡掘り方(南から)

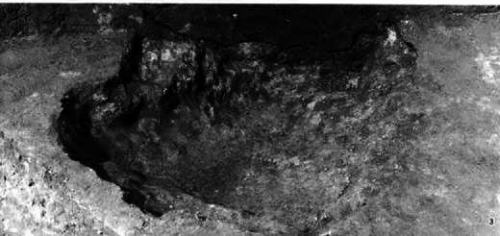




1. A区1号獨立柱建物跡(北西から)

2. A区2号溝(南東から)

3. A区3号土坑(東から)





竹沼遺跡 B区全景(北から)

1. B区調査前風景

2. B区遺構確認状況(北から)





1. B区1号住居跡(北西から)

2. B区1号住居跡遺物出土状況(南西から)





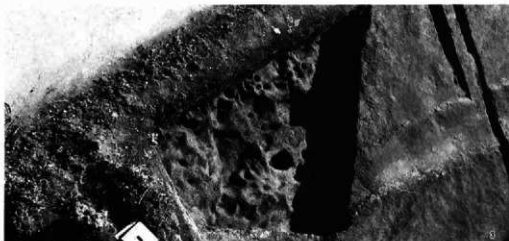


P L . 38

1. B区1号住居跡掘り方(北西から)
2. B区2号住居跡(南東から)

P L . 39

1. B区3号住居跡(北東から)
2. B区3号住居跡遺物出土状況
(北西から)
3. B区3号住居跡掘り方(北西から)





P L . 40

1 . B 区 13 号 住 居 跡 (北 从)

2 . B 区 13 号 住 居 跡 掘 り 方 (南 東 从)

P L . 41

1 . B 区 14 号 住 居 跡 (南 東 从)

2 . B 区 14 号 住 居 跡 遺 物 出 土 状 况 (南 東 从)





1. B区14号住居跡カマド(南西から)

2. B区14号住居跡掘り方(東から)

3. B区15号住居跡(南東から)

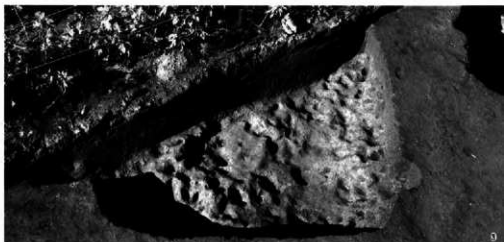




1. B区15号住居跡遺物出土状況
(南から)

2. B区15号住居跡カマド(南西から)

3. B区15号住居跡掘り方(南東から)



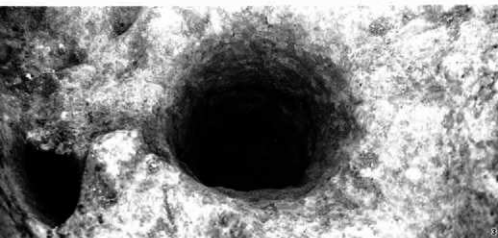


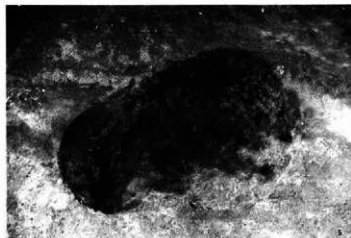
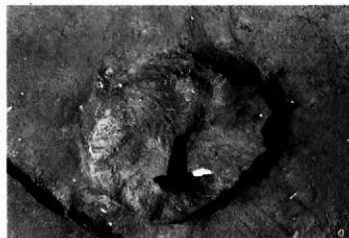
PL. 44

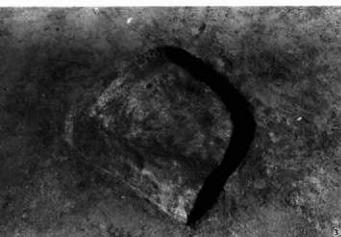
1. B区16号住居跡 (北東から)
2. B区16号住居跡掘り方 (北東から)
3. B区16号住居跡貯蔵穴 (南西から)

PL. 45

1. B区7号・8号・9号土坑 (南西から)
2. B区9号土坑 (南東から)
3. B区8号土坑 (北から)
4. B区11号土坑 (西から)
5. B区10号土坑 (東から)





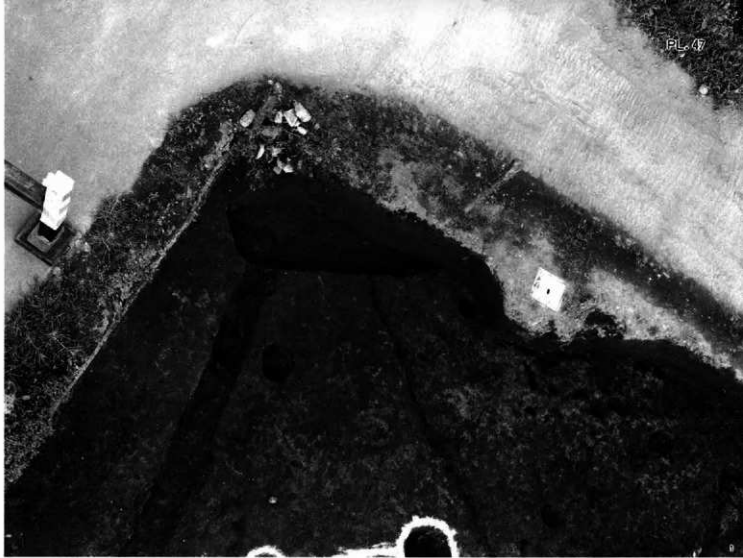


P L .46

1. B区12号土坑(北西から)
2. B区13号土坑(北西から)
3. B区14号土坑(北西から)
4. B区15号土坑(西から)
5. B区1号溝(南東から)
6. B区2号溝(南東から)

P L .47

1. C区2号住居跡(西から)
2. C区11号住居跡(北東から)





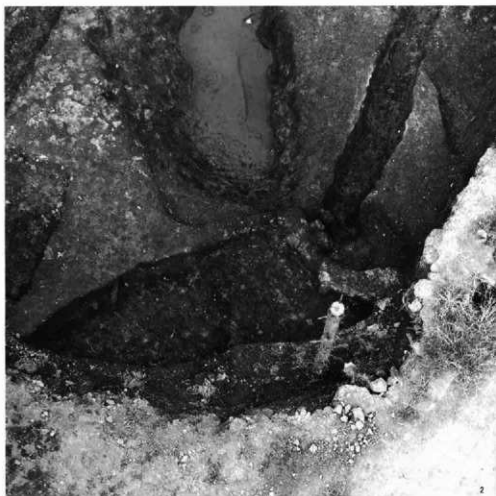


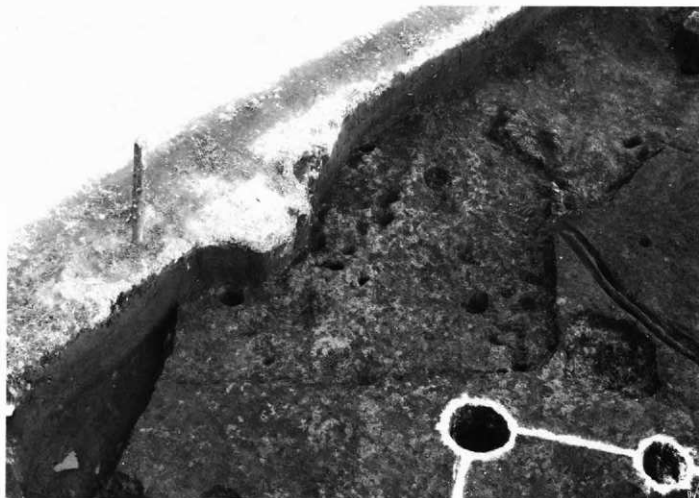
PL. 48

1. C区11号住居跡遺物出土状況
(南東から)
2. C区11号住居跡遺物出土状況
(南西から)

PL. 49

1. C区12号住居跡(東から)
2. C区16号住居跡(南から)







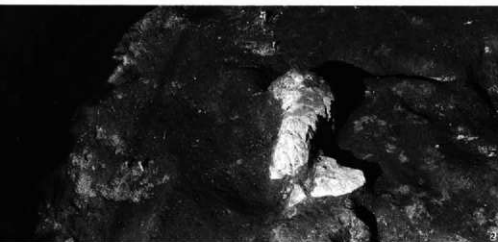
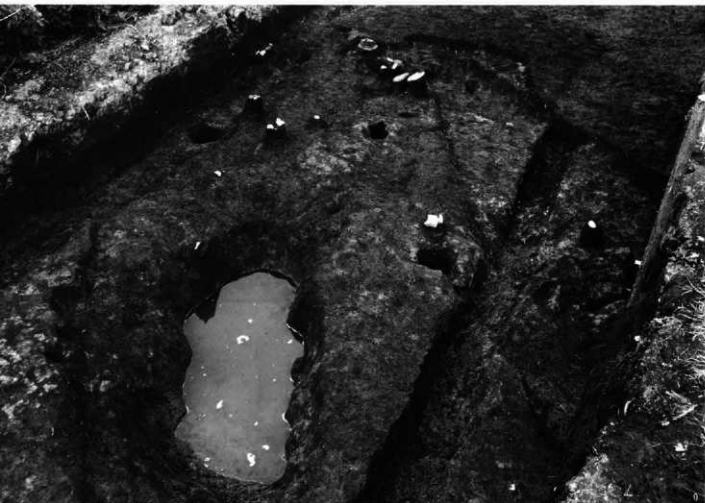
P L . 50

1. C区13号住居跡(東から)
2. C区13号住居跡掘り方(北西から)

P L . 51

1. C区14号住居跡(北から)
2. C区14号住居跡遺物出土状況(南東から)



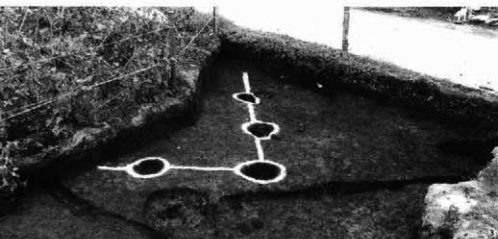


P L .52

1. C区15号住居跡 (南から)
2. C区15号住居跡カマド (南から)
3. C区1号掘立柱建物跡 (南から)

P L .53

1. D区調査前風景 (北東から)
2. D区調査風景 (南から)







竹沼遺跡 D区全景(南から)



竹沼遺跡 D区全景(南から)





P L . 56

1 . D 区 4 号 住 居 跡 (南 西 从 从)

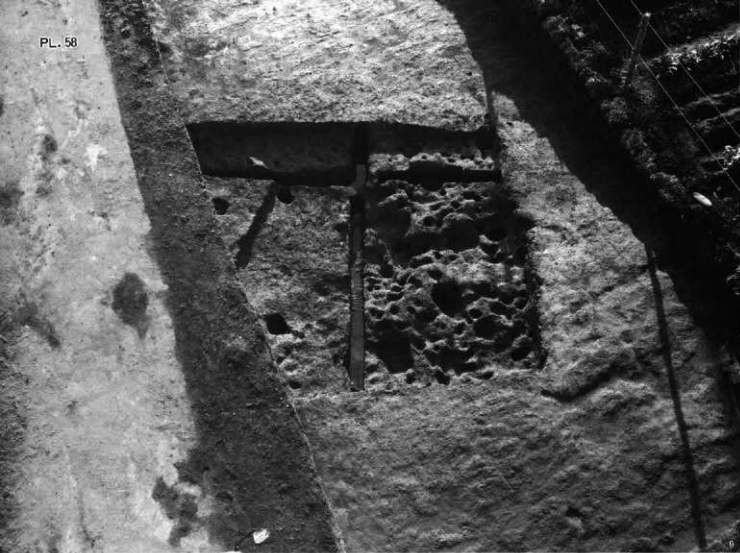
2 . D 区 5 号 住 居 跡 (北 西 从 从)

P L . 57

1 . D 区 7 号 住 居 跡 (南 西 从 从)

2 . D 区 7 号 住 居 跡 カマド (南 東 从 从)





P L .58

1. D区7号住居跡掘り方(北東から)

2. D区8号住居跡(南東から)

P L .59

1. D区8号住居跡カマド(南西から)

2. D区8号住居跡貯蔵穴(南西から)

3. D区8号住居跡こも礫石出土状況
(南西から)



P L .60

1. D区8号住居跡掘り方(南東から)

2. D区9号住居跡遺物出土状況
(南東から)

P L .61

1. D区9号住居跡カマド(南西から)

2. D区9号住居跡カマド(南西から)

3. D区9号住居跡遺物出土状況
(北東から)



P L . 62

1. D区9号住居跡振り方(北東から)
2. D区10号住居跡(南東から)

P L . 63

1. D区11号・12号住居跡遺物
出土状況(南東から)
2. D区11号住居跡カマド(南西から)





D区12号・13号住居跡遺物出土状況(南東から)

1. D区12号住居跡遺物出土状況
(東から)



2. D区12号住居跡遺物出土状況
(西から)



3. D区12号住居跡カマド(南西から)





1. D区13号～15号住居跡遺物出土状況(南東から)

2. D区13号住居跡遺物出土状況(北から)



1. D区13号住居跡カマド(北西から)

2. D区14号住居跡カマド(南西から)

3. D区1号土坑(南東から)

4. D区3号土坑(東から)

5. D区4号土坑(南西から)

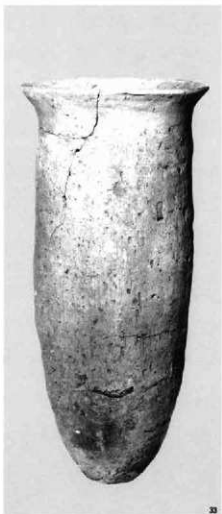
6. D区1号井戸(東から)

▼A区5号住居跡出土遺物

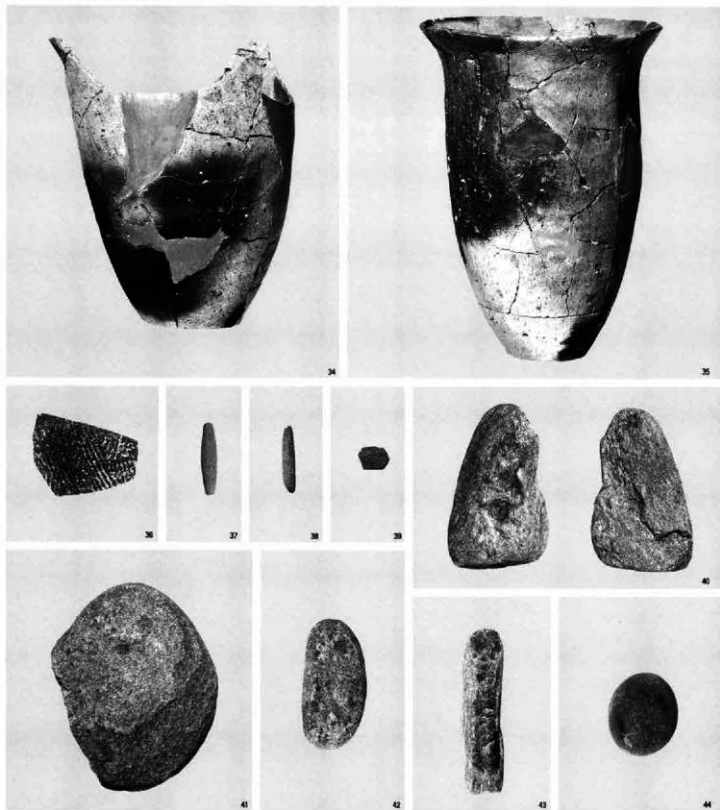


▼A区5号住居跡出土遺物

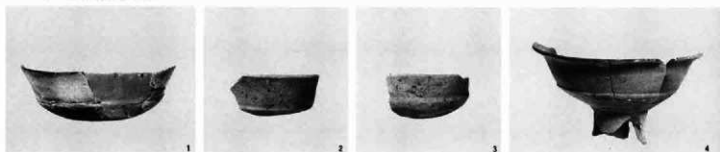




▼A区5号住居跡出土遺物



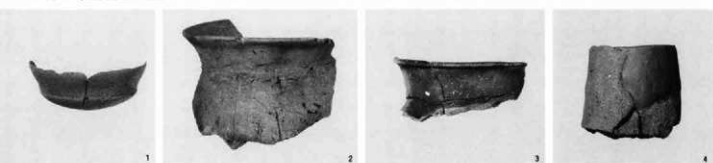
▼A区6号住居跡出土遺物



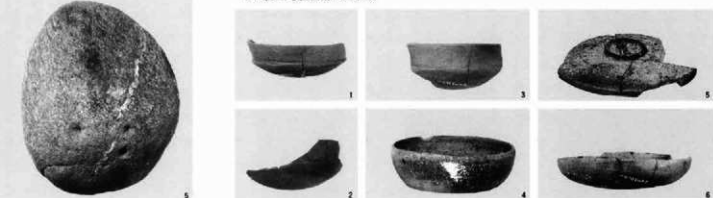
▼A区6号住居跡出土遺物



▼A区7号住居跡出土遺物



▼A区8号住居跡出土遺物



▼A区6号住居跡出土遺物



7



9



8



10

▼A区9号住居跡出土遺物



1

▼A区10号住居跡出土遺物



1



2



3



4



5



6



9



10



7



8

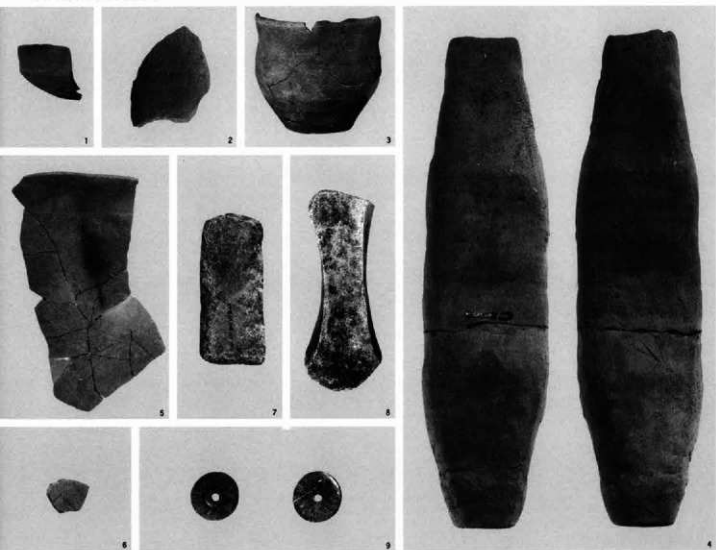


11



12

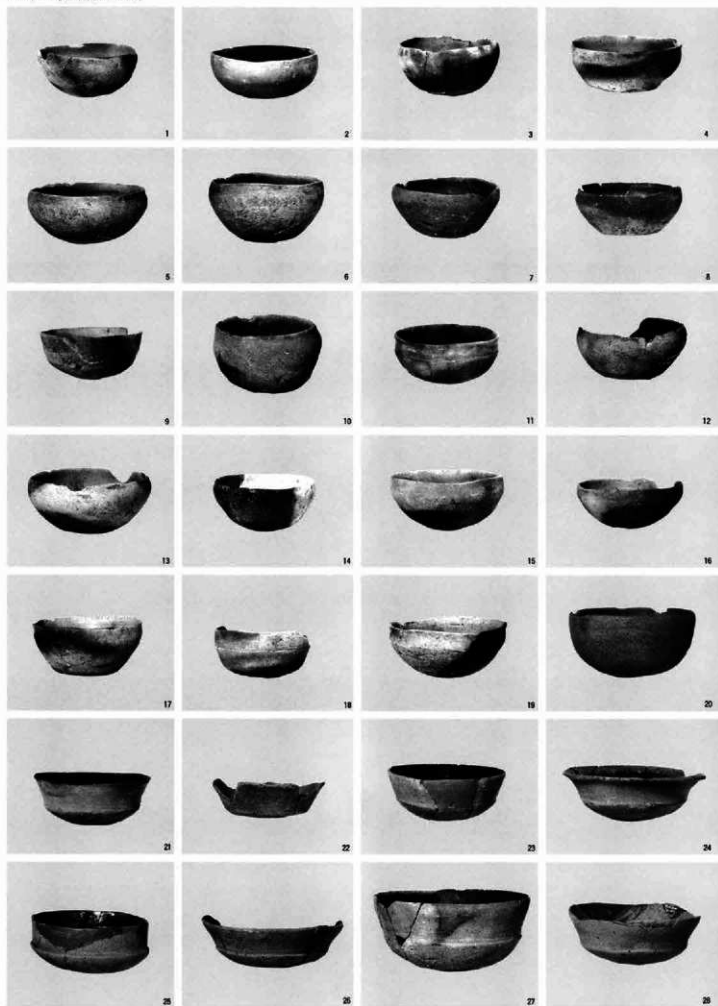
▼A区11号住居跡出土遺物



▼A区12号住居跡出土遺物



▼A区13号住居跡出土遺物





29



30



31



32



34



35



33



38



37



36

▼A区13号住居跡出土遺物



39



42



45



40



43



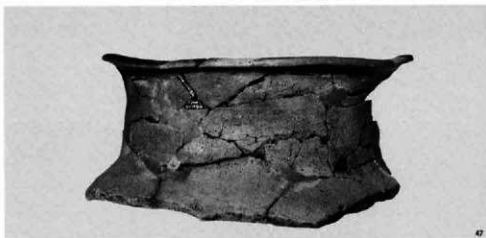
46



41

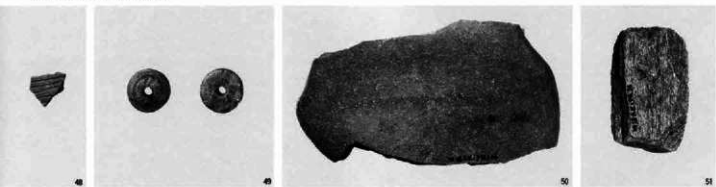


44

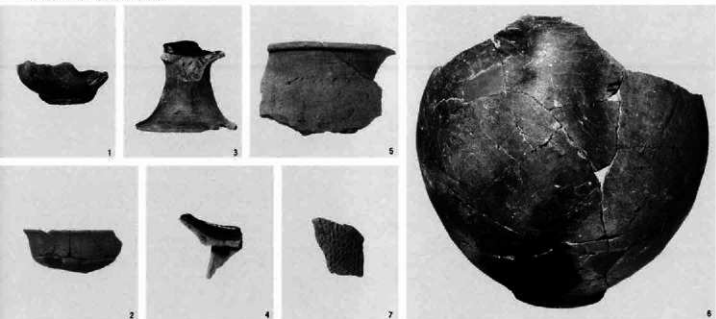


47

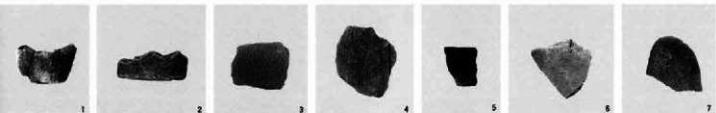
▼A区13号住居跡出土遺物



▼B区1号住居跡出土遺物



▼B区13号住居跡出土遺物



▼B区14号住居跡出土遺物



▼B区14号住居跡出土遺物



8



9



10



11



12



13



14

▼B区15号住居跡出土遺物



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12

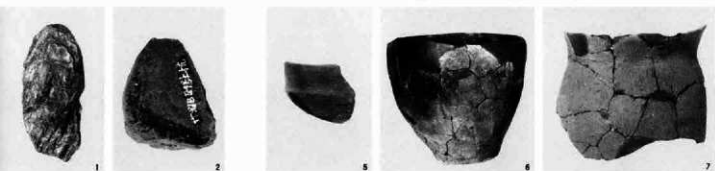
▼B区15号住居跡出土遺物



▼B区16号住居跡出土遺物



▼B区9号土坑出土遺物



▼C区11号住居跡出土遺物



▼C区11号住居跡出土遺物



12



11



13

▼C区14号住居跡出土遺物



1



2



3



4



5



6



8



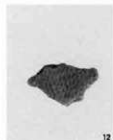
7



10



11



12

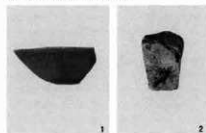


13

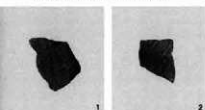
▼C区15号住居跡出土遺物



▼C区1号井戸出土遺物



▼D区4号住居跡出土遺物



▼D区7号住居跡出土遺物



▼D区8号住居跡出土遺物



▼D区8号住居跡出土遺物



5



6



7



8



9



10



11



12



13

▼D区9号住居跡出土遺物



5



7



6



9



1



3



8



2



4



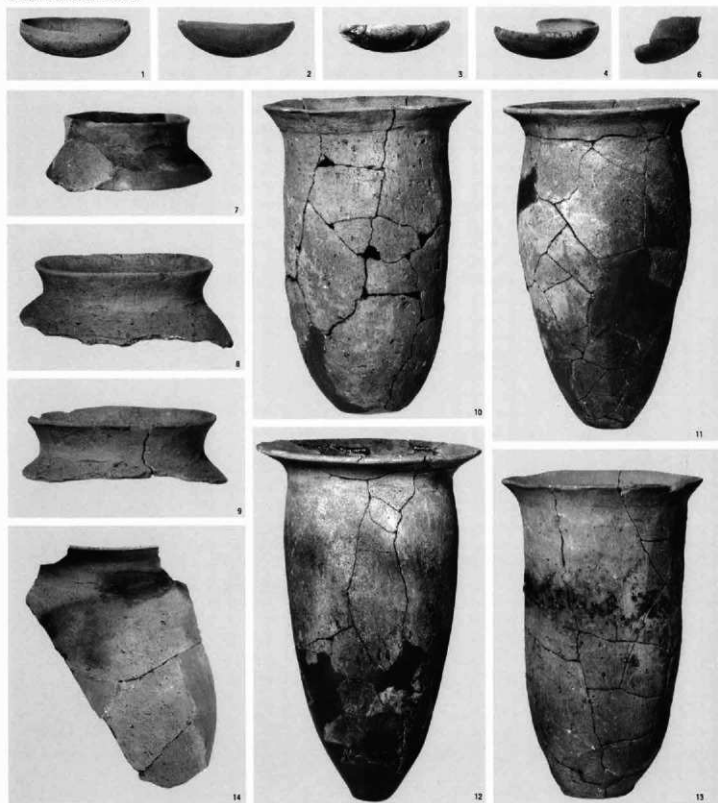
10

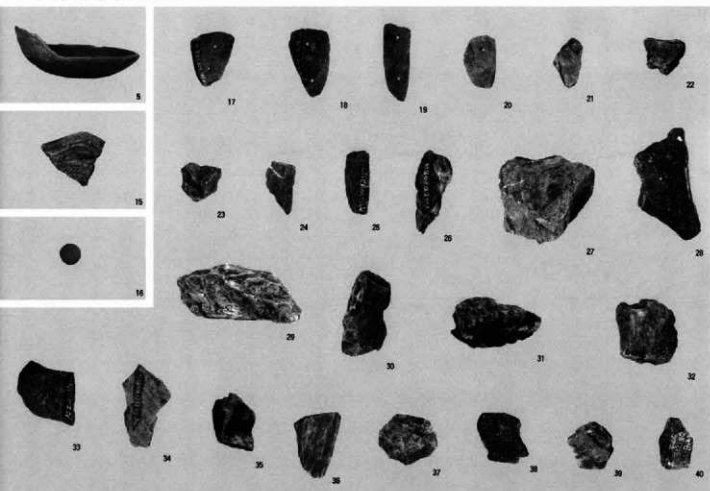


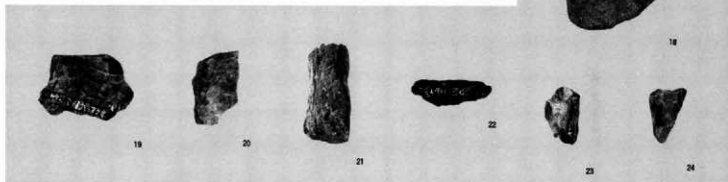
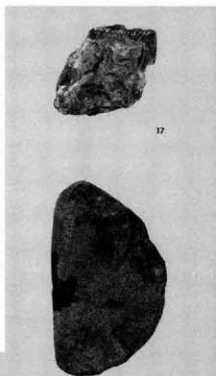
▼D区11号住居跡出土遺物



▼D区12号住居跡出土遺物







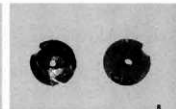
▼D区14号住居跡出土遺物 ▼D区2号土坑出土遺物



▼D区1号井戸出土遺物



▼D区表探出土遺物



群馬県埋蔵文化財調査事業団
調査報告第215集

緑埜遺跡群・緑埜上郷遺跡
竹沼遺跡

間越白鹿街道（上越線）地域埋蔵
文化財発掘調査報告書第42集

1997(平成9)年2月17日 印刷

1997(平成9)年2月28日 発行

編集／群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377 勢多郡北橋村大字下箱田784-2

電話(0279)52-2511(代表)

発行／群馬県考古資料普及会

〒377 勢多郡北橋村大字下箱田784-2

電話(0279)52-2511(代表)

印刷／株式会社 前橋印刷所



付図1 白石大御堂遺跡・緑道上郷群・緑道上郷遺跡・竹沼遺跡位置図



Ea

1区

Fa

2区

Ga

Ha

3区

Ia

Ja

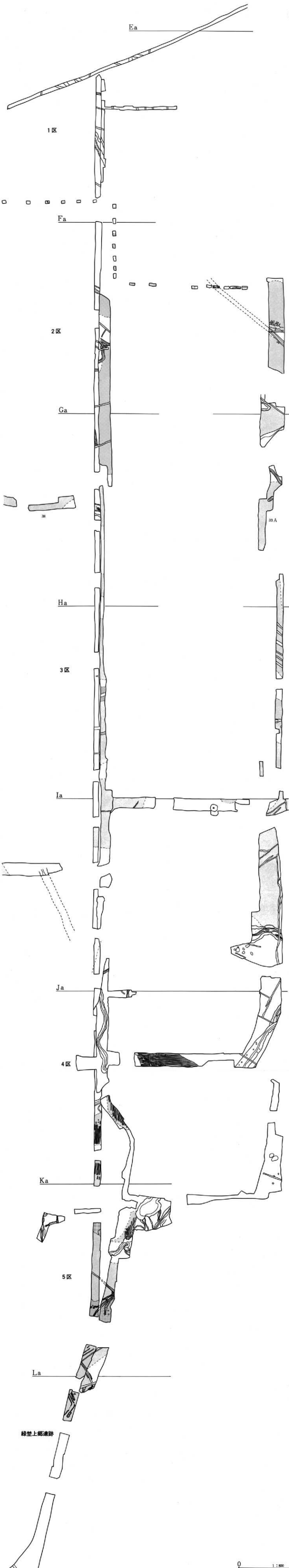
4区

Ka

5区

La

綠茎上郷遺跡



付図2 綠茎遺跡群・綠茎上郷遺跡全体図